

FUJITSU Software

ServerView Infrastructure Manager V1.5



ユーザーズマニュアル

CA92344-0980-01
2016年4月

まえがき

本書の目的

本書では、サーバやストレージなどのICT機器からファシリティ機器 (PDUなど) までを統合的に管理、運用する運用管理ソフトウェアであるFUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager (以降ISMと表記) の導入手順および機能全般を説明します。

関連マニュアル

各ハードウェア (PRIMERGYなど) や各ソフトウェア (ServerView Operations Managerなど) のマニュアルについては、「ServerView Suite ServerBooks」、または各ハードウェアのマニュアルページを参照してください。

- ServerView Infrastructure Manager V1.5 スタートガイド
- FUJITSU Server PRIMERGYマニュアル

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

本書の読者

このマニュアルは、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステム管理者、ネットワーク管理者、ファシリティ管理者およびサービス専門家を対象とします。

本書の表記について

表記

キーボード

印字されない文字のキーストロークは[Enter] や[F1] などのキーアイコンで表示されます。例えば、[Enter] は Enterというラベルの付いたキーを押すことを意味し、[Ctrl] + [B] は、Ctrl または Control というラベルの付いたキーを押しながら[B] キーを押すことを意味します。

記号

特に注意すべき事項の前には、以下の記号が付いています。



ポイント

ポイントとなる内容について説明します。



注意

注意する項目について説明します。

略称

本書では、以下のとおり略称で記載することがあります。

正式名称	略称	
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	Windows Server 2012 Datacenter	Windows Server 2012
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard	Windows Server 2012 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 Essentials	Windows Server 2012 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2

正式名称	略称	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard	Windows Server 2012 R2 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Essentials	Windows Server 2012 R2 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter	Windows Server 2008 Datacenter	
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise	Windows Server 2008 Enterprise	Windows Server 2008
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard	Windows Server 2008 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 Datacenter	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard	Windows Server 2008 R2 Standard	
Red Hat Enterprise Linux 7.2 (for Intel64)	RHEL 7.2(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 7.1 (for Intel64)	RHEL 7.1	Red Hat Enterprise Linux または Linux
Red Hat Enterprise Linux 7.0 (for Intel64)	RHEL 7.0	
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for Intel64)	RHEL 6.7(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for x86)	RHEL 6.7(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for Intel64)	RHEL 6.6(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for x86)	RHEL 6.6(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for Intel64)	RHEL 6.5(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for x86)	RHEL 6.5(x86)	

用語

本書で使用している主な略語および用語は次のとおりです。

略語／用語	意味
ISM	ServerView Infrastructure Manager。本ソフトウェアです。
PMS	ServerView Profile Manager Service。ISMがOSプロファイル適用時に使用するプログラムです。
BMC	Baseboard Management Controller。サーバのベースボード上に搭載され、ボードやファンなどを管理する機構です。
iRMC	Remote Management Controller。BMC機能にリモート操作機能などを追加した制御機構です。世代に応じてiRMC S3、iRMC S4のように名称が区別されることがあります。
SVS	ServerView Suite。FUJITSU Software ServerViewシリーズのソフトウェア製品群です。
SVIM	ServerView Installation Manager。セットアップ作業を容易にします。
SVOM	ServerView Operations Manager。サーバの集中管理に使用します。
VIOM	ServerView Virtual-IO Manager。LAN、FCのI/Oパラメーターを仮想化します。
SVlcc	ServerView LogCollect and Checker。ログを収集します。
SVFAB	ServerView Fabric Manager。コンバージドファブリックスイッチやL2スイッチを管理します。

略語／用語	意味
MMB	ブレードシャーシに搭載するマネジメントブレード。または、PRIMEQUESTに搭載されるマネジメントボードです。
ETERNUS	富士通製ストレージ装置です。
vCenter	VMware社が提供する仮想環境管理ソフトウェアです。
SCVMM	System Center Virtual Machine Manager。Microsoft社が提供する仮想環境管理ソフトウェアです。
OpenStack	オープンなクラウド環境を提供するためのオープンソースソフトウェアです。
Management LAN	iRMC用のLAN。PRIMERGYでは通常のLANコネクタとは別に専用コネクタが用意されています。
管理サーバ	ISMがインストールされているサーバを指します。
対象機器	ISMで操作する機器を指します。
HLCM	Hardware Life Cycle Manager。ISMのメンテナンス支援機能です。
リポジトリ	ファームウェアアップデートやOSインストールに必要なデータを格納するためのフォルダー。プロファイル管理機能では対象サーバとのデータ送受信のための共有フォルダーとしても使用します。
Profile Manager	プロファイル管理機能または操作するためのGUI画面を指します。

使用上の注意事項

ISM登録データ作成時に使用できる文字は、SVOMに準拠します。全角文字や記号(" # & ~ | ¥ + * ? / ; , () など)、空白は使用できません。

ただし、入力項目によっては、半角英数字、全角英数字、全角ひらがな、全角カタカナ、またはJIS第二水準漢字などを使用できます。

例えば、機器の管理ネットワークおよび管理OSのパスワードに対して、引用符(')、二重引用符(")、円記号(¥)、半角スペースを除くASCII文字を使用できます。

高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本製品を安全にお使いいただくためには、本製品のご使用にあたり各製品（ハードウェア、ソフトウェア）をご理解いただく必要があります。必ず各製品の注意事項に従ったうえで本製品をご使用ください。本書は本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

免責事項

本書を無断で複製・転載することを禁止します。本製品の運用を理由とする損失、免失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねます。本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

登録商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Hyper-V、Active Directory、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat およびRed Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国におけるRed Hat, Inc.の商標または登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware,Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Xeon は、米国およびその他の国におけるIntel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

著作権表示

© Copyright Fujitsu Limited 2016 All rights reserved

目 次

第1章 概要	1
1.1 ISMがサポートする機能	1
1.1.1 運用シーン別のISM機能一覧	2
1.1.2 機能説明	3
1.1.2.1 プロファイル管理のサポート機能	3
1.1.2.2 ファシリティ管理のサポート機能	7
1.1.2.3 メンテナンス支援のサポート機能	8
1.2 ISMのシステム要件	9
1.3 構成	11
1.3.1 ハードウェア構成	11
1.3.2 ソフトウェア構成	14
1.4 ISM導入、運用フロー	15
1.5 ライセンス	18
第2章 設計	19
2.1 ログの保存容量の決定	19
2.2 リポジトリ作成先の決定	19
2.3 IPアドレスの設計	20
2.4 機器名／プロファイル名のルール決定	23
2.5 運用上の注意事項	24
第3章 ISMの構築	26
3.1 インストールと設定	26
3.1.1 SVOMのインストール	26
3.1.2 DHCPサーバ機能の有効化	26
3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成	27
3.1.4 ISMのインストール	27
3.1.4.1 ISMのアップデートインストール	29
3.1.4.2 ISMのサイレントインストール	31
3.1.5 ライセンス登録	32
3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール	33
3.1.7 FTPサーバの設定 (OS)	36
3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備	39
3.2.1 概要	39
3.2.2 設定手順	41
3.3 FTPサーバの設定 (ISM)	42
3.4 DHCP設定 (ISM)	43
3.5 仮想環境管理ソフトウェアの登録情報の準備	45
3.6 vCenter／SCVMM／OpenStack連携機能の利用	46
3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定	46
3.6.2 仮想管理ソフトウェアの登録	47
3.7 ユーザ／パスワード設定	48
3.8 メンテナンス機能のための設定変更	48
第4章 ISMのユーザーインターフェース	56
4.1 ISMの画面表示方法 (各機能共通)	56
4.2 [Facility Manager]画面	57
4.2.1 [ダッシュボード] タブ (富士通Modular Data Center使用時のみ表示)	58
4.2.2 [一覧]タブ	59
4.2.2.1 [全ての機器]画面 (サーバ／スイッチ／ストレージ／ファシリティ機器)	59
4.2.2.2 [ラックレイアウト]画面	62
4.2.2.3 [コンテナ]画面	62
4.2.2.4 [ラック]画面	64
4.2.2.5 [FirstSight]画面	67
4.2.3 [グループ一覧]タブ	77

4.2.4 [レポート]タブ	79
4.2.5 [しきい値]タブ	82
4.2.6 [インベントリ]タブ	85
4.2.7 [ログ収集]タブ	87
4.2.8 [仮想管理ソフトウェア情報]タブ	87
4.2.9 [消費電力制御設定]画面	94
4.3 [Facility Browser]画面	99
4.4 [Profile Manager]画面	99
4.4.1 [ノードリスト]画面	100
4.4.2 [プロフィール]画面	102
4.4.3 [イベント履歴]画面	103
4.5 [Setup]画面	103
4.6 [Maintenance]画面	104
4.6.1 [ファームウェアアップデート一覧]画面	105
4.6.2 [タスク一覧]画面	107
4.6.3 [共通設定]画面	107
4.7 HTML5ベース GUI	108
4.7.1 システム要件	109
4.7.2 HTML5ベース GUIの画面表示方法	109
4.7.3 [List]画面	112
4.7.3.1 [All]メニュー	112
4.7.3.2 [Datacenter]メニュー	113
4.7.3.3 [Group]メニュー	117
4.7.3.4 [Report]メニュー	118
4.7.3.5 共通表示項目	118
4.7.3.6 FirstSight	120
4.7.4 [3D]画面	125
第5章 運用	128
5.1 各種DVDのデータインポート	128
5.2 機器の登録	131
5.2.1 センター情報とラックの登録	134
5.2.2 Profile Managerでの機器登録	136
5.2.2.1 機器検出	136
5.2.2.2 機器登録	141
5.2.2.3 登録解除	143
5.2.3 Facility Managerでの機器登録	144
5.2.3.1 ICT機器のデータ入力詳細	146
5.2.4 MIBファイルの登録	156
5.2.5 アラームルールの設定	157
5.3 ファームウェア版数の確認とアップデート	158
5.4 サーバ・ETERNUS DXシリーズのセットアップ	164
5.4.1 プロファイルの作成および管理	165
5.4.1.1 サーバ用HWプロファイルの新規作成	166
5.4.1.2 OSプロファイルの新規作成	167
5.4.1.3 ストレージ用HWプロファイルの新規作成	169
5.4.1.4 プロファイルの操作	170
5.4.2 プロファイル適用	172
5.5 機器の監視・モニタリング	177
5.5.1 機器ステータス／情報取得利用	177
5.5.2 機器情報表示	178
5.5.3 レポート表示利用	179
5.5.4 消費電力制御(パワーキャッピング)利用	180
5.5.5 イベント履歴表示	180
5.6 ログ収集機能の利用	181
5.6.1 ログ収集対象機器の選択	183
5.6.2 定期ログ収集開始時刻の変更	185

5.6.3 ログ保存期間の変更	185
5.6.4 ログ保存先のディスク容量監視機能	185
5.6.5 ログ転送の設定	186
5.6.6 ログ転送の設定(ホストOSがVMware ESXiの場合)	187
5.6.6.1 ログ転送の設定	187
5.6.6.2 ログ転送用のファイアウォール設定	188
5.6.6.3 ログ受信側の設定	189
5.6.6.4 ログ収集機能で転送ログを受信する方法	190
5.6.6.5 Syslog Collectorを利用する方法	192
5.6.7 ログ転送の設定(Windows OSの場合)	197
5.6.7.1 ログ受信側の設定(インストール後1回のみ行う設定)	197
5.6.7.2 ログ受信側の設定(監視対象サーバを追加するたびに行う設定)	198
5.6.7.3 監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)	200
5.6.7.4 ログ受信側でのログ転送確認	201
5.6.8 ログ転送の設定(ホストOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合)	202
5.6.8.1 ログ受信側の設定	202
5.6.8.2 監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)	205
5.6.8.3 管理サーバがログを受信するポートの変更方法	205
5.6.9 異常通報の設定	205
5.6.10 FTPサーバ情報の登録	207
5.6.11 Administratorユーザー情報の登録	208
5.6.12 通知メッセージ	209
5.6.13 異常発生時の対処	210
5.6.14 ログのダウンロード	210
5.6.14.1 収集したログ	211
5.6.15 メッセージ一覧	216
5.6.16 ログ関連コマンド	218
5.7 管理	225
5.7.1 機器のグループ管理	225
5.7.2 プロファイルのグループ管理	228
第6章 保守関連操作	232
6.1 サービスの起動と停止	232
6.2 ISMデータベースのバックアップとリストア	232
6.2.1 バックアップ	232
6.2.2 リストア	233
6.3 調査ログ収集	233
6.4 管理サーバのIPアドレス変更時の操作	234
6.5 SVOMをアップデートする際の操作	235
6.6 機器の保守後の操作	235
6.6.1 Profile Managerでのサーバ保守後操作	236
6.7 機器の撤去	238
付録A メッセージ一覧	240
A.1 メッセージの見方	240
A.2 情報メッセージ	240
A.2.1 11xxx	240
A.2.2 15xxx	240
A.2.3 16xxx	240
A.3 警告メッセージ	242
A.3.1 31xxx	242
A.3.2 35xxx	243
A.3.3 36xxx	243
A.4 エラーメッセージ	246
A.4.1 51xxx	246
A.4.2 52xxx	248
A.4.3 55xxx	250
A.4.4 56xxx	252

A.4.5 58xxx.....	255
A.4.6 75xxx.....	255
A.4.7 95xxx.....	255
A.5 システムログに出力されるメッセージ.....	255
A.5.1 情報メッセージ.....	256
A.5.2 警告メッセージ.....	256
A.5.3 エラーメッセージ.....	256
付録B トラブルシューティング.....	257
B.1 メンテナンス支援機能に関するトラブルシューティング.....	257
B.2 プロファイル管理に関するトラブルシューティング.....	260
付録C アンインストール.....	269
付録D SVIMの再インストール.....	271
付録E プロファイル設定項目.....	272
E.1 PRIMERGYサーバ用HWプロファイルの設定項目.....	272
E.2 PRIMEQUESTパーティション用HWプロファイルの設定項目.....	275
E.3 サーバ用OSプロファイルの設定項目.....	276
E.3.1 Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2用プロファイル.....	276
E.3.2 VMware ESXi 5.1/VMware ESXi 5.5/VMware ESXi 6.0用プロファイル.....	279
E.3.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル.....	280
E.4 ストレージ用HWプロファイルの設定項目.....	283
E.4.1 RAID構成タブ.....	283
付録F プロファイル管理機能の補足情報.....	286
F.1 プロファイル利用時の留意事項.....	286
F.2 登録済み機器情報の変更に関して.....	286
F.3 リポジトリフォルダーの変更.....	287

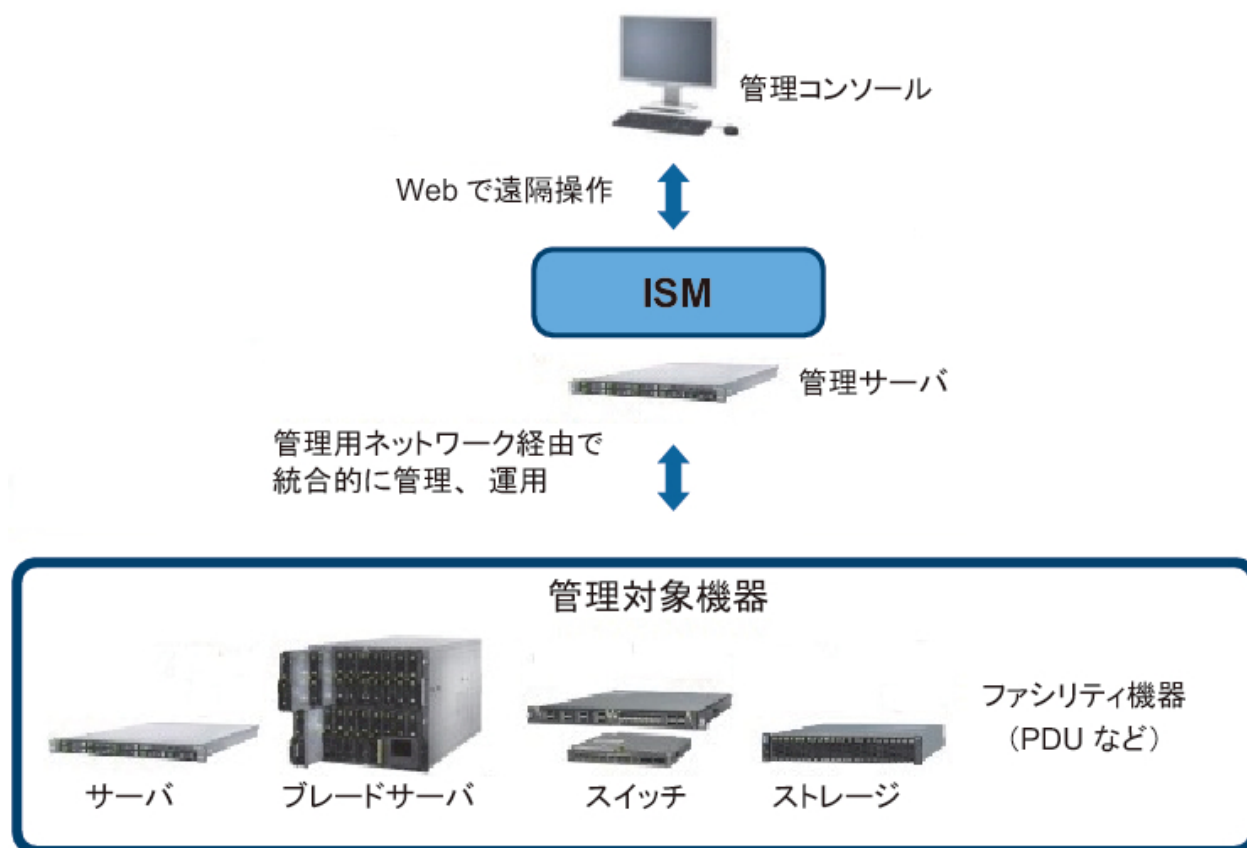
第1章 概要

ServerView Infrastructure Manager (以降ISMと表記)はServerView Operations Manager (以降SVOMと表記)の機能を拡張し、データセンター／サーバールームのICT機器、ファシリティ機器情報を容易に把握するための機能やプロビジョニング機能を提供します。

ISMはWebベースのグラフィカルユーザーインターフェースを採用し、データセンターを構成するハードウェアとソフトウェアの情報、物理的な構成を反映してグラフィカルに表示し、各機器の構成情報や動作状態の表示、サーバの設定変更などを行います。

ISMはSVOMのアドオン機能としてインストールされます。

図1.1 ISMの機能



構成要素	説明
管理コンソール	ISMにアクセスするための操作用端末です。
管理サーバ	SVOM、ISM、および関連ソフトウェアがインストールされるサーバです。
管理対象機器	ISMが構成管理、稼働監視、制御する管理対象機器です。 - ICT機器 サーバ、ブレードサーバ、スイッチ、ストレージ - ファシリティ機器 インテリジェントPDU、インテリジェントUPS、水冷RackCDU

1.1 ISMがサポートする機能

ここでは、ISMの機能を説明します。

運用シーンで必要とされる機能

構築・導入

ICT機器の初期セットアップ、サーバのOS自動インストールなどを迅速かつ確実に行います。

- サーバ、ストレージの検出と登録
- BIOS/BMC (iRMC) 設定
- OSインストール
- ファームウェアアップデート
- ETERNUSストレージ装置のRAID設定

運用

ICT機器、ファシリティ機器の統合的な構成管理、稼働監視、制御を行います。

- 機器搭載位置などのハード構成の管理
- 消費電力、CPU使用率などの監視
- 機器の登録・属性変更などの履歴管理
- ログ収集
- ログのダウンロード、フィルタリング

保守

ICT機器交換時の早期復旧や異常発生時の調査資料自動収集および通報を行います。

- 構築時に設定したBIOS/OSの自動復旧
- ファームウェアアップデート

ISMの各機能

ISMの機能は、大きく以下の3つに分類できます。

機能の詳細について、「[1.1.2 機能説明](#)」を参照してください。

プロファイル管理機能

サーバやストレージのセットアップ作業を自動的に実施する機能を提供します。これらの機器の一覧表示や過去の作業履歴、設定内容を参照することでセットアップ後の機器管理も容易になります。

ファシリティ管理機能

データセンターを構成する各ICT機器、ファシリティ機器の構成情報参照、動作状態参照、サーバの設定変更などを行うための機能を提供します。

メンテナンス支援機能

ISMで管理する装置のファームウェアアップデートなどの保守作業を支援するための機能を提供します。

本機能を使用することで複数機器のファームウェア版数管理を1つの画面で行えるようになります。また、個々の装置にログインしなくても、統一したインターフェースで、様々な機器のファームウェアアップデートができます。

1.1.1 運用シーン別のISM機能一覧

○:機能あり

シーン	機能	プロファイル 管理機能	ファシリティ 管理機能	メンテナンス 支援機能	説明
構築 導入	サーバ、ストレージの検 出と登録	○			ネットワークに接続されたPRIMERGYサーバ、ストレージを検出し、ISMの管理対象機器として登録します。
	BIOS設定、BMC (iRMC) 設定の変更	○			機器登録した対象サーバのBIOSやBMC (iRMC) の設定を変更できます。BIOSセットアップユーティリティや

シーン	機能	プロファイル 管理機能	ファシリティ 管理機能	メンテナンス 支援機能	説明
					リモートマネジメントコントローラーでの設定と同等の機能を提供します。
	OSのインストール	○			機器登録した対象サーバのOSをインストールできます。また、インストールしたサーバをvCenterやSCVMMにホスト登録できます。
	ファームウェアアップデート	○		○	対象機器のファームウェアをアップデートできます。主にサーバのセットアップと同時にファームウェアを最新版にアップデートする場合にプロファイル管理機能を利用します。
	ETERNUSストレージ装置のRAID構築	○			ETERNUS DXシリーズのストレージ装置上で、RAIDおよびボリュームを作成できます。
運用	機器搭載位置などのハード構成の管理		○		ファシリティ管理機能でラックやICT機器の構成をグラフィカルに管理できます。
	消費電力、CPU使用率などの監視		○		ICT機器ごとに消費電力などのハードウェア状態およびCPU使用率などのソフトウェア状態をモニタリングできます。 消費電力を設定することで、省電力制御が可能です。
	機器の登録・属性変更などの履歴管理	○	○		機器登録、解除機能を使用して、機器の追加や不要な機器の撤去などを一括管理できます。
	ログ収集		○		ICT機器ごとのログを定期的に収集したり、異常通報したりする機能を提供します。 ログ収集機能を使用するための情報を設定することで、自動的にログ収集されます。
	ログのダウンロード、フィルタリング		○		ログ収集機能で収集したログは、機器ごとにアーカイブされ、ダウンロードできます。 また、フィルター機能を使用して、警告・異常のOSイベントログを表示できます。
保守	構築時に設定したBIOS/OSの自動復旧	○			機器に適用する各種設定のプロファイルとして作成し、適用することで、機器交換作業を容易にできます。
	ファームウェアアップデート	○		○	対象機器のファームウェアをアップデートします。

1.1.2 機能説明

1.1.2.1 プロファイル管理のサポート機能

プロファイル管理の機能は以下のとおりです。

機能	概要
管理対象機器の検出 (自動検出、手動検出)	ネットワーク接続された機器を検出して画面上に情報を表示します。 DHCP設定されたサーバは自動的に検出されますが、サーバ以外の機器や固定IPアドレスのサーバについては任意のIPアドレスを指定して手動検出します。
機器登録	プロファイル管理を行う前に、検出した機器1台ごとに名称を付けて登録し、管理可能な状態とします。登録後の機器操作のために固定IPアドレスが必要なため、DHCP設定のサーバに対しては固定IPアドレスの割当ても同時に行います。
プロファイル作成	機器に適用する各種の設定をプロファイルに記述します。ハードウェア環境の設定を行うHWプロファイルとOSインストール設定を記述したOSプロファイルの2種類を作成

機能	概要
	します。事前に用意されているプロファイルを活用して新しいプロファイルを作成することもできます。
プロファイル適用	プロファイルの内容に従って指定した機器に対し、ハードウェア設定、OSインストール、またはETERNUSアレイ構築を行います。
Web画面呼び出し (iRMC Webインターフェース、MMB Web ユーザーインターフェースなど)	Webブラウザを起動し、対象機器のWeb操作画面を呼び出します。 サーバを直接操作するためにビデオリダイレクション機能を起動する場合などにも本機能を利用できます。
機器情報、操作履歴の表示	プロファイル管理機能全体の操作ログを参照できます。また、特定機器の情報や操作履歴も表示します。

プロファイル管理のサポート対象機器

ここでは、プロファイル管理のサポート対象機器を説明します。

ブレードシャーシとMMBは一体で扱われるため、画面上では「シャーシ/MMB」のように表示される場合があります。

機器種類	主なサポート機能
ラックサーバ PRIMERGY RXシリーズ サーバブレード PRIMERGY BXシリーズ クラウドサーバ PRIMERGY CXシリーズ	- 自動／手動検出、IPアドレス設定、登録 - ファームウェア／BIOSアップデート - BIOS／BMC設定 - OSインストール - iRMC Webインターフェースの呼び出し
ブレードシャーシ (MMB)	- 手動検出、登録 - MMB Webユーザーインターフェースの呼び出し - コネクションブレードの検出、ファシリティ管理への登録
PRIMEQUEST 2000シリーズ	- MMBの手動検出、登録 - パーティションの手動検出、登録 - パーティションに対するiRMC設定 - パーティションに対するOSインストール
ストレージETERNUSシリーズ	- 手動検出、登録 - アレイ／ボリューム構築 (DXシリーズのみ) - Web GUIの呼び出し (DXシリーズのみ)

サポート製品や対応機能などの最新情報については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>



注意

- OSインストールはSVIMを利用して実行されます。サポート対象のサーバおよびインストールするSVIMの両方がインストールするOSをサポートしている必要があります。また、OSインストールに関して、サーバまたはSVIMに留意事項などが存在する場合、ISMの動作もその影響を受けます。
- ファームウェアのアップデートはServerView SuiteのUpdate DVDを利用して実行されます。使用するUpdate DVDがサポートしているサーバおよびファームウェア版数の範囲でアップデートが可能です。また、ファームウェアアップデートに関して、サーバまたはUpdate DVDに留意事項などが存在する場合、ISMの動作もその影響を受けます。

プロファイル管理機能を利用したセットアップ

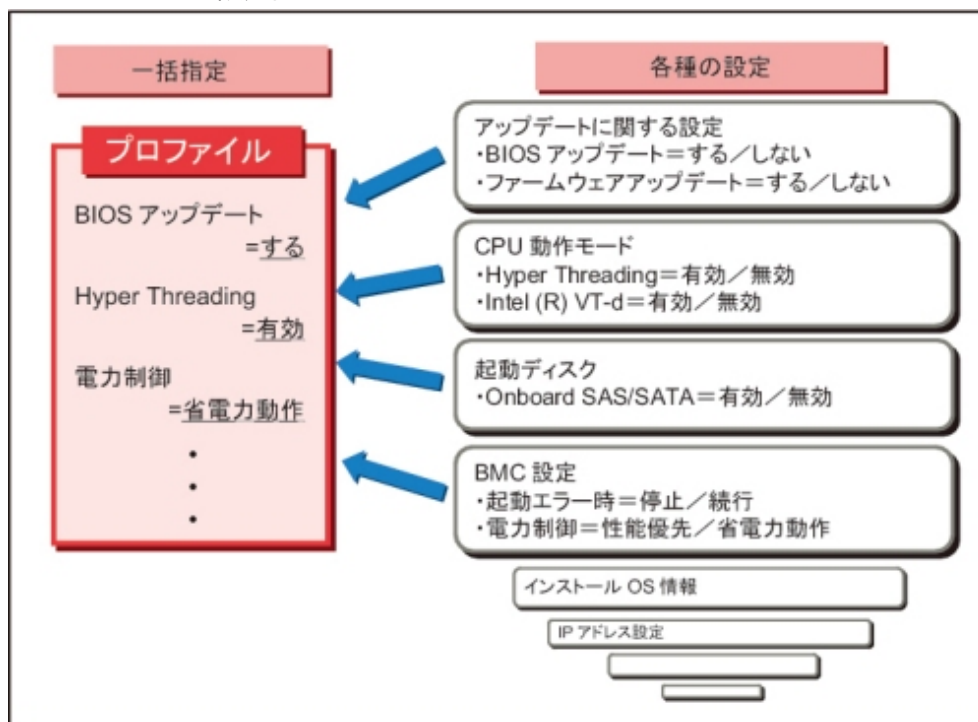
プロファイル管理機能は、サーバやストレージなどの各種機器のセットアップ作業を自動的に実施する機能です。機器の一覧表示や過去の作業履歴、設定内容を参照することでセットアップ後の機器管理も容易になります。

例えば、次の作業については機器を直接操作しなくても、ISMの画面操作だけで行えます。

- ・ サーバのBIOS設定、iRMC設定の変更
- ・ サーバ、内蔵アレイドコントローラーのファームウェア／BIOSの更新
- ・ OS、Hypervisorのインストール
- ・ アレイ構築

上記作業内容を事前にプロファイルとして記述しておき、このプロファイルを各機器に適用することで指定した作業を行います。プロファイルとは、各種設定を一括指定したものです。多数のサーバを同一内容でセットアップする場合には、1つのプロファイルを複数のサーバに対して適用することで、作業の効率化が図れます。セットアップ後のファームウェアアップデート、または各種設定変更などは、変更したプロファイルを再度各機器に適用することで、一括で実施できます。

図1.2 プロファイル設定例



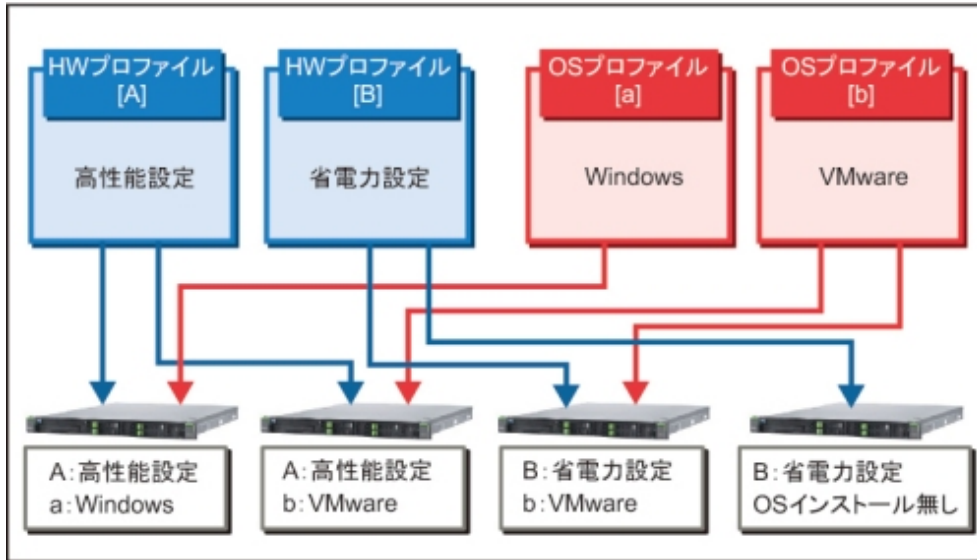
プロファイル

プロファイル管理機能では、ハードウェア設定やファームウェアアップデートの有無、OSインストール時のパラメーターなどを「プロファイル」と呼ぶ各種定義の集合体に記述しておき、そのプロファイルを実際の機器に対して割り付けることで機器の状態を一括変更します。プロファイルは複数作成でき、それぞれ個別の名前を付けて管理します。対象機器1台ごとに異なるプロファイルを適用したり、1個のプロファイルを複数の対象機器に適用したりできます。

対象がサーバの場合、ハードウェア関連の指定を行うHWプロファイル、およびOSインストールに関する指定を行うOSプロファイルの2種類を使用して操作します。OSプロファイルを使わずにハードウェアのみを管理することもできます。ただし、OSプロファイルのみの適用はできません。

ストレージ(ETERNUS)に対しては、HWプロファイルのみを利用します。プロファイルの内容は、サーバ用のHWプロファイルとは異なります。次のようにHWプロファイルおよびOSプロファイルは、任意の組合せで対象サーバに適用できます。

図1.3 サーバへのプロファイル適用例



プロファイル適用(ファームウェア/BIOSアップデート)

アップデートが可能なファームウェアおよびBIOSは次のとおりです。

- ・ サーバ本体(システムボード)のBIOS
- ・ サーバ本体(システムボード)のiRMCファームウェア
- ・ サーバに搭載されるアレイドコントローラカードのファームウェア

上記は個々にアップデートすることはできません(例えばBIOSのみアップデートは不可)。

HWプロファイル中にアップデートを指示すると、プロファイル適用処理中にすべてのコンポーネントに対してアップデートが行われます。

ファームウェア/BIOSは、新しい版数に更新することはできますが、古い版数にすることはできません。

プロファイル適用(BIOS設定)

サーバのBIOS動作に関する設定を変更します。サーバ上でBIOSセットアップユーティリティを利用して設定する作業と同じです。

HWプロファイルに設定内容を記述して、プロファイルを適用することで設定が変更されます。

プロファイル適用(BMC(iRMC)設定)

サーバのiRMC動作に関する設定を変更します。リモートマネジメントコントローラのWebインターフェースを利用して設定する作業と同等です。

HWプロファイルに設定内容を記述して、プロファイルを適用することで設定が変更されます。

プロファイル適用(OSインストール)

サーバに対して次のOSをインストールします。ただし、インストール先サーバおよび使用するServerView Installation ManagerがサポートしているOSのみインストール可能です。

OSプロファイルでOS種類や各種設定を記述して、プロファイルを適用することでOSのインストールが実行されます。

- ・ Windows Server 2012 /2012 R2 (Standard/Datacenter)(Full/Core)
- ・ Windows Server 2008 R2 (Standard/Enterprise/Datacenter)(Full/Core)
- ・ Red Hat Enterprise Linux 6.x / 7.x
- ・ VMware ESXi 6.0 / Update 1a / Update 1b
- ・ VMware ESXi 5.5 / Update 1 / Update 2 / Update 3a / Update 3b

- VMware ESXi 5.1 Update1 / Update2 / Update3

サポートOSに関する最新の情報は弊社の本製品ウェブサイト参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

プロファイル適用(ETERNUSアレイ構築)

ストレージ装置ETERNUS DXシリーズ上で、RAIDおよびボリュームを作成できます。DXシリーズ以外では本機能は未サポートとなります。

プロファイル管理機能使用上の注意事項

プロファイル管理機能を使用する際に注意していただきたい内容を記載します。

(1) エラー発生時の対処

本ソフトウェアを操作中にエラーが発生した場合、または期待する動作結果にならなかった場合は、画面上のメッセージやアイコンなどでその内容を確認し、トラブルシューティングを参照して適切な対処を行ってください。詳しくは、「[B.2 プロファイル管理に関するトラブルシューティング](#)」を参照してください。

(2) DHCPまたはPXEを利用するソフトウェアとの競合

管理ネットワーク内で、ServerView Resource OrchestratorやSystemcastWizardなどのDHCPやPXEを利用するソフトウェアを利用する場合、DHCPまたはPXEの競合が原因で正しく動作しないことがあります。

(3) 管理サーバ外のDHCPサーバまたはPXEサーバを利用する場合

ISMは管理サーバ上で動作するDHCPサーバとPXEサーバを使います。これらを準備できない場合、次の制約が発生します。

ー DHCPサーバ(サービス)

Windows標準のDHCP機能を管理サーバ上で有効にできない場合は、新規サーバの自動検出機能は動作しません。サーバの検出は手動で行ってください。

ネットワーク上に有効なDHCPサーバが存在しない場合は、OSプロファイルは使用できません。

また、HWプロファイル中のFW/BIOSアップデートとBIOS時刻設定は使用できません。プロファイル適用を実行するとエラー終了します。

ー PXEサーバ(サービス)

管理サーバにServerView Installation ManagerをインストールしてPXEサーバを動作させることができない場合は、OSプロファイルは使用できません。また、HWプロファイル中のFW/BIOSアップデートとBIOS時刻設定は使用できません。プロファイル適用を実行するとエラー終了します。

(4) 複数のWebブラウザからの同時にログイン

ISMは複数のWebブラウザから同時にログインし、それぞれから操作できます。ただし、異なる操作を同時に行うと、動作の競合が原因で予期しない動作を引き起こすことがあります。複数ログインでの利用は推奨しません。複数ログイン状態で利用する場合は、本ソフトウェアの動作を十分理解したうえで利用するか、参照のみに限定してください。

1.1.2.2 ファシリティ管理のサポート機能

ファシリティ管理の機能は以下のとおりです。

サポート機器、OSに関する最新の情報は弊社の本製品ウェブサイト参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

機能		概要
機器管理		監視対象となる機器の一覧やフロア内のラック位置、空調機位置およびラック内の機器構成情報などを表示します。また、レポートの設定および表示、しきい値の設定、インベントリを表示します。
	簡易表示	データセンターを構成する機器構成を容易に把握できます。
	構成管理	PRIMERGYシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッチブレード、電源、MMBなどのハードウェア構成を表示します。また、各サーバブレードまたはサーバに搭載されているCPUやメモリ、HDDなどのハードウェアの構成、またはハイパーバイザ上に作成された仮想マシンの一覧などを表示します。

機能		概要
	ステータス管理	PRIMERGYシャーシに搭載されている各機器、およびPRIMERGYサーバのステータスを表示します。
	レポート	CPU、メモリ、ディスク使用率を表示します。
	OSイベントログ	フィルター機能により警告・異常のイベントから最新の50件を表示します。
機器一括登録		ラック、サーバ、ストレージ、スイッチなど機器の属性情報を登録データ作成ツールに設定します。そのツールから出力したcsvファイルをISMに読み込むことで一括登録できます。
ログ収集	ログ収集	PRIMERGYシャーシに搭載されたサーバブレード、スイッチブレード、MMB、PRIMERGYサーバのOSログ、ストレージ、外部スイッチのログを定期的(1日1回)に収集する機能です。
	ログ監視	ホスト上OSのログに出力されるドライバのログ、および管理用サーバ上のソフトウェアのソフト異常を監視して、ログ情報の収集や異常通報を実行する機能です。
	異常通報	SVOMのイベントマネージャーの [アクション設定] を利用してTrapやMail通報を行う機能です。

1.1.2.3 メンテナンス支援のサポート機能

メンテナンス支援の機能は以下のとおりです。

機能	概要
ファームウェア情報表示	登録された管理対象機器に対して、現在動作中のファームウェア版数や、アップデート可能な版数を一覧表示します。 ラック搭載位置や、マシン名、モデル名などSVOM、プロファイル管理機能、およびファシリティ管理機能で登録した各種情報もあわせて一覧表示します。これらの情報と各種絞り込み操作を使用して、各装置のファームウェア版数が確認でき、アップデートの必要性を容易に把握できます。
ファームウェアアップデート	ファームウェアアップデートが必要な装置に対して、画面からアップデートを実施できます。個別の装置にアクセスしなくても最後までファームウェアアップデートを実施します。また、サーバやネットワークスイッチなど装置種別ごとの個別操作は不要で、すべての装置に対して共通のインターフェースを使用して操作できます。複数の装置に対してまとめてファームウェアアップデートを実施することで、保守作業を効率化できます。
ファームウェアアップデート状況管理	現在実施中のファームウェアアップデートの進捗状況と、過去に実施したファームウェアアップデートの履歴情報を一覧表示します。すべての装置に対するファームウェアアップデートの履歴を一元的に管理できます。

管理対象機器ごとに実施可能なメンテナンス支援機能

メンテナンス支援機能では、管理対象機器の版数表示およびファームウェアアップデートができます。

サポート製品や対応機能などの最新情報については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。サポート対象外の機器に対する操作は保証できません。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

表1.1 管理対象機器の説明

管理対象機器	説明
サーバ	メンテナンス支援機能からISMがサポートする、PRIMERGYサーバのiRMC/BIOS、PRIMERGYブレードサーバのマネジメントボード(MMB)、PRIMEQUESTの統合ファームウェア(Unified Firmware)、および搭載されるIOカードのファームウェア管理を行えます。 サーバのiRMC/BIOSのファームウェアアップデートでは、ISMのプロファイル管理機能を利用します。そのため、事前にプロファイル管理機能が動作するように環境設定を行う必要があります。
スイッチ	メンテナンス支援機能からISMがサポートする、コンバージドファブリックスイッチ、PRIMERGYスイッチブレード、サーバ収容レイヤー2スイッチおよびFCスイッチブレードに対してファームウェア管理を行えます。 LANスイッチのファームウェアアップデートでは、ServerView Fabric Managerの機能を利用します。そのため、事前にServerView Fabric Managerが管理サーバにインストールされている必要があります。

管理対象機器	説明
ストレージ	メンテナンス支援機能からISMがサポートする機器に対してファームウェア管理を行えます。

表1.2 管理対象機器の種類と行える操作

機器の種類	対象装置例	版数表示	ファームウェアアップデート
ラックサーバ PRIMERGY RXシリーズ	RX200 S7、RX200 S8、RX300 S7、RX300 S8	○ (iRMC/BIOS)	○ (iRMC/BIOS)
サーバブレード PRIMERGY BXシリーズ	BX920 S3、BX920 S4、BX924 S3、BX924 S4	○ (iRMC/BIOS)	○ (iRMC/BIOS)
マネジメントブレード(MMB) PRIMERGY BXシリーズ	BX900 S2/BX400 S1用 マネジメントブレード	○	○
FCスイッチブレード PRIMERGY BXシリーズ	PRIMERGY FCスイッチブレード(8Gbps 18/8)	○	○
ネットワークスイッチブレード PRIMERGY BXシリーズ	PRIMERGY スイッチブレード(1Gbps 36/12) PRIMERGY スイッチブレード(1Gbps 36/8+2) PRIMERGY スイッチブレード(1Gbps 18/6) PRIMERGY スイッチブレード(10Gbps 18/8)	○ (スイッチモード時、 および EHM 時のみ)	○ (スイッチモード 時、および EHM 時のみ)
コンバージドファブリック スイッチブレード PRIMERGY BXシリーズ	コンバージドファブリックスイッチブレード (10Gbps 18/8+2)	○	○
ネットワークスイッチ SR-Xシリーズ	SR-X526R1、SR-X340TR1、SR-X324T2、SR-X316T2	○	○
コンバージドファブリック スイッチ CFXシリーズ	コンバージドファブリックスイッチ[CFX2000R/ CFX2000F]	○	○
ストレージ ETERNUS DXシリーズ	ETERNUS DX100 S3、DX200 S3	○	○
ストレージ ETERNUS NRシリーズ	ETERNUS NR1000 F2220、F2240、F2520、F2552、 F2554	○	—
サーバ PRIMEQUEST 2000シリーズ	PRIMEQUEST 2400 S Lite、2400 S、2400E、 2800E、2400L、2800L	○	○
FC/CNAカード	PY-FC221、PY-FC211、PY-CN302など	○	—

1.2 ISMのシステム要件

ISM V1.5のシステム要件は以下のとおりです。

なお、SVOMが使用するポート番号については、SVOMのインストールガイドを参照してください。

管理サーバのシステム要件

項目	説明
CPUコア数	2コア以上
メモリ容量	8 GB以上
空きディスク容量	50 GB以上 上記に加えて、ログ保存とリポジトリのためにディスク容量を消費します。 (「2.1 ログの保存容量の決定」 、 「3.2 ファームウェアアップデート/OSインストールの準備」 参照)
ディスプレイ	1280×1024(推奨)、1024×768(最小)
ネットワーク	100 Mbps以上

項目	説明
OS	Microsoft Windows Server 2012 Microsoft Windows Server 2012 R2
必須ソフトウェア	SVFAB 2.01以降(ネットワークスイッチのファームウェアアップデート利用時)
	SVIM 11.15.07以降(プロファイル管理機能利用時)
	SVOM 7.11 以降
	Microsoft SQL Server 2008 R2 StandardまたはMicrosoft SQL Server 2012 Standard (管理ノードが500を超える場合)
	Acrobat Reader(マニュアル／ヘルプの表示用)
JRE	32bit版 Java 8 Update 45 以降。使用するSVOMの条件も満たすこと。
Webブラウザ	SVOMに準拠
使用ポート	• 25661、50043、50096(TCP) : 内部ソケット通信 • 動的(TCP) : SQLServerBrowser(データベースアクセス) • 21(TCP) : FTP • 22(TCP) : SSH • 23(TCP) : TELNET • 67(UDP) : DHCP • 69(UDP) : TFTP • 80(TCP) : HTTP • 135(TCP) : RPC、RPCSS • 135、445、動的(TCP) : WMI • 161(UDP) : SNMP • 162(UDP) : SNMPTrap • 427(TCP、UDP) : SVRLOC • 443(TCP、UDP) : HTTPS • 445(TCP) : SMB • 514(UDP) : syslog転送(Linux、ESXi) • 623(UDP) : IPMI • 1099(TCP) および10099(TCP) : RMI • 4011(UDP) : PXE • 5989(TCP) または5988(TCP) : CIM • 25460(TCP) : HTTPS(SVFABとの通信) • 25560(TCP) : HTTPS(メンテナンス支援機能GUI) • 25561(TCP) : HTTPS(メンテナンス支援機能内部通信) • 25562(TCP) : HTTPS(HTML5ベースGUI内部通信) • 25563(TCP) : HTTPS(HTML5ベースGUI) • 25596(UDP) : syslog転送

1.3 構成

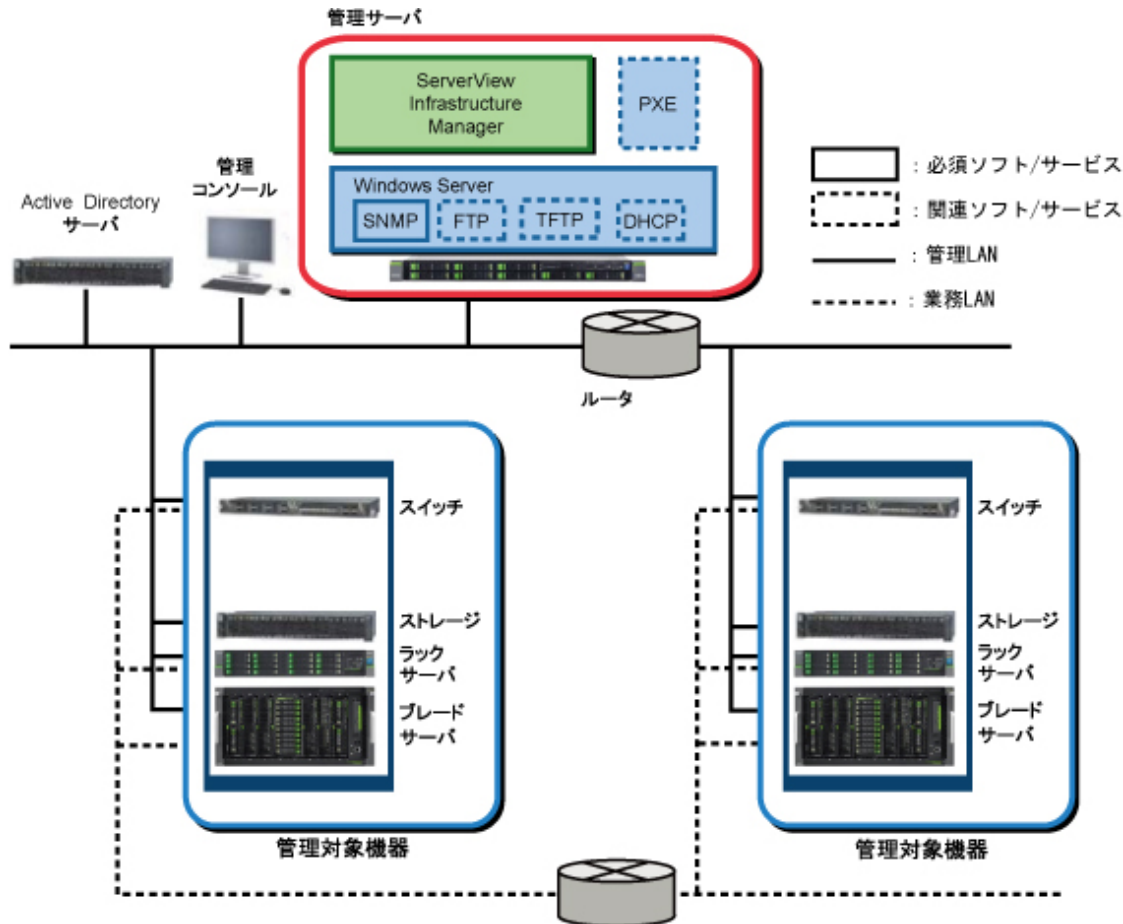
1.3.1 ハードウェア構成

ISMと管理対象機器のネットワーク構成

ISMは、原則的に操作対象となる機器とは別に用意したサーバ上で動作します。本書では操作される側の機器を「対象機器」(サーバの場合は「対象サーバ」)と呼び、本ソフトウェアが動作しているサーバを「管理サーバ」と呼びます。多くの場合は1台の管理サーバから多数の対象サーバに設定を行うことになります。両サーバは、管理用のLANで接続します。

複数のネットワーク構成時には、ルータを設定し、各ネットワーク間で通信可能な状態にしてください。

図1.4 ISMと管理対象機器のネットワーク構成例



機器および機能		説明
ネットワーク	管理LAN	ISMが管理対象機器の状態監視、制御、データ転送を行うために、管理対象機器と通信を行うLANです。セキュリティ確保のため、環境に閉じた接続とすることを推奨します。
	業務LAN	サーバとクライアント間で業務データを転送するLANです。管理サーバは接続しません。
管理サーバ	ServerView Infrastructure Manager (ISM)	本ソフトウェアです。
	SNMP	管理サーバは機器の情報収集のためにSNMPを使用します。管理対象機器は管理サーバへの障害通知のためにSNMP Trapを使用します。

機器および機能		説明
	DHCP	サーバを管理LANおよび電源に接続したとき、BMC (iRMC) にIPアドレスを付与します。PXEブート時、オンボードLANにIPアドレスを付与します。
	PXE/TFTP	サーバに対して、OSをインストールおよびファームウェアをアップデートするときに、PXEブート機能で一時的にサーバをブートします。 MMBのファームウェアアップデート時にTFTPを使用します。
	FTP	以下の場合に使用します。 - ログ収集機能でETERNUSを監視対象とする場合 - プロファイル管理機能でLinuxをインストールする場合 - メンテナンス支援機能でPRIMEQUEST、FCスイッチブレード、ETERNUS DX、ネットワークスイッチのファームウェアアップデートを行う場合
管理コンソール		管理LANを経由してISMを操作するためのPCです。
管理対象機器	スイッチ ストレージ	ISMが状態監視、制御の対象とする機器です。
	サーバ	ISMが状態監視、制御の対象とする機器です。BMC (iRMC) とオンボードLANインターフェースを管理LANに接続します。 ネットワーク接続に関する留意事項については、「 ネットワーク接続に関する留意事項 」を参照してください。
周辺機器	Active Directoryサーバ	WindowsのActive Directoryサービスを使用する環境の場合に接続します。プロファイル管理のSCVMM登録機能を使用する場合は、管理サーバ、管理対象サーバともにActive Directoryに参加させる必要があります。

プロファイル管理機能で必要なネットワーク構成

プロファイル管理機能では、サーバに搭載されているiRMCとの通信、またはオンボードLANからのPXEブートを使用してサーバを制御します。サーバについては、iRMC用のLANポート、およびオンボードのLANポートの両方を管理用LANに接続します。サーバブレードの場合、シャーシに搭載されているMMB上のポートと、LANスイッチブレード(またはLANパススルーブレード)のオンボードLANポートを管理用LANに接続します。その他の機器については、以下を参照してください。

対象機器	必要なネットワーク接続	必要なネットワーク設定
PRIMERGY ラックサーバ (CXシリーズ含む)	iRMC用Management LAN	iRMCのIPアドレス設定 (DHCPまたは適切な固定IPアドレス) (*1)
	オンボードLANの1番目のポート	PXEブートの有効化(*1)
PRIMERGY サーバブレード	各ブレードサーバのiRMC用Management LAN (ケーブル接続先はMMBのManagement LAN)	iRMCのIPアドレス設定 (DHCPまたは適切な固定IPアドレス) (*1)
	各ブレードサーバのオンボードLANの1番目のポート (ケーブル接続先は対応するコネクションブレード)	PXEブートの有効化(*1)
PRIMERGY ブレードシャーシ MMB コネクションブレード	MMBのManagement LAN	MMB用の適切な固定IPアドレス SNMP設定 (MIB読み込み可能なコミュニティ設定) (*1)
PRIMEQUEST	MMBのUSERポート	適切な固定IPアドレス SNMP設定 (MIB読み込み可能なコミュニティ設定) (*1)
ETERNUS DX	マスタCMのMNTポート	適切な固定IPアドレス

対象機器	必要なネットワーク接続	必要なネットワーク設定
		SNMP設定 (MIB読み込み可能なコミュニティ設定、Telnet利用許可) (*1)
ETERNUS NR	Management port	適切な固定IPアドレス SNMP設定 (MIB読み込み可能なコミュニティ設定) (*1)
ETERNUS TR	管理ポート	適切な固定IPアドレス SNMP設定 (ユーザーや認証などの設定)

*1: VLANタグは使用できません。

ネットワーク接続に関する注意事項

- ISMでPRIMERGYを管理するためには、BMC (iRMC) は固定IPアドレスに設定されている必要があります。工場出荷時のBMC設定はDHCPになっており、その状態で管理LANに接続するとISMはDHCPサーバのIPアドレスのリースを検知してサーバが新規接続されたことを認識します。ISMにサーバ登録する時点でISMは指定された固定IPアドレスに変更します。
- ISMのすべての機能を利用するためには、DHCP/PXE/TFTP/FTPの各サーバ機能を管理サーバ上で動作させる必要があります。管理サーバ外で動作させる場合や、サーバ機能が存在しない場合には利用できる機能が制限されます。詳しくは下表を参照してください。

構成		機能利用可否		
DHCP	PXE/TFTP (*1)	自動検出 【プロファイル管理】	手動検出 【プロファイル管理】	OSプロファイル適用／HWプロファイル適用 【プロファイル管理】 PRIMERGYのファームウェアアップデート 【メンテナンス支援機能】
管理サーバ上 (*2)	管理サーバ上	○	○	○
	なし 管理サーバ外	○	○	×
管理サーバ外	管理サーバ上	×	○	○
	なし 管理サーバ外	×	○	×
なし	-	×	○	×

*1 PXE/TFTPはServerView Installation Manager (SVIM)をインストールすると、管理サーバ上にインストールされます。

*2 ISMの[Setup]画面からDHCPのスコープ設定を実施してください。

構成	機能利用可否		
FTP	ログ収集機能で ETERNUS、FCスイッチブ レードのログ収集 【ファシリティ管理】	OSプロファイルでのLinuxイン ストール 【プロファイル管理】	PRIMEQUEST、FCスイッチブレード およびETERNUS DXシリーズの ファームウェアアップデート 【メンテナンス支援機能】
管理サーバ上	○ (*3)	○ (*4)	○ (*4)
管理サーバ外	×	○ (*4)	○ (*4)
なし	×	×	×

*3 管理サーバ上の指定のフォルダーを指定する必要があります。

*4 匿名 (Anonymous) でログイン可能に設定してください。

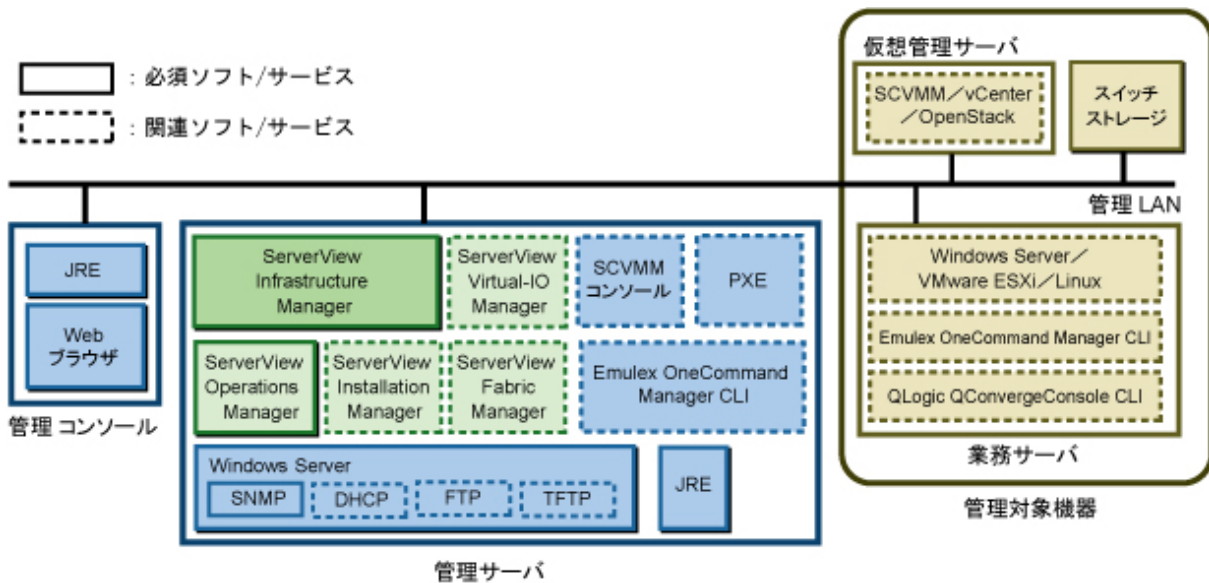
- PRIMERGYには、iRMC 専用LANポート (Management LAN) をオンボードLANと共有 (share) する機能がありますが、ISMを使用する場合は基本的にオンボードLANと共有せずに、iRMC 専用LANポート (Management LAN) を使用してください。共有設定で使用する場合、サーバの新規接続時や保守交換時にはBIOS設定を手作業で変更しないとISMで検出されません。

- ・ブレードシャーシ(MMB)の場合は、マスタ/スレーブが入れ替わり、マスタ側のポートのリンクが切れると、スレーブ側のポートへ自動的にパスが切り替わるため、両方のパスを管理サーバに接続しておく必要があります。
- ・オンボードLANの1ポート目を管理用に使用します。本ポートをiSCSI Bootに利用する場合は、OSプロファイル適用、一部のHWプロファイル設定およびファームウェアアップデートの機能は利用できません。
- ・ServerView Operations Managerの認証をActive Directoryのユーザー管理で統合している環境では、ISMのHTML5ベースGUIは使用できません。通常のGUI画面を使用してください。

1.3.2 ソフトウェア構成

以下にソフトウェア構成を示します。

図1.5 ソフトウェア構成



機器および機能	説明	
管理サーバ	ServerView Infrastructure Manager (ISM)	本ソフトウェアです。
	ServerView Operations Manager (SVOM)	ISMの前提となるソフトウェアです。 PRIMERGYサーバの構成情報、異常検知の情報を表示します。ISMからの通知に基づいて、SNMP Trapやメール送信を使用して異常通報を行います。
	ServerView Virtual-IO Manager (VIOM)	プロファイル管理機能で適用済みのVIOMプロファイル名を表示する際に必要になります。
	ServerView Fabric Manager (SVFAB)	メンテナンス支援機能を利用してLANスイッチのファームウェア管理を行う場合に前提となるソフトウェアです。 スイッチを管理します。
	ServerView Installation Manager (SVIM)	プロファイル管理機能でOSをインストールする際に必要となります。
	System Center Virtual Machine Manger(SCVMM) コンソール	ISMを使用してWindowsがインストールされたサーバを SCVMMに登録するときに必要です。この場合、Active Directoryサーバも別途必要となります。
	PXE	サーバに対して、OSをインストールおよびファームウェアをアップデートする際に必要になります。
	JRE	本製品およびServerView Suiteの実行に必要なJavaの実行環境です。

機器および機能	説明	
	Windows Server	SNMPサービスを有効にします。必要に応じDHCP、FTP、TFTPの各サービスを有効にします。
	Emulex OneCommand Manager CLI	対象サーバ上のOSがVMware ESXiである場合、インストールする必要があります。Emulex FC/CNAカードの有無を検出し、管理するために利用します。
仮想管理サーバ	SCVMM／vCenter／OpenStack	プロファイル管理機能でWindows、VMware ESXiまたはLinuxがインストールされたサーバを SCVMM、vCenterまたはOpenStackに登録するときに必要となります。
管理対象機器	Windows Server／VMware ESXi／Linux	業務サーバでWindows Server、VMware ESXiまたはLinuxを動作させる場合に、OSの自動インストール、OS関連の情報表示やログ収集などの機能が利用できます。
	Emulex OneCommand Manager CLI	対象サーバ上のOSがWindowsまたはLinuxである場合、Emulex FC/CNAカードを管理するために必要となります。
	QLogic QConvergeConsole CLI	対象サーバ上のOSがWindowsまたはLinuxである場合、QLogic FCカードを管理するために必要となります。

管理対象サーバで利用可能なOSの種類と機能の詳細については、弊社ウェブサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

関連ソフトウェアとの連携

プロファイル管理は、ServerView Suite製品やほかのアプリケーションと連携して動作する機能があります。なお、次の機能は連携先ソフトウェアの仕様変更などが原因で利用できなくなることがありますのでご注意ください。

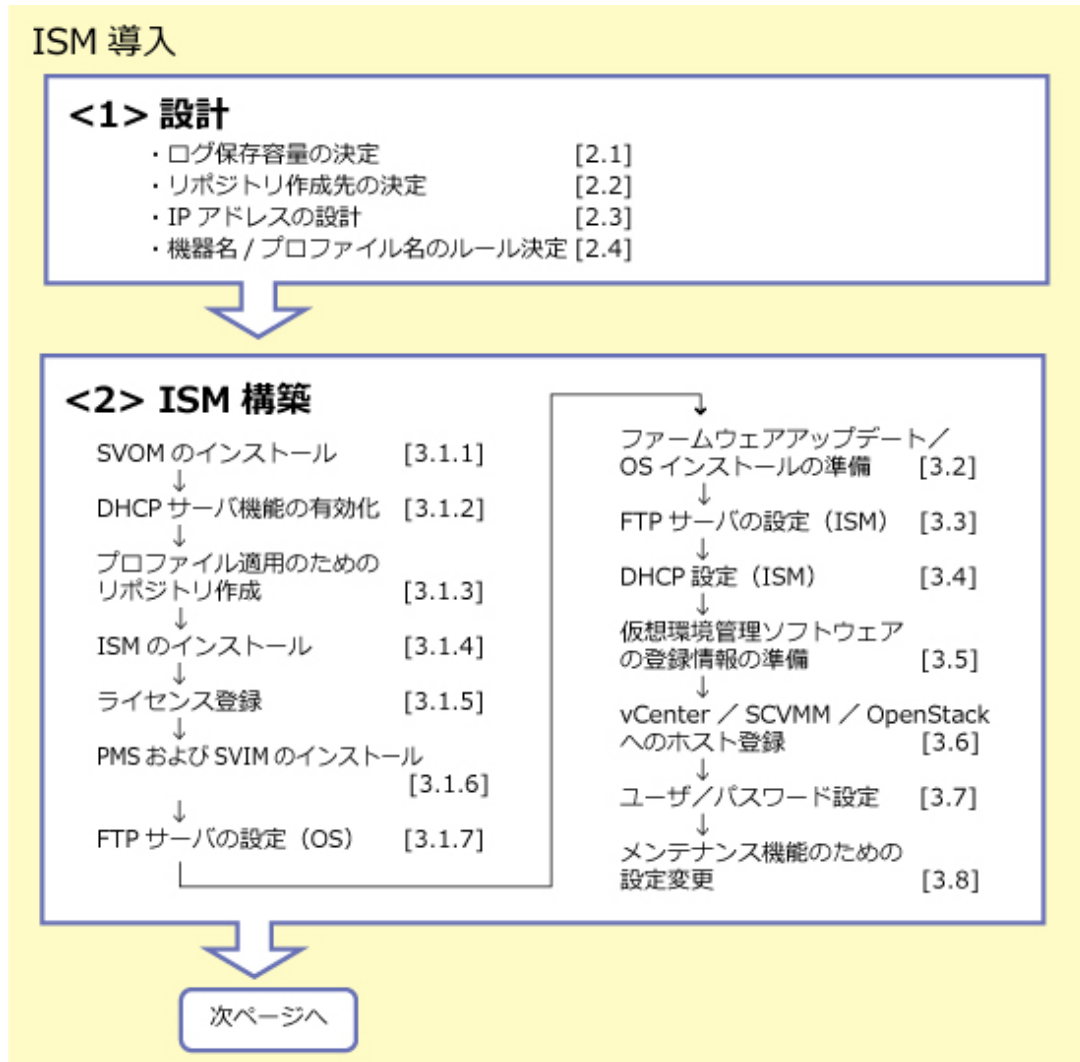
- vCenter Server
OSプロファイルの適用によってVMwareをインストールしたサーバは、vCenterの指定したフォルダーまたはクラスタに登録できます。本機能のご利用については、「[3.5 仮想環境管理ソフトウェアの登録情報の準備](#)」を参照してください。
- System Center Virtual Machine Manager (SCVMM)
OSプロファイルの適用によってWindowsをインストールしたサーバは、SCVMMの指定したフォルダーに登録できます。本機能のご利用については、「[3.5 仮想環境管理ソフトウェアの登録情報の準備](#)」を参照してください。
- OpenStack
[Facility Browser] 画面で、OpenStackで管理している機器を確認できます。本機能のご利用については、「[3.6 vCenter／SCVMM／OpenStack連携機能の利用](#)」を参照してください。
- ServerView Operations Manager (SVOM)
[Profile Manager] 画面からサーバ／MMBに登録する際、自動的にSVOMにも登録されます。オブジェクトの種類は、サーバがBMC、MMBがBlade Serverとなります。動作設定によりSVOMへ登録しないように変更することもできます。
- ServerView Virtual-IO Manager (VIOM)
[Profile Manager] 画面で、サーバに適用済みのVIOMプロファイル名を確認できます。プロファイルの適用／取外しはVIOMから実行してください。

1.4 ISM導入、運用フロー

ISMの導入運用フローは、ISM導入、管理対象機器の初期セットアップ、運用の3つのフェーズで構成されます。

[]内は本マニュアル内で説明が記載されている節項の番号を示します。

図1.6 ISMの導入運用フロー



前ページより

管理対象機器の初期セットアップ

<3> 機器登録

センター情報とラック登録	[5.2.1]
↓	
サーバ、ストレージ登録	[5.2.2]
↓	
スイッチ登録 (LAN スイッチ、コンバージドファブリックスイッチ)	[5.2.3]
↓	
UPS、PDU、水冷 RackCDU 登録	[5.2.3]
↓	
MIB ファイルの登録	[5.2.4]
↓	
アラームルールの設定	[5.2.5]

<4> ファームウェアアップデート

ファームウェアデータのインポート	[5.1]
↓	
ファームウェアアップデート	[5.3]

<5> サーバ・ストレージのセットアップ

Update DVD、OS メディアのインポート	[5.1]
↓	
プロファイル作成 (HW プロファイル / OS プロファイル)	[5.4.1]
↓	
プロファイル適用	[5.4.2]

運用

<6> 機器の監視・モニタリング

・機器ステータス / 情報取得	[5.5.1~5.5.2]
・レポート表示	[5.5.3]
・消費電力制御	[5.5.4]
・ログ収集	[5.6]

<7> ファームウェアアップデート

※「<4> ファームウェアアップデート」と同一フロー

<8> 機器増設

<3> 機器登録
↓
<4> ファームウェアアップデート
↓
<5> サーバ・ストレージのセットアップ

1.5 ライセンス

ISMのライセンス体系を示します。

ISMでは、サーバライセンスとノードライセンスの両方の登録が必要です。

サーバライセンス

ISM機能を有効にするライセンスです。ISMのインストール直後に管理サーバに登録します。サーバライセンスが登録されていない場合、ISMの機能は使用できません。

ノードライセンス

管理対象ノード数に合わせてISM機能を有効にするライセンスです。

管理サーバに登録するタイミングは任意となります。ライセンスの管理対象ノード数を超えた場合、管理対象ノードをISMに追加登録できません。この場合、追加のノードライセンスを登録します。

ISMに登録されている監視対象ノード数およびノードライセンス数は、ISMのGUIから確認できます。確認方法については、「[4.2 \[Facility Manager\]画面](#)」、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。



ポイント

ノード数の数え方については、以下を参照してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/serverviewism/license/>

第2章 設計

ISMをインストールする前に設計および決定が必要な事項を説明します。

2.1 ログの保存容量の決定

ISMのログ収集機能を使用するためにログの保存先を決める必要があります。ログの保存先は、ISMのインストール時に変更できます。

ログの保存先を変更する場合、ISMをインストールする前に保存先のディレクトリを作成しておく必要があります。

1回の収集分でログ保存に必要なディスク容量の目安と、監視可能な箇所は、以下のとおりです。デフォルトで7回分のログを保存できます。

カテゴリー	収集箇所		収集するログ	容量の目安(単位:メガバイト)	
ハードウェア	PRIMERGY (BXシリーズ)	MMB		SEL	約10
		LANスイッチブレード		ログ	約5
		FCスイッチブレード		ログ	約15
		コンバージドファブリックスイッチブレード		ログ	約5 (ファブリックを組んだ場合、ログはマスターに含まれます。)
		サーバブレード	VMware	OSのログ	仮想マシンの数×約5
			Linux		約20
			Windows		約40
		PRIMERGY (RX/CXシリーズ)		iRMC	SEL
	VMware			OSのログ	仮想マシンの数×約5
	Linux				約20
	Windows				約40
	PRIMEQUEST		VMware	OSのログ	仮想マシンの数×約5
			Linux		約20
			Windows		約40
	LAN集約スイッチ (CFXシリーズ、SR-Xシリーズ)		ログ	約15 (ファブリックを組んだ場合、ログはマスターに含まれます。)	
	ストレージ (ETERNUS DXシリーズ)		ログ	約30	
ストレージ (ETERNUS NRシリーズ)		ログ	約40		
ソフトウェア	ISMがインストールされているOS	ServerView Agents		保守情報	約130
		ServerView Fabric Manager			
		ServerView Infrastructure Manager			
		ServerView Operations Manager			
		ServerView RAID Manager			

2.2 リポジトリ作成先の決定

プロファイル管理機能やメンテナンス支援機能を使用する際は、管理サーバ上にリポジトリの準備が必要になります。リポジトリにはファームウェアアップデートに使用されるファームウェアデータや、OSインストールに使用されるOSインストールファイルが格納されるほか、プロファイル適用中の対象サーバと管理サーバとの間のファイル送受信にも使用されます。

ここでは以下の内容を決定します。

- ・ リポジトリの必要容量の見積り
- ・ リポジトリアクセスアカウントおよび共有フォルダー設定の決定
- ・ リポジトリ用のフォルダー作成先決定

リポジトリの必要容量の見積り

インストールするOSの種類やインポートするUpdate DVDの数に応じて必要な容量は異なりますが、通常は10GB以上が使用されます。下表を参照して必要な容量を見積もってください。

用途	操作	必要容量
ファームウェアデータの格納	Update DVDのインポート	Update DVD 1枚あたり7GB程度 最低1枚のインポートが必須
	その他のファームウェアデータのインポート	インポートデータに依存
OSインストールメディアのファイル格納	Windowsインストールメディアのインポート	OS1種あたり3～8GB程度 使用するOS種のみインポートが必要
	VMware ESXiインストールメディアのインポート	OS1種あたり0.5GB程度 使用するOS種のみインポートが必要
作業用ファイルの作成・保管	特になし	0.5GB程度

ポイント

Linuxをインストールする場合はFTPサーバにOSインストール媒体のデータを格納します。
管理サーバ上でFTPサーバを動作させる場合はその容量についても考慮してください。

リポジトリアクセスアカウントおよび共有フォルダー設定の決定

リポジトリは管理対象のサーバからアクセスできるようにするため、外部から読み書き可能な共有フォルダーとして設定します。共有名やアクセス時に使用するアカウントを決定します。

リポジトリ用のフォルダー作成先決定

リポジトリは対象サーバからの共有フォルダーとしてのアクセスのほか、ISMが直接ファイル読み書きを行うため、管理サーバのドライブ上に作成する必要があります。ISMインストール先と異なるドライブに配置することもできます。

2.3 IPアドレスの設計

サーバ導入時に必要になるDHCPサーバ、iRMC、オンボードに割り当てるIPアドレスを設計します。

プロファイル管理機能では、サーバの管理に以下の2種類のネットワークを使用します。

- ・ iRMC Management LANに接続するネットワーク
主にサーバのコントロールやBIOS/iRMC設定などに使用します。
- ・ オンボードLANに接続されるネットワーク
主にOSインストールやOSインストール後の接続などに使用します。

また、スイッチやストレージ管理用のネットワーク接続も必要です。それらは物理的／論理的に分割することも、1つに統合することも可能です。

P ポイント

業務に利用するネットワークは、これらの管理用ネットワークとは別に用意することを推奨します。

プロファイル管理機能では、上記ネットワークのIPアドレス範囲を事前に設定しておき、その設定に従って動作します。

特にプロファイル管理機能は、DHCPを利用してサーバの自動検出とプロファイル適用中のPXEブートの制御を行うため、DHCPとして使用するIPアドレス範囲を設定することが重要な要件となります。設定方法の詳細は、「[3.4 DHCP設定 \(ISM\)](#)」を参照してください。

[DHCP設定]画面の構成を以下に示します。図内A～Dに4種のIPアドレス範囲を設定します。加えてDHCPサーバに設定するためのゲートウェイ、DNSサーバ、DNSドメイン名を入力します。DNSサーバとDNSドメイン名の入力は任意です。その他は必須入力項目です。

本画面で設定した内容はDHCPサーバに設定されます。DHCPサーバに対して、さらに詳細な設定が必要な場合は、本画面の設定を行ったあと、直接DHCPサーバ上で設定してください。

図2.1 [DHCP設定]画面の構成

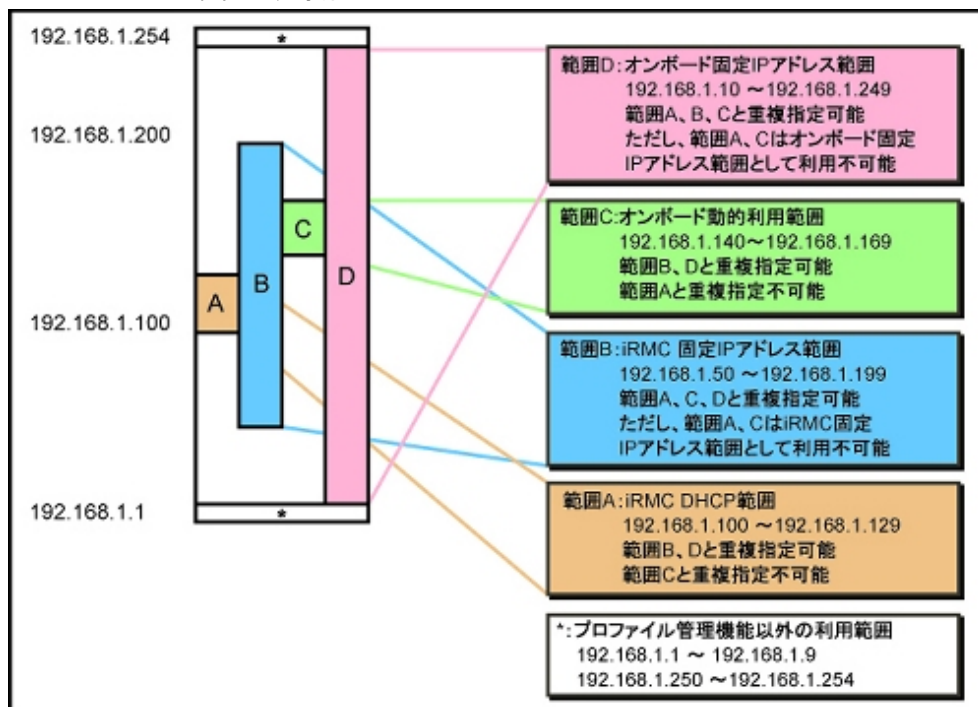
範囲	設定項目名	プロファイル管理機能が想定するネットワーク種別	利用形態	DHCPサーバに対する設定	プロファイル管理機能での用途
A	貸出IPアドレス範囲	iRMC	DHCP	DHCPによるリース範囲として設定されます。	サーバの自動検出に使用されます。 DHCPで新しくIPアドレスがリースされたとき、そのIPアドレス接続先がiRMCの場合は、新規サーバの検出として扱われます。 DHCP設定の機器が接続されると、それがiRMCであるかどうかにかかわらず、DHCPサーバはIPアドレスを割り当てます。ここで設定した範囲 (IPアドレスの数) が少ないと、新しいサーバを接続した際に割り当てるIPアドレスが不足していて、自動検出ができなくなる可能性があります。 ネットワーク内にDHCP設定の機器 (ポート) が多数存在する場合は、余裕を持った範囲設定を行ってください。
B	BMC (iRMC) 固定IPアドレス範囲	iRMC	固定IPアドレス	DHCPのリース外として設定されます。	サーバをプロファイル管理機能に登録するとき、iRMCのIPアドレスは固定IPアドレスになっている必要があります。 検出したサーバがDHCP設定の場合は、登録画面上で変更後のIPアドレスを入力しますが、その際にここで設定した範囲が画面に表示されます。

範囲	設定項目名	プロファイル管理機能が想定するネットワーク種別	利用形態	DHCPサーバに対する設定	プロファイル管理機能での用途
					事前に手作業でiRMCのIPアドレスを固定IPアドレスに変更してから手動検出を行う場合も、ここで指定した範囲に変更してください。
C	システム管理IPアドレス範囲	オンボード	動的 (DHCP)	通常はDHCPのリース外として設定されますが、プロファイル適用中にリース用IPアドレスに設定されます。	サーバに対してHWプロファイルまたはOSプロファイルを適用する際には、PXEブートを使って対象サーバ上で一時的にOSを起動させます。 ここではPXEブート時にオンボードLANに割り当てるIPアドレスの範囲を指定します。プロファイル適用動作は最大10台まで同時に実施できますが、ここで範囲指定したIPアドレスの数が少ない場合は、プロファイルを同時適用する数が制限されることがあります。 サーバにOSプロファイルを適用しようとするとき(適用済みの場合やHWプロファイルとの同時適用も含む)、OSインストール後に設定するオンボードLANのIPアドレスを指定する欄に固定IPアドレスが設定されている場合は、そのIPアドレスがPXEブートに使われます。
D	サーバ管理LAN固定IPアドレス範囲	オンボード	固定IPアドレス	DHCPのリース外として設定されます。	OSプロファイル中で指定するオンボードLANの固定IPアドレスの範囲を設定します。 OSプロファイル中の設定が本範囲以外の場合、プロファイル適用はエラー終了します。

A～Dの各設定項目のIPアドレス範囲は重複しても設定できます。ただし、範囲Aと範囲Cとを重複させることはできません。

IPアドレス範囲を重複して設定した場合、利用者の責任で重複したIPアドレスを正しく扱ってください。例えば、以下の「IPアドレス範囲の定義例」では192.168.1.100は範囲A、B、Dに含まれますが、範囲A (DHCP) に利用されるため、範囲B (iRMCの固定IPアドレス) および範囲D (オンボードの固定IPアドレス) として指定すると正しく動作しない場合があります。

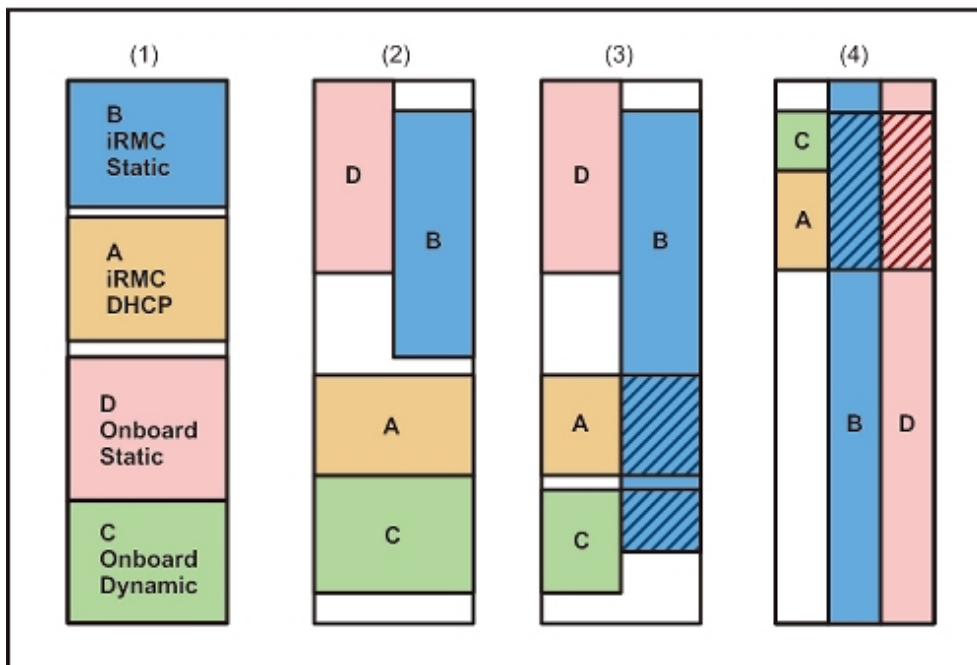
図2.2 IPアドレス範囲の定義例



そのほかの設定例を「[図2.3 そのほかの定義例](#)」に示します。

- (1) 各範囲を独立させ、IPアドレスが重複しないように設定した例
- (2) 範囲B(固定IPアドレス)と範囲D(固定IPアドレス)の一部だけが重複した例
- (3) 範囲B(固定IPアドレス)に範囲A(DHCP)と範囲C(動的範囲)が重複した例
- (4) サブネットの全範囲を固定IPアドレスとして設定した例

図2.3 そのほかの定義例



斜線部分: 固定IPアドレスとしての使用は不可

ポイント

MMB、ETERNUSなどのPRIMERGYサーバ以外の管理用ポートはここで設定する範囲外においても動作します。ただし、範囲Aと範囲Cに含まれないように設定してください。

2.4 機器名／プロファイル名のルール決定

サーバ導入時に必要になるサーバ名およびプロファイル名のルールを決定します。

対象機器を登録するときは、1台ごとに固有の機器名を付けます。機器が検出された直後は、自動的にシリアル番号を基にした機器名が割り当てられていますが、管理しやすい名称に変更することを推奨します。

機器名には最大64文字の英数字またはハイフン(-)、アンダースコア(_)が使用できます。

注意

一度登録した機器名は変更できないため、将来的なサーバ増設なども見据えて命名ルールなどを決めておくことをお勧めします。また、ファシリティ管理やSVOMに対しても同名称が使われるため、これらとの重複も考慮してください。

また、プロファイルにも固有の名称を付けて管理します。プロファイルは一度サーバに適用すると変名や編集ができなくなります。プロファイルの内容を一部変更してサーバに適用し直す場合は、既存プロファイルを流用作成して別名で保存してください。プロファイル名に版数や日時を含めるなど、流用作成なども考慮しておくことを推奨します。

ポイント

プロファイル名はHWプロファイル、OSプロファイル、プリセットなどすべてのプロファイルの中で固有でなければなりません。同一名称のプロファイルはHWプロファイルとOSプロファイルのそれぞれには作成できません。

2.5 運用上の注意事項

プロファイル適用(OSインストール)時の動作について

- Windowsのインストール

Windowsのインストールは、[設定] 画面で停止した状態で終了します。Microsoft社インストールメディアの場合は、その直前の[プロダクトキー入力]画面で停止する場合があります。ビデオリダイレクションや実機画面を操作してインストール処理を進めてください。Windowsへログイン後に残りのインストール作業が実行されます。



- Red Hat Enterprise Linux 7のインストール

Red Hat Enterprise Linux 7のインストール時にX Windowを設定した場合は、インストールが完了して対象サーバが再起動されたタイミングでOSプロファイルの適用は完了しますが、対象サーバは再起動後に言語選択の画面で停止します。ビデオリダイレクションや実機画面を操作してインストールの最終作業を進めてください。

Red Hat Enterprise Linuxの有償サポートサービス利用時の注意

有償サポートサービス(SupportDesk Standard)を契約しサポートを受ける際は、システム構築に対する条件が存在します。

Red Hat Enterprise Linuxの自動インストール時は、サポートに必要な「富士通Linuxサポートパッケージ(FJ-LSP)」の適用やメモリダンブ設定などは行われません。必要な設定はインストール後に手動で実施してください。

設定内容や方法の詳細などについては、SupportDeskサービスご契約者様向けの『Linuxユーザーズマニュアル』を参照してください。

プロファイル管理機能使用時の利用可能文字について

機器名やコンピュータ名などの文字列入力で使用可能な文字は、原則として半角英数、ハイフン(-)、アンダースコア(_)です。その他の記号類は使用できません。

パスワードやDNSなどでは、その他の文字も入力可能となっている場合がありますが、全角文字や一部の記号が使用できない場合が

あります(バックスラッシュ、¥、ダブルクォーテーションほか)。

入力時にエラーメッセージが表示された場合は、画面表示に従って変更してください。例えば、OSプロファイルの作成時などに目的の記号が利用できない場合は、OSをインストールしたあとに別途手作業で変更してください。

処理時間の目安

下表に示す処理には、数分から数十分の処理時間を要します。処理時間の目安については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。

分類	処理内容
検出・登録	サーバの自動検出
	各種機器の手動検出
	ノード登録、登録解除
	vCenterへのホスト登録
	SCVMMへのホスト登録
プロファイル適用	HWプロファイル適用(ファームウェアアップデート)
	HWプロファイル適用(BIOS設定)
	HWプロファイル適用(iRMC設定)
	HWプロファイル適用(ETERNUS RAID構築)
	OSプロファイル適用(Windows)
	OSプロファイル適用(Linux)
	OSプロファイル適用(VMware)
インポート	Update DVDのインポート
	WindowsインストールDVDのインポート
	VMwareインストールDVDのインポート
	Update Supplementのインポート
	FC Switchblade Firmware DVDのインポート
その他	サーバの保守後操作

ユーザー名／パスワードの扱いに関する注意

セキュリティリスクを低減させるため、ISMの運用にあたって特に注意していただきたい項目を記載します。

- Profile ManagerでPRIMERGYを登録する場合の動作

PRIMERGYを[ノード登録]する際、ISMは対象PRIMERGYのiRMCに管理用のアカウントを作成します。

ISMのデフォルト設定では作成されるユーザー名／パスワードは固定になっています。

運用開始前に[\[Setup\]画面](#)の左側で[ノード登録／解除設定]を選択し、表示された画面でパスワードを変更しておくことを推奨します。

- SVOMのログインアカウント

SVOMのインストール時に作成されるデフォルトアカウントは、変更してご利用になること推奨します。

- Webブラウザの設定、利用

ISMにログインするWebブラウザではオートコンプリート機能(ユーザー名／パスワードの記録)を無効にしておくことを推奨します。[HTML5ベースGUI](#)はログイン情報をWebブラウザに記憶します。HTML5ベースGUI使用後はブラウザのすべての画面を閉じてください。

第3章 ISMの構築

ここでは、ISMを使用するために、ISMおよび関連ソフトウェアのインストールと設定を説明します。
また、各機能を利用するために必要な設定を説明します。

3.1 インストールと設定

インストールの流れ

インストールは、以下の流れで行います。詳細手順は、各参照先を確認してください。

1. SQL Server 2008 R2 Standard またはSQL Server 2012 Standardのインストール(状況に応じて)
管理ノードが500以下の場合、SVOMに同梱されているSQL Serverを使用できます。
管理ノードが500を超える場合は、SQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardを使用してください。SQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardは、SVOMのインストール前にインストールしておく必要があります。
2. [SVOMのインストール](#)
3. [DHCPサーバ機能の有効化](#)
4. [ISMのインストール](#)
ISM V1.4以前がインストールされている状態では、[アップデートインストール](#)が行われます。
5. [ライセンス登録](#)
ISMを使用するためには、サーバライセンスの登録と管理対象ノード数に応じたノードライセンスの登録を行う必要があります。
6. [PMSおよびSVIMのインストール](#)
7. [FTPサーバの設定\(OS\)](#)

ポイント

- Administrator権限のアカウントで作業を行ってください。
- 動作が必要なサービス／機能に合わせて、管理サーバのWindows Serverファイアウォールを設定(解放)してください。

3.1.1 SVOMのインストール

管理サーバにSVOMをインストールします。

SVOMインストールの詳細は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録、または以下URLの「ServerView Suite のマニュアル」にて公開されているインストールガイドを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

注意

SVOMのインストール先フォルダーは初期値から変更しないでください。

3.1.2 DHCPサーバ機能の有効化

管理サーバ上のDHCPサーバを動作させます。

ISMのインストール前にWindowsの「役割と機能の追加」を利用して「DHCPサーバ」を有効にしてください。

ネットワーク構成上などの理由でDHCPサーバを管理サーバ上で動作させられない場合の影響については、「[ネットワーク接続に関する留意事項](#)」を参照してください。

3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成

プロファイル適用に必要なファイルの保存先および適用中の対象サーバと管理サーバ間でのファイル送受信のためのリポジトリ領域が必要になります。

管理サーバ上で共有フォルダーとそこにアクセスするためのアカウント(ユーザー)を作成し、[Setup]画面上で情報を設定しておきます。作成した共有フォルダーおよびアカウントは、[プロファイル適用動作設定]画面に設定してください。詳しくは、「3.2.2 設定手順」を参照してください。また、アカウントはSVIMのインストール時にも指定します。詳しくは「3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール」を参照してください。

- 共有フォルダー

任意のフォルダー名および共有名で共有フォルダーを作成します。指定したアカウントで外部から読み書き可能に設定します。また、ISMサービスから読み書き可能に設定します。

- アカウント

任意のユーザー名およびパスワードでアカウントを作成します。[ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要]を無効化し、[パスワードを無期限にする]を有効化します。

Windows上のコマンドライン操作例を示します。

「C:\ismshare」という名前の共有フォルダーを作成し、「ismuser」という名前のアカウントでアクセスする場合を示します。使用する環境に合わせて適切に変更してください。

```
net user ismuser * /add
(パスワードの入力)
wmic useraccount where "Name='ismuser'" set PasswordExpires=FALSE
mkdir "C:\ismshare"
icacls "C:\ismshare" /grant "ismuser:(OI)(CI)(F)"
net share ismshare="C:\ismshare" /GRANT:"ismuser,FULL"
```



ポイント

実行する環境や入力文字列に応じて、ダブルクォーテーションやシングルクォーテーションの必要性が異なる場合があります。

3.1.4 ISMのインストール

ISMは、「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」に同梱されています。

以下の手順でインストールします。



ポイント

- ISMは、[ServerViewインストールフォルダー]配下の¥ServerView Suite¥plugins¥にインストールされます。デフォルトでは以下となります。

```
C:\Program Files (x86)\Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥
```

- インストールは、Administrator権限およびSQL Serverへのアクセス権限(sysadmin)を持つアカウントで実施してください。
- インストールを途中でキャンセルした場合、インストールの進捗によっては「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager」、「FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checker」、「FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Manager」がインストールされて残ってしまう場合があります。再インストールする場合は、これらをアンインストールしたあとに再インストールしてください。
- ISM V1.4以前がインストールされている状態でインストールを実行すると、アップデートインストールが行われます。詳しくは、「3.1.4.1 ISMのアップデートインストール」を参照してください。
- インストール時にSNMPのサービスが自動で再起動します。

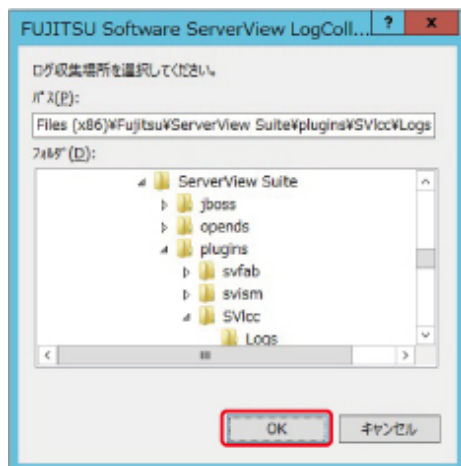
- 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」のルートフォルダーにある「index.html」を開きます。

2. 「ServerViewInfrastructureManager.exe」をクリックします。

エクスプローラーが起動するので、「ServerViewInfrastructureManager.exe」を実行します。

3. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Managerセットアップへようこそ]画面で、[次へ]ボタンをクリックします。
4. [FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checkerセットアップへようこそ]画面で、[次へ]ボタンをクリックします。
5. ログ保存先を選択するダイアログボックスで、ログの保存先をツリーから選び、[OK]ボタンをクリックします。

ログ保存先のパスは、「5.6.6 ログ転送の設定 (ホストOSがVMware ESXiの場合)」の「5.6.6.3 ログ受信側の設定」で使用する
ので、必ずメモを取ってください。



6. [インストール準備の完了]画面で、設定内容確認後、[インストール]ボタンをクリックします。
FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checkerのセットアップが完了すると、完了画面が表示されます。
7. 完了画面で [完了]ボタンをクリックします。
続いて、ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストーラが起動します。
8. [FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Manager の InstallShield Wizardへようこそ]画面で、[次へ]ボタンをクリック
します。
9. [インストール準備の完了]画面で、[インストール]ボタンをクリックします。
ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールが完了すると、[セットアップ完了]画面が表示されます。
10. [完了]ボタンをクリックします。
「OSの再起動を行ってください。」のメッセージが表示されます。
11. [OK]ボタンをクリックします。
OSの再起動は自動的には行われません。手順14 で再起動を実行してください。
[インストール完了]画面が表示されます。
12. [完了]ボタンをクリックします。

ポイント

ISMのインストール後、イベントログに以下のメッセージが出力されることがありますが、問題はありません。

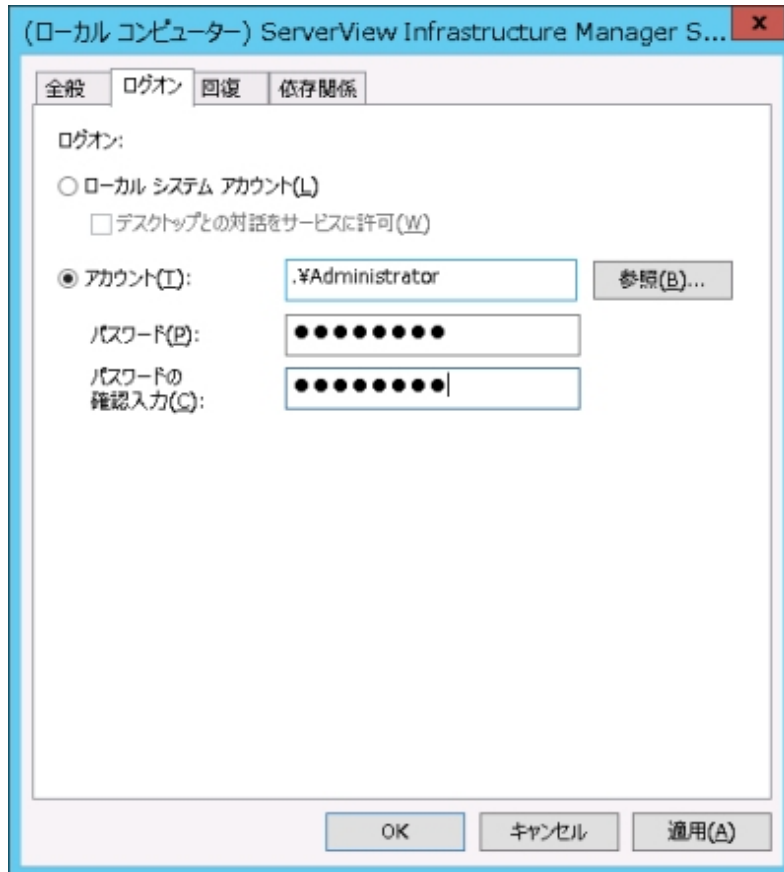
- Source:SNMP
- Event ID:1102
- Level:警告

— Description:

拡張エージェントdll %SVlcc_INSTALLPATH%lib¥svlccsagt.dllが足りないか、または正しく構成されていないので、SNMPサービスはそれを無視しています。

13. インストール後、ServerView Infrastructure Manager Service、ServerView Infrastructure Manager Rest ServiceのログオンアカウントをローカルシステムアカウントからAdministratorに変更します。

Windowsの[サービス]一覧から、ServerView Infrastructure Manager Service、ServerView Infrastructure Manager Rest Serviceのプロパティ画面を開き、[ログオン]タブ内でアカウントとパスワードを設定してください。



14. 設定完了後、管理サーバを再起動します。

注意

ServerView LogCollect and Checker、ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストール中、キャンセルは行わないでください。インストールをキャンセルした場合、一度ISM、ServerView LogCollect and Checker、ServerView Hardware Life Cycle Managerをアンインストールし、再度インストールする必要があります。

3.1.4.1 ISMのアップデートインストール

ISM V1.4以前がインストールされている状態でインストールすると、アップデートインストールが行われます。

注意

- アップデートインストール後に「消費電力制御設定」を再設定する必要があります。「消費電力制御設定」を使用している場合は、アップデート前にFacility Managerの[一覧]タブを開き、「消費電力制御設定」を確認しておいてください。

- ・ アップデートインストールは、Administrator権限およびSQL Serverへのアクセス権限(sysadmin)を持つアカウントで実施してください。
- ・ アップデートインストール前にProfile Managerの[ノードリスト]画面を開き、プロファイルの適用が行われていないことを確認してください。
- ・ 万一のトラブルに備えて、アップデートインストール前にISMデータベースのバックアップを実行しておくことをお勧めします。
- ・ SVOMも同時にアップデートする場合は、「6.5 SVOMをアップデートする際の操作」を参照して事前にSVOMをアップデートしてください。

ポイント

アップデートインストール時にSNMPのサービスが自動で再起動します。

1. VMware ESXi上の仮想マシンを管理している場合、[サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector]サービス(*)を停止します。
*: VMware vCenter Serverの版数により、[VMware Syslog コレクター] など、サービスの名前表記が異なる場合があります。
2. 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」のルートフォルダーにある「index.html」を開きます。
3. 「ServerViewInfrastructureManager.exe」をクリックします。
エクスプローラーが起動するので、「ServerViewInfrastructureManager.exe」を実行します。
4. [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager アップデート]画面 で、[次へ] ボタンをクリックします。
5. [FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checker アップデート]画面 で、[次へ] ボタンをクリックします。

注意

「Windows Event log」の再起動、またはOSの再起動のポップアップが出力される場合があります。「自動的に閉じて、アプリケーションの再起動を試みる。」を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

ServerView LogCollect and Checkerのアップデートインストールが完了すると、完了画面が表示されます。

6. [完了] ボタンをクリックします。
7. 続いて、[FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Managerのアップデート]画面 で、[次へ] ボタンをクリックします。

注意

ServerView Hardware Life Cycle Managerのアップデート中に、再起動のメッセージが表示された場合、「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択してください。ISM全体のアップデート完了後にOS再起動を行ってください。

ServerView Hardware Life Cycle Managerのアップデートが完了すると、完了画面が表示されます。

8. [完了] ボタンをクリックします。
ISMのアップデートが完了すると、完了画面が表示されます。
9. [完了] ボタンをクリックします。
10. 管理サーバのOSを再起動します。
11. 再起動後、古いJavaアプレットをキャッシュから削除します。
Windowsのコントロール パネルから、「Java」のコントロール・パネルを開き、一時ファイルの設定で「キャッシュされたアプリケーションおよびアプレット」を削除してください。
この作業はすべてのログイン端末で行ってください。



注意

本手順を行わない場合はISMが正しく動作しません。



注意

ISM V1.2からISM V1.5へアップデートインストールしたあとの注意点

- V1.2でバックアップしたデータはV1.5へリストアできません。リストアが必要な場合は、一度V1.5をアンインストールし、V1.2をインストールした状態でリストアを実施してください。また、アップデートインストール後にはISMデータベースのバックアップを取得しておくことをお勧めします。
- V1.2で設定した「消費電力制御設定」はアップデート時に初期化されます。V1.2で設定していた場合は再度設定してください。
- ログ収集機能でアップデートインストール後、監視対象機器を再登録する必要があります([Setup]-[ログ収集設定]画面で登録)。再登録後にログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を再起動してください。
- プロファイル管理機能で以下の作業が必要です。
 - OSプロファイル中でインストール先ドライブとしてアレイ構築を選択していなかった場合、アップデート後は「既存アレイ構成を利用する」が選択されます。オンボードSATAドライブなどを利用する場合はプロファイルを変更してください。
 - OSプロファイル中でデフォルトゲートウェイを指定していなかった場合、アップデート後も指定されない状態となりますが、そのままプロファイル適用するとエラーとなります。ゲートウェイアドレスを入力してください。
 - [Setup] 画面でOSプロファイル適用後のvCenterへの自動ホスト登録を設定していた場合、V1.5ではOSプロファイル内に記述する方式が変わったため、OSプロファイルを変更してください。
 - [Setup] 画面の「プロファイル適用動作設定」でログインユーザ名とパスワードを設定してください。
 - V1.2でインポートされていたOSインストールメディアはそのまま利用できません。再度インポートを実施してください。
 - V1.2でインポートされていたServerView Suite DVDのデータは消去されません。
 - V1.2でインストールしたPXE Serverはアンインストールしてください。コントロールパネルから「プログラムと機能」を開き、「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager PXE Server」をアンインストールしてください。
 - PMSとSVIMを新規にインストールしてください。

3.1.4.2 ISMのサイレントインストール

ISMをサイレントインストールする手順は、次のとおりです。

1. コマンドプロンプトを起動し、「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」をセットしたドライブの¥PROGRAMS ¥ISMフォルダーへ移動します。
2. フォルダー内のバッチファイルを実行します。

- 新規インストールの場合

```
ism_install.bat
```

- ISM V1.4以前からのアップデートインストールの場合

```
ism_update.bat
```

インストールが完了すると、コマンドプロンプトに制御が戻ります。

3. 動作結果を確認します。

動作結果は、バッチファイルの終了コードおよび下記ログファイルの内容を確認してください。ご使用の環境によってフォルダーは異なります。

```
C:¥Windows¥System32¥logfile¥svism¥setup.log
```

インストールが正常に終了した場合は、終了コードが「0」で、かつログファイル内に「ResultCode=0」が示されます。

4. インストール後に必要な作業を実施します。

「3.1.4 ISMのインストール」の手順13以降を実施してください。

3.1.5 ライセンス登録

ISMを使用するためには、サーバライセンスの登録と管理対象ノード数に応じたノードライセンスの登録を行う必要があります。ここでは、ライセンスの登録方法および登録済みライセンスの削除方法を説明します。

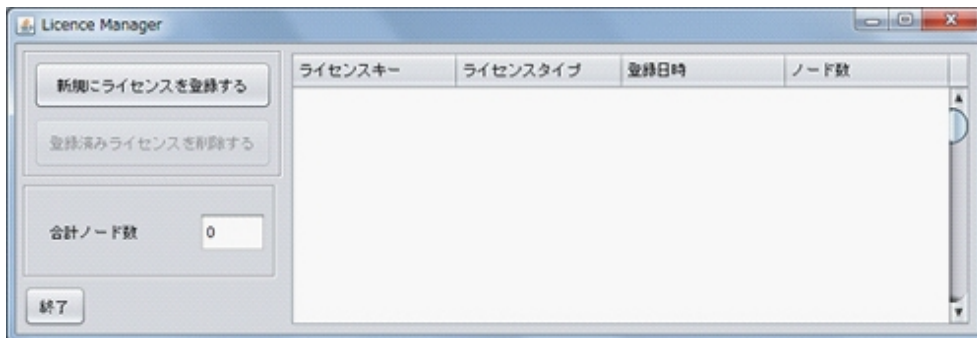
ポイント

サーバライセンスが登録されていない場合、ServerView Infrastructure Manager Serviceは起動されず、イベントログに以下が記録されます。

- Source: ServerView Infrastructure Manager
- Event ID: 325
- Level: エラー
- Description: 3.25.0 Server License is not registered. Service was stopped.

ライセンス登録

1. 管理サーバにAdministratorユーザーでログインします。
2. スタートメニューからISM Licence Managerを起動します。
3. [新規にライセンスを登録する]ボタンをクリックします。



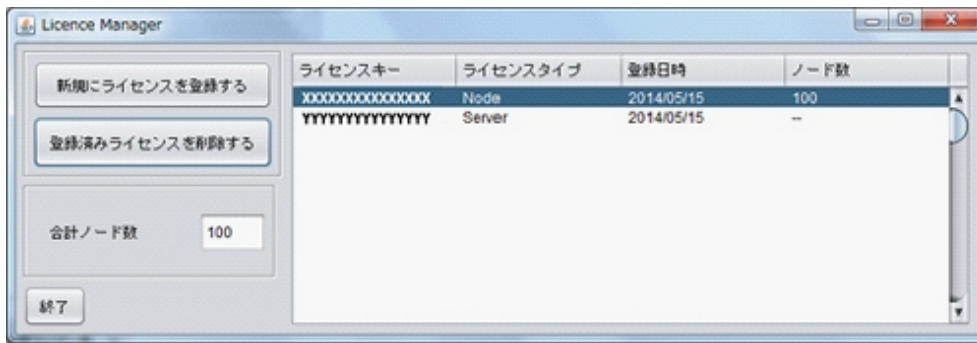
4. ライセンスキーを入力するダイアログボックスにライセンスキーを入力し、[OK]ボタンをクリックします。
5. [ライセンスキーの登録]ダイアログボックスでキーに誤りがないか確認し、[はい]ボタンをクリックします。
6. ライセンスキーおよびライセンスタイプが[Licence Manager]画面に表示されていることを確認し、[終了]ボタンをクリックします。

ライセンス削除

管理サーバをほかのシステムに移行する場合は、現在登録しているライセンスを削除します。

1. 管理サーバにAdministratorユーザーでログインします。

2. スタートメニューからISM Licence Managerを起動します。



3. 一覧から削除するライセンスキーを選択し、[登録済みライセンスを削除する]ボタンをクリックします。
4. [ライセンスキーの削除]ダイアログボックスでキーに誤りがないか確認して、[はい]ボタンをクリックします。
5. サーバライセンスを削除する場合は、再度[ライセンスキーの削除]ダイアログボックスが表示されます。
キーに誤りがないか確認して、[はい]ボタンをクリックします。
6. 選択したライセンスキーが[Licence Manager]画面から削除されていることを確認し、[終了]ボタンをクリックします。

3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール

以下のどちらかの機能を利用する場合はPMSおよびSVIMのインストールが必要です。

利用する機能	備考
プロファイル管理でプロファイル適用を行う (ファームウェアアップデート/BIOS設定/OSインストールなど)	Update DVDのインポートも必要です。
メンテナンス支援機能でPRIMERGYサーバのファームウェアアップデートを行う	Update DVDのインポートも必要です。

PMSのインストールモジュールは「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」に同梱されています。
SVIMはISMには添付されません。ServerView Suite DVDを準備してください。



ポイント

操作対象となるサーバ本体、搭載されるオプションおよびインストールするOSをサポートしたServerView Suite DVDを使用してください。複数バージョンの該当DVDが存在する場合は、できるだけ最新版を使用することをお勧めします。DVDに含まれるドライバやパッチ類がOSインストール時に使用されます。

SVIMを新しいバージョンまたは古いバージョンに入れ替える場合は、「付録D SVIMの再インストール」に従って操作してください。
SVIMのインストールに関する詳細についてはSVIMの取扱説明書を参照してください。

以下の手順でインストールします。

1. 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」のルートフォルダーにある「index.html」を開きます。
2. 「ServerView Profile Manager Service」欄の「Setup」をクリックします。
エクスプローラーが開きます。
3. setupフォルダーとその中身を管理サーバ上のハードディスクの任意の場所にコピーします。
4. 「ServerView Suite DVD1 Installation」(DVDの1枚目)をドライブにセットします。

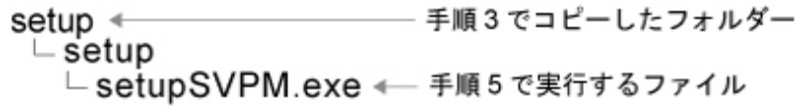
SVS DVDの版数が11.14.02以外の場合は、手順5 へ進みます。

SVS DVDの版数が11.14.02の場合は、ここでSVIMをインストールしたあとで手順5 へ進みます。ドライブのルートフォルダーにある「SeStSetup.exe」を実行し、手順8 から14に従ってSVIMのインストールを完了させてください。

5. 手順3 でコピーしたsetupフォルダー内のsetupフォルダー配下にある「setupSVPM.exe」を実行します。

ポイント

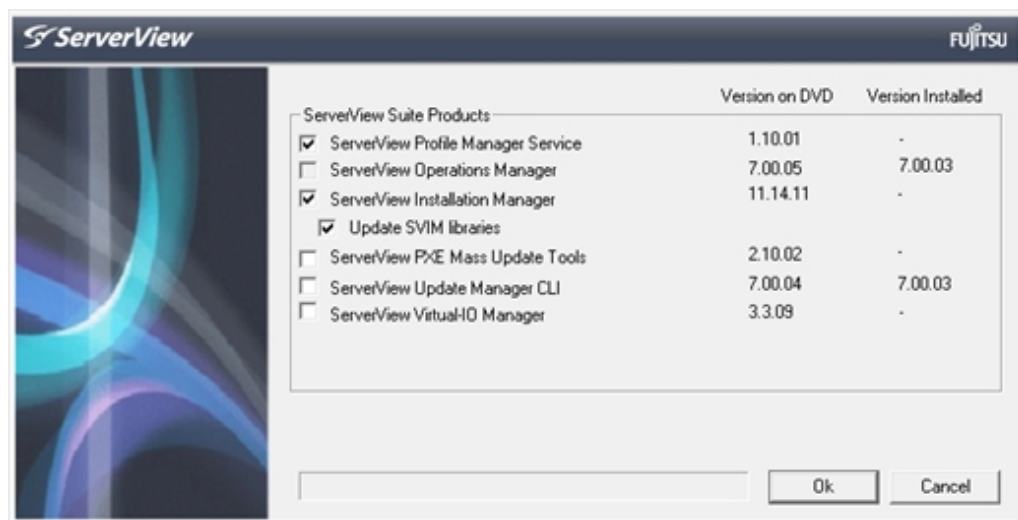
手順3 でコピーしたsetupフォルダーの構造は、下図のとおりです。



「Please specify the location of the ServerView Suite DVD」と表示されたファイル選択のウィンドウが開きます。

6. 手順4 でDVDをセットしたドライブを選択して[OK]ボタンをクリックします。

以下の画面が表示されます。



7. 以下の項目にチェックを付けて、[Ok]ボタンをクリックします。

- 「ServerView Profile Manager Service」
- 「ServerView Installation Manager」(*1)
- 「Update SVIM libraries」(*2)

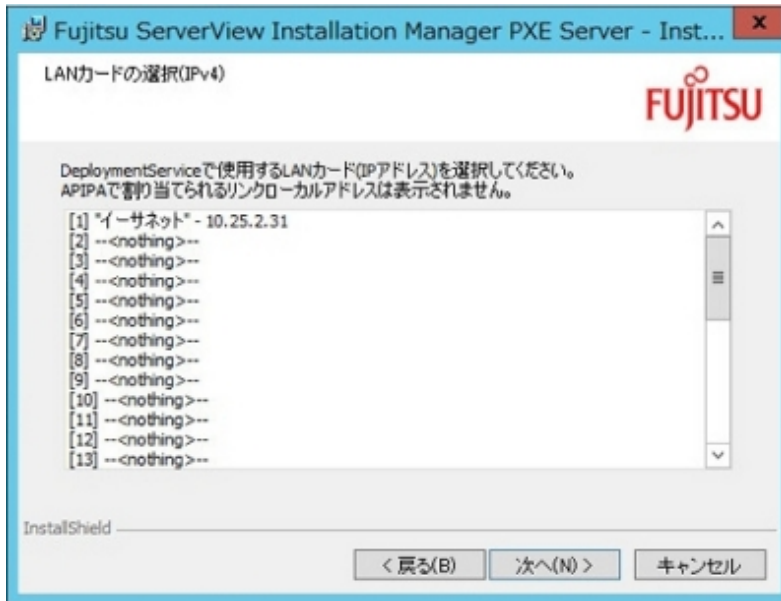
*1: 手順4 でSVIM 11.14.02のインストールを実施した場合は、「ServerView Installation Manager」にはチェックを付けられません。チェックせずに[Ok]ボタンをクリックし、手順14 へ進みます。

*2: 使用するPMSおよびSVIMの版数によってチェックが付けられない場合があります。その場合はチェックせずに次の手順へ進みます。

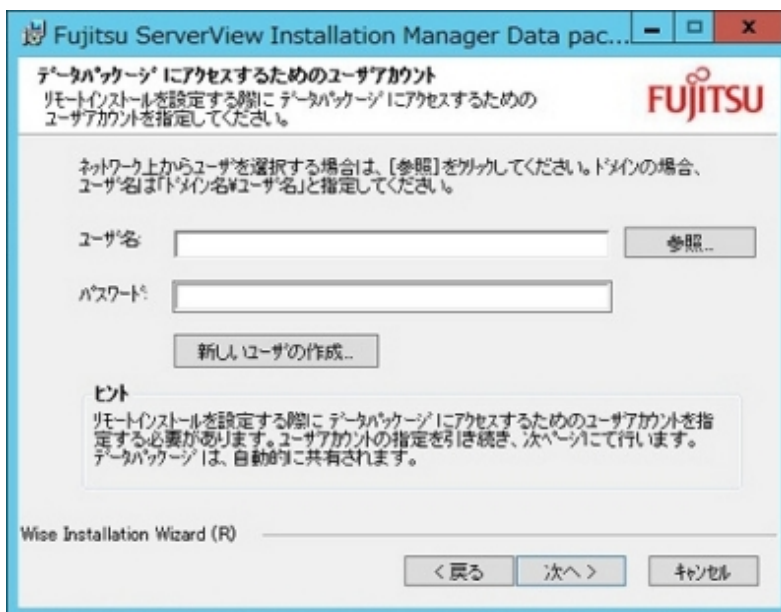
インストールが開始されます。特に指定がない限り画面に従ってデフォルト設定でインストールを進めます。

8. PXE Server機能のインストール途中で、IPv4とIPv6の使用有無を選択する画面が表示されます。「IPv4 Only」を選択して [次へ] ボタンをクリックします。

9. PXEサービスが使用するLANカード(IPアドレス)を選択する画面で、管理LANとして管理対象サーバとの通信に使用するIPアドレスを選択して [次へ] ボタンをクリックします。



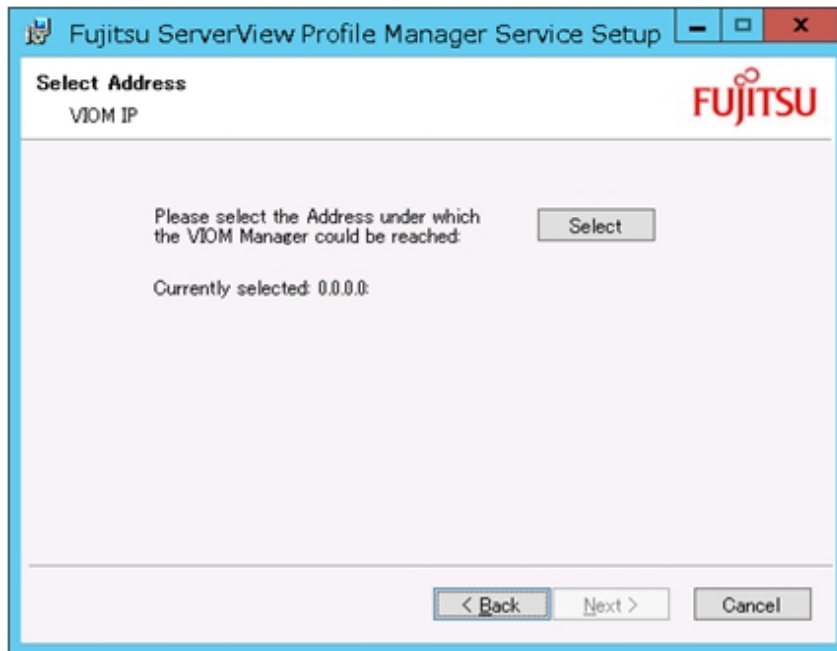
10. DHCPサーバに対するオプション設定画面で、以下を選択して [次へ] ボタンをクリックします。
- 管理サーバ上でDHCPサーバを動作させる場合 = [はい]
 - 別サーバ上でDHCPサーバを動作させる場合 = [いいえ]
11. SVIMのインストール途中で、リポジトリにアクセスするためのユーザアカウントを入力する画面が表示されます。
- 「[3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成](#)」で作成したアカウント情報を入力します。
- SVIMの版数により、画面は下図と異なる場合があります。



12. 動作に必要なファイアウォールを無効にするかどうかを確認するウィンドウが表示された場合、[OK]ボタンをクリックします。
13. Profile Manager Serviceのインストール途中でVIOM (ServerView Virtual-IO Manager) の動作IPアドレスを入力する画面が表示されます。環境に応じて、以下の操作を行います。
- VIOMがインストールされていない場合
- 何も変更せずに、[Next >]ボタンをクリックします。

- ー VIOMがインストールされている場合

[Select]ボタンをクリックして管理LANとして使用しているIPアドレスを選択したあと、[Next >]ボタンをクリックします。



14. 画面表示に従ってインストールを完了させます。

ポイント

手順3 でコピーしたファイルは不要です。必要に応じて削除してください。

3.1.7 FTPサーバの設定(OS)

以下の機能を使用する場合は、FTPサーバの設定が必要です。

- ・ ログ収集機能でETERNUS DXシリーズ、FCスイッチブレード、PRIMERGY RX/CXシリーズ／サーバブレード／PRIMEQUEST上のWindows OSのログ収集を行う場合
- ・ プロファイル管理機能でLinuxをインストールする場合
- ・ メンテナンス支援機能でPRIMEQUEST、FCスイッチブレード、およびETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートを行う場合

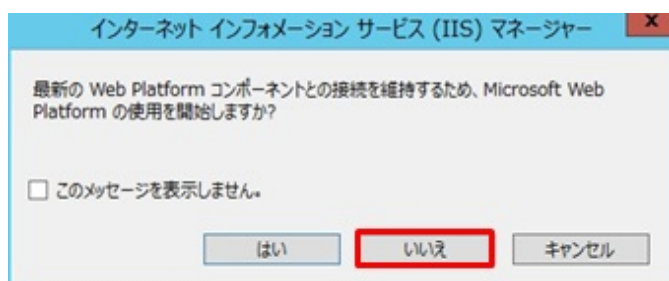
FTPサーバは、ISMがインストールされているOS上に設定します。

また、対象の機器がFTPサーバとは異なるネットワークに存在する場合、ルータを設定するなどして対象の機器とFTPサーバが各ネットワークで通信可能な状態にしてください。

FTPサーバのインストール

1. Windowsのサーバーマネージャーを起動し、画面左側で [ローカル サーバー] を選択します。
2. 画面右上のメニューで [管理] - [役割と機能の追加] を選択します。
3. [開始する前に] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
4. [インストールの種類の選択] 画面で [役割ベースまたは機能ベースのインストール] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
5. [対象サーバーの選択] 画面で [サーバー プールからサーバーを選択] を選択し、[サーバー プール] からISMのインストール先のサーバーを選択します。
6. インストール先のサーバが正しいことを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。

7. [サーバーの役割の選択] 画面で、[Webサーバー(IIS)] チェックボックスをオンにします。
8. 「Webサーバー(IIS)に必要な機能を追加しますか?」という確認ダイアログボックスが表示された場合は、[機能の追加] ボタンをクリックします。
9. [次へ] ボタンをクリックします。
10. [機能の選択] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
11. [Web サーバーの役割(IIS)] 画面で、[次へ] ボタンをクリックします。
12. [役割サービス選択] 画面で、[FTPサーバー] と [FTPサービス] のチェックボックスをオンにし、[次へ]ボタンをクリックします。
13. [インストール オプションの確認] 画面でインストールオプションを確認し、[インストール] ボタンをクリックします。
続けて、FTPサーバを追加します。
14. サーバーマネージャーの画面右上のメニューで [ツール] - [インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャー] を選択します。
インターネット インフォメーション サービス(IIS) マネージャーが起動します。
15. 画面左側で、<ISMがインストールされたOSのコンピュータ名>を選択します。
16. 以下のダイアログボックスが表示されたら、[いいえ] ボタンをクリックします。



17. <ISMがインストールされたOSのコンピュータ名>を右クリックして表示されるメニューで [FTPサイトの追加] をクリックします。
18. [サイト情報] 画面で、[FTPサイト名] と [コンテンツディレクトリ] を入力し、[次へ] ボタンをクリックします。

項目	設定値
FTPサイト名	任意の名前

項目	設定値
物理パス	C:\inetpub\ftproot

19. [バインドとSSLの設定] 画面で、[FTPサイトを自動的に開始する] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
[SSL] は [無し] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'FTP Site Bind and SSL Settings' dialog box. The 'Bind' section has 'IP Address(A):' set to 'すべて未割り当て' and 'Port(O):' set to '21'. The 'SSL' section has '無し(L)' selected. The 'FTP site to be automatically started(T)' checkbox is checked. The 'Next(N)' button is highlighted with a red box.

項目	設定値
IPアドレス	すべて未割り当て
ポート	21(変更不可)
[仮想ホスト名を有効にする] チェックボックス	オフ
[FTPサイトを自動的に開始する] チェックボックス	オン
SSL	無し

20. 以下のように設定し、[終了] ボタンをクリックします。



項目		設定値
認証		
	[匿名] チェックボックス	オン
	[基本] チェックボックス	オン
承認		
	アクセスの許可	「指定されたユーザー」を選択し、アクセスを許可するユーザー名を入力
	[読み取り] チェックボックス	オン
	[書き込み] チェックボックス	オン

21. 画面左側で、手順18 で設定したFTPサーバを選択し、画面右側から[FTPの承認規則]を実行します。

22. 規則を追加し、「すべての匿名ユーザー」に対して読み取りアクセスを許可します。

23. メニューで [ファイル] - [終了] を選択します。

インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャーが終了します。

3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備

3.2.1 概要

メンテナンス支援機能によるファームウェアアップデートまたはプロファイル適用時に、リポジトリ内に必要なファイルを準備します。

ServerView関連ファイルのインポート

プロファイル管理機能は、ServerView Update Managerの一部ファイルを利用して動作します。プロファイル管理機能を利用する場合は、ISMのインストール後にUpdate DVDのインポートを行ってください。操作方法の詳細は「5.1 各種DVDのデータインポート」を参照してください。

- Update DVD

最新版は以下URLのダウンロード画面からisoイメージファイルを取得できます。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex?>

ファームウェア／BIOSデータのインポート

ファームウェア、BIOSのアップデートを行う場合は、適用する版数のファームウェアまたはBIOSを含むUpdate DVDから、必要なデータを管理サーバ上に取り込んでおきます。

- Update DVD

最新版は以下URLのダウンロード画面からisoイメージファイルを取得できます。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex?>

ポイント

プロファイル適用時にアップデートする版数を指定できません。過去にインポートしたデータのうち最新の版数がアップデートに使用されます。

OSインストール媒体のインポート

Windows、VMwareなどのOSインストールを行う場合は、インストールするOSのインストールメディア内にあるファイルを、事前に管理サーバのハードディスク上にインポートしておきます。プロファイル管理はインポートされたファイルを使用してOSインストールを行います。

インポート可能なOSインストールメディアの種類は次のとおりです。

- Windows Server 2012 R2 Standard / Datacenter
- Windows Server 2012 Standard / Datacenter
- Windows Server 2008 R2 Standard / Enterprise / Datacenter
- VMware ESXi 6.0 / Update 1a / Update 1b
- VMware ESXi 5.5 / Update 1 / Update 2 / Update 3a / Update 3b
- VMware ESXi 5.1 Update1 / Update2 / Update3

LinuxのインストールメディアはFTPサーバからファイルをダウンロードできるように準備する必要があります。作業内容の詳細は、「[Linuxインストール媒体の準備](#)」を参照してください。

ポイント

- Windows Server 2012 R2およびWindows Server 2012を利用する場合、メディアの種類(Standard用／Datacenter用)を正しく指定してください。
- VMwareの場合は、富士通から提供されているPRIMERGY向けメディア(イメージ)を使用してください。

Linuxインストール媒体の準備

Linuxをインストールする場合は、インストールメディアをFTPサーバからダウンロード可能にしておきます。

管理サーバ上または別のサーバ上でFTPサーバを動作させ、匿名(anonymous)でログイン可能に設定してください。

インストールするOS種類に応じて、下表に示すフォルダーをFTPサーバの中に作成し、インストールメディアの中のファイルをすべてコピーしておいてください。

OS種類	フォルダー名
Red Hat Enterprise Linux 7.2 (for Intel64)	svism/RH7264
Red Hat Enterprise Linux 7.1 (for Intel64)	svism/RH7164
Red Hat Enterprise Linux 7.0 (for Intel64)	svism/RH7064
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for Intel64)	svism/RH6764
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for x86)	svism/RH6786

OS種類	フォルダー名
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for Intel64)	svism/RH6664
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for x86)	svism/RH6686
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for Intel64)	svism/RH6564
Red Hat Enterprise Linux 6.5 (for x86)	svism/RH6586

例えば、C:\inetpub\ftprootをFTPログイン時のルートフォルダーに設定した場合のフォルダー構造は下図のようになります。

```

C:
├── inetpub
│   └── ftproot
│       ├── svism
│       │   ├── RH7164
│       │   └── RH7064

```

メンテナンス支援機能で使用する媒体のインポート

メンテナンス支援機能で使用するファームウェアデータを必要に応じてインポートします。
対象となる媒体は以下の2種類です。

- Update Supplement

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks、またはFUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud用の機器のファームウェアが収録されています。

Update Supplement の入手先については、FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks、またはFUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloudの製品情報を参照してください。

- FC Switchblade Firmware DVD (PRIMERGYファイバーチャネルスイッチブレード用ファームウェアDVD)

PRIMERGYファイバーチャネルスイッチブレードのファームウェアが収録されています。

FC Switchblade Firmware DVDは、以下URLのダウンロード検索画面から取得できます。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex?>

3.2.2 設定手順

対象サーバに対するプロファイル適用中は、管理サーバ上に用意した共有フォルダーを利用して必要なデータの送受信が行われます。また、このフォルダーには各種DVDからインポートしたデータも格納されます。本フォルダーをリポジトリと呼びます。ここでは共有フォルダーのパス名やアクセス方法を設定します。

ポイント

- 共有フォルダーとアクセス用のアカウントは事前に作成しておいてください。詳しくは、「[3.1.3 プロファイル適用のためのリポジトリ作成](#)」を参照してください。
- リポジトリにはファームウェアデータやOSインストールに必要なファイルなど多くのファイルがコピーされるため、使用量が20 GB以上になることがあります。空き容量に注意してフォルダーを作成してください。
- リポジトリには多数のフォルダーが階層的に作成されます。Windowsのフォルダー名の長さ制限を超えないようにするため、リポジトリパスはできるだけ短く設定してください(最大30文字程度を推奨)。

プロファイル適用中の動作を設定する手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。
詳しくは、「[4.5 \[Setup\]画面](#)」を参照してください。
2. [Setup]画面の左側で [プロファイル適用動作設定] をクリックします。
3. 画面右側で各設定項目を入力します。

項目名	意味
管理サーバIPアドレス	ISMが動作しているサーバに割り当てられている管理ネットワーク上のIPアドレスを指定します。管理サーバのネットワークポートが1つの場合はデフォルトで入力されているIPアドレスを使用できますが、ネットワークポートが複数存在する場合は正しいIPアドレスであるか確認してください。
リポジトリパス	管理サーバ上に作成した共有フォルダーのパス名を指定します。全角文字(日本語など)は使用できません。 例: "C:\ismshare" デフォルトで上記フォルダー名が入力されていますが、ISMインストール時には本フォルダーは作成されません。
リポジトリ共有名	対象サーバからリポジトリにアクセスする際に使用する共有名を指定します。 例: "ismshare" デフォルトで上記共有名が入力されていますが、ISMインストール時には共有設定は行われていません。
アクセスアカウントユーザ名	対象サーバから共有フォルダーへアクセスする際に使用されるアカウント名を入力します。管理サーバ上で作成したユーザー名になります。
アクセスアカウントパスワード	対象サーバから共有フォルダーへアクセスする際に使用されるパスワードを入力します。管理サーバ上で作成したユーザーのパスワードになります。
アクセスアカウントパスワード(確認)	タイプミスをチェックするために、入力したパスワードと同一のパスワードを入力します。
httpポート	httpを利用してBIOS設定およびBMC設定を行う場合に使用するポート番号を入力します。通常は「80」です。 httpsを利用する場合は、何も入力しません。
httpsポート	httpsを利用してBIOS設定およびBMC設定を行う場合に使用するポート番号を入力します。通常は「443」です。 httpを利用する場合は、何も入力しません。
ServerView Suite ログインユーザ名	ISMの画面を起動する際に、最初にSVOMのサインオン画面(「 4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通) 」の手順2 参照)に入力するユーザ名を入力します。「Administrator」ロールを持つユーザ名を入力してください。
ServerView Suite ログインパスワード	上記ログインユーザ名に対するパスワードを入力してください。
ServerView Suite ログインパスワード(確認用)	タイプミスをチェックするために、入力したパスワードと同一のパスワードを入力します。

4. [登録] ボタンをクリックします。
5. 設定情報の登録を確認するメッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリックします。
6. 設定情報の登録処理の終了メッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。

ポイント

[プロファイル適用動作設定]画面でhttp/httpsのポート番号を変更する場合は、すべての対象サーバのiRMCポート番号を変更してください。なお、iRMCのhttpポート番号を変更すると、ISMのサーバの[機器プロパティ]画面からBMC(iRMC) Webを起動できなくなります。

3.3 FTPサーバの設定(ISM)

OSプロファイルを使ってLinuxをインストールする場合、およびメンテナンス支援機能を利用してPRIMEQUEST、FCスイッチブレード、ETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートを行う場合に、FTPサーバが使用されます。

FTPサーバへのアクセスに関する設定手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。
詳しくは、「[4.5 \[Setup\]画面](#)」を参照してください。
2. [Setup]画面の左側で [FTPサーバ設定] をクリックします。
3. 画面右側で各設定項目を入力します。

項目名	意味
FTPサーバ IPアドレス	FTPサーバのIPアドレスを指定します。 Linuxインストールおよびメンテナンス支援機能の該当機能を使用しない場合は設定不要です。
ログインアカウントユーザ名	FTPサーバへログインするためのアカウントのユーザー名を入力します。 Linuxインストール時は匿名 (anonymous) でアクセスするため、メンテナンス支援機能の該当機能を使用しない場合は設定不要です。
ログインアカウントパスワード	FTPサーバへログインするためのアカウントのパスワードを入力します。 Linuxインストール時は匿名 (anonymous) でアクセスするため、メンテナンス支援機能の該当機能を使用しない場合は設定不要です。
ログインアカウントパスワード(確認)	タイプミスをチェックするために、入力したパスワードと同一のパスワードを入力します。

4. [登録] をクリックします。

3.4 DHCP設定 (ISM)

各管理機器が使用するIPアドレスを事前に用途別に範囲指定しておきます。範囲の定義などの詳細は、「[2.3 IPアドレスの設計](#)」を参照してください。



注意

管理サーバ上でDHCPサービスを利用しない場合、本設定は行いません。

DHCPを設定する手順は次のとおりです。

1. [Setup]画面を表示します。
詳しくは、「[4.5 \[Setup\]画面](#)」を参照してください。
2. [Setup]画面の左側で [DHCP設定] をクリックします。
3. 画面の右側で、次の操作を行います。
 - 新規設定または追加設定:[新規追加]ボタンをクリック
 - 既存スコープを変更:変更対象をチェックし、[編集] ボタンをクリック
 - 既存スコープを削除:変更対象をチェックし、[削除] ボタンをクリック

- 一 既存スコープの有効化／無効化:操作対象のスコープをチェックし、[有効化] または [無効化] をクリック

ServerView

ユーザ: administrator ログアウト FUJITSU

サーバリスト 管理者設定 サーバデータ デプロイメント イベント サーバ監視 アップデート インフラ セキュリティ ヘルプ

インフラ管理

Home >> インフラ管理

Facility Manager Facility Browser Profile Manager Setup Maintenance ServerView Infrastructure Manager V1.4.0

▼ 設定

- DHCP設定
- プロファイル適用動作設定
- データインポート実行
- 仮想管理ソフトウェア設定
- ログ収集設定
- FTPサーバ設定
- ノード登録／解除設定
- ユーザ／パスワード設定

DHCP設定

DHCPサービス状態: 正常 開始

スコープ名	有効/無効	ステータス	ネットワーク番号	サブネットマスク	ゲートウェイ	ノード管理台数
Scope1	無効	正常	192.168.1.0	255.255.255.0	192.168.1.1	0

編集 削除 有効化 無効化

新規追加

DHCPサービスの設定を行います。

- 新規にDHCPスコープを追加を行う場合、新規追加ボタンを押下して登録を行ってください。
- 既存のDHCPスコープの変更を行う場合、対象を登録して編集ボタンを押下し、登録を行ってください。

スコープの新規作成／追加手順詳細

1. 画面右側の [新規追加] ボタンをクリックします。
2. 画面下部にスコープ名、貸出IPアドレス範囲などを入力します。

ポイント

.....

スコープ名はDHCPサービスの管理のために使用される名称です。プロファイル管理機能では利用しません。

.....

3. 各項目を入力し、[確定] ボタンをクリックします。
追加の設定項目が表示されます。
4. 必要な項目を入力し、[登録] ボタンをクリックします。
画面上部に登録したスコープが表示されます。

スコープ名: Scope1

サブネットマスク: 255.255.255.0

貸出IPアドレス範囲: 192 . 168 . 1 . 240 ~ 192 . 168 . 1 . 249 確定 解除

ネットワーク番号: 192.168.1.0

ゲートウェイ: 192 . 168 . 1 . 1

BMC (RMO) 固定IPアドレス範囲: 192 . 168 . 1 . 2 ~ 192 . 168 . 1 . 100

サーバ管理LAN固定IPアドレス範囲: 192 . 168 . 1 . 101 ~ 192 . 168 . 1 . 199

システム管理IPアドレス範囲: 192 . 168 . 1 . 200 ~ 192 . 168 . 1 . 299

DNSサーバ:

DNSドメイン名:

登録

5. 追加したスコープをチェックし、[有効化] ボタンをクリックします。
6. 複数のサブネット(スコープ)を利用する場合、手順2～5を繰り返します。



注意

- DNSサーバとDNSドメイン名の指定は任意、その他の項目は必須となります。
- スコープの新規作成／追加は、手動検出およびノード登録／解除の各処理が実行中ではない場合に行えます。処理中の場合は完了を待ってから行ってください。
- スコープの追加または編集の際、[貸出IPアドレス範囲] および [システム管理IPアドレス範囲] のIPアドレスの範囲に、すでに [管理可能] [管理中] となっている機器が存在する場合、設定ができません。該当する機器を削除するか、[貸出IPアドレス範囲] および [システム管理IPアドレス範囲] の設定を確認してください。

既存スコープの編集／削除／無効化時の注意

スコープの編集／削除／無効化は、以下の処理が実行中ではない場合に行えます。

- 自動検出(*1)
- 手動検出
- ノード登録／解除
- プロファイル適用

処理中の場合は完了を待ってから、スコープを操作してください。

*1: ここでの自動検出とは、ISMが新しい機器を発見した場合に、管理対象機器かどうかを確認する処理を指します。自動検出は画面操作とは関係なく、バックグラウンドで定期的に行われています。
ネットワークに新しい機器を接続した直後は、自動検出中のためにスコープの操作がエラーになる場合があります。この場合は30秒ほど待ってから再度操作してください。

3.5 仮想環境管理ソフトウェアの登録情報の準備

vCenterやSCVMMへのホスト登録機能を利用する場合は、登録先の情報などを事前に設定しておきます。SCVMMの場合は次の操作も必要です。

vCenterへのホスト登録を行う場合

1. vCenter上でデータセンターを作成し、その配下にホスト登録先のフォルダーまたはクラスタを準備します。
2. [仮想管理ソフトウェア設定] 画面でvCenter稼働サーバのIPアドレスやログインアカウントを指定します。
詳しくは、「[3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定](#)」を参照してください。



ポイント

vCenter Serverのバージョンは、登録するVMwareサーバに対応したものを使用してください。

SCVMMへのホスト登録を行う場合

1. SCVMM上でホスト登録先のフォルダーを準備します。
2. 管理サーバをActive Directoryに所属させます。
3. 管理サーバ上にSCVMMのコンソールをインストールします。



注意

管理サーバにインストールするSCVMMコンソールは、登録先のSCVMMサーバに対応したものを使用してください。
管理サーバにSCVMM2012のコンソールがインストールされているが、登録先のSCVMMサーバがWindows Server 2008 R2であるなど、SCVMMコンソールとSCVMMサーバの種類が異なる場合の動作はサポート対象外となります。

- 管理サーバを再起動します。
- [仮想管理ソフトウェア設定] 画面でSCVMM稼働サーバのIPアドレスやログインアカウントを指定します。
詳しくは、「[3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定](#)」を参照してください。

ポイント

SCVMMのバージョンは、登録するWindowsサーバに対応したものを使用してください。

3.6 vCenter／SCVMM／OpenStack連携機能の利用

vCenter／SCVMM／OpenStack連携機能を使用する場合、必要な情報を事前に設定します。

ISMが扱うvCenterサーバ、SCVMMサーバおよびOpenStackサーバが複数存在する場合は、それらをすべて登録してください。また、同一サーバであっても登録先フォルダーが異なる場合は、それらも各々登録しておきます。

3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定

仮想管理ソフトウェアを設定する手順は次のとおりです。

- [Setup]画面を表示します。
詳しくは、「[4.5 \[Setup\]画面](#)」を参照してください。
- [Setup]画面の左側で [仮想管理ソフトウェア設定] をクリックします。



IPアドレス	利用ソフトウェア	管理者ユーザ名	ホスト登録先フォルダ名
☐ 192.168.1.100	vCenter	administrator@vsphere.local	cluster1
☐ 192.168.1.5	System Center	domain#Administrator	group1
☐ 192.168.1.50	OpenStack	admin	

仮想管理ソフトウェアの登録先の設定を行います。

- 新規に登録先の追加を行う場合、新規追加ボタンを押下して登録を行ってください。
- 既存の登録先の変更を行う場合、対象を選択して編集ボタンを押下し、登録を行ってください。
- 既存の登録先の削除を行う場合、対象を選択して削除ボタンを押下してください。

一行選択した場合、詳細が表示されます。複数選択した場合は表示されません。

- 新しくホスト登録先を作成する場合は、[新規追加] ボタンをクリックしたあと、画面表示に従って設定値を入力します。

ー vCenterの場合

項目名	意味
IPアドレス	vCenterがインストールされているサーバのIPアドレスを入力します。
管理者ユーザ名	vCenterへログインする際のユーザー名を入力します。
管理者パスワード	vCenterへログインする際のパスワードを入力します。
管理者パスワード(確認用)	パスワード入力ミスを防ぐため、入力したパスワードと同じパスワードを入力します。
ホスト登録先フォルダ名	ホスト登録先のフォルダー名またはクラスタ名を入力します。Profile Managerでは、日本語など(全角文字)を含む名称を指定できません。フォルダーが階層的に作成されている場合、最下層のフォルダー名を指定します。同一名称のフォルダーがほかにも存在する場合は、意図した場所へ登録されないことがあります。

項目名	意味
httpsポート番号	ホスト登録処理中、httpsを利用して通信を行います。このとき利用するポート番号を入力します。通常は「443」です。

ー SCVMMの場合

項目名	意味
IPアドレス	SCVMMがインストールされているサーバのIPアドレスを入力します。
SCVMMログインユーザ名	SCVMMへログインする際のユーザー名を入力します。
SCVMMログインパスワード	SCVMMへログインする際のパスワードを入力します。
SCVMMログインパスワード(確認用)	パスワード入力ミスを防ぐため、入力したパスワードと同じパスワードを入力します。
ホスト登録先フォルダ名	ホスト登録先のフォルダー名またはクラスタ名を入力します。
ドメイン管理者 ユーザ名	登録するサーバに対する管理者権限を持つアカウントのドメイン名とユーザー名を入力します。
ドメイン管理者 パスワード	登録するサーバに対する管理者権限を持つアカウントのパスワードを入力します。
ドメイン管理者 パスワード(確認用)	パスワード入力ミスを防ぐため、入力したパスワードと同じパスワードを入力します。

ー OpenStackの場合

項目名	意味
IPアドレス	OpenStackへアクセスするためのIPアドレスを入力します。KeystoneコンポーネントのIPアドレスを指定してください。
OpenStackログインユーザ名	OpenStackへログインする際のユーザー名を入力します。
OpenStackログインパスワード	OpenStackへログインする際のパスワードを入力します。
ポート	OpenStackと通信する際に使用するポート番号を入力します。通常は「5000」です。
テナント	ログインするOpenStackのテナントを指定します。
リージョン	ログインするOpenStackのリージョンを指定します。OpenStackのリージョンを指定しない場合は入力不要です。

4. 必要な設定を入力したあと、必要に応じて [通信テスト] ボタンをクリックし、仮想管理ソフトウェアと通信できることを確認します。

通信テストはスキップできます。

5. [登録] ボタンをクリックします。

画面上部に登録内容が一覧表示されます。

ポイント

- すでに登録されている情報を変更または削除する場合は、画面上部の一覧で対象の登録先にチェックを付けたあとに [編集] ボタン、または [削除] ボタンをクリックします。
- 本画面で設定した情報が、ファシリティ管理機能の「[4.2.8 \[仮想管理ソフトウェア情報\]タブ](#)」内に表示される内容になります。

3.6.2 仮想管理ソフトウェアの登録

P ポイント

OSプロファイル適用済みのサーバに対して実行できます。本機能を利用する際は、事前に仮想管理ソフトウェア登録設定を行ってください。詳しくは、「3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定」を参照してください。

仮想管理ソフトウェアを登録する手順は次のとおりです。

1. [機器プロパティ]画面を表示します。
詳しくは、「5.5.2 機器情報表示」を参照してください。
2. [仮想管理ソフトウェア登録] ボタンをクリックします。
登録先情報が表示されます。
3. 登録先に問題がなければ [OK] ボタンをクリックします。
仮想管理ソフトウェアの登録が開始されます。
登録中は装置状態を示すアイコンが「処理中」となり、[ノードリスト]画面の機器一覧表内の進行バーが「登録中」となります。
4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
作業が完了するのを待ちます。

	状態	機種名	機器名 /	コンピュータ名	HWプロファイル	CSプロファイル	ID	進捗項目			
								FW	BOS	OS	OS
	登録中	PRIMERGY R0230 S8 3vN30 12845	M612		HW_M6.mt_R0200S_03_M6.mt_R0200S_02						

3.7 ユーザ／パスワード設定

Profile ManagerでPRIMERGYサーバ、PRIMEQUESTおよびETERNUS DX/TRシリーズを検出する場合には、[ユーザ／パスワード設定]画面で設定を行います。

PRIMERGYサーバ、ETERNUS DXシリーズの検出には、工場出荷時設定（デフォルト）のユーザー名／パスワードを使用します。デフォルトのユーザー名／パスワードを変更した状態で検出する場合は、一度機器の設定を戻すか、[ユーザ／パスワード設定]画面でデフォルト以外のアカウントを事前に設定しておきます。

PRIMEQUESTの検出はIPMI通信で行いますが、工場出荷時にIPMI通信可能なユーザーは設定されていないため、事前にMMB上でユーザーを作成したうえで、本画面でユーザーを設定しておく必要があります。

ETERNUS TRシリーズの検出には、SNMPv3を使用します。SNMPv3の通信に必要な情報を事前に設定しておきます。

項目	デフォルトとして使用されるユーザー名	[ユーザ／パスワード設定]画面の事前設定
PRIMERGY BX/CX/RXシリーズ検出時のiRMCアクセス	admin	デフォルトアカウントから変更している場合のみ必要
ETERNUS DXシリーズ検出時、プロファイル適用時のTelnet接続	root	デフォルトアカウントから変更している場合のみ必要
PRIMEQUEST 2000シリーズ検出時のIPMI	なし	必須
ETERNUS TRシリーズ検出時のSNMPv3アクセス	なし	必須

3.8 メンテナンス機能のための設定変更

tftp設定ファイル

マネジメントブレードのファームウェアアップデートを行う場合に本設定が必要になります。
以下の設定ファイルを編集して、ISMが動作している管理サーバのIPアドレスを設定します。

- ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svhlc%etc%global%ipaddr. ini
(デフォルト: C:%Program Files (x86)%Fujitsu%ServerView Suite%plugins%svhlc%etc%global%ipaddr. ini)

- 修正箇所

```
[ipaddress]
# ftp=192.168.1.1
# tftp=192.168.1.1
```

[tftp]の定義行行頭の「#」を削除してコメントアウトを解除し、IPアドレスを編集します。IPアドレスは、管理サーバのIPアドレスのうち、ファームウェアのアップデートの対象とするマネジメントブレードからアクセスできるIPアドレス(管理用ネットワークのIPアドレス)を設定します。

修正後の例を示します。

```
[ipaddress]
# ftp=192.168.1.1
tftp=10.21.10.11
```

ポート番号変更

メンテナンス支援機能で使用するサービスのポート番号を変更する場合は、OSのServices定義ファイルを編集します。

- ファイル名

C:%Windows%System32%drivers%etc%services

- 修正箇所

[svhlc-controller]および[svhlc-firmmgr]の定義行のポート番号を編集します。

修正後の例を示します。

```
svhlc-controller 35560/tcp #SVHLCM Controller
svhlc-firmmgr 35561/tcp #SVHLCM Firmware Manager
```

ファイルの編集後、メンテナンス支援機能のサービスの再起動が必要です。

OSの管理ツールの[サービス]から[SVHLCM Service]を選択し、再起動します。

ファイアーウォール

以下のポートを、管理コンソールから管理サーバへ通信が有効になるように設定します。

ポート番号(初期値)	名称	説明
25560	svhlc-controller	メンテナンス支援機能のGUIからサービス間の通信に使用されます。

SVFAB設定ファイル

ファブリックマネージャーのサービスのポート番号設定を変更した場合、以下の定義ファイルを編集します。スイッチ機器(L2スイッチ、コンバージドファブリック)を取り扱わない場合、およびファブリックマネージャーのサービスのポート番号設定を変更しない場合は、編集は不要です。

- ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svhlc%etc%global%svfab. ini
(デフォルト: C:%Program Files (x86)%Fujitsu%ServerView Suite%plugins%svhlc%etc%global%svfab. ini)

- 編集箇所

OSのServicesの定義に合わせて、[svfab-controller]および[svfab-psmgr]の定義行のポート番号を編集します。

修正後の例を示します。

```
[svfab access]
ipAddress=127.0.0.1
svfab-controller=35460
svfab-psmgr=35461
```

SVFABの設定

コンバージドファブリックやL2スイッチの登録作業を実施します。

登録作業については、『Fujitsu Software ServerView Fabric Manager Network Management 取扱説明書』の「第3章 管理対象の登録」を参照してください。

アカウント情報の設定

FCスイッチブレードまたはストレージを管理対象機器とする場合、アカウント情報（ユーザー名／パスワード）を設定する必要があります。各装置に接続可能なアカウント情報を設定してください。ストレージのファームウェアアップデートを行うためには、ファームウェア管理権限を付与されたアカウントの設定が必要です。

FC/CNAカードの管理

FC/CNAカードを管理するためには、対象サーバ上のOSとカードの種類によって、条件と必要な設定が異なります。

カードの種類	Windows	Linux	VMware ESXi
Emulex FC/CNA	管理対象機器へのEmulex OneCommand Manager CLIの導入	管理対象機器へのEmulex OneCommand Manager CLIの導入	管理サーバへのEmulex OneCommand Manager CLIの導入
	FC/CNAカード管理の設定 (Windows)		Emulex FC/CNAカード管理の設定 (VMware)
QLogic FC	管理対象機器へのQLogic QConvergeConsole CLIの導入	管理対象機器へのQLogic QConvergeConsole CLIの導入	QLogic FCカード管理の設定 (VMware)
	FC/CNAカード管理の設定 (Windows)		



注意

- Windows/Linux上のEmulex FC/CNAカードを管理するためには、対象サーバのOS上にEmulex OneCommand Manager CLIが導入され、カードが登録されている必要があります。VMware ESXi上のEmulex FC/CNAカードを管理するためには、管理サーバのOS上にEmulex OneCommand Manager CLIが導入され、カードが登録されている必要があります。
管理サーバ上に導入するEmulex OneCommand Manager CLIの「Management Mode」を「Full Management」、「CIM Credentials」のポート番号を5989 (https) に設定してください。
- Windows/Linux上のQLogic FCカードを管理するためには、対象サーバのOS上にQLogic QConvergeConsole CLIが導入され、カードが登録されている必要があります。
- Windows上のFC/CNAカードを管理する場合は「[FC/CNAカード管理の設定 \(Windows\)](#)」、VMware ESXi上のFC/CNAカードを管理する場合は「[QLogic FCカード管理の設定 \(VMware\)](#)」または「[Emulex FC/CNAカード管理の設定 \(VMware\)](#)」を参照し、設定を行ってください。
- Linux上のFC/CNAカードを管理するためには、対象サーバ上のLinuxでlspciコマンドが実行可能である必要があります。
- Emulex OneCommand Manager CLI、またはQLogic QConvergeConsole CLIは最新のものを利用してください。FC/CNAカードには最新のドライバを適用してください。下記よりダウンロードできます。
 - PRIMERGYダウンロード検索
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>
 - PRIMEQUEST
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/download/2000/>

FC/CNAカード管理の設定(Windows)

Windowsサーバ上のFC/CNAカードを管理するための設定を行います。本設定は対象サーバ上で行う必要があります。FC/CNAカードを利用しているWindows環境がない場合、本設定は不要です。

1. WinRMを設定します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
winrm quickconfig
```

以下のメッセージが表示された場合、quickconfigは設定済みです。

```
WinRM サービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
このコンピューター上でのリモート管理には、WinRM が既に設定されています。
```

以下のメッセージが表示された場合、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

```
WinRM サービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
WinRM は、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように設定されていません。
次の変更を行う必要があります。

ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するようLocalAccountTokenFilterPolicy を構成してください。
変更しますか [y/n]? y
```

以下のメッセージが表示されます。

```
WinRMはリモート管理用に更新されました。

ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するようLocalAccountTokenFilterPolicy を構成しました。
```

2. 続いて以下のコマンドを実行します。

```
winrm set winrm/config/service @{AllowUnencrypted="true"}
```

3. 対象サーバ上のOSがWindows Server 2008 R2の場合、以下のコマンドを実行して、カードの種類や数に応じてMaxConcurrentOperationsPerUserプロパティを大きくします。

```
winrm set winrm/config/Service @{MaxConcurrentOperationsPerUser="num"}
```

例:500に設定した場合

```
winrm set winrm/config/Service @{MaxConcurrentOperationsPerUser="500"}
```



注意

- "AllowUnencrypted"を"true"に設定しても、パスワードが暗号化されない形式で通信されるわけではありません。メッセージ内容のみが平文で送信されます。セキュリティ上の理由から暗号化を行う必要がある場合、WinRMにhttpsリスナーを定義しhttps通信を利用してください。そのうえで「[httpsでのFC/CNAカード管理\(Windows\)](#)」に従って設定してください。
- WinRMではhttp通信の場合は「5985」、https通信の場合は「5986」を使用します。管理サーバから対象サーバへの通信が有効になるようにポートを設定してください。

httpsでのFC/CNAカード管理(Windows)

Windowsサーバ上のFC/CNAカードを管理する場合、http/httpsを利用します。自己署名証明書を用いたhttps通信が可能です。自己署名証明書を用いたhttps通信を利用する場合、本設定が必要になります。証明書のコモンネーム(CN)には対象サーバのIPアドレスを指定してください。

以下の設定ファイルを編集して、https通信を有効にします。

ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svhlc%etc%global%https.ini
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins%svhlc%etc%global%https.ini)

修正箇所

```
[TargetServer-ipaddress]
# https_access = ON
# specified_https_access = 192.168.0.1
```

[https_access]の定義行行頭の「#」を削除して、コメントアウトを解除するとhttps通信が有効となります。

修正後の例を示します。

```
[TargetServer-ipaddress]
https_access = ON
# specified_https_access = 192.168.0.1
```

特定の対象サーバに対してhttps通信をしたい場合、[specified_https_access]の定義行行頭の「#」を削除してコメントアウトを解除し、サーバを指定できます。その際、カンマ(,)区切りでのIPアドレスの指定が可能です。すべての対象サーバに対してhttps通信を行う場合、[specified_https_access]の設定は必要ありません。

修正後の例を示します。

```
[TargetServer-ipaddress]
https_access = ON
specified_https_access = 10.21.10.20, 10.21.10.21
```

QLogic FCカード管理の設定 (VMware)

VMware ESXi上でのQLogic FCカードを管理するための設定を行います。QLogic FCカードを利用しているVMware ESXi環境がない場合、本設定は不要です。

1. 管理サーバ側で以下の設定ファイルを編集して、対象サーバ上のQLogic FCカードの管理を有効にします。

<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svhlc%etc%global%vmwareAccess.ini
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins%svhlc%etc%global%vmwareAccess.ini)

修正箇所

```
[VMwareESXi-ipaddress]
# QLogicFCCard = 192.168.0.1
```

[QLogicFCCard]の定義行行頭の「#」を削除してコメントアウトを解除し、管理を有効にしたい対象サーバを指定します。その際、カンマ(,)区切りでのIPアドレスの指定が可能です。

修正後の例を示します。

```
[VMwareESXi-ipaddress]
QLogicFCCard = 10.21.10.30, 10.21.10.31
```

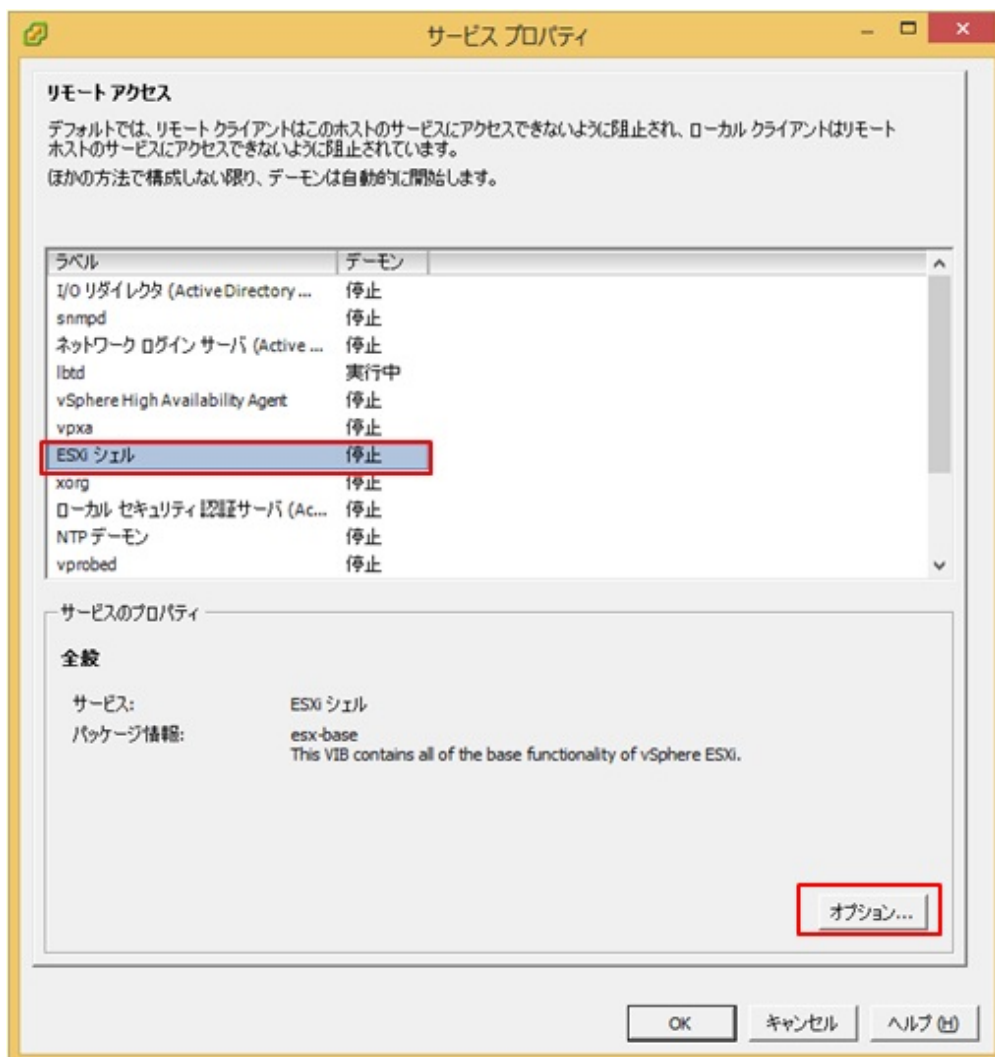
2. vSphere ClientからQLogic FCカードがある対象サーバ上のVMware ESXiの設定を変更します。

- a. vSphere Clientで対象サーバ上のVMware ESXiにログインします。

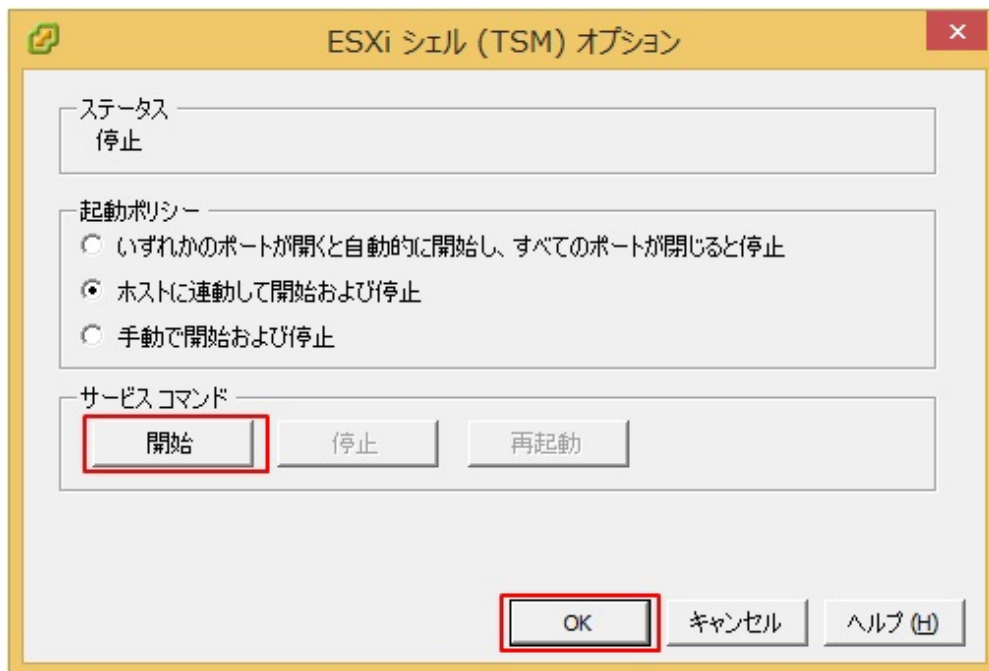
- b. [構成]タブの[セキュリティプロファイル]をクリックし、サービスの[プロパティ]をクリックします。



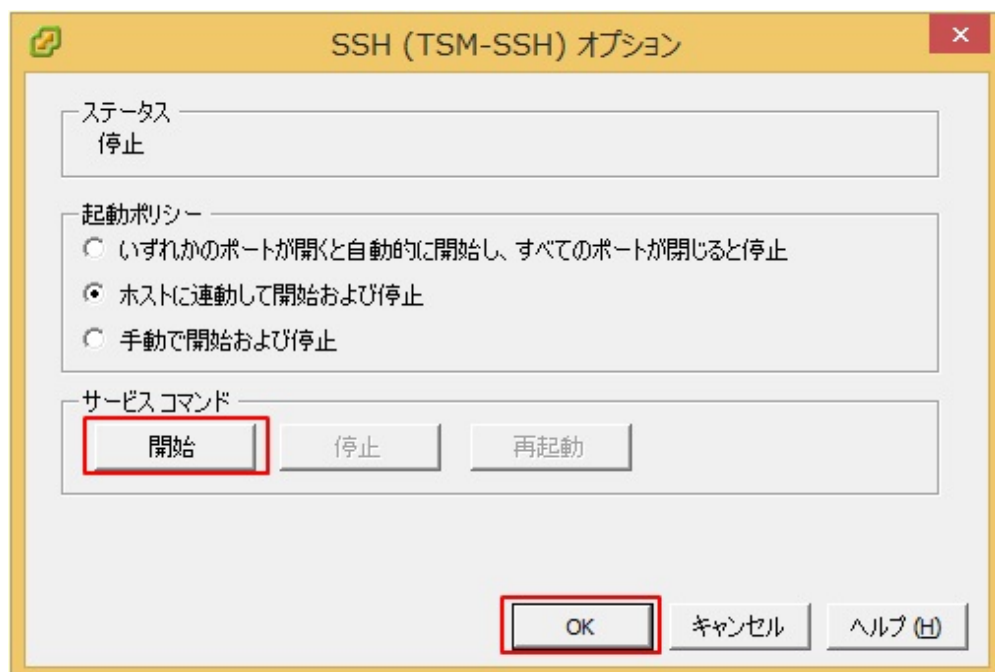
- c. 「ESXiシェル」を選択し、[オプション]をクリックします。



- d. 「サービスコマンド」の[開始]をクリックしてESXiシェルの開始し、[OK]をクリックします。
すでに実行中の場合、本設定は必要ありません。



- e. SSHサービスについても同様に設定します。
- [サービスプロパティ]画面で「SSH」を選択し、[オプション]をクリックします。
 - 「サービスコマンド」の[開始]をクリックしてSSHを開始し、[OK]をクリックします。
すでに実行中の場合、本設定は必要ありません。



ポイント

VMware ESXiのSSHおよびESXiシェルの有効にすると、vSphere Client上に以下のメッセージが表示されます。

構成の問題

ホストのESXiシェルは有効になっています
ホストのSSHは有効になっています

Emulex FC/CNAカード管理の設定(VMware)

VMware ESXi上でのEmulex FC/CNAカードを管理するための設定を行います。

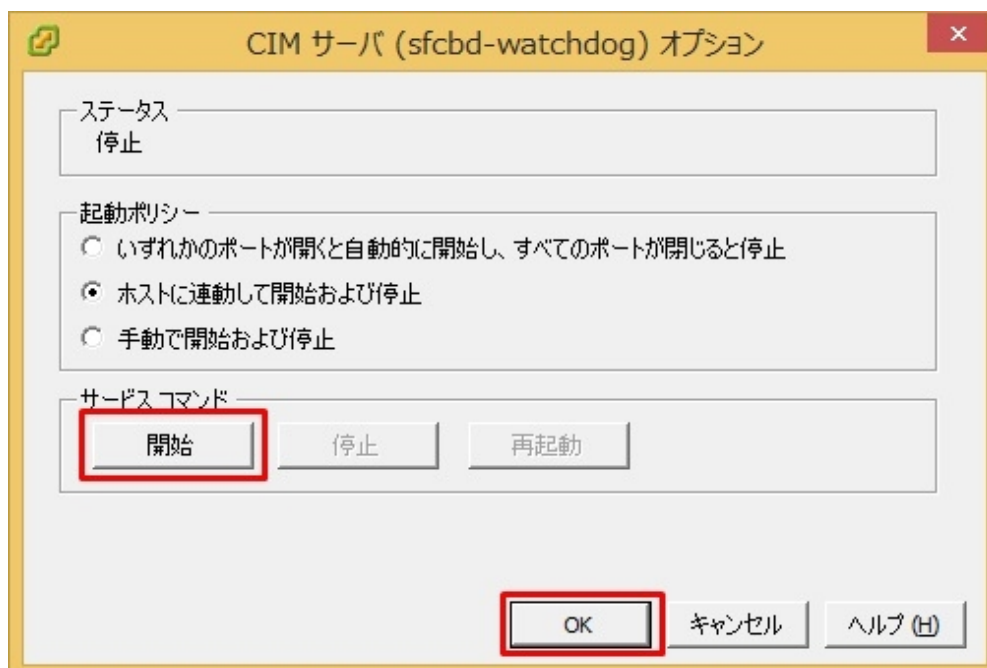
vSphere ClientからEmulex FC/CNAカードがある対象サーバ上のVMware ESXiの設定を変更します。

1. vSphere Clientで対象サーバ上のVMware ESXiにログインします。
2. [構成]タブの[セキュリティプロファイル]をクリックし、サービスの[プロパティ]をクリックします。



3. 「CIMサーバ」を選択し、[オプション]をクリックします。
4. 「サービスコマンド」の[開始]をクリックしてCIMサーバを開始し、[OK]をクリックします。

すでに実行中の場合、本設定は必要ありません。



第4章 ISMのユーザーインターフェース

4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)

ISMの画面を表示する方法は以下のとおりです。

1. ブラウザを起動し、以下のURLを入力します。

https://<システム名>.<ドメイン名>:3170/sv_www.html

SVOMが開始されます。

SVOMが正常に開始されないなどの問題が発生した場合は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMのインストールガイドを参照し、設定に問題がないか確認してください。

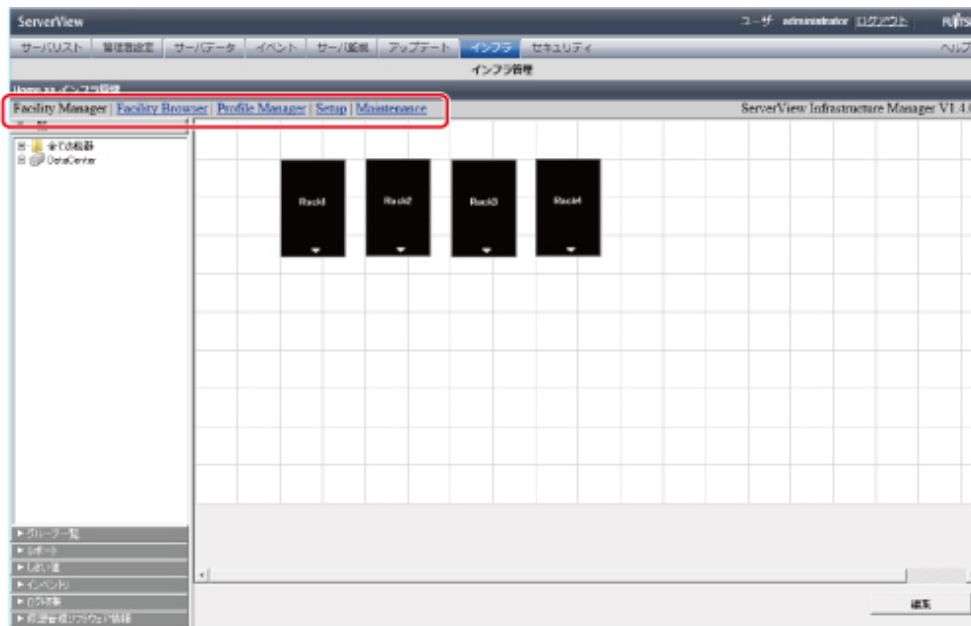
2. 「ユーザ」と「パスワード」を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。



3. SVOMのスタートページで「インフラ管理」をクリックします。



4. ISMの[Facility Manager]画面が表示されます。



初期状態では[Facility Manager]画面が表示されます。

画面上部の「Facility Manager」／「Facility Browser」／「Profile Manager」／「Setup」／「Maintenance」のリンクボタンをクリックすると、リンクごとにWebブラウザが起動し、ウィンドウを切り替えながら操作できます。

- [\[Facility Manager\]画面](#)
- [\[Facility Browser\]画面](#)
- [\[Profile Manager\]画面](#)
- [\[Setup\]画面](#)
- [\[Maintenance\]画面](#)

4.2 [Facility Manager]画面

ISMの画面上部のメニューから「Facility Manager」をクリックするとファシリティ管理の画面が表示されます。

ISMの画面表示については、「[4.1 ISMの画面表示方法\(各機能共通\)](#)」を参照してください。

[Facility Manager]画面には、データセンターのフロアおよびラックに搭載されている機器の情報が表示されます。

画面左側のツリーエリアと右側のワークエリアに分かれていて、ツリーエリアには、表示または設定する情報に応じて次のタブが用意されています。

- [ダッシュボード](#)
- [一覧](#)
- [グループ一覧](#)
- [レポート](#)
- [しきい値](#)
- [インベントリ](#)
- [ログ収集](#)
- [仮想管理ソフトウェア情報](#)

タブを切り替えると対応する画面が表示されます。

タブごとの画面のツリーエリアで表示対象を選択すると、ワークエリアの内容が切り替わります。

状態(ステータス)アイコン一覧

アイコン	説明
	正常に動作しています。
	警告の状態です。
	異常の状態です。
	無応答の状態です。または、FirstSightでは未サポートの機器です。
	アクセスプロトコルで認証エラーが発生しています。
	情報収集中です。

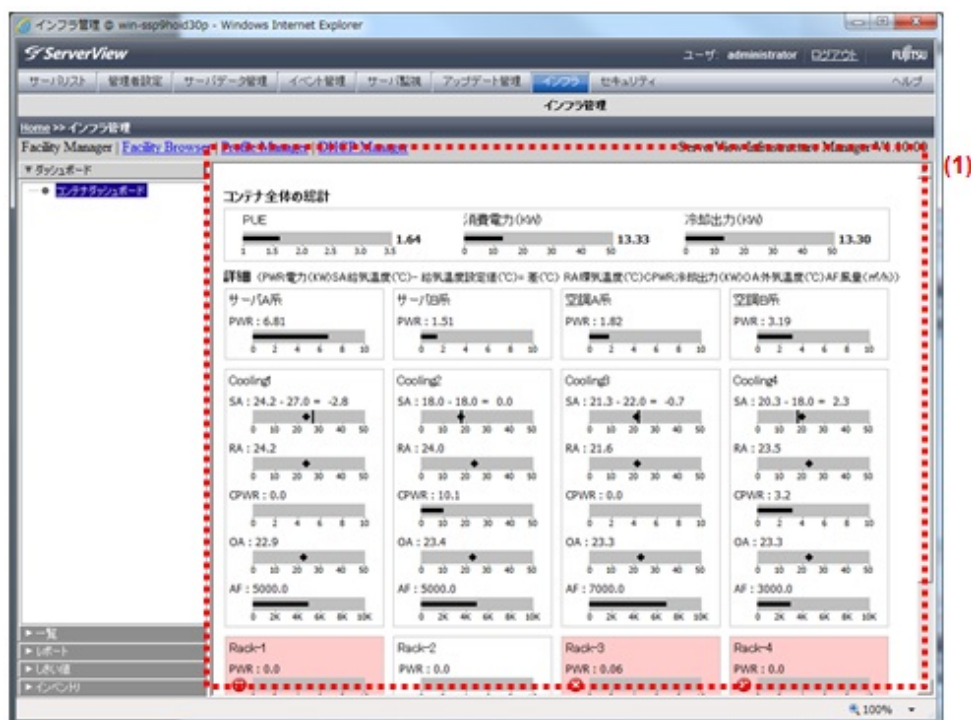
メッセージ一覧

メッセージ	説明
通信不可	対象のサーバと通信不可
対象外	対象のサーバでは対象外の機能
情報取得中	対象のサーバは情報取得中

4.2.1 [ダッシュボード] タブ(富士通Modular Data Center使用時のみ表示)

[Facility Manager]画面の[ダッシュボード]タブは、富士通Modular Data Center使用時のみ表示されます。

[ダッシュボード]タブをクリックして表示される画面では、PUE、消費電力、空調機の情報などが一目で確認できます。



項目	説明
コンテナ全体の総計	PUE、消費電力、冷却能力が表示されます。

項目	説明
詳細	以下の機器について計測データが表示されます。 ・ 電力系統ごと:消費電力 ・ 空調機ごと:給気温度、還気温度、冷却能力、外気温度、給気風量 ・ ラックごと:消費電力

異常、警告を検出した機器については、状態(ステータス)を示すアイコンが表示され、表示色が以下のように変更されます。

- ・ 赤:異常
- ・ 黄:警告

アイコンについては、「[状態\(ステータス\)アイコン一覧](#)」を参照してください。

4.2.2 [一覧]タブ

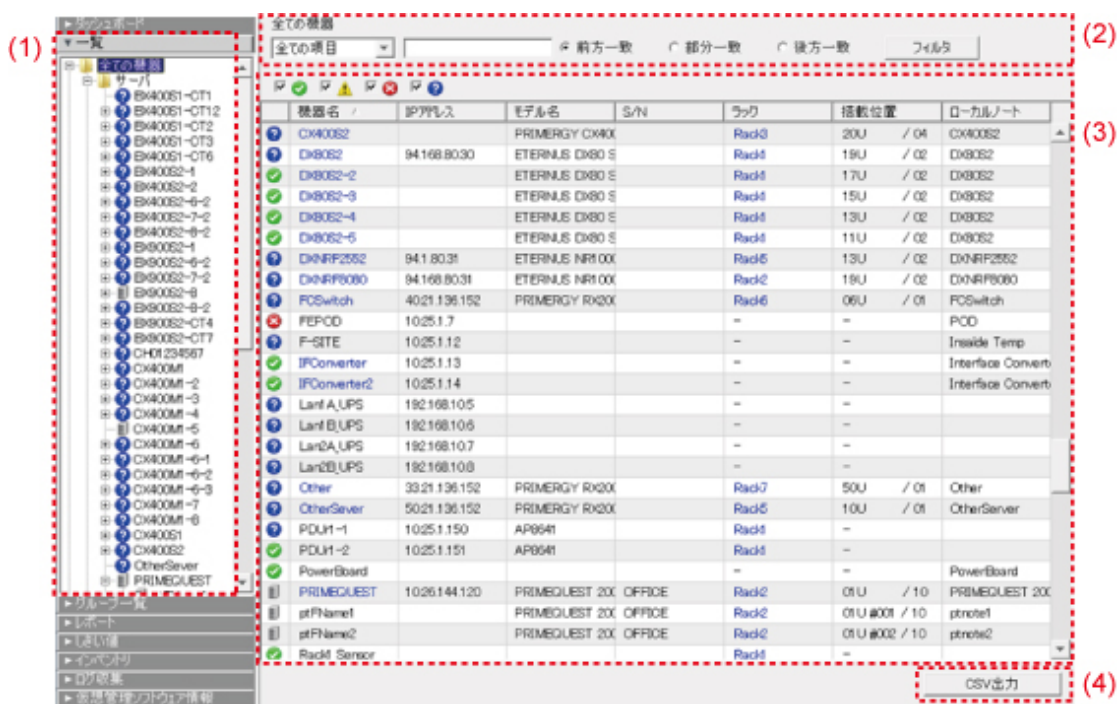
[Facility Manager]画面の[一覧]タブには、Facility Managerに登録されている各種機器がツリー形式で表示されます。

ツリーで選択した項目に応じて、ワークエリアに表示される内容が切り替わります。

以下に、ツリーの項目ごとに画面を説明します。

4.2.2.1 [全ての機器]画面(サーバ/スイッチ/ストレージ/ファシリティ機器)

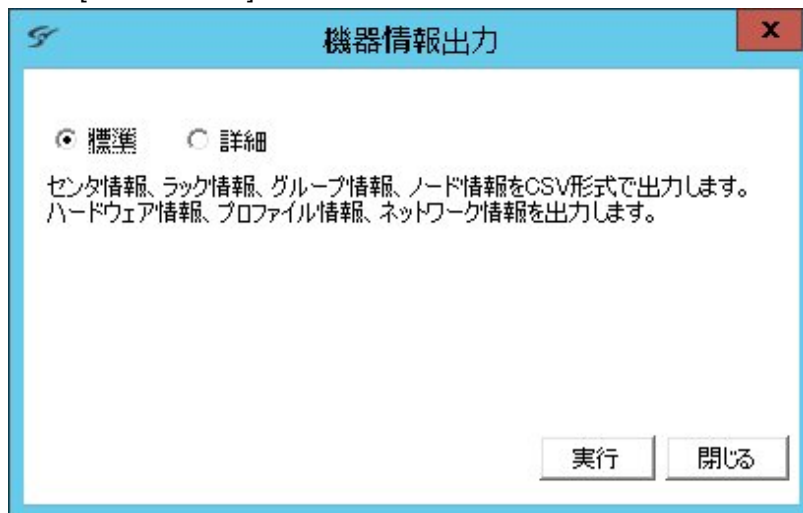
[全ての機器]画面には、ツリーで選択したICT機器およびファシリティ機器の状態が表示されます。



No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択した機器に応じて表示が切り替わります。 選択した機器(サーバ/スイッチ/ストレージ/ファシリティ機器)で、登録されているものの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示されます。 「全ての機器」を選択した場合には、登録されているすべてのICT機器およびファシリティ機器の一覧がワークエリアに表示されます。

No.	項目	説明
		ラックを右クリックして表示されるメニューで「消費電力制御設定」をクリックすると、[消費電力制御設定]画面が表示され、ICT機器の電力モニタリングと省電力制御の設定や実行ができます。 詳しくは、「 4.2.9 [消費電力制御設定]画面 」を参照してください。
(2)	フィルタ	ワークエリアの一覧に表示される項目の値を指定して、[フィルタ] ボタンをクリックすると、一覧の情報が絞り込んで表示されます。
(3)	ワークエリア	ツリーエリアで選択した機器の一覧を表示します。一覧に表示される項目は以下のとおりです。 ・ 状態 (ステータス) : 機器の状態 (ステータス) を示すアイコン アイコンについては、「状態 (ステータス) アイコン一覧」を参照してください。 ・ [機器名] : Web if (URL) が設定されている場合、ダブルクリックすると設定されたアプリケーション (各機器の Web GUI など) が起動されます。 ・ [IP アドレス] ・ [モデル] ・ [S/N] ・ [ラック] : 搭載したラック番号 ・ [搭載位置] : ラックの搭載したユニット番号と使用ユニット数 ・ [ローカルノート]
(4)	[CSV 出力] ボタン	クリックすると、[機器情報出力] 画面が表示されます。ワークエリアの一覧に表示される項目を CSV 形式で出力できます。

図4.1 [機器情報出力]画面



項目	説明
標準	ハードウェア情報、プロフィール情報、ネットワーク情報を出力します。
詳細	ハードウェア情報、プロフィール情報、ハードウェア設定情報、ネットワーク情報、OS設定情報を出力します。

ツリーエリア、またはワークエリアに表示される各機器を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

コンテキストメニューの項目と実行できる機能は以下のとおりです。

- ・ プロパティ
選択した機器のプロパティが表示されます。

	ICT機器	パーティション	空調ユニット	分電盤	その他	ラック	データセン ター
名称	×	×	×	×	×	×	◎
ラック名	×	×	×	×	×	◎	×
設置場所	×	×	×	×	×	×	◎
機器名	○	○	○	○	○	×	×
ベンダ名	◎	×	◎	◎	◎	◎	◎
型名	◎	×	◎	◎	◎	○	×
S/N	◎	×	◎	◎	◎	×	○
導入(設置年月日)	○	×	○	○	○	○	○
IPアドレス	◎	○	◎	◎	◎	×	×
MACアドレス	◎	×	◎	◎	◎	×	×
モデル名	◎	×	◎	◎	◎	×	×
システム名	◎	×	◎	◎	◎	×	×
機器タイプ	○	×	○	○	○	×	×
アカウント	◎	○	◎	◎	◎	×	×
パスワード/ パスワード(確認)	◎	○	◎	◎	◎	×	×
コミュニティ名	◎	×	◎	◎	◎	×	×
Web i/f(URL)	◎	×	◎	◎	◎	×	◎
識別灯	◎	×	×	×	×	×	×
サブURL	◎	×	◎	◎	◎	×	×
ローカルノート	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
接続PDU	◎	×	×	×	×	×	×
センサー情報	△	×	○	○	△	○	×
HOST名	◎	○	×	×	×	×	×
OS種別	◎	○	×	×	×	×	×
PartitionID	×	○	×	×	×	×	×
Partition名	×	○	×	×	×	×	×
Partition種別	×	○	×	×	×	×	×

◎:書込(選択)可、○:表示のみ、△:機器に応じて表示、×:非表示

- 画面を開く

Webインターフェース(URL)およびサブURLが設定されている場合にメニュー項目が表示されます。
設定されたURL(機器のWeb GUIなど)が起動されます。

- 削除

選択した機器の情報を削除します。

- 移動

ICT機器のラック搭載位置を変更した場合に、情報を移動できます。

移動したい機器を選択し、コンテキストメニューから「移動」を選択すると、[機器移動]画面がポップアップ表示されます。
現在の搭載位置が表示されるので、移動先のラックを選択し搭載位置を決定すると、情報が移動します。

- ・ 状態クリア

選択したICT機器またはファシリティ機器から故障や異常検知によるTrapのアラート通報を受信し、[状態(ステータス)]に異常または警告を示すアイコンが表示されている場合にメニュー項目が表示されます。

異常または警告を示すアイコンが表示されている機器を選択し、コンテキストメニューから「状態クリア」を選択すると、異常または警告を示すアイコンがクリアされます。

- ・ 消費電力制御設定

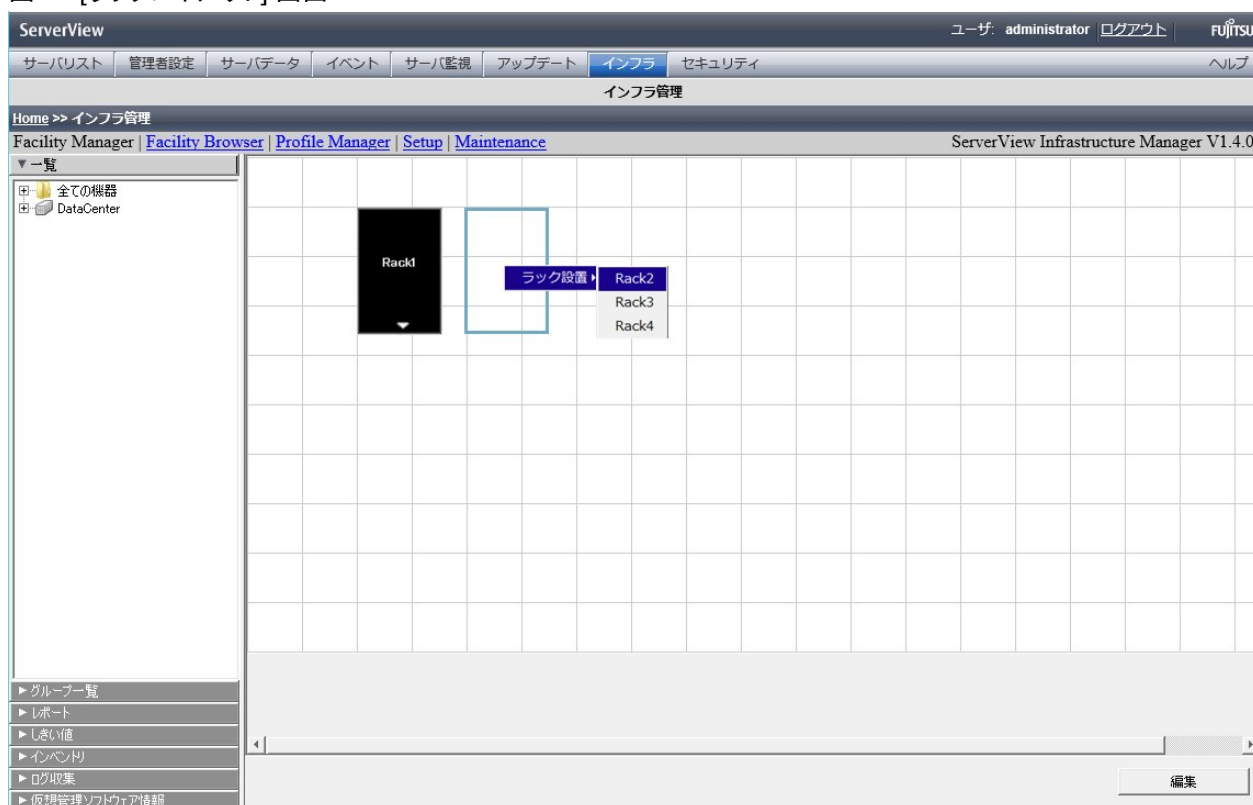
ICT機器の電力モニタリングと省電力制御の設定や実行を行います。

4.2.2.2 [ラックレイアウト]画面

富士通Modular Data Center以外の場合に表示されます。

[ラックレイアウト]画面では監視対象として登録されているラックの配置が表示されます。

図4.2 [ラックレイアウト]画面



[編集]ボタンをクリックすると、画面下部に「編集モード」と表示され、ラックの位置を編集できる編集モードとなります。

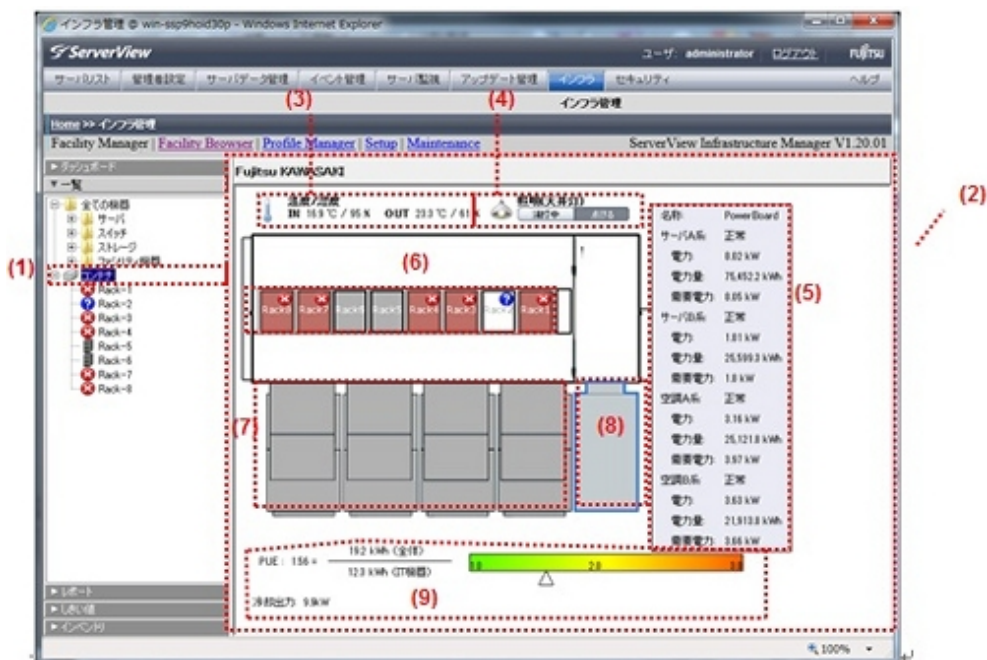
編集モードで画面を右クリックすると[ラック登録]メニューが表示され、[ラックレイアウト]画面に表示されていない登録済みのラックを画面に配置できます。

また、編集モードではすでに設置してあるオブジェクトをドラッグして位置を変更、右クリックしてラックの向きを変更できます。

4.2.2.3 [コンテナ]画面

富士通Modular Data Center使用時に表示されます。

[コンテナ]画面には、コンテナ全体を上から見た図が表示され、各ファシリティ機器の概要を確認できます。



No.	項目	説明
(1)	コンテナ	クリックすると、コンテナを上から見た図がワークエリアに表示されます。
(2)	ワークエリア	コンテナを上から見た図が表示されます。
(3)	温度／湿度	オプションの温度／湿度センサーが設置された場合に温度／湿度が表示されます。
(4)	照明操作(天井灯)	[ON]ボタンまたは[OFF]ボタンをクリックしてコンテナの天井灯のオン／オフを操作します。コンテナ内の天井灯スイッチの操作が優先されます。
(5)	詳細情報	ワークエリアの各オブジェクトをマウスでポイントしたときに、各機器の詳細情報が表示されます。 機器ごとの詳細情報は「表4.1 [コンテナ]画面-機器ごとに表示される詳細情報」を参照してください。
(6)	ラック	クリックすると、[ラック]画面に切り替わります。 搭載している機器のどれかに、無応答、警告(しきい値超過含む)、異常(しきい値超過含む)が検出されている場合、状態が色(白:無応答、黄:警告、赤:異常)で表示されます。
(7)	空調ユニット	ユニット番号は、分電盤側から1～4となります。無応答、警告(しきい値超過)、軽故障(*1)、異常(しきい値超過)、重故障(*2)が検出されているユニットがある場合、状態が色(白:無応答、黄:警告／軽故障、赤:異常／重故障)で表示されます。
(8)	分電盤	無応答、警告(しきい値超過)、異常(しきい値超過)が検出されている場合、状態が色(白:無応答、黄:警告、赤:異常)で表示されます。
(9)	冷却、消費電力	消費電力(コンテナ全体)、冷却出力(コンテナ全体)、PUE(Power Usage Effectiveness)が表示されます。 PUEは正時ごとの消費電力量から算出されます。

*1: 軽故障とは、温度が設定値範囲に入らないが空調ユニットの運転が継続可能な異常要素を指します。

*2: 重故障とは、空調ユニットが停止、または停止の可能性が大きい、または制御システムは動作継続しているが冷却できない異常状態を指します。

表4.1 [コンテナ]画面-機器ごとに表示される詳細情報

項目	表示される項目	説明
ラック	名称、ステータス	ステータスには、ラックに搭載している機器の状態に応じて、正常、警告、異常、無応答のどれかが表示されます。

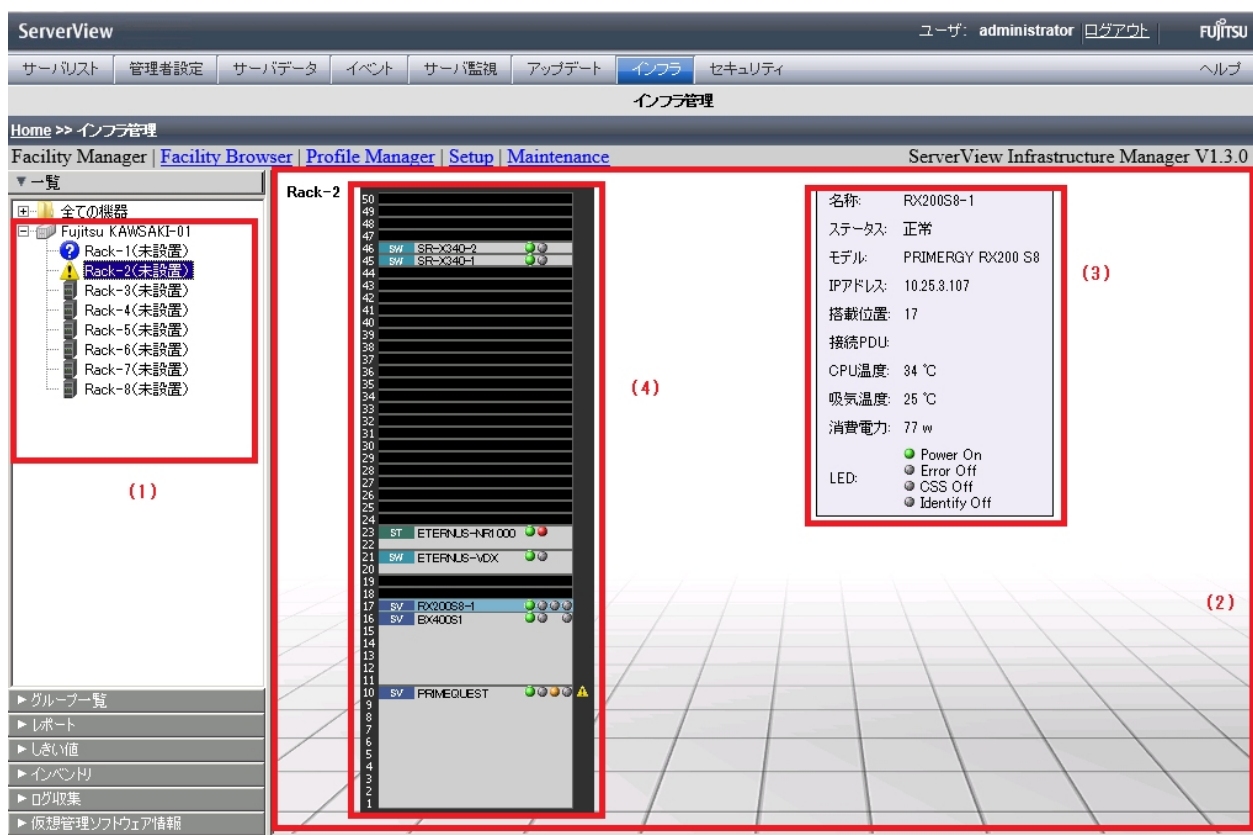
項目	表示される項目	説明
空調ユニット	名称、ステータス、給気(SA)温度、還気(RA)温度(℃)、冷却出力(kW) 外気(OA)温度(℃)、給気(SA)風量設定(m3/h)、給気(SA)温度設定(℃)、運転操作(ON/OFF)、重故障(*2)、軽故障(*1)、操作場所(リモート/ローカル)	ステータスには、正常、警告(軽故障/しきい値超過)、異常(重故障/しきい値超過)、無応答のいずれが表示されます。
分電盤	名称、ステータス、電力(kW)、電力量(kWh)、需要電力(kW)	ステータスには、正常、警告(しきい値超過)、異常(しきい値超過)、無応答のどれかが表示されます。

*1: 軽故障とは、温度が設定値範囲に入らないが空調ユニットの運転が継続可能な異常要素を指します。

*2: 重故障とは、空調ユニットが停止、または停止の可能性が大きい、または制御システムは動作継続しているが冷却できない異常状態を指します。

4.2.2.4 [ラック]画面

[ラック]画面には、ラックに搭載されているICT機器の情報が表示されます。



No.	項目	説明
(1)	ラック	機器の状態(ステータス)を示すアイコンと名称が表示されます。 アイコンについては「 状態(ステータス)アイコン一覧 」を参照してください。 クリックすると、ラックに搭載されている機器の情報が、ワークエリアに表示されます。
(2)	ワークエリア	ラックに搭載されている機器の情報が表示されます。
(3)	詳細情報	ワークエリアの各オブジェクトをマウスでポイントしたときに、各詳細情報が表示されます。 機器ごとの詳細情報は「 表4.2 [ラック]画面 - 機器ごとに表示される詳細情報 」を参照してください。
(4)	ラック搭載機器 [ICT機器]	サーバ、ストレージ、スイッチ、水冷RackCDUの搭載位置などが表示されます。 青いラベルに、機器の種類(SV:サーバ、ST:ストレージ、SW:スイッチ、CDU:水冷RackCDU)が表示

No.	項目	説明
		されます。 Web i/f(URL)が設定されている場合、ダブルクリックすると設定されたアプリケーション(各機器のWeb GUI)が起動されます。

表4.2 [ラック]画面 - 機器ごとに表示される詳細情報

項目	表示される項目
ラックサーバ、ブレードサーバ/マルチノードサーバ(*1)	名称、ステータス、モデル名、IPアドレス、搭載位置、接続PDU、CPU温度、吸気温度、消費電力、LED(*2)(*3)、水冷オプション(*4)
ストレージ、ネットワークスイッチ	名称、ステータス、モデル名、IPアドレス、搭載位置、接続PDU、吸気温度、消費電力、LED(*2)

*1:ブレードサーバまたはマルチノードサーバをクリックした場合、ワークエリア内にシャーンを表示します。

*2:電源、エラー、CSS、識別灯のLED状態を表示します。

機種によって表示されるLEDの種別が異なります。詳細については弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

電源、エラー、CSSのLED状態変更が検出された場合、以下のメッセージがアプリケーションログに出力されます。

電源LEDの状態変更が検出された場合、「イベントID:5050(情報)」でのみメッセージが出力されます。

項目	説明
ソース	ServerView Infrastructure Manager
イベントID	5050(情報): LEDが正常(Off)となった場合 5051(警告): LEDが警告(On)となった場合 5052(異常): LEDが不明(Unknown)となった場合 5053(エラー): LEDがエラー(Blink)となった場合
メッセージ	Status has changed at {0} ({1}), {2} STATE: {3} PREVIOUS STATE: {4}. {0}: ファシリティ名 {1}: IPアドレス {2}: LED種別 (電源、エラー、CSS) {3}: 現在のLED状態 {4}: 直前のLED状態

*3 BX900 S2/BX400 S1ブレードシャーンのエラーLED表示は実機のエラーLED状態とは異なる場合があります。シャーンのエラーLEDが点灯または点滅している場合、該当シャーンのLEDまたはManagement BladeのWebUIを参照して対処してください。

*4: マルチノードサーバの場合、水冷オプションが搭載されているか判別する項目が以下のように表示されます。

- 水冷オプションが搭載されている場合: Enable
- 水冷オプションが搭載されていない場合: Disable

ワークエリアに表示される各オブジェクトを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

コンテキストメニューの項目と実行できる機能は次のとおりです。

• プロパティ

各機器のプロパティを参照、編集する[機器プロパティ]画面が表示されます。

表示される項目については、「表4.3 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目」を参照してください。

注意

- [FirstSight] 画面が表示された状態で機器プロパティの値を変更しても、変更内容は[FirstSight] 画面に反映されません。機器プロパティの値を変更する場合、編集する前に[FirstSight] 画面を閉じてください。[FirstSight] 画面を表示したまま機器プロパティを変更した場合、[FirstSight] 画面をいったん閉じて表示し直すと、変更内容が反映されます。
- 機器プロパティの変更内容は、ローカルノートの文字列を除いて [Profile Manager] 画面の情報には反映されません。

- 画面を開く
Webインターフェース(URL)およびサブURLが設定されている場合にメニュー項目が表示されます。
設定されたURL(機器のWeb GUIなど)が起動されます。
- <グループ定義名>
[FirstSight]画面を表示します。
詳細については、「[4.2.2.5 \[FirstSight\]画面](#)」を参照してください。
- 削除
選択した機器の情報を削除します。
- 移動
ICT機器のラック搭載位置を変更した場合に、情報を移動できます。
移動したい機器を選択し、コンテキストメニューから[移動]を選択すると、[機器移動]画面がポップアップ表示されます。
現在の搭載位置が表示されるので、移動先のラックを選択し搭載位置を決定すると、情報が移動します。
- 状態クリア
選択したICT機器またはファシリティ機器から故障や異常検知によるTrapのアラート通報を受信し、異常または警告を示すアイコンが表示されている場合にメニュー項目が表示されます。
異常または警告を示すアイコンが表示されている機器を選択し、コンテキストメニューから「状態クリア」を選択すると、異常または警告を示すアイコンがクリアされます。

表4.3 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目

タブ名称	項目	説明
プロパティ	機器名	機器名が表示されます。
	ベンダ名	ベンダー名が表示されます。
	型名	型名を表示／変更できます。
	S/N	シリアル番号を表示／変更できます。
	モデル名	モデル名を表示／変更できます。
	システム名	システム名を表示／変更できます。
	機器タイプ	機器タイプが表示されます。
	導入(設置)年月日	導入(設置)年月日が表示されます。
	IPアドレス	IPアドレスを表示／変更できます。
	MACアドレス	MACアドレスを表示／変更できます。
	アカウント	アカウントを表示／変更できます。
	パスワード	パスワードを変更できます。(入力したパスワードは*で表示されます)
	パスワード(確認)	
	コミュニティ名	コミュニティ名を表示／変更できます。
	Web i/f(URL)	機器をダブルクリック、または[画面を開く]-[Web i/f]を選択した場合に表示されるWebインターフェースのURLを表示／変更できます。
拡張	サブURL	サブURLの名称およびURLを表示／変更できます。 ここで設定したサブURLは、コンテキストメニュー[画面を開く]に追加されます。
	ローカルノート	ローカルノートを表示／変更できます。
	接続PDU	未サポートです。
センサー	センサー情報	ステータスアイコン、センサー名称、測定値が表示されます。 表示されるセンサーは選択した機器に応じて異なります。 詳しくは、「 表4.4 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目(表示されるセンサー) 」を参照してください。

タブ名称	項目	説明
管理OS (サーバ、サーバブレードを選択した場合のみ)	HOST名	HOST名を表示／変更できます。
	OS種別	OSを表示／選択できます。
	IPアドレス	OSのIPアドレスを表示／変更できます。
	アカウント(*1)	OSアクセスに使用するアカウントを表示／変更できます。
	パスワード	OSアクセスに使用するパスワードを変更できます。(入力したパスワードは*で表示されます)
	パスワード(確認)	

*1: 監視対象OSアクセスに使用するアカウントには、administratorおよびrootを使用してください。以下に例を示します。

- ・監視対象OSがWindowsでMicrosoft Active Directoryに属している場合:ドメイン名¥administrator
- ・監視対象OSがWindowsでMicrosoft Active Directoryに属していない場合:administrator
- ・監視対象OSがVMware/Linuxの場合:root



注意

FC/CNAカードを管理する場合、管理OSのアカウントとして、管理OS上でEmulex OneCommand Manager CLIまたはQLogic QConvergeConsole CLIを実行可能なアカウントを登録する必要があります。

表4.4 [ラック]画面 - 機器プロパティ項目(表示されるセンサー)

機器	センサー
シャーシ(*1)	消費電力(W)、水冷オプション(Enable/Disable)(*4)
サーバ、サーバブレード	識別灯、CPU温度(℃)、吸気温度(℃)、消費電力(W)、LED、水冷オプション(Enable/Disable)(*4)
Converged Fabric Switch	消費電力(W)、Fabric／Domain／Switch、吸気温度(℃)
Converged Fabric Switch Blade	消費電力(W)、Fabric／Domain／Switch
ストレージ(*2)	消費電力(W)、吸気温度(℃)、LED
スイッチ、FCスイッチ(*3)	吸気温度(℃)または筐体温度(℃)、消費電力(W)、LED
水冷RackCDU	FacilityIn(℃)、FacilityOut(℃)、ServerIn(℃)、ServerOut(℃)、吸気温度(℃)、Leak(Ok/Leak)、Level(Ok/Low)、Flow(ml/s)

*1: 消費電力を表示するためには、機器プロパティに適切なMMBのアカウントが設定されている必要があります。

*2: コントローラーエンクロージャーのみ。ドライブエンクロージャーにはセンサーは表示されません。

*3: 消費電力は富士通製スイッチの場合のみ表示されます。また、Cisco製スイッチの一部機種では筐体温度取得が未サポートとなります。Cisco製スイッチのWeb i/fで温度が表示されない機種では温度が取得されず、ISMのユーザーインターフェース上では常に「0」(℃)と表示されます。

*4: マルチノードサーバの場合、水冷オプションが搭載されているか判別する項目が以下のように表示されます。

- ・水冷オプションが搭載されている場合:Enable
- ・水冷オプションが搭載されていない場合:Disable

4.2.2.5 [FirstSight]画面

[FirstSight]画面では、ハードウェアの情報、ソフトウェアの情報、仮想マシン、レポートおよびイベントログ、消費電力などを1つの画面で管理できます。

[ラック]画面の機器コンテキストメニューからFirstSightまたはグループ名を選択し、[FirstSight]画面を表示します。

FirstSightの最新サポート環境については、弊社の本製品Webサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

1)サーバ

ここでは、[FirstSight]画面を機種ごとに説明します。

ポイント

[FirstSight]画面は、[グループ一覧]タブのワークエリアで[グループ設定]メニューを表示して操作することで表示できます。詳しくは、「4.2.3 [グループ一覧]タブ」を参照してください。

注意

- [FirstSight] 画面の表示には1分程度かかります。
- SNMPサービスで使用するコミュニティ名は、システム内で同一にしてください。
- 未サポート機器の場合、情報は保証されません。直接、MMB・iRMCなどに接続して確認してください。
- 監視対象サーバにアクセスできない場合、情報は表示されません。

[FirstSight] 画面で情報を表示するために、管理サーバから監視対象サーバへ「PINGコマンド」による通信を使用します。各監視対象サーバのIPアドレスに対し、PINGコマンドによる通信機能を有効にする必要があります。

情報を表示するためには、[\[ラック\]画面 - 機器プロパティ項目](#)で設定される情報(IPアドレス、コミュニティ名など)および管理OS項目で設定される情報(IPアドレス、アカウントなど)などが正しく設定されている必要があります。

機器プロパティ項目から設定値を変更した場合には、[FirstSight]画面を表示し直してください。

- FirstSight表示可能機器(サポート機器)を選択しても「FirstSight未サポート機器です」と表示された場合、モデル名が誤っている可能性があります。該当機器のモデル名が正しく登録されているか確認し、誤っている場合には該当機器の[機器プロパティ]画面で修正してください。

[機器プロパティ]画面は、[\[ラック\]画面](#)のワークエリア上の機器を右クリックして表示されるコンテキストメニューから「プロパティ」を選択すると表示されます。

モデル名は大文字、小文字が区別されます。また、適切な位置に半角スペースが入力されている必要があります。

(例: PRIMERGY RX200 S8、ETERNUS DX100 S3、PRIMEQUEST 2400S)

- 監視対象サーバの各OSからの情報取得は約10分間隔で実施しています。そのため、各OSから取得している項目(イベントログ情報や仮想マシン情報など)は、更新に最大約10分かかる場合があります。

図4.3 PRIMERGY BXシリーズ



図4.4 PRIMERGY RXシリーズ

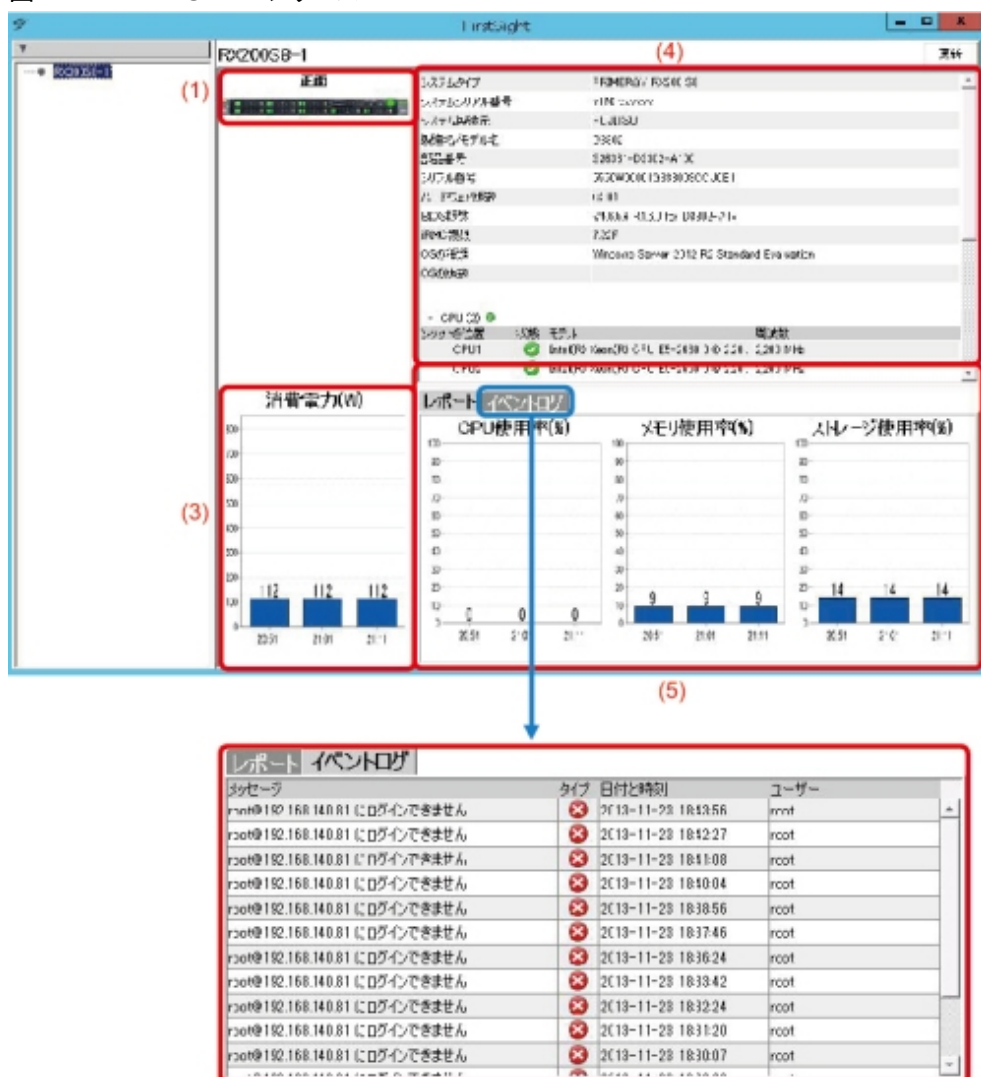


図4.5 PRIMERGY CXシリーズ



図4.6 PRIMEQUEST 2000シリーズ



図中の(1)～(5)の部分に表示される内容をそれぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	正面	- PRIMERGY BXシリーズの場合 PRIMERGY BXシリーズのシャーシの正面に搭載されているサーバの構成が表示されます。マウスカーソルを合わせると、名称が表示されます。 機器画像(サーバブレードまたはストレージブレード)またはスロットを選択すると、選択した機器またはスロットの情報が「(4)詳細情報表」、「(5)レポート／イベントログ」に連動して表示されます。 - PRIMERGY RX/CXシリーズの場合 PRIMERGY RX/CXシリーズの外観が表示されます。 アイコンについては「状態(ステータス)アイコン一覧」を参照してください。
(2)	背面、機器情報ツリー	- PRIMERGY BXシリーズの場合 PRIMERGY BXシリーズのシャーシの背面に搭載されているサーバの構成が表示されます。マウスカーソルを合わせると名称が表示されます。 - PRIMERGY CXシリーズの場合 機器画像(サーバノードの背面図)またはスロットを選択すると、選択した機器、またはスロットの情報が「(3)消費電力」、「(4)詳細情報表」、「(5)レポート／イベントログ」に連動して表示されます。 電源がONの場合、ノード背面外観の電源を示すLED部分が緑色に点灯し、状態(ステータス)を示すアイコンが表示されます。電源がOFFの場合、背面外観の電源を示すLED部分が消灯します。 - PRIMEQUEST 2000シリーズの場合 機器情報ツリーが表示されます。このツリーで選択した項目に応じて、「(4)詳細情報表」に表示される詳細情報が切り替わります。 各機器には、状態(ステータス)を示すアイコンが表示されます。 アイコンについては「状態(ステータス)アイコン一覧」を参照してください。
(3)	消費電力(W)	10分間に消費されたシステム平均消費電力が表示されます。 履歴は10分ごとに記録され、最大3件表示されます。 グラフの縦軸(目盛りの最大値)は100V電源に接続した場合の最大消費電力が表示されます。
(4)	詳細情報表	選択した機器の詳細情報が表示されます。 表示される項目については「表4.5 [FirstSight] 画面 - 詳細情報表」を参照してください。 表示される項目は選択された機器に応じて異なります。また、機種に応じて表示されない項目もあります。
(5)	レポート イベントログ	CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、ストレージ使用率(%)のレポートと、イベントログが表示されます。 CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、ストレージ使用率(%)のレポート情報は、[FirstSight]画面表示開始から10分ごとに最大3件が表示されます。 Red Hat Enterprise Linuxの場合は、ユーザーが使用したCPU使用率、システムが使用したCPU使用率の2種類が表示されます。 ストレージ使用率は、各OSによって使用率の高い3件が以下のとおり表示されます。 - Windowsの場合:ドライブごと - VMwareの場合:Data Storeごと - Red Hat Enterprise Linuxの場合:マウント位置ごと イベントログは、OSのイベントログ(ホスト)のOSによって以下のとおり表示されます。

No.	項目	説明
		- Windows/VMwareの場合:警告、異常のカテゴリから最新の50件 - Red Hat Enterprise Linuxの場合:最新の50件 OS側で出力形式を変更した場合、イベントログ情報が表示されない場合があります。 イベントログ情報の表示には20秒程度かかる場合があります。イベントログにマウスカーソルを合わせると、メッセージがポップアップされます。

注意

- 消費電力情報が表示されるタイミングと、レポート情報が表示されるタイミングは同期しない場合があります。
- 監視対象サーバのOSと通信できない場合、レポート、イベントログなど表示項目中の一部の情報は取得できません。「[表4.3 \[ラック\]画面 - 機器プロパティ項目](#)」の「管理OS」項目が正しいかどうか確認してください。
- イベントログを正常に取得できないとき、収集中の状態が続く場合があります。10分以上続く場合は、Facility Managerのすべての画面を閉じたあと、再度表示してください。
- サーバおよびブレードサーバの電源がOFFになっている場合は、非搭載と表示される場合があります。

表4.5 [FirstSight] 画面 - 詳細情報表

項目	表示される項目
製造モデル	製造モデル(*1)
製造元	製造元(*1)
製造名	製造名(*1)
ユニット図番	ユニット番号(*1)
システムタイプ	システムタイプ(*1)
システムシリアル番号	システムシリアル番号(*1)
システム製造元	システム製造元(*1)
製造名/モデル名	製造名/モデル名(*1)
製造モデル	製造モデル(*1)
部品番号	部品番号(*1)
シリアル番号	シリアル番号
識別シリアル番号	識別シリアル番号(*1)
ファームウェア版数	ファームウェア版数(*1)
BIOS版数	BIOS版数
ハードウェア版数	ハードウェア版数
iRMC版数	iRMC版数(*1)
OSの種類	OSの種類
OSの版数	OSの版数
CPUの情報	ソケットの位置、状態、モデル、周波数
メモリの情報	ソケットの位置、状態、種類(*1)、容量
メザニンカードの情報	搭載位置、状態、種類(*2)
PCIアドインカードの情報	状態(*4)、種類(*2)
ディスクドライブの情報(*5)	ベイ、状態(*4)、容量、種類(*4)
仮想マシンの情報	名前(*3)、状態(*3)

項目	表示される項目
電源・FAN	搭載位置(*1)、状態(*1)、種類(*1)
パーティションの情報	名称、電源状態、システム状態、コア/最大コア数、メモリ容量

*1: 機種によっては表示されません。

*2: 本ソフトウェア出荷時にサポートされている場合に表示されます。

*3: 監視対象がWindowsで、かつHyper-v機能が有効でない場合は、「通信不可」と表示されます。監視対象がRed Hat Enterprise Linuxの場合は「対象外」と表示されます。

*4: iRMCのOOB(Out-of-Band)RAID機能から情報取得している場合は、「N/A」と表示されます。

*5: サーバに搭載されているハードディスクがServerView RAID Manager上では表示されない構成のとき、「通信不可」と表示される場合があります。

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks／FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloudをご使用の場合、PRIMERGY SX980 S2ストレージブレードを選択すると、[FirstSight]画面 - 詳細情報表には以下の内容が表示されます。

表4.6 [FirstSight] 画面 - 詳細情報表 (FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks／FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloudをご使用の場合)

項目	表示される項目
製造モデル	製造モデル
製造元	製造元
製造名	製造名
ユニット図番	ユニット番号
シリアル番号	シリアル番号
識別シリアル番号	識別シリアル番号
ファームウェア版数	ファームウェア版数
ハードウェア版数	ハードウェア版数
ストレージ/ディスクドライブ	ベイ、状態、容量、種類

ポイント

ストレージブレード選択時に表示されるディスクドライブの情報は、選択されたSlotに関係なくシャーシに搭載されているすべてのディスクドライブ情報が表示されます。

ストレージブレード選択時は、CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、イベントログは対象外と表示されます。

注意

- 監視対象サーバの各OSにおけるファイアウォールの設定方法は以下のとおりです。必要に応じて、ファイアウォールの設定を行ってください。ポート番号はデフォルト使用時の値です。

監視対象サーバのOS	ファイアウォールの設定
Windows	以下のファイアウォール受信規則を有効にしてください。ドメイン環境をご使用の場合は、プロファイルにドメインを選択してください。 - Windows Management Instrumentation (DCOM受信・非同期受信・WMI受信) - SNMPサービス(UDP受信) また、ping機能を有効にするために、以下の受信規則を有効にしてください。

監視対象サーバのOS	ファイアウォールの設定
	ファイルとプリンターの共有 (エコー要求 - ICMPv4受信)
Red Hat Enterprise Linux	以下のファイアウォールのポートを解放してください。 22 (TCP) : SSH 161 (UDP) : SNMP
VMware	以下のファイアウォールのポートを解放してください。 443 (TCP) : HTTPS 5988、5989 (TCP) : CIM

- 「ディスクドライブの情報」や「PCI アドインカードの情報」を表示するための注意事項は以下のとおりです。情報取得の方法に応じて、該当する内容を参照してください。

ー ServerView RAID Managerを使用して情報取得する場合

事前に監視対象サーバおよび管理サーバで、ServerView RAID Managerなどのインストールおよび設定が必要です。監視対象サーバの各OSにおける設定方法は以下のとおりです。

監視対象サーバのOS	設定方法
Windows	- SNMPサービスのインストール - 監視対象サーバにServerView RAID Managerをインストール - 監視対象サーバおよび管理サーバにおいて、SNMPサービスの[セキュリティ]タブでコミュニティを設定し、SNMPパケットでの通信を許可
Red Hat Enterprise Linux	- net-SNMPなどのパッケージのインストール - 監視対象サーバにServerView RAID Managerをインストール - 監視対象サーバの/etc/.../snmpd.confで、SNMPサービスのコミュニティを設定し、管理サーバとのSNMPパケットの通信を許可 - 管理サーバにおいて、SNMPサービスの[セキュリティ]タブでコミュニティを設定し、管理サーバとのSNMPパケットの通信を許可
VMware ESXi (*1)	- 管理サーバにServerView RAID Managerをインストール - 管理サーバのServerView RAID ManagerにESXiハイパーバイザー接続情報を追加

*1:ESXiハイパーバイザーをホスト名で登録すると、「通信不可」と表示され、ディスクドライブの情報やPCIアドインカードの情報は取得できません。

ー iRMCのOOB(Out-of-Band)RAID機能を使用して情報取得する場合

ServerView RAID Managerと通信できない場合、以下の条件を満たすRAIDコントローラーについて、Baseboard Management Controller(BMC)を介して情報を取得できます。

- アウトオブバンド対応 RAID コントローラーが監視対象サーバで使用可能
- サーバの電源が入っており、システムが現在 BIOS POST フェーズにない場合

表示される情報は、上記ServerView RAID Managerから情報を取得する場合と比較して制限されています。詳しくは「[表4.5 \[FirstSight\] 画面 - 詳細情報表](#)」を参照してください。

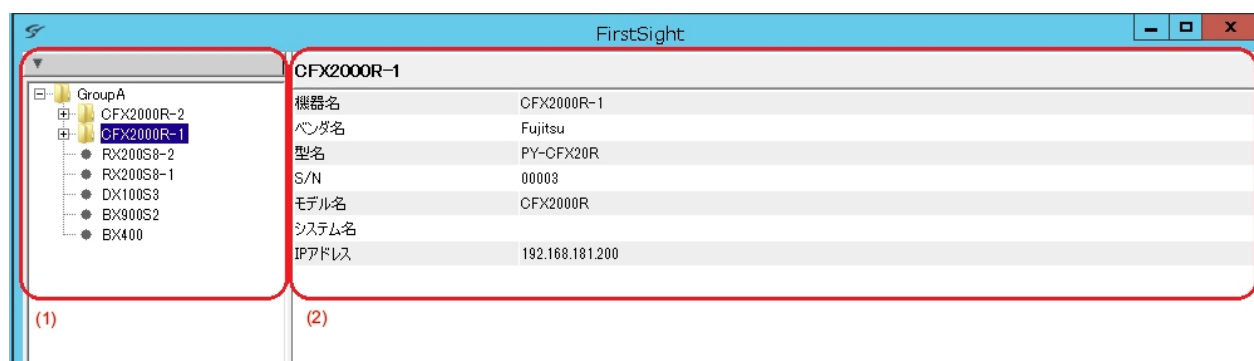
- 監視対象サーバがVMwareの場合、「仮想マシンの情報」を正しく表示するには、各仮想マシンに対してVMware toolsのインストールが必要になることがあります。

2)サーバ以外

ETERNUS DXシリーズなどのサーバ以外の機器の情報を表示します。
機器名、ベンダ名、型名、S/N、モデル名、システム名、IPアドレスが表示されます。

3)グループ定義された機器

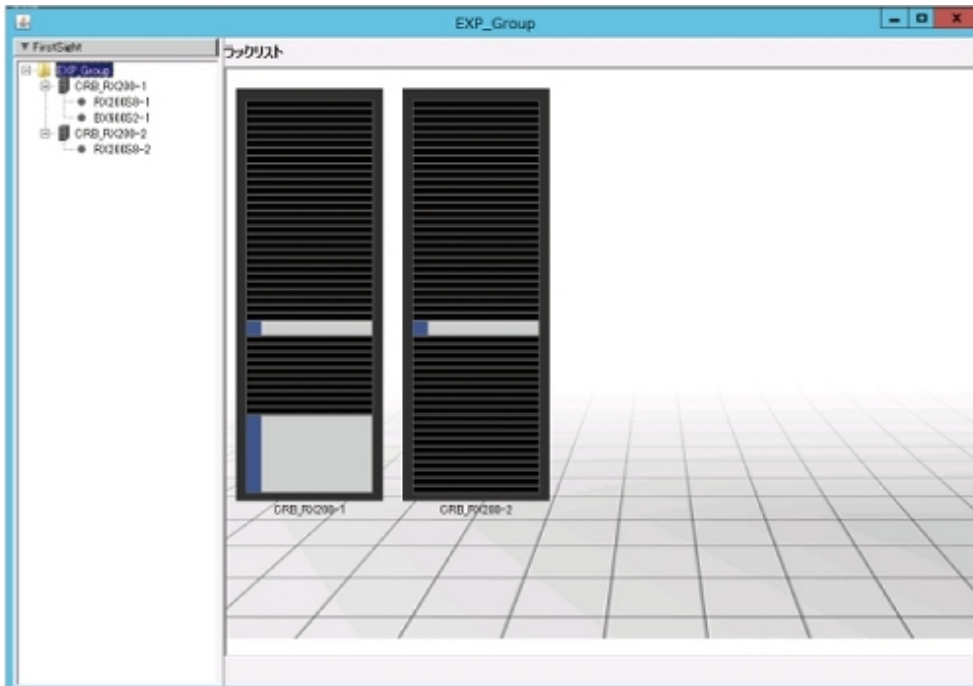
[FirstSight]画面では、グループごとに機器構成を管理できます。
グループ設定を使って機器構成を定義するためには、事前にグループを定義しておく必要があります。
グループの定義方法について詳しくは、「[4.2.3 \[グループ一覧\]タブ](#)」を参照してください。
[ラック]画面の機器コンテキストメニューからグループ名を選択し、[FirstSight]画面を表示できます。



[FirstSight]画面の(1)、(2)の部分に表示される内容をそれぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択したラックに搭載されている機器の情報が、ワークエリアに表示されます。
(2)	ワークエリア	選択した項目に応じて、表示される内容が異なります。
	グループ名	グループに所属しているラックリストが表示されます。 表示イメージは「 図4.7 [FirstSight] 画面 - ラックリスト 」を参照してください。
	サーバ	監視対象サーバの情報が表示されます。 詳しくは、「 1)サーバ 」を参照してください。
	その他機器 (ETERNUS DXシリーズなど)	サーバ以外の監視対象の情報が表示されます。 詳しくは、「 2)サーバ以外 」を参照してください。

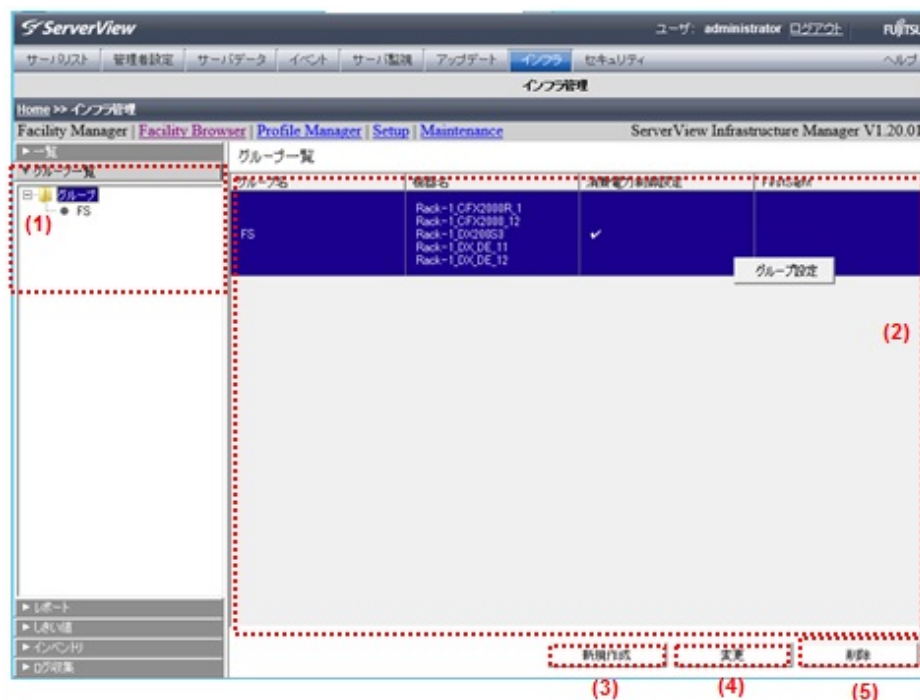
図4.7 [FirstSight] 画面 - ラックリスト



4.2.3 [グループ一覧]タブ

[Facility Manager]画面の[グループ一覧]タブには、ユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。

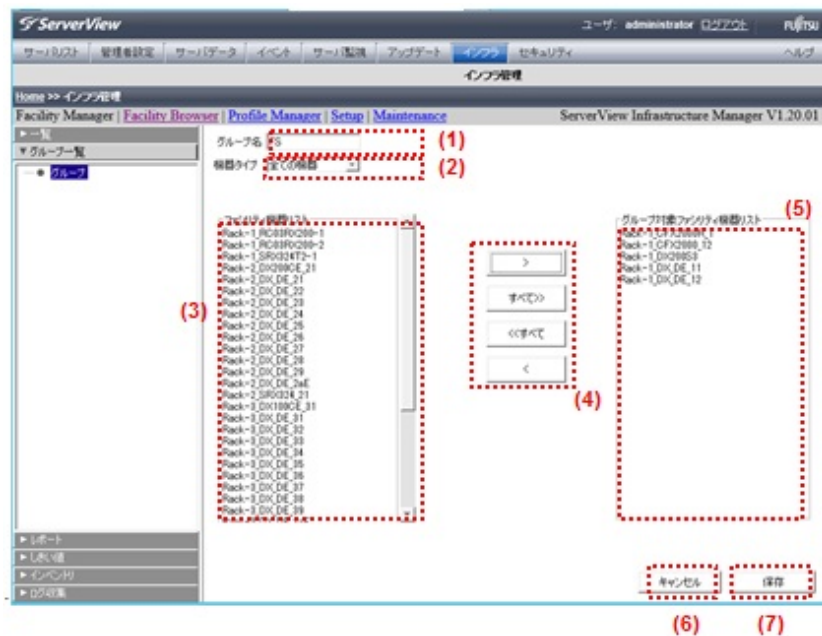
ここで作成したグループを、消費電力制御の対象としたり、[FirstSight]画面に表示したりできます。



No.	項目	説明
(1)	[グループ]	クリックすると、ワークエリアにユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。 グループを選択して右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

No.	項目	説明
		メニューから「消費電力制御設定」を選択すると、[消費電力制御設定]画面が表示され、ICT機器の電力モニタリングと省電力制御の設定や実行を行えます。 詳しくは、「 4.2.9 [消費電力制御設定]画面 」を参照してください。
(2)	ワークエリア	ユーザーが作成したグループの一覧が表示されます。 また、作成したグループを右クリックすると[グループ設定]メニューが表示され、グループに対して「消費電力制御設定」を行う、または「FirstSight表示」を行うかを設定できます。 ・「消費電力制御設定」を行う場合 [消費電力制御設定]画面が表示されます。詳しくは、「4.2.9 [消費電力制御設定]画面」を参照してください。 ・「FirstSight表示」を行う場合 [FirstSight]画面が表示されます。グループに含まれる機器がすべてFirstSight未サポート機種の場合には以下の警告メッセージが表示されます。 グループ設定されている機器が全てFirstSight未サポートです。 詳しくは、「4.2.2.5 [FirstSight]画面」を参照してください。
(3)	[新規作成]ボタン	クリックすると、グループを新規作成するための[グループ作成]画面が表示されます。
(4)	[変更]ボタン	作成したグループを選択した場合に使用できます。 クリックすると、グループを修正可能な[グループ作成]画面が表示されます。
(5)	[削除]ボタン	選択しているグループが削除されます。

[グループ作成]画面



No.	項目	説明
(1)	グループ名	グループ名を全角／半角32文字以内で入力します。 グループの変更を行う場合、グループ名は変更できません。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器を選択します。選択すると、該当する機器が「(3) ファシリティ機器リスト」に表示されます。

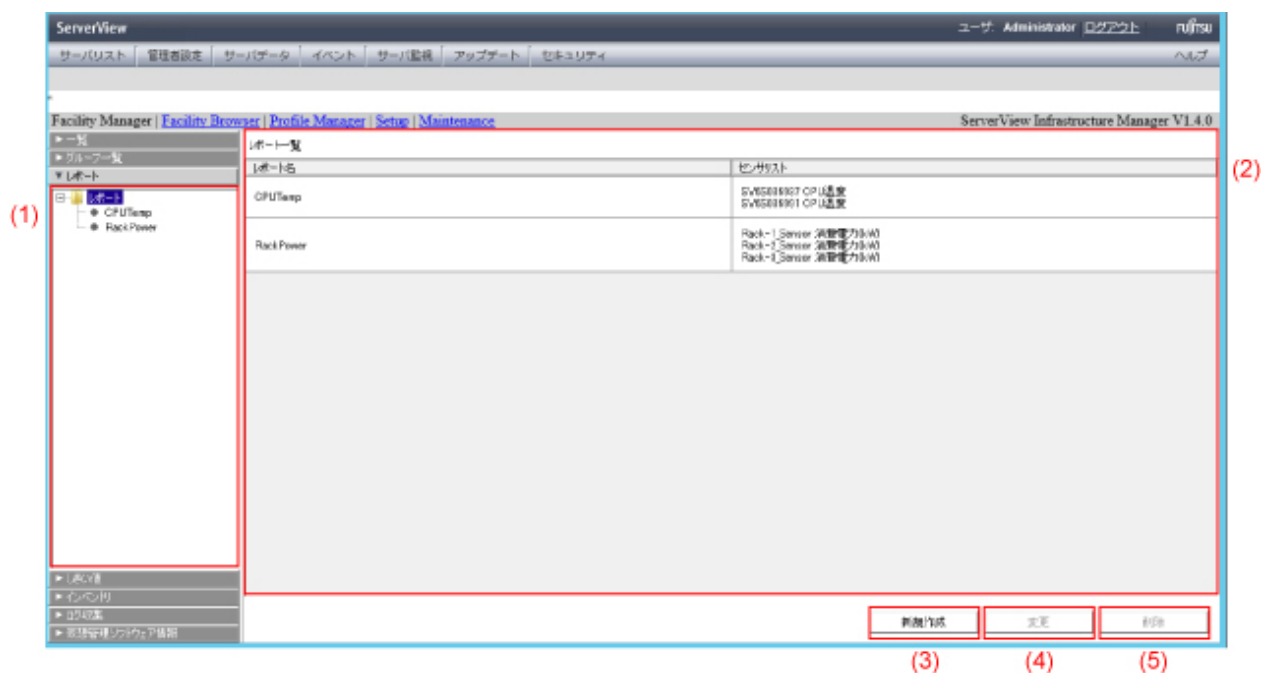
No.	項目	説明
(3)	ファシリティ機器リスト	「(2) 機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧が表示されます。 [Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(4)	[選択]ボタン	以下のボタンでグループに追加する機器の選択、選択の取消しを行います。 • [>] 「ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象とします。 • [すべて>>] 「ファシリティ機器リスト」に表示されている機器すべてを対象とします。 • [<<すべて] 「グループ対象ファシリティ機器リスト」に表示されている機器すべてを取り消します。 • [<] 「グループ対象ファシリティ機器リスト」で選択した機器を取り消します。
(5)	グループ対象ファシリティ機器リスト	グループ対象とする機器の一覧が表示されます。
(6)	[キャンセル]ボタン	グループ設定を取り消し、画面を閉じます。
(7)	[保存]ボタン	グループ設定を保存し、画面を閉じます。

ポイント

[FirstSight]画面でPRIMERGY BXシリーズを表示する場合、グループ対象ファシリティ機器リストにはシャーシを追加してください。サーバブレードのみ追加しても[FirstSight]画面には表示されません。

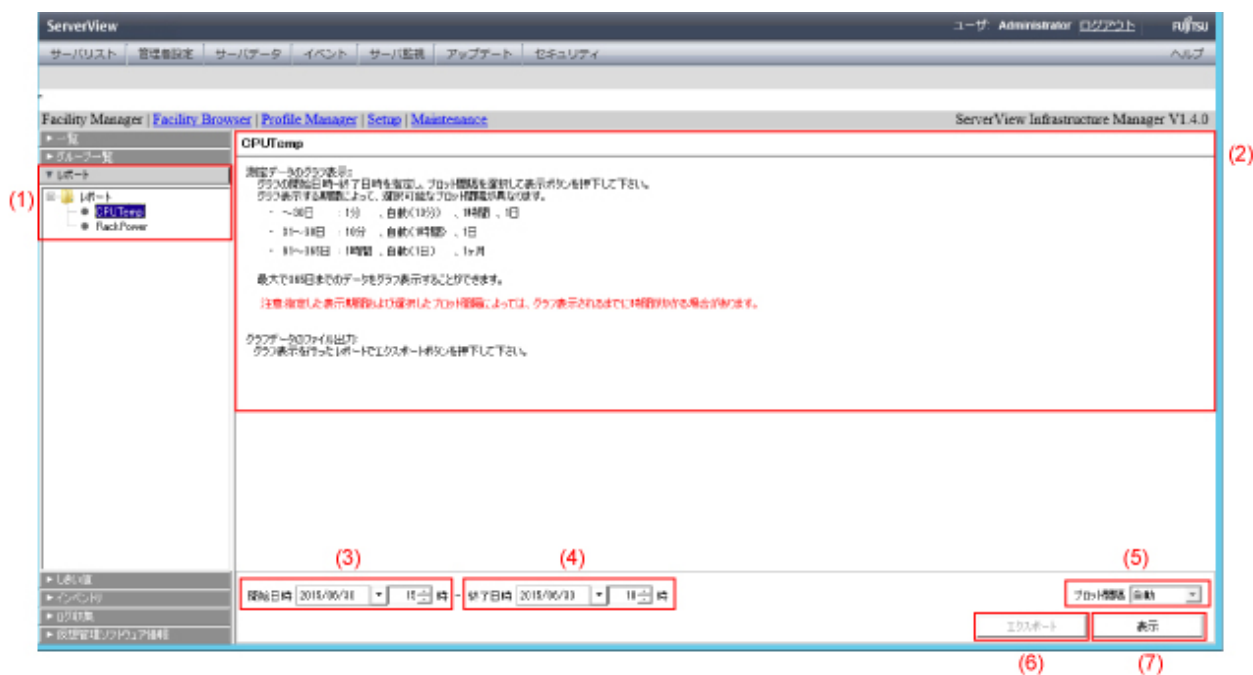
4.2.4 [レポート]タブ

[Facility Manager]画面の [レポート]タブには、ユーザーが作成したレポートの一覧が表示されます。ユーザーが任意に選択したセンサー（温度、消費電力など）のデータをグラフとして表示したり、CSVファイルとしてエクスポートすることができます。



No.	項目	説明
		「(5) センサリスト」で選択したセンサーを対象とします。 • [すべて>>] 「(5) センサリスト」に表示されているセンサーすべてを対象とします。 • [<<すべて] 「(7) レポート対象センサリスト」に表示されているセンサーすべてを取り消します。 • [<] 「(7) レポート対象センサリスト」で選択したセンサーを取り消します。
(7)	レポート対象センサリスト	レポートで表示対象とするセンサーの一覧が表示されます。 最大24個までセンサーを指定できます。
(8)	[キャンセル]ボタン	レポート設定を取り消し、画面を閉じます。
(9)	[保存]ボタン	レポート設定を保存し、画面を閉じます。 単位の異なるセンサーが選択されていると、警告メッセージが表示され保存できません。

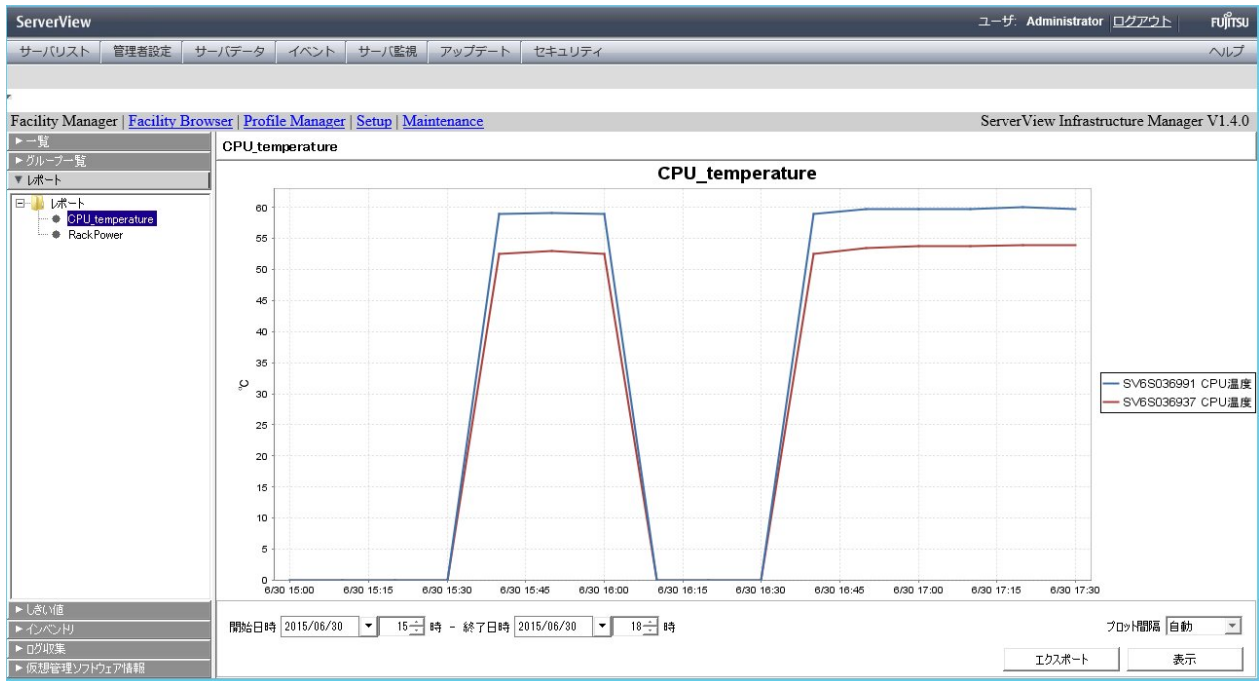
[レポート選択]画面



No.	項目	説明
(1)	レポート(個別)	個別のレポートをクリックすると、レポートを選択した状態になります。 開始日時、終了日時、プロット間隔を指定し、[表示]ボタンをクリックすると、ワークエリアにグラフが表示されます。
(2)	ワークエリア	初期状態([表示]ボタンがクリックされるまで)では、操作ガイダンスが表示されます。[表示]ボタンをクリックすると、現在選択しているレポートのグラフが表示されます。表示イメージは、「4.8 [レポート選択]画面 - グラフ表示」を参照してください。 グラフ上で、マウスを使用して範囲を指定すると、拡大・縮小できます。
(3)	開始日時	グラフを表示する開始日時を指定します。
(4)	終了日時	グラフを表示する終了日時を指定します。

No.	項目	説明
(5)	プロット間隔	グラフのプロット間隔を、「1分」、「10分」、「1時間」、「1日」、「1ヶ月」から選択します。開始日時と終了日時の範囲で自動的に初期値が決定されます。 ～30日:10分 31～90日:1時間 91日～365日:1日
(6)	[エクスポート]ボタン	グラフを表示しているレポートがcsv形式で出力されます。
(7)	[表示]ボタン	クリックすると、指定した表示期間のグラフが表示されます。

図4.8 [レポート選択]画面 - グラフ表示



P ポイント

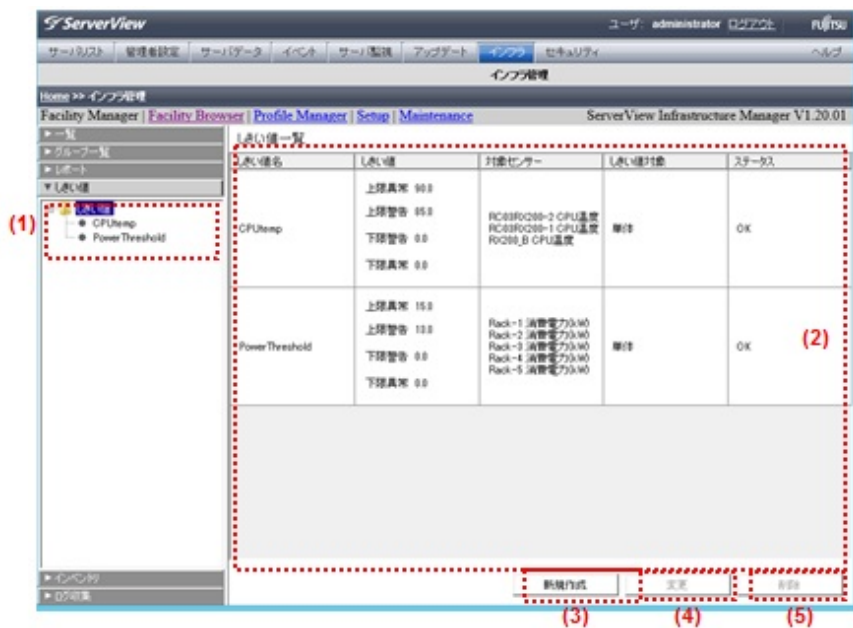
レポートに定義されているセンサー数、グラフ表示時に選択した期間、プロット間隔によっては、以下のメッセージがポップアップされる場合があります。

JavaVMのヒープメモリ容量が不足しています。
期間またはプロット間隔を変更してください。

本メッセージが表示された場合は期間を短くする、またはプロット間隔を長くしてグラフ表示を行ってください。

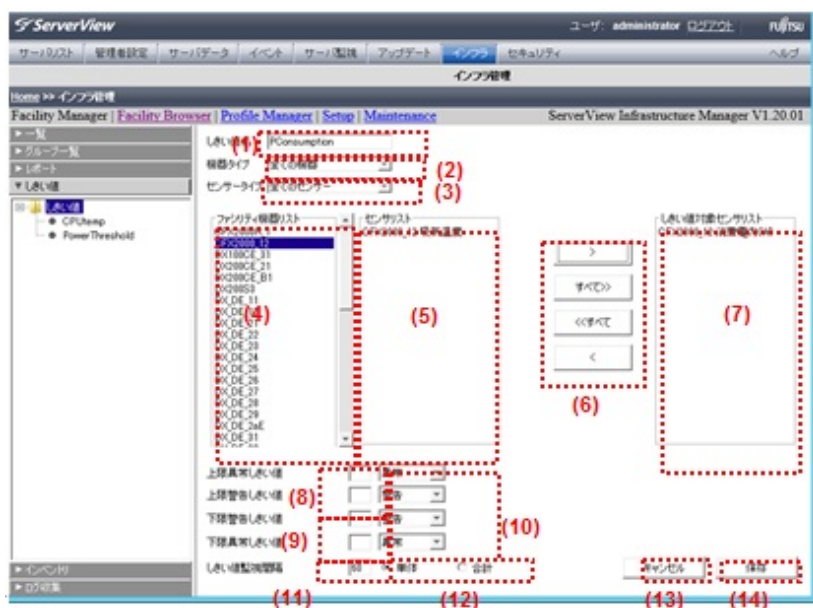
4.2.5 [しきい値]タブ

[Facility Manager]画面の[しきい値]タブには、ユーザーが作成したしきい値の一覧が表示されます。
ユーザーが任意に選択したセンサー(温度、消費電力など)に対して任意のしきい値を設定し、しきい値を超過した場合に通知を行うことができます。



No.	項目	説明
(1)	[しきい値]	クリックすると、ユーザーが作成したしきい値の一覧がワークエリアに表示されます。最大255個のしきい値を定義できます。 ツリービューを開き、表示されるしきい値名を選択すると、ワークエリアには、選択したしきい値のみ表示され、しきい値設定を変更できます。
(2)	ワークエリア	ユーザーが作成したしきい値の一覧が表示されます。 しきい値名、設定されているしきい値、監視対象のセンサーリスト、しきい値の監視単位(単体値、合計値)、ステータス(通常=OK、しきい値超過検出=NG)が表示されます。
(3)	[新規作成] ボタン	クリックすると、しきい値を新規作成するための[しきい値設定]画面が表示されます。
(4)	[変更] ボタン	「(1)しきい値」で、既存のしきい値を選択すると使用できるようになります。 クリックすると、既存のしきい値を変更するための[しきい値設定]画面が表示されます。
(5)	[削除] ボタン	表示されているしきい値(「(1)しきい値」で選択したしきい値)が削除されます。

[しきい値設定]画面



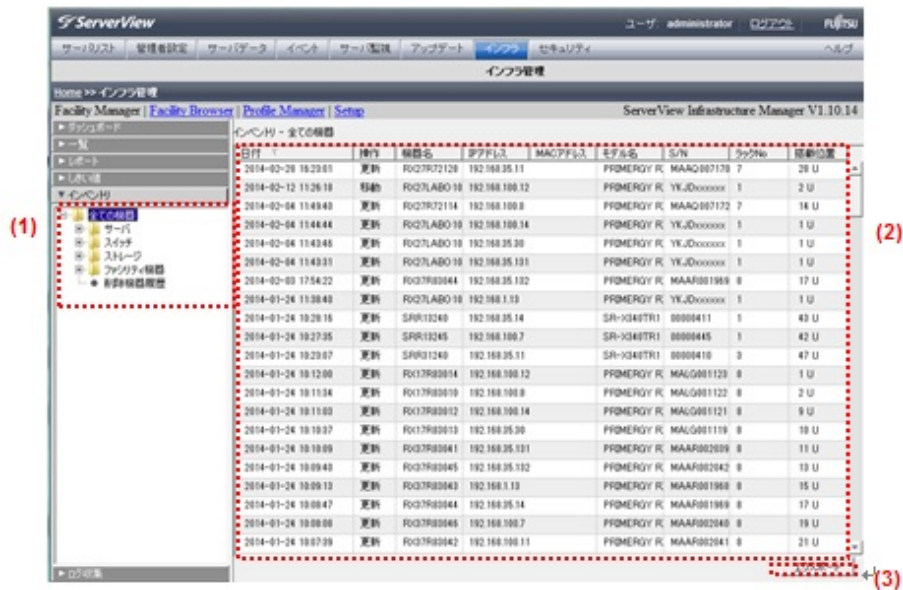
No.	項目	説明
(1)	しきい値名	しきい値の監視定義名を全角／半角32文字以内で入力します。
(2)	機器タイプ	表示する情報を持つ機器のタイプ (PRIMERGY、PRIMEQUESTなど) を選択します。 選択すると、該当する機器が「(4) ファシリティ機器リスト」に表示されます。
(3)	センサータイプ	「(2) 機器タイプ」で選択した機器に該当するセンサーのタイプ (CPU温度、消費電力など) に絞り込んで表示されるので、表示するセンサーのタイプを選択します。
(4)	ファシリティ機器リスト	「(2) 機器タイプ」で選択した機器に該当する機器一覧が表示されます。 [Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(5)	センサリスト	「(4) ファシリティ機器リスト」で選択した機器を対象として、「(3) センサータイプ」で選択されたセンサーに一致するセンサーの一覧が表示されます。 [Shift]キーまたは[Ctrl]キーを押しながらクリックすると、複数の機器を選択できます。
(6)	[選択]ボタン	以下のボタンで「(5) センサリスト」と「(7) しきい値対象センサリスト」間で対象の選択、選択の取消しを行います。 ・ [>] 「(5) センサリスト」で選択したセンサーを対象とします。 ・ [すべて>>] 「(5) センサリスト」に表示されているセンサーすべてを対象とします。 ・ [<<すべて] 「(7) しきい値対象センサリスト」に表示されているセンサーすべてを取り消します。 ・ [<] 「(7) しきい値対象センサリスト」で選択したセンサーを取り消します。
(7)	しきい値対象センサリスト	しきい値の監視対象とするセンサーの一覧が表示されます。 最大255個までセンサーを指定できます。
(8)	上限異常しきい値／上限警告しきい値	センサーの計測値が上昇した場合、最初に警告として通知するしきい値を「上限警告しきい値」で指定します。 そのまま上昇を続けた場合、異常として通知するしきい値を「上限異常しきい値」で指定します。 しきい値の監視対象外とする場合、0を指定します。

No.	項目	説明
		単位は以下のとおりです。 温度:℃、電力・消費電力・冷却出力:kW、消費電力量:kWh、 電圧:V、電流:A
(9)	下限警告しきい値／下限異常しきい値	センサーの計測値が下降した場合、最初に警告として通知するしきい値を「下限警告しきい値」で指定します。 そのまま下降を続けた場合、異常として通知するしきい値を「下限異常しきい値」で指定します。 しきい値の監視対象外とする場合、0を指定します。 単位は以下のとおりです。 温度:℃、電力・消費電力・冷却出力:kW、消費電力量:kWh、 電圧:V、電流:A
(10)	通知設定	しきい値超過を検出した場合の通知の重要度を指定します。「異常」、「警告」、「正常」から任意に指定できます。 初期値は以下のとおりです。 ・「上限異常しきい値」:異常 ・「上限警告しきい値」:警告 ・「下限警告しきい値」:警告 ・「下限異常しきい値」:異常
(11)	しきい値監視間隔	60～3600(秒)の範囲で指定します。
(12)	しきい値の監視単位	「(7)しきい値対象センサリスト」で選択したセンサーの計測値を、単体で監視するか、合計値として監視するか選択します。
(13)	[キャンセル]ボタン	しきい値設定を取り消し、画面を閉じます。
(14)	[保存]ボタン	しきい値設定を保存し、画面を閉じます。

4.2.6 [インベントリ]タブ

[Facility Manager] 画面の[インベントリ]タブには、管理している機器を登録・更新・削除した履歴情報が表示されます。

- ・登録:ISMに機器を登録した日時
- ・更新:プロパティ情報が更新された日時
- ・削除:機器を削除した日時



No.	項目	説明
(1)	ツリーエリア	ここで選択した機器に応じて表示が切り替わります。 選択した機器（サーバ／スイッチ／ストレージファシリティ機器）で、登録されているものの一覧がツリーに展開され、ワークエリアに表示されます。 [全ての機器]を選択した場合には、登録されているすべてのICT機器およびファシリティ機器の一覧がワークエリアに表示されます。 [削除機器履歴]を選択した場合は、削除した機器の一覧が表示されます。
(2)	ワークエリア	ツリーエリアで選択した機器の一覧が表示されます。 一覧に表示される項目は以下のとおりです。 ・ [日付]: 操作を行った日付 ・ [操作]: 「登録」、「更新」、「削除」のどれか ・ [機器名]: 管理対象の機器名 ・ [IPアドレス] ・ [MACアドレス] ・ [モデル名] ・ [S/N] ・ [ラックNo]: 搭載したラック番号 ・ [搭載位置]: ラックの搭載したユニット番号
(3)	[エクスポート]ボタン	ワークエリアに表示されている一覧がcsv形式で出力されます。

ワークエリアに表示される一覧の各行を右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

コンテキストメニューの項目と実行できる機能は以下のとおりです。

- 履歴

選択した機器の [操作履歴] 画面がポップアップ表示されます。

[操作履歴]画面

No.	項目	説明
(1)	属性情報	機器名、IPアドレスなど、管理情報を表示されます。 情報が変更された箇所は赤字で表示されます。
(2)	操作履歴	操作内容(登録、変更)と操作した日付などの履歴が表示されます。
(3)	[履歴削除]ボタン	「(2) 操作履歴」で選択した履歴が削除されます。
(4)	[エクスポート]ボタン	「(2) 操作履歴」の内容がcsv形式で出力されます。
(5)	[閉じる]ボタン	画面を閉じます。

4.2.7 [ログ収集]タブ

[Facility Manager]画面の[ログ収集]タブでは、ログ収集の対象とする機器を選択し、収集したログをダウンロードできます。
画面および操作については、「[5.6.14 ログのダウンロード](#)」を参照してください。

4.2.8 [仮想管理ソフトウェア情報]タブ

[Facility Manager]画面の[仮想管理ソフトウェア情報]タブには、vCenter、System CenterまたはOpenStackと連携してESXiホスト、Hyper-Vホスト、Linuxホストおよび仮想マシンの情報が表示されます。

本機能を使用するためには、[Setup]画面の[仮想管理ソフトウェア設定]で仮想管理ソフトウェアが登録されている必要があります。登録されていない場合、「仮想管理ソフトウェアが登録されていません」と表示されます。



登録方法の詳細については、「[3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定](#)」を参照してください。

vCenter、System CenterまたはOpenStackの情報が登録されている場合、登録されている仮想管理ソフトウェア数が表示されます。



画面左側のツリーエリアには、vCenter、System Center、OpenStackのIPアドレス一覧が表示されます。

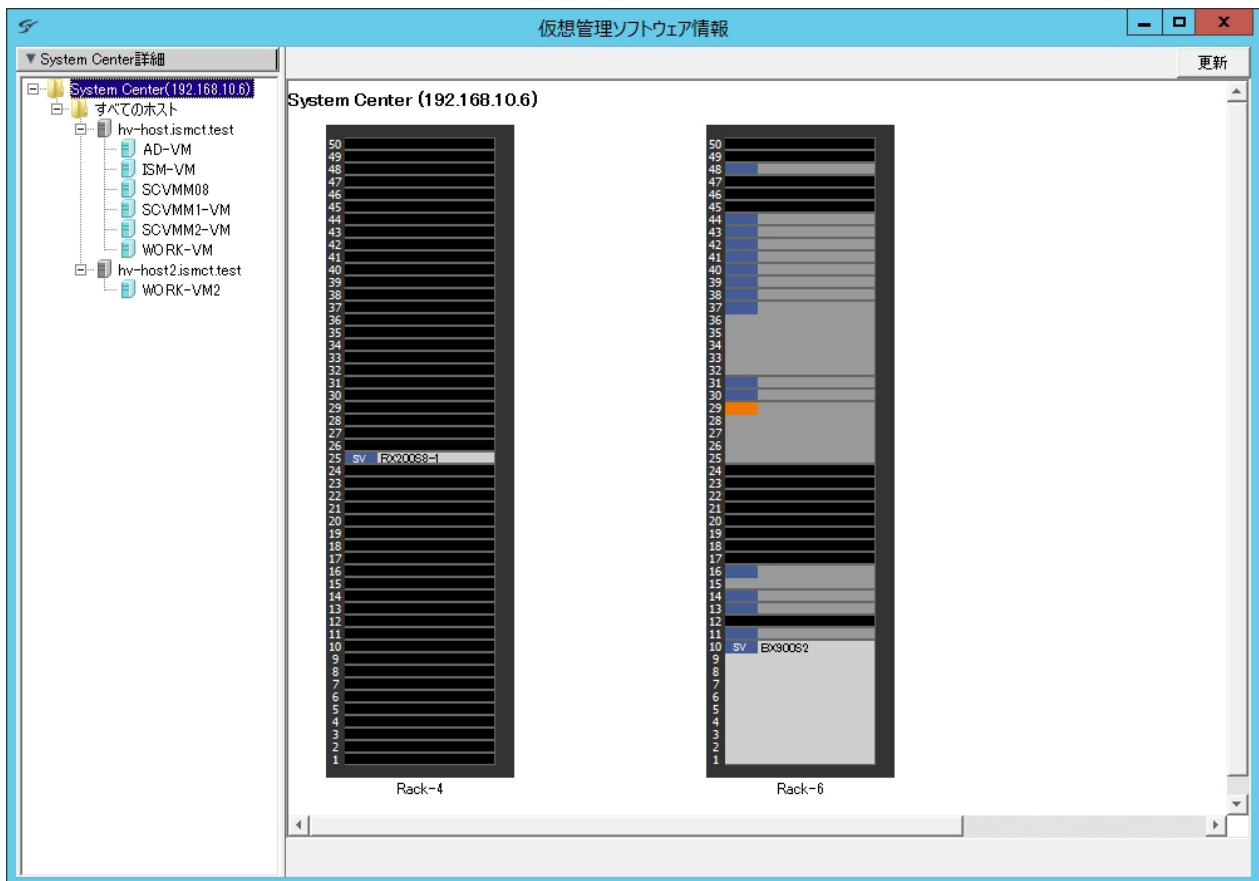
ツリーエリアで「vCenter」、「System Center」、「OpenStack」を選択した場合、ワークエリアに表示される情報は以下のとおりです。



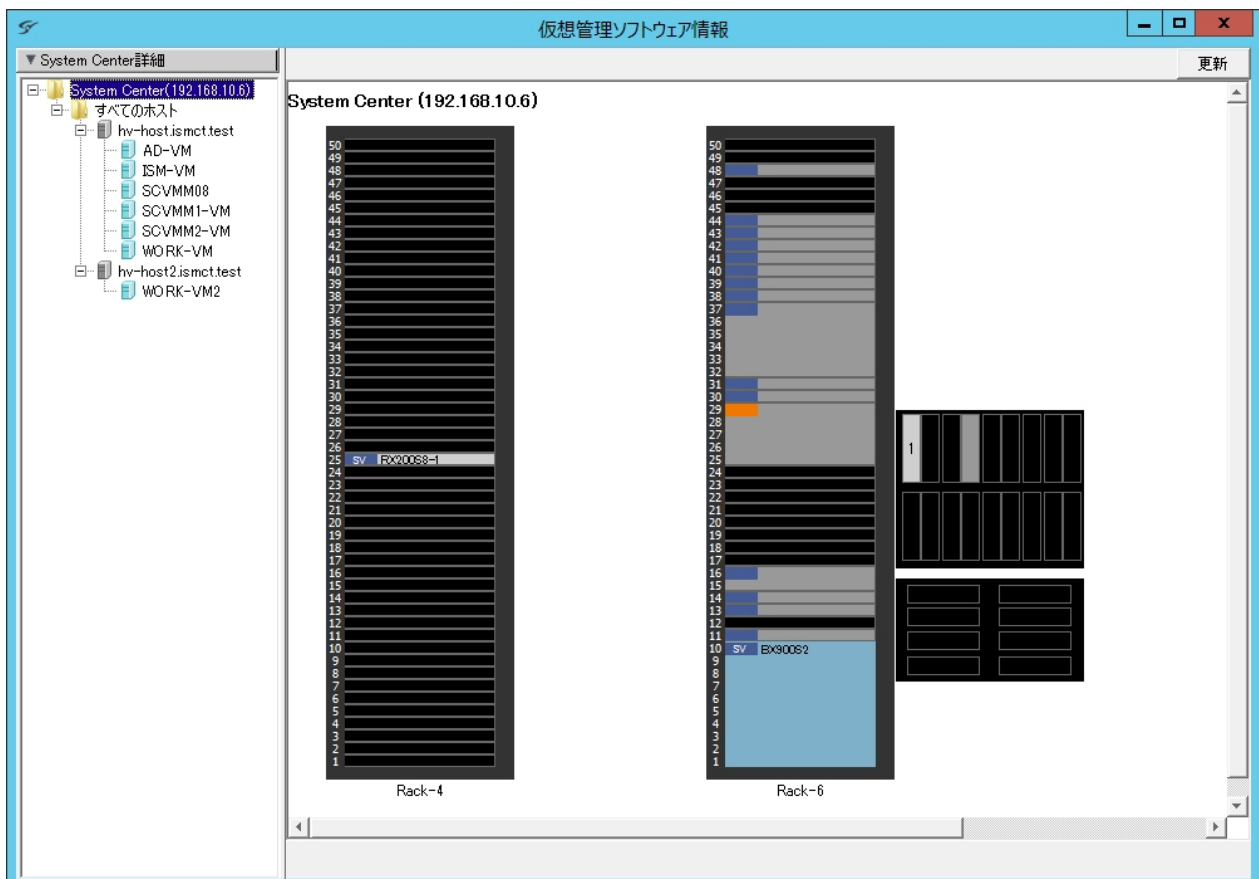
項目	説明
vCenter	vCenterバージョン、ビルド番号、IPアドレス
System Center	サーバ名、SCVMMバージョン、プロダクトID、IPアドレス
OpenStack	IPアドレス、リージョン

「vCenter」、「System Center」、「OpenStack」を選択し、画面右下にある[詳細表示] ボタンをクリックすると、詳細画面が表示されます。

詳細画面では、vCenter、System Center、OpenStackの管理下にあるホストがインストールされたサーバの物理位置情報が表示されます。



サーバブレードにホストがインストールされている場合、ラック内のシャーシをクリックすると、シャーシ内の情報が表示されます。



注意

ホストがインストールされたサーバがISMに機器登録されていない場合、そのサーバの物理位置情報は表示されません。

また、ホストがインストールされたサーバに対してOSのIPアドレスが設定されている必要があります。[一覧]画面の該当機器のプロパティよりOSのIPアドレスを設定してください。

ポイント

ツリーエリアでフォルダーやデータセンター（フォルダーアイコン）を選択すると、そのフォルダーやデータセンターに属するホストのみに絞り込んだ物理位置情報を表示できます。

ツリーエリアでホストを選択すると、ホストの物理搭載位置とvCenter、System Center、OpenStackから取得可能な簡易的なホスト情報が表示されます。

表示されるホスト情報は次のとおりです。

vCenterの場合

項目	説明
ESXiホスト名	ESXiホストマシンの名称。 DNS設定していない場合はIPアドレスが名称となります。
電源ステータス	サーバの電源状態。 パワーオフの場合通信不可となり電源状態が取得できないため不明となります。
OS種別	ESXiのOS名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのIPアドレス。

項目	説明
ベンダー名	ホストマシンのサーバベンダー名。
モデル名	ホストマシンのサーバモデル名。
シリアル番号	ホストマシンのサーバシリアルナンバー。
プロセッサ名	プロセッサのメーカーとタイプ。
ソケット数	ホストのメインボードにあるプロセッサソケットの数。
コア数	プロセッサソケットあたりのCPUコアの数。
NIC数	ホストマシンに設置されたNICの数。
メモリ容量	ホストマシンのメモリ容量。
メモリ消費量	ホストマシンで使用されたメモリ容量。
仮想マシン数	ホストマシン配下の仮想マシンの数。

また、ホスト情報の下にはデータストア情報が表示されます。

項目	説明
データストア名	データストアの名称。
容量	データストアの最大容量。
空き容量	データストアの未使用領域の容量。

System Centerの場合

項目	説明
ホスト名	ホストサーバのコンピュータ名。
ステータス	ホストサーバの状態。
仮想化ソフトウェア	ホストの仮想化基盤のタイプ。Hyper-Vなど。
OS種別	ホストのOS名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのIPアドレス。
CPU名	CPUの名称。
論理コア数	ホスト上のCPU論理コア数。
CPU平均	ホストマシンのCPU使用率平均値。
メモリ合計	ホストマシンのメモリ容量。
使用可能なメモリ	ホストマシンの未使用メモリ容量。
仮想マシン数	ホストマシン配下の仮想マシンの数。

また、ホスト情報の下にはハードディスクドライブ情報が表示されます。SCVMM 2008 R2使用時には表示されません。

項目	説明
ディスク名	ハードディスクドライブの名称。
ステータス	ハードディスクドライブのステータス。
容量	ハードディスクドライブの最大容量。
空き容量	ハードディスクドライブの未使用領域の容量。

OpenStackの場合

項目	説明
ホスト名	ホストマシンの名称。

項目	説明
仮想化ソフトウェア	ホストマシンの仮想化ソフトウェア。
ホストIPアドレス	ホストマシンのIPアドレス。
CPUモデル	CPUのモデル。
CPUベンダー	CPUのベンダー。
物理CPUコア数	ホストマシンの物理CPUコア数。
物理CPUソケット数	ホストマシンの物理CPUソケット数。
使用中の論理コア数	ホストマシン上で使用中の論理コア数。
CPU平均	ホストマシンのCPU使用率平均値。
メモリ合計	ホストマシンのメモリ容量。
使用可能なメモリ	ホストマシン上で使用可能なメモリ容量。
使用中のメモリ	ホストマシン上で使用しているメモリ容量。
仮想マシン数	ホストマシン配下の仮想マシンの数。
ディスク容量	ホストマシンのディスク容量。
使用中のディスク容量	ホストマシン上で使用しているディスク容量。
ディスク空き容量	ホストマシン上のディスク空き容量。

ツリーエリアで仮想マシンを選択すると、ホストの物理搭載位置とvCenter、System Center、OpenStackから取得可能な簡易的な仮想マシン情報が表示されます。

仮想管理ソフトウェア情報

System Center(192.168.10.6)

すべてのホスト

hv-host1.ismct.test

AD-VM

ISM-VM

SCVMM08

SCVMM1-VM

SCVMM2-VM

WORK-VM

hv-host2.ismct.test

WORK-VM2

Rack-6

50

49

48

47

46

45

44

43

42

41

40

39

38

37

36

35

34

33

32

31

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

SV RX100S8-1

SV RX100S8-2

SV RX100S8-3

SV RX100S8-4

SV RX100S8-5

SV RX100S8-6

SV RX100S8-7

SV RX100S8-8

SV RX100S8-9

SV RX100S8-10

SV RX100S8-11

SV RX100S8-12

SV RX100S8-13

SV RX100S8-14

SV RX100S8-15

SV RX100S8-16

SV RX100S8-17

SV RX100S8-18

SV RX100S8-19

SV RX100S8-20

SV RX100S8-21

SV RX100S8-22

SV RX100S8-23

SV RX100S8-24

SV RX100S8-25

SV RX100S8-26

SV RX100S8-27

SV RX100S8-28

SV RX100S8-29

SV RX100S8-30

SV RX100S8-31

SV RX100S8-32

SV RX100S8-33

SV RX100S8-34

SV RX100S8-35

SV RX100S8-36

SV RX100S8-37

SV RX100S8-38

SV RX100S8-39

SV RX100S8-40

SV RX100S8-41

SV RX100S8-42

SV RX100S8-43

SV RX100S8-44

SV RX100S8-45

SV RX100S8-46

SV RX100S8-47

SV RX100S8-48

SV RX100S8-49

SV RX100S8-50

UPS

UPS

SV DX400M1

SV RX100S8-2

SV RX100S8-4

SV RX100S8-3

SV EX900S2

仮想マシン名: AD-VM

ステータス: 実行中

ゲストOS種別: 64-bit edition of Windows

Server 2012 Datacenter

コンピュータ名: WIN-BP2DK4D6NJL.ismct.test

ゲストIPアドレス: 192.168.10.5

CPU数: 1

CPU平均: 0 %

起動メモリ: 512 MB

割当メモリ: 760 MB

必要なメモリ: 646 MB

ホスト名: hv-host1.ismct.test

仮想ディスク名	容量	使用容量
AD-VM	25.00 GB	11.57 GB

表示される仮想マシン情報は次のとおりです。

vCenterの場合

項目	説明
仮想マシン名	仮想マシンの名称。
電源ステータス	仮想マシンの電源状態。
ゲストOS種別	仮想マシン上にインストールされているオペレーティングシステム名。
コンピュータ名	この仮想マシンに割り当てられているDNS名。
ゲストIPアドレス	この仮想マシンに割り当てられたプライマリIPアドレス。
VMwareToolsステータス	VMware Toolsのステータス。 実行中ではない場合、コンピュータ名とゲストIPアドレスが取得不可になる場合があります。
仮想コア数	仮想マシン上のプロセッサの数。
最大ホストCPU	仮想マシンに割り当てられたホストマシンのCPUリソースのクロック数。
消費されたホストCPU	消費されたホストCPU。
割当ゲストメモリ	この仮想マシンに割り当てられているメモリ容量。
消費されたホストメモリ	仮想マシンが使用しているホストマシンのメモリの容量。
アクティブなゲストメモリ	使用されている仮想マシンのメモリの容量。
プロビジョニングしたストレージ	データストア上の仮想マシンに確保されているストレージ容量。
共有されないストレージ	1台の仮想マシンによって占有され、ほかの仮想マシンとは共有していないデータストア容量。
使用済みストレージ	構成およびログファイル、スナップショット、仮想ディスクなどの仮想マシンファイルによって実際に占有されたデータストアの容量。
ESXiホスト名	ホストマシンの名称。
ホストIPアドレス	ホストマシンのOS IPアドレス。

System Centerの場合

項目	説明
仮想マシン名	仮想マシンの名称。
ステータス	仮想マシンのステータス。
ゲストOS種別	仮想マシン上にインストールされているオペレーティングシステム名。
コンピュータ名	この仮想マシンに割り当てられているDNS名。
ゲストIPアドレス	この仮想マシンに割り当てられたプライマリIPアドレス。 SCVMM 2008 R2 または SCVMM 2012使用時には常に「取得不可」と表示されます。
CPU数	仮想マシン上のプロセッサの数。
CPU平均	ゲストCPU使用率平均値
起動メモリ	仮想マシンに割り当てられた起動メモリ容量。
割当メモリ	仮想マシンに割り当てられているメモリ容量。
必要なメモリ	仮想マシンで使用されているメモリ容量。
ホスト名	ホストマシンのコンピュータ名。

また、System Centerの場合、仮想ディスク情報が表示されます。

項目	説明
仮想ディスク名	仮想ディスクの名称。
容量	仮想ディスクの容量。
使用容量	仮想ディスクの使用容量。

OpenStackの場合

項目	説明
仮想マシン名	仮想マシンの名称。
ステータス	仮想マシンのステータス。
ゲストIPアドレス	仮想マシンのIPアドレス。
フレーバー名	仮想マシンのフレーバー名。
起動イメージ	仮想マシンの起動イメージ。
キーペア	仮想マシンのキーペア。
テナント名	仮想マシンが所属するテナント名。
ホスト名	ホストマシンのコンピュータ名。

4.2.9 [消費電力制御設定]画面

ISMでは、ICT機器ごとの消費電力を1分ごとに計測し、計測したデータを元に、電力モニタリングと省電力制御を実現できます。
[消費電力制御設定]画面では、これらの機能を使用するための情報を設定したり、機能を実行したりします。



PRIMERGY BXシリーズサーバブレードに対して消費電力制御を行う場合、Management Blade (MMB) のWeb UI [電源管理] - [消費電力]タブで、システム消費電力モードを「サーバで管理」に設定してください。



- ・サーバおよびサーバブレードの消費電力や吸気温度を取得し、表示するためには、消費電力制御設定が必要です。
- ・グループに対する消費電力制御設定を行うためには、グループに所属するすべての機器で、事前にラックに対する消費電力制御設定を行う必要があります。

電力モニタリング

[Facility Manager]画面で機器を選択して表示されるツールチップやレポート機能で、次の情報を確認できます。

- ・各ICT機器の消費電力値
- ・ラック／グループごとの消費電力値

また、表示されるラック／グループごとの消費電力値は、以下の3通りから選択できます。

- ・インテリジェントPDUで計測
ラックに搭載したインテリジェントPDUで計測した消費電力値を計測します。ラックに複数のインテリジェントPDUが搭載されている場合は、その消費電力値を合計します。ラック／グループごとの搭載機器での計測より精度は高くなります。
- ・ラック／グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計 (初期状態)
消費電力制御設定に従い、各ICT機器の消費電力を計測し、その値を合計します。計測した消費電力値の精度は各機器の仕様に依存します。
インテリジェントPDUでの計測より精度が下がります。
- ・計測機器を使用する (富士通Modular Data Centerのオプション)
富士通Modular Data Centerでラックごとのブレーカーで消費電力を計測するオプションを選択した場合に使用します。高精度の値を計測できます。

初期状態の表示内容から変更する場合、以下のファイルを編集し、ServerView Infrastructure Manager Serviceサービスを再起動します。

- ・ ファイル名

<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svism%Manager%SvmConfig.properties
(デフォルト: C:%Program Files (x86)%Fujitsu%ServerView Suite%plugins%svism%Manager%SvmConfig.properties)

- ・ 編集箇所

#TotalPowerConsumptionMode TotalPowerConsumption=X

[TotalPowerConsumption]の値(Xの部分)を、表示する消費電力値に応じて、次のどれかに修正します。

- ー インテリジェントPDUで計測
- ー ラック／グループごとの搭載機器で計測した消費電力値の合計
- ー 計測機器を使用する

省電力制御

ラック／グループに対して消費電力の上限値を設定し、サーバの省電力制御が行えます。

例えば、ラックの消費電力の上限値を10 kWと指定した場合、ラックに最大消費電力が400 Wのサーバが30台搭載されていると、最大12 kWの消費電力となる場合が考えられます。

このとき、30台のサーバの優先度を設定しておく、各サーバの消費電力状況をモニタリングしながら、トータルで10 kWを超えないように、パワーキャッピングの比率を変えて、省電力制御を行います。

また、ICT機器の吸気温度／CPU温度のしきい値超過検出やファシリティ機器からのイベント受信を契機に、すべてのサーバの消費電力を最小値にできます。

[消費電力制御設定]画面を表示するためには、[Facility Manager]画面で次のどちらかを選択し、右クリックして表示されるメニューで「消費電力制御設定」をクリックします。

- ・ [一覧]タブのツリーに表示されるラック
- ・ [グループ一覧]タブのツリーに表示されるグループ

[消費電力制御設定]画面は、[カタログ]タブ、[ポリシー]タブ、[スケジュール]タブから構成されます。

初期状態では[カタログ]タブが表示され、設定内容に応じて、[ポリシー]タブ、[スケジュール]タブが有効になります。

[消費電力制御設定]画面-[カタログ]タブ

機器	最大消費電力	固定電力値	消費電力	優先度
SV BX400S1	300	☒		
SV BX920S2-01	300	☐		Medi...
SV BX920S2-02	300	☐		Medi...
SV BX920S3-1	300	☐		Medi...
ST SX980S2-1	300	☒		
ST SX980S2-2	300	☒		
SV CX250S1-1	300	☐		Medi...
SV CX250S1-2	300	☐		Medi...
SV CX250S1-3	300	☐		Medi...
SV CX250S1-4	300	☐		Medi...

合計: 3300 W 1200 W 1200 W

デフォルト 設定 閉じる

項目	説明
機器	選択したラック／グループに搭載されているICT機器が表示されます。
最大消費電力	ICT機器の最大消費電力を入力します。
[固定電力値] チェックボックス	チェックボックスをオンにすると、最大消費電力で指定された値を消費電力値として扱われます。 消費電力を計測できない装置が搭載されている場合に使用します。 消費電力を計測できない機器として、FCスイッチ (Brocade製) などがあります。
消費電力	計測した消費電力値が表示されます。
優先度	省電力制御を実行する場合の優先度を選択します。IAサーバのみ有効です。 • Critical: 業務優先度が高く、性能を確保する場合に指定。 • High: Criticalよりは性能低下が許容できる場合に指定。 • Middle: Highよりも性能低下が許容できるが、Lowほどは積極的に行わない場合に指定。 • Low: ラック全体の状況を見ながら、積極的に省電力制御を行う対象とする場合に指定。
合計	最大消費電力、固定電力値、消費電力の合計が表示されます。
[デフォルト] ボタン	表示されているすべての機器に対して最大消費電力の値が300 Wに設定されます。
[設定] ボタン	指定した値で、各機器の情報が設定されます。 設定すると[ポリシー]タブが有効になります。
[閉じる] ボタン	画面を閉じます。

ポイント

ICT機器の最大消費電力については、各機器のカタログなどを参照してください。

また、PRIMERGYの場合にはサーバ消費電力／質量計算ツールを使用し最大消費電力を計算できます。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/technical/calculate/>

[消費電力制御設定] 画面-[ポリシー]タブ

Rack-1 消費電力制御設定

カタログ ポリシー スケジュール

	上限値	固定値	設定値	
カスタム1	8000 w	900 w	7100 w	実行
カスタム2	6000 w	900 w	5100 w	実行
スケジュール用	6000 w	900 w	5100 w	実行
ミニマム				実行

設定 閉じる

項目		概要
カスタム1		
	上限値	省電力制御を行うときの、ラック／グループの上限値を指定します。 固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となります。
	[実行]ボタン／[解除]ボタン	[設定]ボタンをクリックすると使用できるようになります。 クリックすると、「カスタム1」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称が[実行]から[解除]に切り替わります。 [解除]ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が[解除]から[実行]に戻ります。
カスタム2		「カスタム1」とは別の要因で省電力制御を行う場合に使用します。
	上限値	省電力制御を行うときの、ラック／グループの上限値を指定します。 固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となります。
	[実行]ボタン／[解除]ボタン	[設定]ボタンをクリックすると使用できるようになります。 クリックすると、「カスタム2」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称が[実行]から[解除]に切り替わります。 [解除]ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が[解除]から[実行]に戻ります。
スケジュール用		スケジュールを設定して省電力制御を実行する場合に使用します。 実行スケジュールは、[設定]ボタンをクリックし、[スケジュール]タブで設定します。
	上限値	省電力制御を行うときの、ラック／グループの上限値を指定します。 固定電力値を差し引いた値が制御する上限値となります。
	[実行]ボタン／[解除]ボタン	[設定]ボタンをクリックすると使用できるようになります。

項目		概要
		[スケジュール]タブで実行スケジュールを設定し、[実行]ボタンをクリックすると、スケジュール設定に従って「スケジュール用」の上限値で省電力制御が実行され、ボタン名称が[実行]から[解除]に切り替わります。 [解除]ボタンをクリックすると、スケジュール設定が解除され、ボタン名称が[解除]から[実行]に戻ります。「スケジュール用」の上限値で省電力制御が実行中の場合は停止されます。
ミニマム		
	[実行]ボタン／[解除]ボタン	クリックすると、省電力制御可能なすべてのサーバの消費電力値が最小値に変更され、ボタン名称が[実行]から[解除]に切り替わります。 [解除]ボタンをクリックすると、省電力制御が停止され、ボタン名称が[解除]から[実行]に戻ります。
[設定]ボタン		入力値を設定します。設定すると[ポリシー]タブが有効になります。 「カスタム1」、「カスタム2」、「スケジュール用」で入力した上限値を設定し、省電力制御を実行可能にします。「スケジュール用」の上限値を入力した場合、[スケジュール]タブが有効になります。 実行するためには、各項目の[実行]ボタンをクリックします。
[閉じる]ボタン		画面を閉じます。

[消費電力制御設定] 画面-[スケジュール]タブ

項目	説明
開始時間、終了時間	省電力制御を行う開始時刻と終了時刻を指定します。
曜日	スケジュール設定を使用した省電力制御を行う曜日を指定します。 チェックボックスをオンにした曜日で、指定した時間に省電力制御が行われます。

項目	説明
[設定]ボタン	指定した時間と曜日を実行スケジュールに設定します。
[閉じる]ボタン	画面を閉じます。

4.3 [Facility Browser]画面

ISMの画面上部のメニューから「Facility Browser」をクリックすると監視対象の機器を登録する画面が表示されます。
ISMの画面表示については、「[4.1 ISMの画面表示方法\(各機能共通\)](#)」を参照してください。

[Facility Browser] 画面は、監視対象の機器を登録するための画面です。
ISMの管理者権限を持つユーザーのみ操作できます。
監視対象の機器を、構成情報定義ファイルを使用して一括登録します。



図中の(1)～(4)の部分に表示される内容をそれぞれ説明します。

No.	項目	説明
(1)	[ファイルを開く] ボタン	一括登録用の構成情報定義ファイルを選択するための画面が表示されます。 選択したファイル名が、左のボックスに表示されます。
(2)	[整合性確認] ボタン	構成情報定義ファイルに記載された情報のうち、IPアドレス、登録名称、ラック搭載位置(スロット番号)(*1)の重複がないかを確認します。 異常が見つかった場合、警告を表示します。
(3)	[登録]ボタン	整合性を確認した構成情報定義ファイルの内容を登録します。
(4)	[登録数表示]ボタン	ノードライセンス数とISMに登録済みのノード数が表示されます。

*1: PRIMERGY BXシリーズについては、シャーシ内でスロット位置の重複がないかを確認します。

4.4 [Profile Manager]画面

ISMの画面上部のメニューから「Profile Manager」をクリックするとプロフィール管理の画面が表示されます。
ISMの画面表示については、「[4.1 ISMの画面表示方法\(各機能共通\)](#)」を参照してください。

ここでは、プロフィール管理を行うための[Profile Manager]画面の操作方法を説明します。



注意

プロフィール管理機能を使用する場合は、SVOMにログインする際に「Administrator」ロールのユーザーでログインしてください。

画面左側のツリーエリアと右側のワークエリアに分かれていて、ツリーエリアには、表示または設定する情報に応じて次のタブが用意されています。このタブを切り替えて、操作を行います。

- ・ ノードリスト
- ・ プロファイル

- ・ イベント履歴

ポイント

[Profile Manager]画面では、ツリーエリアのタブと、ワークエリアにもタブが表示されます。
本書ではツリーエリアのタブで表示される名称で、[ノードリスト]画面、[プロファイル]画面、[イベント履歴]画面と表記します。

画面更新操作

プロファイル管理では、画面表示内容は自動更新されません。

次の操作を行ったあとで作業進行状態を確認する、または処理結果を画面に表示させる場合は、画面右上の[最新の状態に更新]ボタンをクリックし、画面表示内容を最新状態に更新してください。

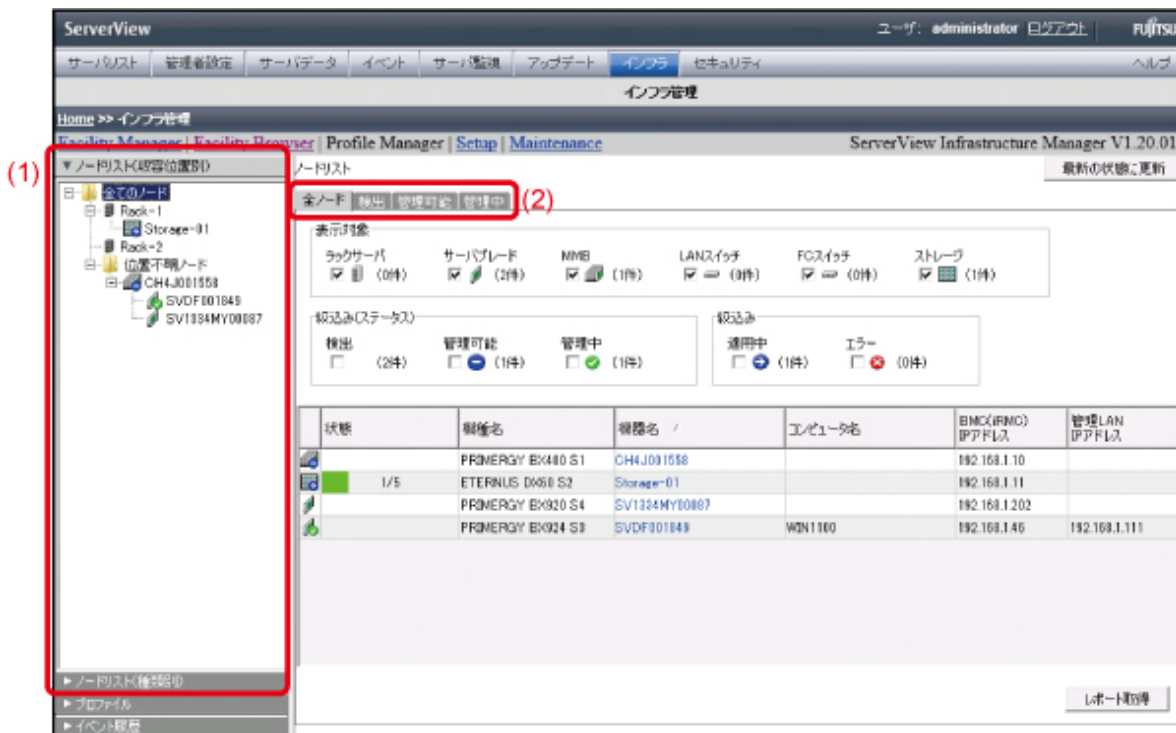
画面更新が必要な場面	備考
機器の自動検出／手動検出	新しいサーバを接続したあと、または手動検索を開始したあとで、画面に機器が表示されることを確認します。
機器の登録処理 (登録解除も含む)	登録ボタンをクリックしたあと、機器状態が「管理可能」になることを確認します。
プロファイルの適用 (プロファイル取り外しも含む)	プロファイル適用を開始したあと、プロファイル適用が完了してサーバのステータスが「管理中」になることを確認します。
仮想管理ソフトウェアへの登録	登録を開始したあと、登録が正常終了して、サーバのステータスが「管理中」になることを確認します。
DVDからデータインポート	[インポート開始]ボタンをクリックしたあと、動作履歴表示で「処理完了」になることを確認します。 また、インポート元DVDの代わりにisoイメージファイルをマウントする場合は、マウント操作を行って新しいドライブが追加されたあとに [最新の状態に更新] をクリックします。
インポートされたデータの削除	[削除]ボタンをクリックしたあと、動作履歴表示で「処理完了」になることを確認します。
イベント履歴の表示	[イベント履歴]画面の表示ログを最新にする場合に操作します。

4.4.1 [ノードリスト]画面

[ノードリスト]画面は、機器操作の基本となる画面です。Profile Managerの起動直後に表示され、主に次のことができます。

- ・ 機器の検出と登録
- ・ プロファイル適用操作と状態確認
- ・ 機器情報やプロファイル適用履歴の確認
- ・ IDランプ (識別LED) の制御や仮想管理ソフトウェアへの登録

[ノードリスト]画面左側(1)で[ノードリスト(収容位置別)]または[ノードリスト(種類別)]を選択すると、[ノードリスト]画面の機器一覧表が表示されます。



画面左側には、登録または検出されている機器がツリー形式で表示されます。[ノードリスト(收容位置別)]ではツリーが物理搭載位置情報をベースとして表示され、[ノードリスト(種類別)]ではツリーが機器種別でまとめて表示されます。

画面右側には、機器が表形式で一覧表示されます。表示される機器は、ツリーの選択に応じて絞り込まれます。また、画面上の[表示対象]や[絞り込み]を使用しても絞り込まれます。

画面右側(2)の4つのタブを切り替えることで、機器状態による表示の絞り込み、表示される情報、またはボタン類が切り替わります。作業目的に応じてタブを適切に切り替えて操作してください。

タブ名	表示される機器	主な使用場面、および可能な操作
全ノード	登録済み、および検出中のすべての機器	すべての機器の一覧や、各機器の詳細を参照します。
検出	検出されただけで、まだ登録されていない機器	機器の登録を行います。手動検出で新しく機器を検出します。
管理可能	プロファイル適用前の機器	プロファイル適用を開始します。機器登録を解除します。
管理中	プロファイル適用済みの機器	適用済みプロファイルを変更します。 適用済みプロファイルを削除します。 ハードウェア保守後に必要な操作を実施します。

注意

- 適用可能なプロファイルが存在しない装置(シャーシ、ETERNUS NRシリーズなど)は、管理中状態にはなりません。
- 表示対象の絞り込み設定欄や、ノードリスト(種類別)には、LANスイッチ、およびFCスイッチが表示されますが、これらの機器は将来サポート予定です。
- 全ノード以外のタブでは、画面下部に[入力クリア]ボタンがあります。画面上で操作した内容で、登録および適用が行われる前の内容は[入力クリア]ボタンでリセットして、以前の状態に戻すことができます。

機器アイコン

機器の種類や状態は、[ノードリスト]画面の機器一覧表上のメッセージ表示と共に、アイコン種別で表示されます。

アイコンの形状に応じて機器の種類を示し、機器アイコンの右下の記号で状態を示します。

サーバの場合のアイコンと、その状態は次のとおりです。

アイコン (サーバの場合)	状態	備考
	検出状態	機器が検出されているが、登録されていない状態です。
	管理可能状態	登録が完了し、プロファイル適用が可能になった状態です。
	管理中状態	プロファイルが適用された状態です。 シャーシ(MMB)はプロファイル適用操作がないため、本状態にはなりません。
	処理中	プロファイルを適用中、または適用解除中です。 機器を登録中、または登録解除中です。
	エラー	プロファイル適用中や機器登録中に異常が発生した状態です。 エラー状態を解除するためには、プロファイルを適用し直すか、プロファイルの取り外し、または機器の登録を解除します。

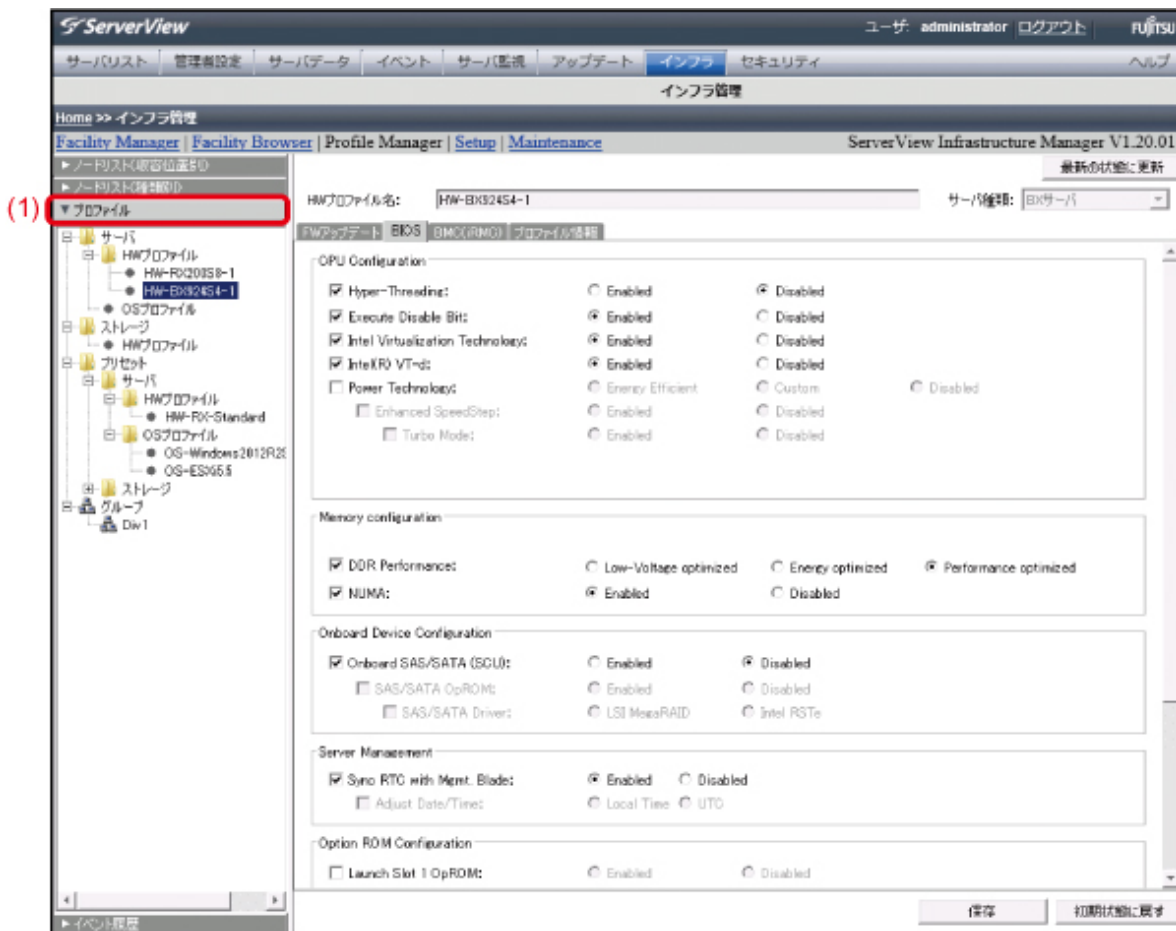
4.4.2 [プロファイル]画面

[プロファイル]画面は、プロファイルの操作や参照を行うための画面です。主に次のことができます。

- ・ プロファイルの新規作成
- ・ 既存プロファイルの削除、変名、流用作成などの操作
- ・ 既存プロファイルの内容参照
- ・ 適用済みプロファイルの適用先一覧表示

画面左側(1)で「プロファイル」を選択すると、[プロファイル]画面が表示されます。

画面右側には、プロファイル内の設定項目が表示されます。プロファイル種類に応じたタブが表示され、各タブ内の設定を参照したり、変更したりできます。



4.4.3 [イベント履歴]画面

[イベント履歴]画面は、プロファイル管理上で行った操作およびその動作結果をログ形式で参照するための画面です。

画面および操作については、「5.5.5 イベント履歴表示」を参照してください。

4.5 [Setup]画面

ISMの画面上部のメニューから「Setup」をクリックするとセットアップの画面が表示されます。

ISMの画面表示については、「4.1 ISMの画面表示方法(各機能共通)」を参照してください。

[Setup]画面は、プロファイル管理の動作設定や準備作業を行う画面です。

画面左部メニューから次の各種画面を切り替えて使用します。



画面名称	主な使用場面、および可能な操作
DHCP設定	管理ネットワーク内のIPアドレス使用範囲を用途別に分けて定義します。 詳しくは、「 3.4 DHCP設定 (ISM) 」を参照してください。
プロファイル適用動作設定	プロファイル適用動作時に使用されるポート番号や、管理サーバと対象サーバとの間でのデータ送受信に利用する共有フォルダーを設定します。 詳しくは、「 3.2.2 設定手順 」を参照してください。
データインポート実行	OSインストールメディアの取り込みや、プロファイル適用動作に必要なファイルをDVDから取り込む操作を行います。また、取り込まれたデータを削除します。 詳しくは、「 5.1 各種DVDのデータインポート 」を参照してください。
仮想管理ソフトウェア設定	vCenter、SCVMM、OpenStackに対するホスト登録処理の動作を設定します。 詳しくは、「 3.6.1 仮想管理ソフトウェア設定 」を参照してください。
ログ収集設定	ログ収集機能の対象となる機器を登録します。 詳しくは、「 5.6.1 ログ収集対象機器の選択 」を参照してください。
FTPサーバ設定	FTPサーバのIPアドレスやアカウントを設定します。 詳しくは、「 3.3 FTPサーバの設定 (ISM) 」を参照してください。
ノード登録／解除設定	Profile Managerによる機器（ノード）登録の際にSVOMのサーバリストにも登録するかどうかを設定します。また、ISMの管理用iRMCアカウント(SVISMadmin)を任意のパスワードに設定します。（*1） Profile ManagerでPRIMERGYサーバを機器（ノード）登録解除した際のiRMCアカウントの扱いを設定します。
ユーザ／パスワード設定	Profile ManagerでPRIMERGYサーバ、PRIMEQUEST、ETERNUS DX/TRシリーズを検出する際に使用されるアカウントを設定します。 詳しくは、「 3.7 ユーザ／パスワード設定 」を参照してください。

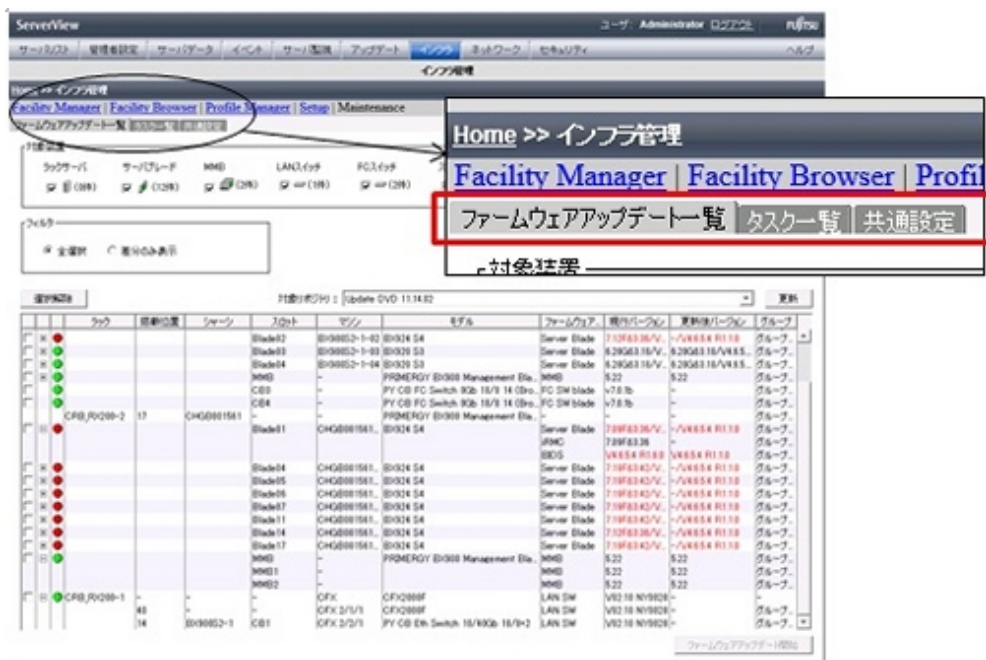
*1: パスワード変更時は、設定後に新規登録されるノード（PRIMERGYサーバ）に対して有効になります。変更前に登録済みのノードのパスワードは変更されません。

4.6 [Maintenance]画面

ISMの画面上部のメニューから「Maintenance」をクリックするとメンテナンス支援機能の画面が表示されます。

ISMの画面表示については、「[4.1 ISMの画面表示方法 \(各機能共通\)](#)」を参照してください。

メンテナンス支援機能の画面は、以下の3つから構成されます。初期状態では[ファームウェアアップデート一覧]画面が表示され、画面上部のタブを選択すると、画面が切り替わります。



画面名	説明
[ファームウェアアップデート一覧]画面	管理対象機器に対するファームウェアの現行版数とリポジトリに登録されている版数の差分情報が一覧表示されます。管理対象機器に対してファームウェアアップデートを実施する際は、この画面から操作します。
[タスク一覧]画面	現在実施中のファームウェアアップデートの進捗状況、および過去に実施したファームウェアアップデートの履歴情報が一覧表示されます。
[共通設定]画面	メンテナンス支援機能を利用するために必要となる各種情報を登録します。

4.6.1 [ファームウェアアップデート一覧]画面

管理対象機器に対するファームウェア情報が一覧表示されます。ファームウェア情報は1日に1回、自動で更新されます。条件を指定した情報の絞り込み表示や、ファームウェアアップデートの実行ができます。

ServerView ユーザ: Administrator ログアウト FUJITSU

サーバリスト 監視者設定 サーバデータ デプロイメント イベント サーバ監視 アップデート インフラ ネットワーク セキュリティ ヘルプ

インフラ管理

Home >> インフラ管理

Facility Manager Facility Browser Profile Manager Setup Maintenance ServerView Infrastructure Manager V1.4.0

ファームウェアアップデート一覧 [タスク一覧] [検索] [リセット]

対象装置

ラックサーバ (5件) サーバブレード (3件) MMB (1件) LANスイッチ (2件) FCスイッチ (2件) ストレージ (0件) IOカード (1件)

フィルタ

☒ 全選択 ☐ 差分のみ表示

選択解除 (6)

対象リポジトリ: Update DVD 11.14.11 (3)

更新 (4)

	ラック	搭載位	シャーシ	スロット	マシン	PCD場所情報	モデル	ファームウェア	現行バージョン	更新後バージョン	グループ
☐	ISM rack	1	CH4J001702				PRIMERGY BX400 Management Bl...	Server Blade	6.30G83.19/V...	6.29G83.19/V...	ISMgroup
☐				Blade01	CH4J001702-		BX920 S3	IRMC	6.30G83.19	6.29G83.19	ISMgroup
☐				Blade02	CH4J001702-		BX920 S3	BIOS	V4.6.5.3 R2.26.0	V4.6.5.3 R2.26.0	ISMgroup
☐				Blade03	CH4J001702-		BX920 S4	Server Blade	6.25G83.14/V...	6.29G83.19/V...	ISMgroup
☐								IRMC	6.25G83.14	6.29G83.19	ISMgroup
☐								BIOS	V4.6.5.3 R2.13.0	V4.6.5.3 R2.26.0	ISMgroup
☐								Server Blade	7.38F83.48/V4...	7.38F83.48/V...	ISMgroup
☐								IRMC	7.38F83.48	7.38F83.48	ISMgroup
☐								BIOS	V4.6.5.4 R1.6.0	V4.6.5.4 R1.10.0	ISMgroup
☐				MMB			PRIMERGY BX400 Management Bl...	MMB	6.75/6.75	-/-	ISMgroup
☐				MMB1				MMB	6.75	-	ISMgroup
☐				MMB2				MMB	6.75	-	ISMgroup
☐				CB3			PY CB FC Switch 16Gb 10/8 26 E...	FC SW blade	v7.2.0_fuj	-	ISMgroup
☐				CB4			PY CB FC Switch 8Gb 16/8 14 (Br...	FC SW blade	v7.1.0a	-	ISMgroup

ファームウェアアップデート開始 (7)

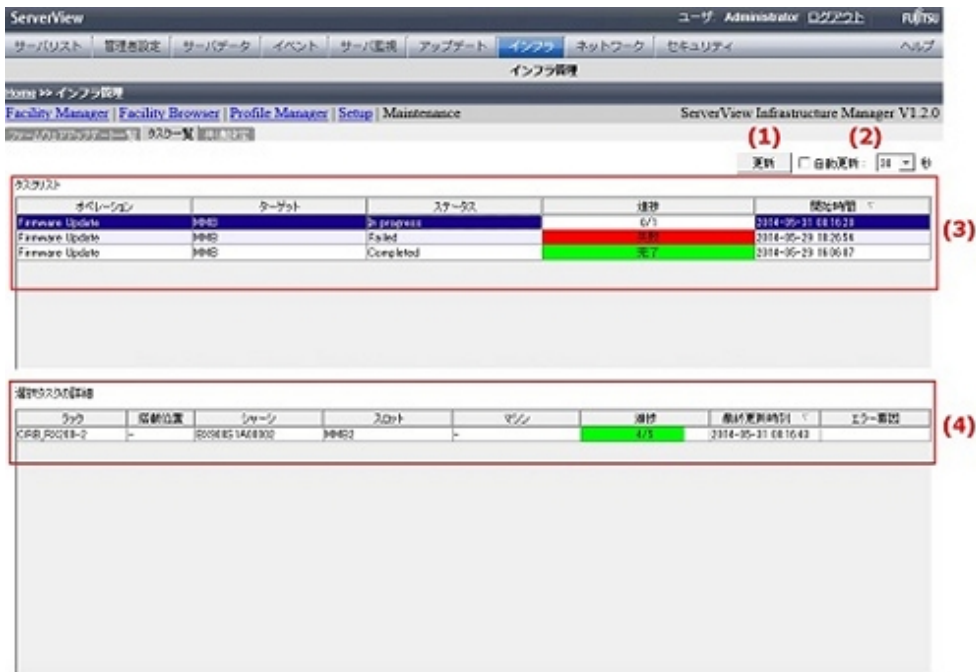
No.	項目	説明
(1)	対象装置	チェックボックスをオンにした管理対象機器の情報のみ「(5)ファームウェア情報一覧」に表示されます。 一覧に表示する管理対象機器を絞り込む場合に使用します。
(2)	フィルタ	[差分のみ表示]を選択すると、現在動作中のファームウェア版数とリポジトリに登録されている版数に差分がある情報のみ「(5)ファームウェア情報一覧」に表示されます。 一覧に表示する管理対象機器をファームウェアの差分情報の有無で絞り込む場合に使用します。
(3)	対象リポジトリ	プロファイル管理機能でインポートしたリポジトリの一覧から、ファームウェアアップデートに使用するリポジトリを選択します。 各装置のファームウェア情報で「更新後バージョン」に表示されるファームウェア版数には、ここで選択したリポジトリに登録されている版数が表示されます。
(4)	[更新] ボタン	クリックすると、「(5)ファームウェア情報一覧」に表示された情報を最新に更新します。 管理対象機器について情報が変更された場合に使用します。
(5)	ファームウェア情報一覧	管理対象機器のファームウェア情報が一覧表示されます。 現在動作中のファームウェア版数とリポジトリに登録されているファームウェア版数に差分がある装置については、「現行バージョン」と「更新後バージョン」が赤い文字で表示されます。また、行頭のチェックボックスをオンにすることで、ファームウェアアップデートを行う対象を選択します。
(6)	[選択解除] ボタン	クリックすると、「(5)ファームウェア情報一覧」の行頭のチェックボックスをすべてオフにします。
(7)	[ファームウェアアップデート開始] ボタン	クリックすると、「(5)ファームウェア情報一覧」で選択した対象装置に対してファームウェアアップデートを実施します。



注意

リポジトリに登録されているファームウェア版数が、現在動作中の版数よりも古い場合においても差分ありとして、「現行バージョン」と「更新後バージョン」が赤い文字で表示されます。装置に対してファームウェアアップデートを実施する前に、適用するファームウェア版数が意図したものであるか確認してください。

4.6.2 [タスク一覧]画面



メンテナンス支援機能では、[ファームウェアアップデート一覧]画面で対象装置を選択して[ファームウェアアップデート開始]ボタンを押した単位を、1つの「タスク」として管理します。

[タスク一覧]画面では、この「タスク」単位でファームウェアアップデートの結果が一覧表示されます。

また、一覧からタスクを選択することで、そのタスクでファームウェアアップデートを実施した装置ごとの詳細なファームウェアアップデート結果を確認できます。

No.	項目	説明
(1)	[更新]ボタン	クリックすると、「(4)タスクリスト」と「(5)選択タスクの詳細」の情報が最新の情報に更新されます。
(2)	[自動更新] チェックボックス、更新間隔	ファームウェアアップデート実施中のタスクについて、進捗情報を自動で更新するかしないか、自動で更新する場合はその間隔を指定します。 チェックボックスをオンにして更新間隔を選択すると、指定した間隔で自動的に表示が更新されます。
(3)	タスクリスト	現在実施中のファームウェアアップデートの進捗状況と、過去に実施したファームウェアアップデートの履歴情報が、タスクごとに一覧表示されます。
(4)	選択タスクの詳細	「(3)タスクリスト」で選択したタスクについて、対象装置ごとの詳細な結果が表示されます。1つのタスクで複数の機器に対して操作した場合、機器ごとに結果が表示されます。

4.6.3 [共通設定] 画面

アカウント情報が必要な各管理対象機器について、情報を設定／管理します。FCスイッチブレード、またはストレージごとに個別のアカウントを設定する「アカウント個別設定モード」と、装置の種類ごとに共通のアカウントを設定する「アカウント共通設定モード」を切り替えられます。

P ポイント

ブレードサーバのMMBのアカウント情報は、ファシリティ管理機能で登録するアカウント情報が使用されます。
サーバ(ラックサーバやサーバブレードなど)のアカウント情報は、プロフィール管理機能で作成するiRMCのアカウント情報が使用されます。

ServerView Infrastructure Manager V1.3.0

ユーザ: Administrator ログアウト

ホーム >> インフラ管理

Facility Manager | Facility Browser | Profile Manager | Setup | Maintenance

アカウント設定 (1)

FCスイッチブレードアカウント ☐ 全ての機器に同じ設定を使用する

ラック	搭載位置	シェルフ	スロット	マシン	ユーザ名	パスワード	確認用パスワード
Rack 2	2	CH00105	IOB	=	Folder 1	*****	*****
Rack 1	1	CH00105	IOB2	=	Folder 2	*****	*****
Rack 1	1	CH00105	IOB1	=	Folder 3	*****	*****

(2)

ストレージアカウント ☐ 全ての機器に同じ設定を使用する

ラック	搭載位置	シェルフ	スロット	マシン	ユーザ名	パスワード	確認用パスワード
Rack 2	11	=	=	ETERNUS DX 100 S0	AAAA	*****	*****
Rack 2	20	=	=	ETERNUS DX 100 S0	AAAA	*****	*****

(3) [保存]

No.	項目	説明
(1)	FCスイッチブレードアカウント情報一覧	各装置に接続可能なアカウント情報(ユーザ名/パスワード)を設定します。 [全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオフにすると、アカウント個別設定モードとなり、管理対象のFCスイッチブレード装置の一覧表で、「ユーザ名」、「パスワード」、「確認用パスワード」の各項目のセルをクリックして情報を入力します。 [全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオンにすると、アカウント共通設定モードとなります。アカウント情報の入力欄が1つになるので、各FCスイッチブレード装置共通で使用する情報を入力します。 メンテナンス支援機能でFCスイッチブレードを管理対象機器とする場合に使用します。
(2)	ストレージアカウント情報一覧	各装置に接続可能なアカウント情報(ユーザ名/パスワード)を設定します。ストレージのファームウェアアップデートを行うためには、ファームウェア管理権限を付与されたアカウントの設定が必要です。 [全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオフにすると、アカウント個別設定モードとなり、管理対象のストレージ装置の一覧表で、「ユーザ名」、「パスワード」、「確認用パスワード」の各項目のセルをクリックして情報を入力します。 [全ての機器に同じ設定を使用する] チェックボックスをオンにすると、アカウント共通設定モードとなります。アカウント情報の入力欄が1つになるので、各ストレージ装置共通で使用する情報を入力します。 メンテナンス支援機能でストレージを管理対象機器とする場合に使用します。
(3)	[保存] ボタン	「(1) ストレージアカウント情報一覧」で設定した情報を保存します。

4.7 HTML5ベース GUI

HTML5ベース GUIは、ISM V1.5をインストールした際に同時にインストールされます。

ポイント

HTML5ベース GUIでは、情報の参照のみが可能となります。ISMまたは管理対象機器に対する設定／制御は、従来のGUIから行ってください。

4.7.1 システム要件

HTML5ベース GUIを使用するためのクライアント側のシステム要件は以下のとおりです。

デバイス

パソコン、サーバ、タブレット (iPad／Android)

タブレットは、ディスプレイサイズが7インチ以上で、以下のOSが搭載されたデバイスが対象となります。

- iPad: iOS 8.3
- Android: Android 4.4.2

ブラウザ

HTML5ベース GUIは以下のWebブラウザ上で動作します。

- Microsoft Internet Explorer バージョン11
- Mozilla Firefox バージョン38
- Google Chrome バージョン43

画面解像度

推奨する画面解像度は以下のとおりです。

- パソコン、サーバの場合
 - ー 最小解像度: 1024×768
 - ー 推奨解像度: 1366×768以上
- タブレットの場合
 - サポートされるデバイスが搭載されているディスプレイすべて

注意

以下の環境では、HTML5ベースGUIは使用できません。通常のGUI画面を使用してください。

- ServerViewのユーザー管理をMicrosoft Active Directoryへ統合している環境
- ServerView Operations Manager インストール時のディレクトリサーバの選択で、[既存のディレクトリサービスを使用する]-[既存のディレクトリサーバでの承認]を指定しユーザー管理をMicrosoft Active Directoryへ統合している環境

4.7.2 HTML5ベース GUIの画面表示方法

HTML5ベース GUIの画面を表示する方法は以下のとおりです。

1. Webブラウザを起動し、以下のURLを入力します。

`https://<システム名>.<ドメイン名>:25563/index.html`

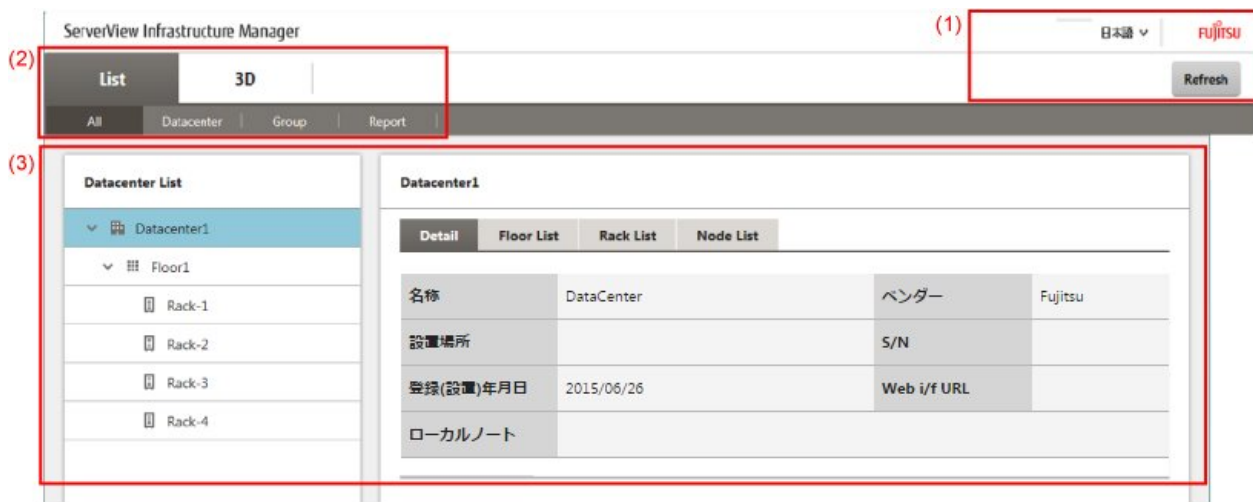
2. ユーザーIDとパスワードを入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

P ポイント

- ー ユーザーIDとパスワードは、SVOMへのログイン時と同じものが使用できます。
- ー 通信はSSL (Secure Socket Layer) 接続で行われます。
- ー Firefoxをご使用の場合、サーバ証明書を登録する必要があります。
 1. Firefoxを起動し、メニューから[オプション]を選択します。
 2. [詳細]を選択し、[証明書]をクリックします。
 3. [証明書を表示]をクリックします。
 4. [サーバ証明書]タブの[例外を追加]をクリックします。
 5. [URL]に「https://<システム名>.<ドメイン名>:25562」を入力し、[証明書を取得]をクリックします。
 6. [次回以降にもこの例外を有効にする]にチェックが入っていることを確認し、[セキュリティ例外を承認]をクリックします。
 7. 「https://<システム名>.<ドメイン名>:25562」についても手順5、6を行い、サーバ証明書を登録します。

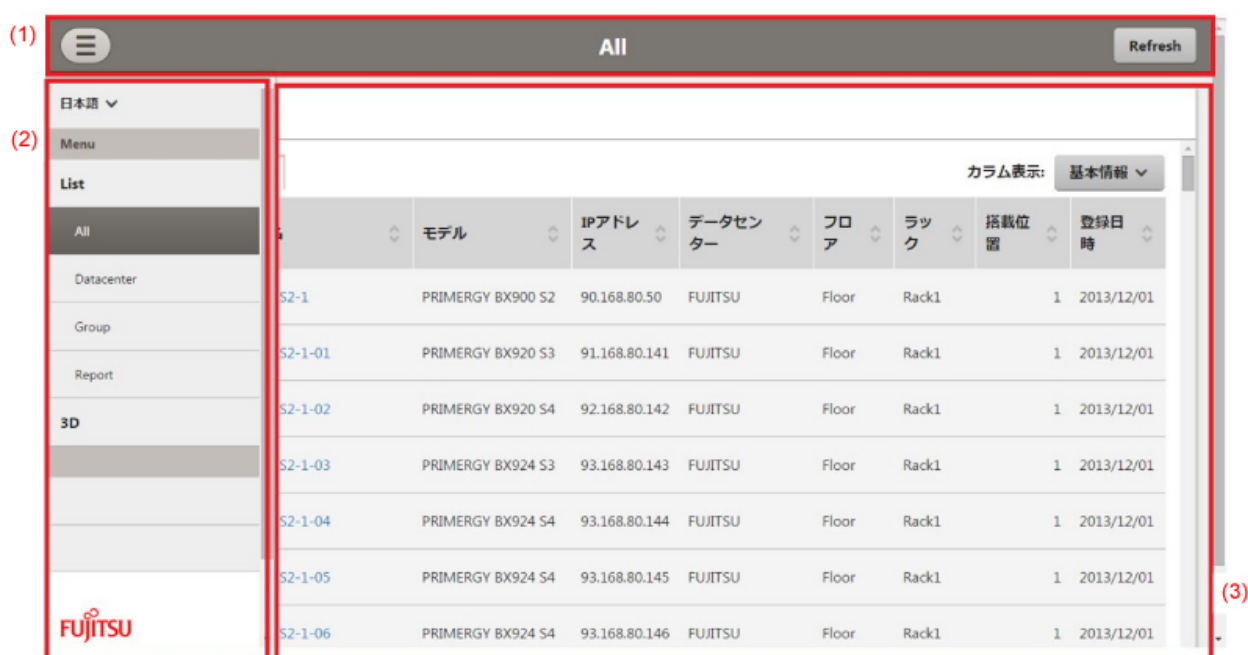
HTML5ベース GUIの画面が表示されます。

図4.9 パソコン、サーバの場合



No.	項目	説明
(1)	システムエリア	現在表示中の言語および[Refresh]ボタンが表示されます。言語をクリックすると、表示言語を選択できます。[Refresh]ボタンをクリックすると、コンテンツエリアの表示内容が更新されます。
(2)	グローバルナビゲーションエリア ／サブナビゲーションエリア	HTML5ベース GUIのメインメニューです。ここで選択したメニューに従って、コンテンツエリアの内容が切り替えられます。 グローバルナビゲーションエリアには以下のメニューが用意されています。 ・ List ・ 3D
(3)	コンテンツエリア	グローバルナビゲーションエリア／サブナビゲーションエリアで選択したメニューのコンテンツが表示されます。選択したメニューにより、コンテンツエリアは複数のエリアに分割される場合もあります。 メニュー共通で表示される項目については、「 4.7.3.5 共通表示項目 」を参照してください。

図4.10 タブレットの場合



No.	項目	説明
(1)	ヘッダーエリア	エリア左位置の  をタップすると、システムエリアの表示／非表示を切り替えることができます。 エリア中央には現在選択中の画面名が表示されます。 エリア右位置の[Refresh]ボタンをタップすると、コンテンツエリアの表示内容が更新されます。
(2)	システムエリア	現在表示中の言語、グローバルナビゲーション／サブナビゲーションが表示されます。 言語をタップして、表示言語を選択できます。 グローバルナビゲーション／サブナビゲーションのメニューを選択すると、コンテンツエリアの表示内容を切り替えることができます。グローバルナビゲーションには以下のメニューが用意されています。 • List • 3D
(3)	コンテンツエリア	グローバルナビゲーション／サブナビゲーションで選択したメニューのコンテンツが表示されます。選択したメニューにより、コンテンツエリアは複数のエリアに分割される場合もあります。 メニュー共通で表示される項目については、「4.7.3.5 共通表示項目」を参照してください。

ブラウザを閉じることでISMからログアウトできます。

Firefoxを使用している場合、設定によってはブラウザを閉じてでもログイン情報が保存されます。ブラウザを閉じた際にログイン情報がクリアされるように以下の設定を行ってください。

1. Firefoxのメニューから[オプション]を選択します。
2. [プライバシー]を選択します。
3. [Firefoxの終了時に履歴を消去する]にチェックを付けて、[設定]ボタンをクリックします。
4. [表示したページとダウンロードの履歴]にチェックを付けて、[OK]ボタンをクリックします。

4.7.3 [List]画面

[List]画面では、ISMに登録されている機器のリストが表示され、機器のステータス、適用プロファイル、ファームウェア版数などの情報を参照できます。

以下の4つのサブナビゲーションメニューを選択できます。

- [\[All\]](#)
- [\[Datacenter\]](#)
- [\[Group\]](#)
- [\[Report\]](#)

ポイント

タブレットの場合、[List]は選択できません。サブナビゲーションメニューの[\[All\]](#)、[\[Datacenter\]](#)、[\[Group\]](#)、[\[Report\]](#)を選択できます。

[List]画面では、機器の種別およびグループ、レポートなどの定義種別をアイコンで表示します。アイコンの一覧は以下のとおりです。

表4.7 アイコン一覧

種別	アイコン	説明
機器		サーバ
		スイッチ
		ストレージ
		シャーシ
		サーバブレード
		その他機器
		データセンター
		フロア
		ラック
定義		ISMで定義したグループ
		ISMで定義したレポート

4.7.3.1 [All]メニュー

ISMに登録されているすべての機器がリストに表示されます。[カラム表示]を選択すると、表示されるカラム情報を切り替えることができます。

カラム種別	説明
基本情報	機器の管理／監視を行ううえで必要となる基本情報が表示されます。以下のカラムが表示されます。 ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、S/N、データセンター、フロア、ラック/搭載位置、登録(設置)年月日
プロファイル	機器に適用されているプロファイル情報が表示されます。以下のカラムが表示されます。

カラム種別	説明
	ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、HWプロファイル、OSプロファイル - ID
ファームウェア (*1)	機器に適用されているファームウェア版数が表示されます。以下のカラムが表示されます。 機種別アイコン、機器名、シャーシ、スロット、PCI場所情報、モデル、ファームウェアタイプ、現行版数

*1:ファームウェア情報を表示するためには、SVOMに監視対象機器が登録されている必要があります。

「カラム表示:基本情報」選択時のステータスアイコン一覧

「カラム表示:基本情報」を選択した場合、リスト中に機器の異常状態を示すステータスアイコンが表示されます。

アイコン	説明
	正常に動作しています。
	警告の状態です。
	異常の状態です。
	不明の状態です。

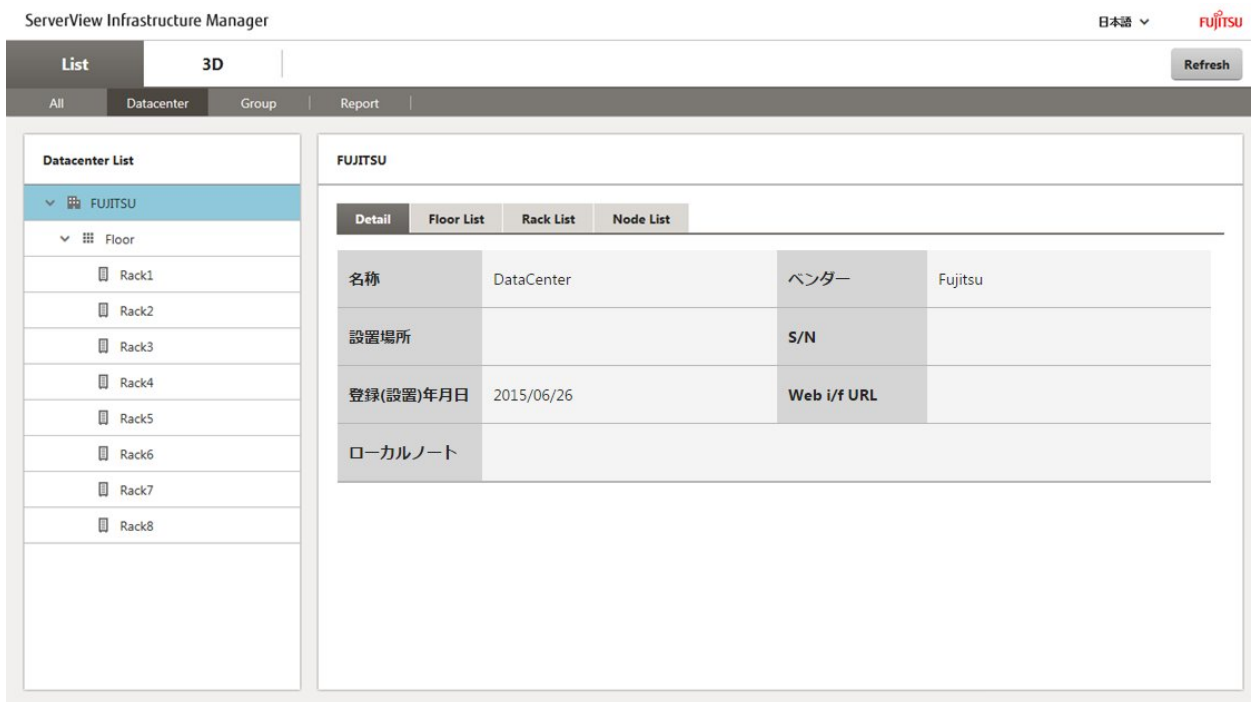
「カラム表示:プロファイル」選択時のステータスアイコン一覧

「カラム表示:プロファイル」を選択した場合、機器に対するプロファイルの適用状態を示すステータスアイコンが表示されます。

アイコン	説明
	プロファイル適用前の機器です。
	プロファイル適用後の機器です。
	プロファイル対象外の機器です。

4.7.3.2 [Datacenter]メニュー

[Datacenter]メニューを選択すると、階層ごとに分類された機器の一覧が表示されます。画面左パネルにデータセンター、フロア、ラックの階層がツリー表示されます。ツリーから各階層を選択すると、画面右パネルに選択された階層の詳細情報とその階層の下に属する階層のリストが表示されます。



[データセンター]選択

タブ	説明
Detail	選択したデータセンターの詳細情報が表示されます。 名称、ベンダー、設置場所、S/N、登録(設置)年月日、Web i/f URL、ローカルノート
Floor List (*1)	選択したデータセンターに属するフロアのリストが表示されます。 フロア、登録(設置)年月日 フロア名をクリックすると、[フロア]選択の画面が表示されます。
Rack List	選択したデータセンターに属するラックのリストが表示されます。 フロア、ラック、ベンダー、型名、登録(設置)年月日 ラック名をクリックすると、[ラック]選択の画面が表示されます。
Node List	選択したデータセンターに属する機器のリストが表示されます。 カラム表示として[基本情報]を選択した場合、以下の項目が表示されます。 ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、S/N、フロア、ラック/搭載位置、登録(設置)年月日 カラム表示として[プロファイル]、[ファームウェア]を選択した場合、表示されるリストの内容は、「4.7.3.1 [All]メニュー」に表示される内容と同等です。 機器名をクリックすると、機器の詳細情報が表示されます。

*1: ISM V1.5では、1フロアのみが表示されます。

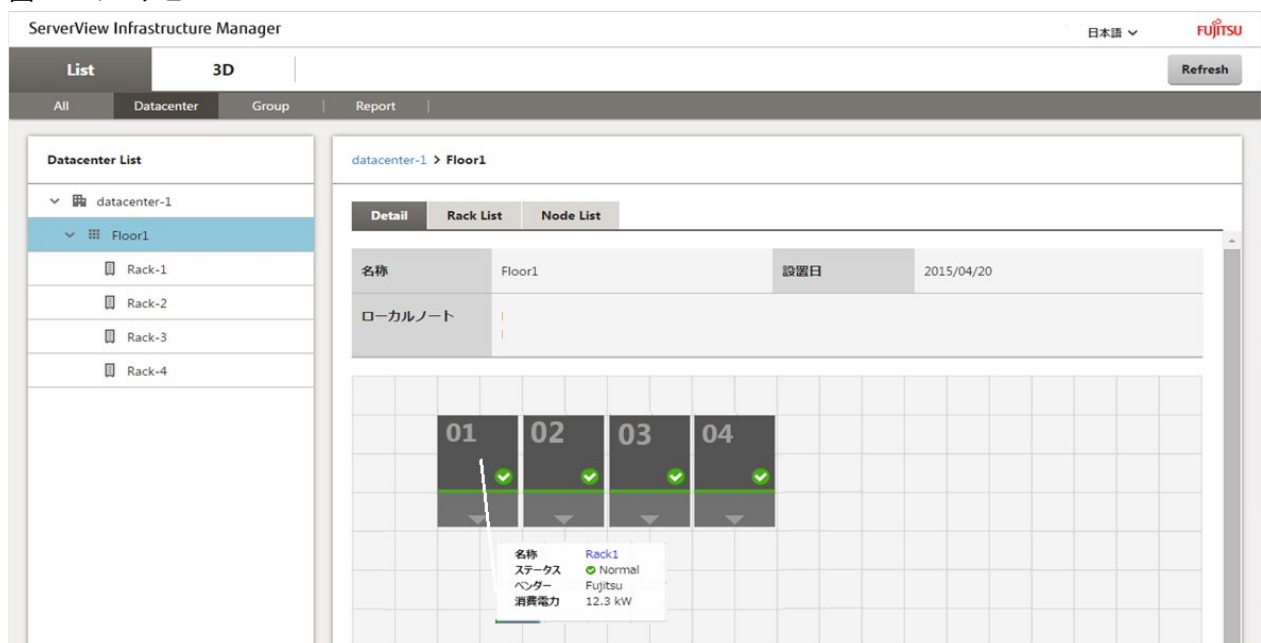
[フロア]選択

タブ	説明
Detail	選択したフロアの詳細情報およびフロアビューが表示されます。 名称、設置日、ローカルノート
Rack List	選択したフロアに属するラックのリストが表示されます。 ラック、ベンダー、型名、設置(登録)年月日

タブ	説明
	ラック名をクリックすると、[ラック]選択の画面が表示されます。
Node List	選択したフロアに属する機器のリストが表示されます。 カラム表示として[基本情報]を選択した場合、以下の項目が表示されます。 ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、S/N、ラック/搭載位置、登録(設置)年月日 カラム表示として[プロファイル]、[ファームウェア]を選択した場合、表示されるリストの内容は、「4.7.3.1 [All]メニュー」に表示される内容と同等です。 機器名をクリックすると、機器の詳細情報が表示されます。

[フロア]選択時の[Detail]タブの画面構成は以下のとおりです。

図4.11 フロアビュー



HTML5ベース GUIの画面を表示すると、フロアビューが最初に表示されます。

[フロアビュー](#)では、データセンターを上から見たラックの配置が表示されます。ラックをクリックすると、ラック名、ステータス、ベンダー、消費電力がツールチップで表示されます。ツールチップ中のラック名をクリックすると、[ラックビュー](#)が表示されます。

ラックに表示される  は、ラック前面の向きを示します。

また、ラックにはステータスを表すアイコンおよびステータスバーが表示されます。

ステータス	ステータスバー	アイコン
Normal		
Warning		
Critical		
Unknown		

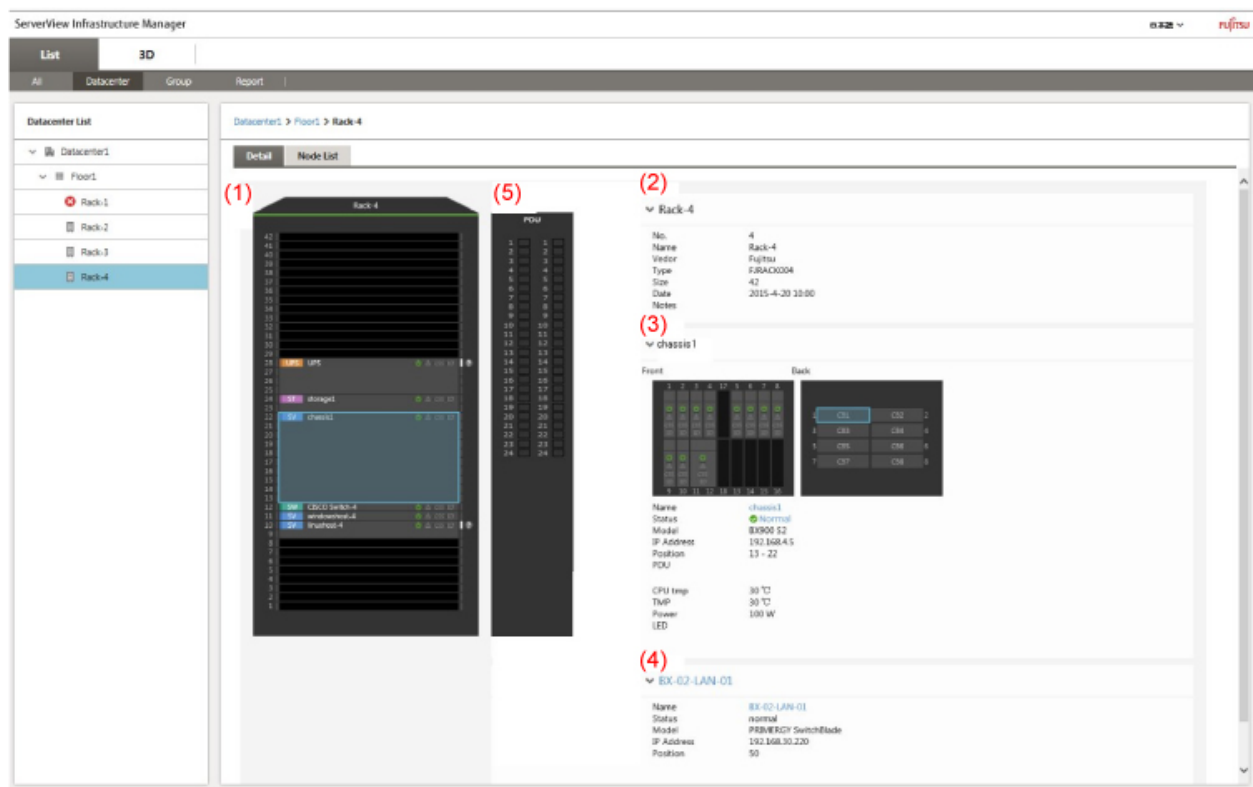
[ラック]選択

タブ	説明
Detail	選択したラックの詳細情報およびラックに搭載された機器の情報が表示されます。

タブ	説明
Node List	選択したラックに属する機器のリストが表示されます。 カラム表示として[基本情報]を選択した場合、以下の項目が表示されます。 ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、S/N、搭載位置、登録(設置)年月日 カラム表示として[プロフィール]、[ファームウェア]を選択した場合、表示されるリストの内容は、「4.7.3.1 [All]メニュー」に表示される内容と同等です。 機器名をクリックすると、機器の詳細情報が表示されます。

[ラック]選択時の[Detail]タブの画面構成は以下のとおりです。

図4.12 ラックビュー



No.	項目	説明
(1)	ラック	選択されたラックの搭載機器情報が表示されます。 機器の種別が以下のアイコンで表示されます。 SV : サーバ ST : ストレージ SW : スイッチ UPS : UPS CDU : 水冷RackCDU : 上記以外の機器 また、ラック内に搭載された機器のLED状態が以下のアイコンで表示されます。 LEDがオフの状態の場合、アイコンはグレー表示されます。 LEDが点滅状態の場合、アイコンは点滅表示されます。 : 電源LED : エラーLED

No.	項目	説明
		 : CSS LED  : ID LED 機器の右端にステータスが以下のアイコンで表示されます。  : Critical  : Warning なし: Normal  : 上記以外
(2)	ラック情報	ラックの情報が表示されます。▼ をクリックして、表示／非表示を切り替えることができます。
(3)	機器情報	ラック内の機器をクリックすると、選択された機器の情報が表示されます。 機器の名称をクリックすると、[機器詳細]画面が表示されます。また、ステータスをクリックすると、別ウィンドウでFirstSightが起動されます。 ラックからブレードサーバ (BX900、BX400) またはマルチノードサーバ (CX400) が選択された場合は、シャーシ図が表示され、シャーシ内のサーバブレード／ノードを選択できます。 ▼ をクリックして、表示／非表示を切り替えることができます。非表示にした場合でも、シャーシ図は表示されます。
(4)	サーバブレード／ノード情報	ラックからブレードサーバ (BX900、BX400) またはマルチノードサーバ (CX400) を選択した場合のみ表示されます。(3)機器情報に表示されるシャーシ内から選択されたサーバブレード／ノードの情報が表示されます。 機器の名称をクリックすると、[機器詳細]画面が表示されます。また、ステータスをクリックすると、別ウィンドウでFirstSightが起動されます。
(5)	PDU	ラックに搭載されている0U PDUの情報が表示されます。 PDUが登録されている場合のみ表示されます。

4.7.3.3 [Group]メニュー

ServerView Infrastructure Manager 日本語 ▼ 

List 3D

All | Datacenter | **Group** | Report

Group List

-  Linux server
-  Windows server
-  Switch

Linux server

🔍 Search カラム表示: 基本情報 ▼

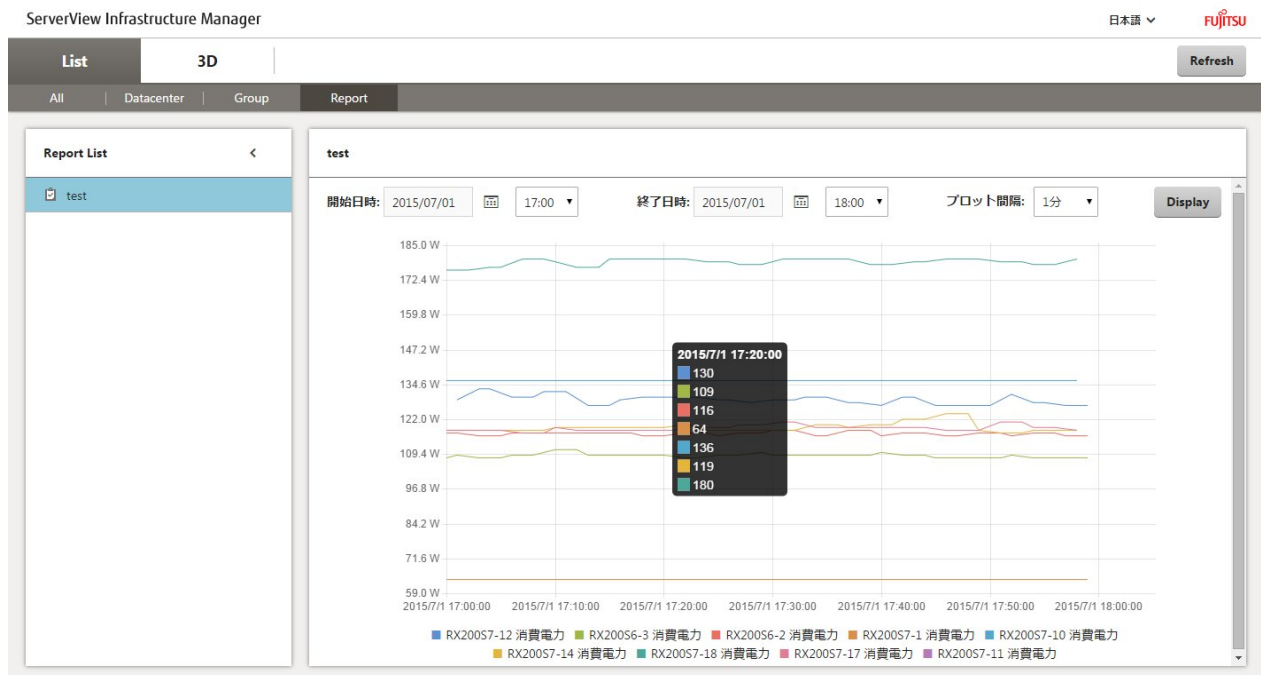
ステータス	機器名	モデル	IPアドレス	S/N	登録(設置)年月日
	 linuxhost-1	PRIMERGY RX200 S8	192.168.1.2	MANS001534	2014-11-17 10:02:10
	 linuxhost-2	PRIMERGY RX200 S8	192.168.2.2	MA4J001725	2014-11-17 10:02:10
	 linuxhost-3	PRIMERGY RX200 S8	192.168.3.2	MADG203083	2014-11-17 10:02:10
	 linuxhost-4	PRIMERGY RX200 S8	192.168.4.2		2014-11-17 10:02:10

コンテンツエリア左位置にISMで定義しているグループの一覧が表示されます。コンテンツエリア右位置には、一覧で選択されたグループに属する機器のリストが表示されます。カラム表示として[基本情報]を選択した場合、以下の項目が表示されます。

ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、S/N、登録(設置)年月日

カラム表示として[プロファイル]、[ファームウェア]を選択した場合、表示されるリストの内容は、「4.7.3.1 [All]メニュー」に表示される内容と同等です。

4.7.3.4 [Report]メニュー



コンテンツエリア左位置にISMで定義しているレポートの一覧が表示されます。一覧からレポート定義を選択し、コンテンツエリア右位置でグラフ表示する「開始日時」および「終了日時」、「プロット間隔」を選択して[Display]ボタンをクリックすると、レポートのグラフが表示されます。

表示されたグラフにマウスオーバーすると、ツールチップが表示されます。

4.7.3.5 共通表示項目

各サブナビゲーションメニューに共通で表示される項目について説明します。

[機器詳細]画面

リストから機器名をクリックすると、選択した機器の詳細情報が表示されます。

- [Properties]タブ

以下の機器プロパティ情報が表示されます。

機器名、モデル、ベンダ名、システム名、型名、機器タイプ、S/N、登録(設置)年月日、ローカルノート、データセンター、フロア、ラック、搭載位置

- Web If

URL

- 管理ネットワーク

IPアドレス、MACアドレス、アカウント、Community名

- 管理OSネットワーク

管理OS、HOST名、IPアドレス、アカウント

機器タイプには以下のどれかが表示されます。

PRIMERGY_Server、PRIMERGY_BX_Chassis、PRIMERGY_CX_Chassis、PRIMEQUEST、Other_Server
Switch、Converged_Fabric_Switch、BX_Converged_Fabric_Switch、BX_Switch_Blade、BX_FC_Switch_Blade、
BX_SAS_Switch_Blade
ETERNUS_DX、ETERNUS_VDX、NetApp/ETERNUS_NR、Storage
Intelligent PDU、UPS、RackCDU
Other

- [Profiles]タブ

Profileステータス、HW ProfileおよびOS Profile-個別IDが表示されます。各プロファイル名をクリックすると、該当プロファイルの内容が表示されます。

- [Sensors]タブ

モニターしているセンサーの一覧およびステータス、モニターした値が表示されます。

- [Blades]タブ(シャーシを選択した場合のみ)

選択したシャーシ内に搭載されているサーバブレード／ノードの一覧が表示されます。カラム表示として[基本情報]を選択した場合、以下の項目が表示されます。

ステータス、機種別アイコン、機器名、モデル、IPアドレス、S/N、スロット番号、搭載位置、登録日

カラム表示として[プロファイル]、[ファームウェア]を選択した場合、表示されるリストの内容は、「[4.7.3.1 \[All\]メニュー](#)」に表示される内容と同等です。機器名をクリックすると、該当するサーバブレード／ノードの機器詳細が表示されます。

- [FirstSight]ボタン

FirstSight対応機器の詳細を表示した場合のみボタンが表示されます。[FirstSight]ボタンをクリックすると、確認画面が表示されます。[OK]ボタンをクリックすると、別ウィンドウでFirstSightが起動されます。

HW Profile

ハードウェアプロファイル名、サーバ種類が表示されます。

サーバ種類は以下のどれかが表示されます。

RX/CX Server、BX Server、PQ Partition、DX60 S2、DX60 S3、DX80/DX90 S2、DX100/200 S3

また、以下のタブで各設定内容が表示されます。

- [FW Update]タブ
- [BIOS]タブ
- [BMC(iRMC)]タブ
- [Profile Info]タブ

内容の詳細については、「[付録E プロファイル設定項目](#)」を参照してください。

OSプロファイル

OSプロファイル名が表示されます。また、以下のタブで各設定内容が表示されます。

- [OS Information]タブ
- [Individual Info]タブ
- [Profile Info]タブ

内容の詳細については、「[付録E プロファイル設定項目](#)」を参照してください。

パンくずリスト

Datacenter1 > Floor1 > Rack-4 > chassis1 > blade1

サブナビゲーションメニューで[All]、[Datacenter]、[Group]を選択した場合、コンテンツエリア上部にパンくずリストが表示されます。パンくずリストでは選択した項目の階層が表示され、上位の階層に遷移できます。

- [All]メニュー
All Node List > (シャード名) > 機器名
- [Datacenter]メニュー
データセンター名 > フロア名 > ラック名 > (シャード名) > 機器名
- [Group]メニュー
グループ名 > (シャード名) > 機器名

ポイント

シャード名は、ブレードサーバを選択した場合のみ表示されます。ISM V1.5では、フロア名は固定文字列となります。

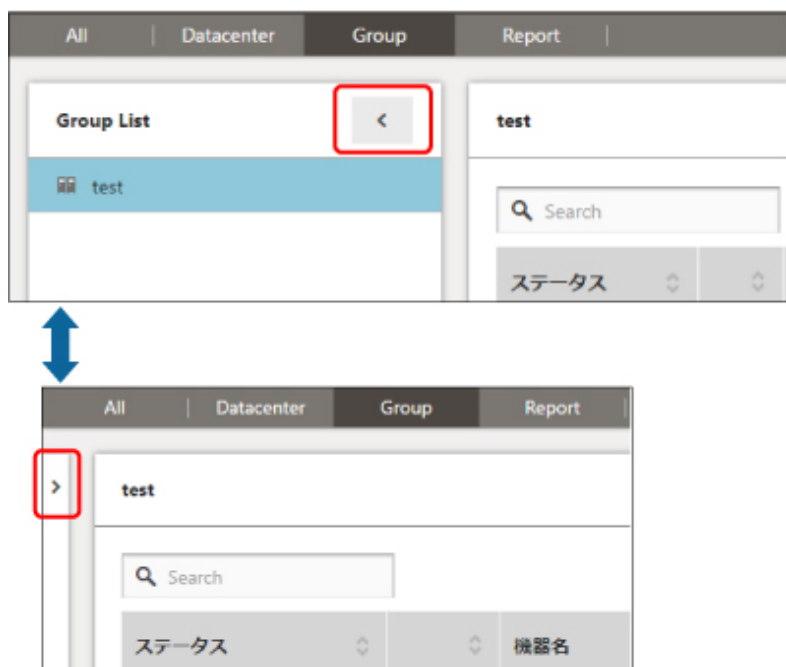
検索ボックス



リスト表示されている画面には、画面上部に検索ボックスが配置されます。検索ボックスに文字を入力すると、その文字にマッチしたカラムを持つ列数が検索ボックスの右側に表示され、リストが絞り込み表示されます。

左パネル表示／非表示切り替え

[Datacenter]、[Group]、[Report]サブメニューを選択した場合、コンテンツエリアは左右2つのパネルが表示されます。左パネル上部の  をクリックすると、左パネルを非表示にすることができます。再度、左パネルを表示する場合は、 をクリックしてください。



4.7.3.6 FirstSight

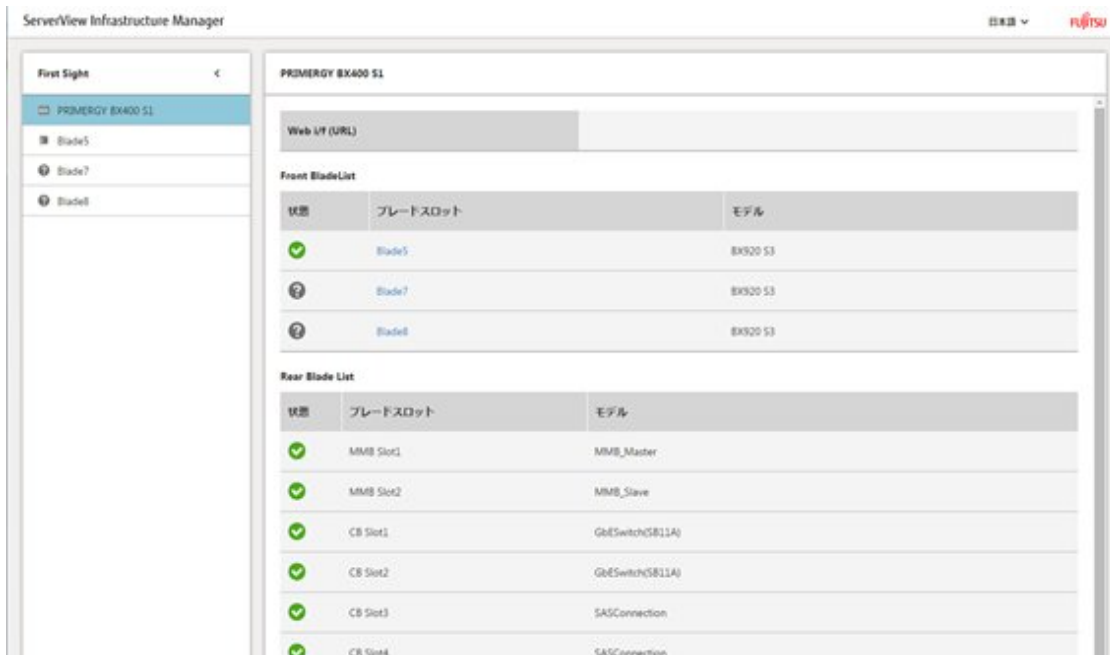
[機器詳細]画面、またはラックビューの機器情報からFirstSightを起動できます。FirstSightの画面構成は以下のとおりです。

図4.13 PRIMERGY RXシリーズの場合



画面左には選択した機器のモデル名が表示されます。
画面右には機器の情報が表示されます。

図4.14 PRIMERGY BXシリーズの場合



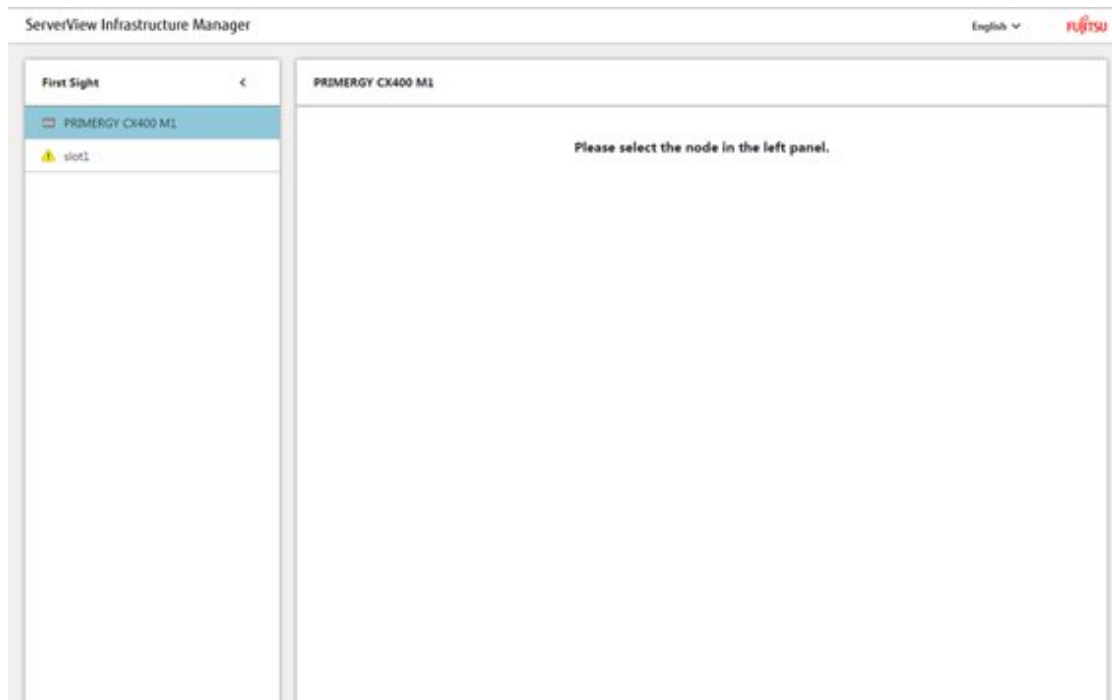
画面左には選択したPRIMERGY BXシリーズのモデル名およびシャーシに搭載されたサーバブレードのスロット名がツリー表示されます。
画面右にはツリーで選択したシャーシまたはサーバブレードの情報が表示されます。

シャーシを選択した場合、以下の情報が表示されます。

- Web i/f (URL)
- Front BladeList
状態、ブレードスロット、モデル
- Rear BladeList
状態、ブレードスロット、モデル

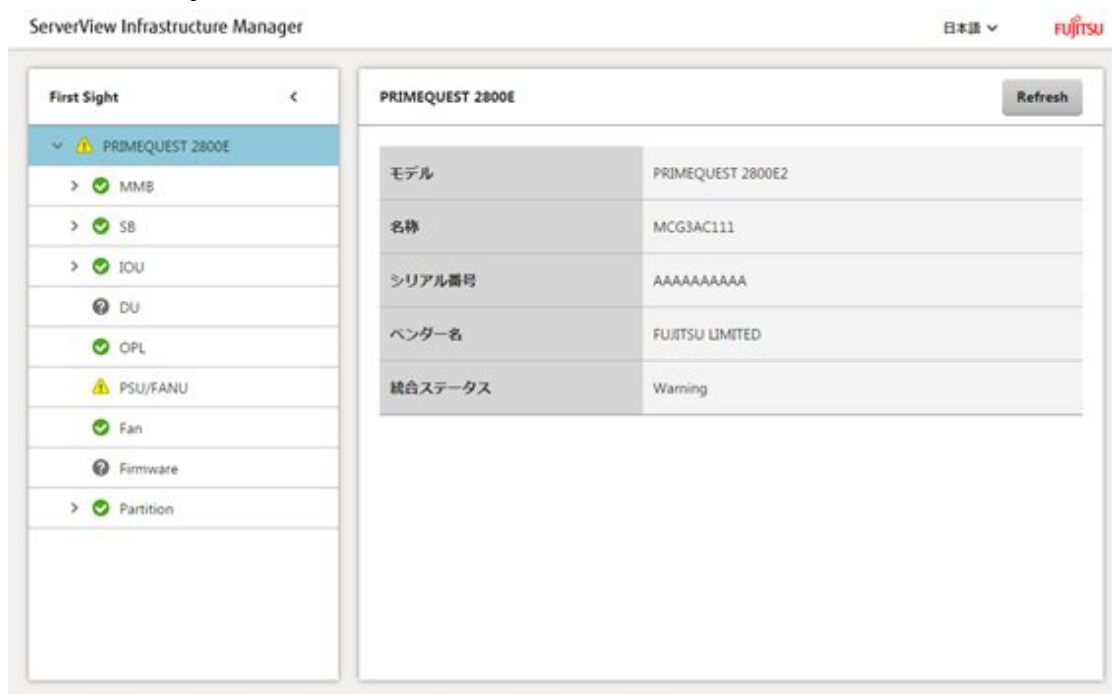
サーバブレードを選択した場合、サーバブレードの機器情報が表示されます。

図4.15 PRIMERGY CXシリーズの場合



画面左には選択したPRIMERGY CXシリーズのモデル名およびシャーシに搭載されたノードのスロット番号がツリー表示されます。
画面右にはツリーで選択したノードの情報が表示されます。

図4.16 PRIMEQUESTの場合



画面左には選択したPRIMEQUESTのモデル名および筐体に搭載されたコンポーネントがツリー表示されます。
画面右にはツリーで選択したコンポーネントの情報が表示されます。

PRIMERGY RX/CXシリーズ／サーバブレード選択時の機器情報

項目	説明
機器情報(*1)	選択した機器の情報が表示されます。 システムタイプ、システムシリアル番号、製造元、製造名/モデル名、部品番号、シリアル番号、ハードウェア版数、BIOS版数、iRMCの版数、Web i/f(URL)
CPU	選択した機器のCPUの情報が表示されます。 ソケットの位置、状態、モデル、周波数
Memory	選択した機器のメモリの情報が表示されます。 ソケットの位置、状態、種類、容量
Mezzanine Card	選択した機器の拡張カードの情報が表示されます。 ソケットの位置、状態、種類
Disk Drive	選択した機器のディスクの情報が表示されます。 ベイ、状態、容量
PCI Add-In Card(*2)	選択した機器の拡張カードの情報が表示されます。 状態、種類
Virtual Machine	仮想マシンの情報が表示されます。 名前、状態
PSU/FAN(*3)	選択した機器の電源ユニット／ファンの情報が表示されます。 名前、状態
レポート	以下が棒グラフで表示されます。 消費電力(W)、CPU使用率(%)、メモリ使用率(%)、ストレージ使用率(%) 10分周期で最大3個のグラフが表示されます。複数値を持つストレージ使用率は、2つのグラフが並べて表示されます。
ログ	最大50件のOSのイベントログが表示されます。搭載するOSにより、フォーマットが異なります。 - Windowsの場合 状態アイコン、日付と時刻、イベントID、メッセージ - VMWareの場合 メッセージ、状態アイコン、日付と時刻、ユーザー - Linuxの場合 メッセージ

*1: Web i/f(URL)は、PRIMERGY RXシリーズの場合のみ表示されます。

*2: PCI Add-In Cardは、PRIMERGY BXシリーズのサーバブレードの場合のみ表示されます。

*3: PSU/FANは、PRIMERGY RX/CXシリーズの場合のみ表示されます。

PRIMEQUEST選択時の機器情報

項目	説明
モデル名	選択した機器の情報が表示されます。 モデル、名称、シリアル番号、ベンダー名、統合ステータス
MMB	選択した機器のMMBの情報が表示されます。 名称、電源状態、モデル、状態 ツリーから個別のMMBを選択した場合、以下の情報が表示されます。

項目	説明
	状態、電源状態、名称、モデル、ベンダー名、シリアル番号、MACアドレス、ファームウェアバージョン
SB	選択した機器のSBの情報が表示されます。 名称、電源状態、有効/搭載コア、メモリサイズ、状態 ツリーから個別のSBを選択した場合、以下の情報が表示されます。 - 状態 電源状態、名称、モデル、ベンダー名 - CPU 状態、モデル、有効/搭載コア、周波数、L3キャッシュ、ステップ、説明 - Memory 状態、メモリサイズ、説明
IOU	選択した機器のIOUの情報が表示されます。 名称、電源状態、モデル、状態 ツリーから個別のIOUを選択した場合、以下の情報が表示されます。 状態、電源状態、名称、モデル、シリアル番号、ベンダー名
DU	選択した機器のDUの情報が表示されます。 名称、電源状態、モデル、状態 ツリーから個別のDUを選択した場合、以下の情報が表示されます。 状態、電源状態、名称、モデル、シリアル番号、ベンダー名
OPL	選択した機器のOPLの情報が表示されます。 状態、電源状態、名称、モデル、シリアル番号、ベンダー名 モデル、シリアル番号、ベンダー名は空欄となります。
PSU/FANU	選択した機器の電源ユニット/ファンの情報が表示されます。 - システム消費電力 名称、タイプ、電源状態、モデル、シリアル番号、ベンダー名、状態 - Fan 名称、モデル、シリアル番号、ベンダー名、状態 モデル、シリアル番号、ベンダー名は空欄となります。
Firmware	選択した機器のファームウェアの情報が表示されます。 タイプ、名称、ファームウェア、バージョン ツリー上でファームウェアのステータスは常に  アイコンで表示されます。
Partition	選択した機器のパーティションの情報が表示されます。 番号、P#、名称、電源状態、システム状態、状態 ツリーから個別のパーティションを選択した場合、以下の情報が表示されます。 名称、状態、電源状態、コア/最大コア、物理メモリサイズ、システム状態 機器 名称、タイプ、電源状態、状態 拡張パーティションが存在する場合、パーティションの下にツリー表示されます。拡張パーティションを選択した場合、以下の情報が表示されます。 名称、状態、電源状態、割り当てコア/要求コア、割り当てメモリサイズ/要求メモリサイズ、システム状態

P ポイント

- ・ブレードサーバ (BX900、BX400) では、シャーシの機器詳細／ラックビューの機器情報からFirstSightを起動することができます。各サーバブレードの機器詳細／ラックビューの機器情報からは起動できません。マルチノードサーバ (CX400) では、各ノードの機器プロパティ／ラックビューの機器情報からFirstSightを起動することができます。
- ・FirstSightでは、画面を表示するまでに1分以上時間がかかる場合があります。また、画面更新を行うと、その都度監視対象機器からの情報取得が行われます。このため、画面読み込み中には更新を実施しないでください。

4.7.4 [3D]画面

[3D]画面では、データセンターに格納されたラックおよびラックに搭載された機器の状態、位置関係を立体的に把握できます。

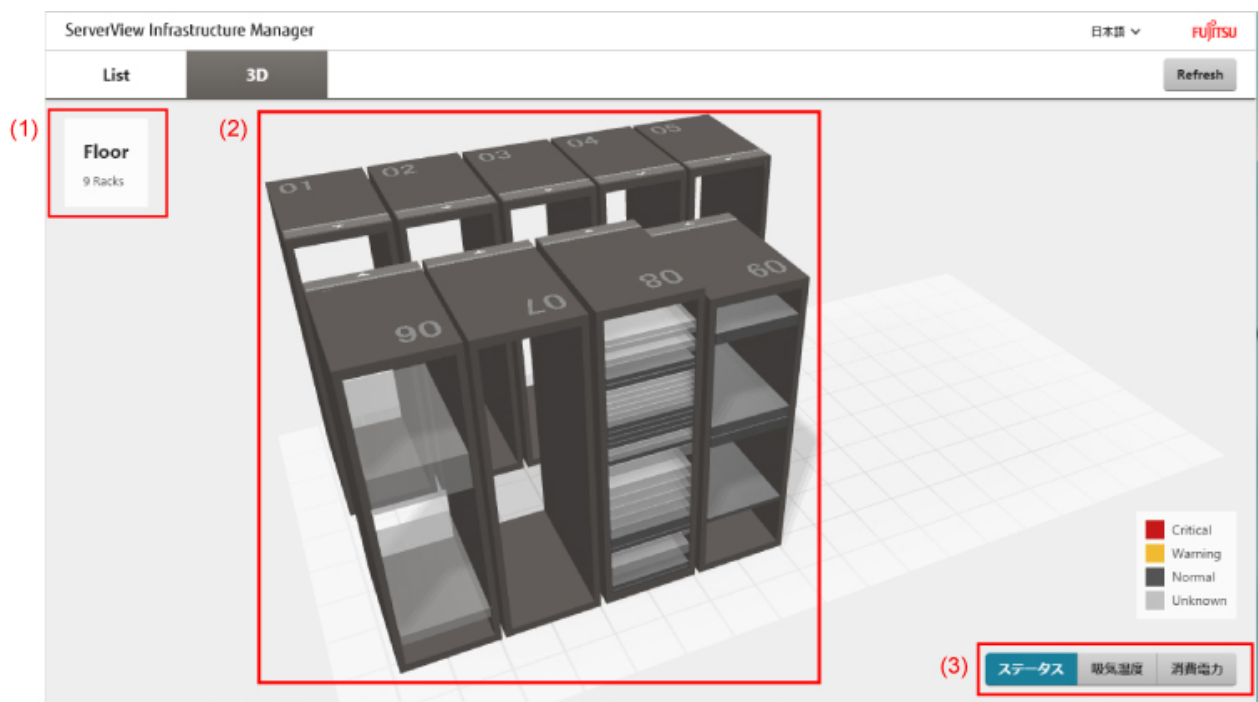
G 注意

- ・Android 4.4.2では、[3D]画面は未サポートです。
- ・Microsoft Internet Explorer 11で[3D]画面を表示するには、Microsoftのサポート技術情報 (以下「KB」) 2991001が適用されている必要があります。

<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2991001>

[3D]画面でラックオブジェクトが表示されない場合、KB 2991001が含まれるマイクロソフト セキュリティ情報 MS14-051を適用してください。詳細については、以下のWebサイトを参照してください。

<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/security/MS14-051>



[3D]画面では、以下の内容が表示されます。

No.	項目	説明
(1)	フロアサマリ	画面左上にサマリが表示されます。フロア名、設置ラック数が表示されます。
(2)	ラックオブジェクト	ラックの設置位置やステータスが表示されます。表示される情報は、表示切替ボタンで切り替えることができます。ラック上面には、ラック前面を表す三角形およびラック番号が表示されます。

No.	項目	説明
(3)	表示切替ボタン	[3D]画面で表示する情報(ステータス、吸気温度、消費電力)を切り替えます。

ポイント

[3D]画面を表示した直後などは、表示切替ボタンは[ステータス]ボタンのみが有効となります。データ収集が完了した時点で、[吸気温度]、[消費電力]ボタンも有効となります。

[3D]画面内では、以下の操作を行うことができます。

動作		マウス操作	タブレット操作
カメラ操作	回転	左クリック+ドラッグ	ドラッグ
	パン(水平移動)	右クリック+ドラッグ	—
	ズーム	マウスホイール回転	ピンチイン/ピンチアウト
ラック選択	選択	マウスオーバー	—
	ツールチップ表示	左クリック ※非表示は空スペースを左クリック	タップ ※非表示は空スペースをタップ

[ステータス]表示

[ステータス]表示では、ラックおよび搭載された機器のステータスが表示されます。

ラックを選択すると、以下の項目がツールチップ表示されます。

ラック名、ステータス、ラック番号、ベンダ名、型名、導入(設置)年月日、ローカルノート

[吸気温度]表示

[吸気温度]表示では、ラックおよび機器ごとの吸気温度が表示されます。吸気温度によって、ラックおよび各機器が以下のとおり表示されます。

吸気温度	表示色
25℃未満	緑
25℃≤吸気温度<30℃	黄緑
30℃≤吸気温度<35℃	黄
35℃≤吸気温度<40℃	橙
40℃以上	赤
不明	ライトグレー

ポイント

ラックの吸気温度は、ラックに搭載された機器のうち最高温度の機器温度が表示されます。

ラックを選択すると、以下の項目がツールチップ表示されます。

ラック名、ラック番号、ベンダ名、型名、導入(設置)年月日、ローカルノート、最高温度、最低温度、平均温度

最高温度、最低温度、平均温度は、選択されたラックに搭載された機器のうちの最高吸気温度、最低吸気温度および平均温度が表示されます。

[消費電力]表示

[消費電力]表示では、ラックごとの消費電力が表示されます。ラックの消費電力によって、ラックが以下のとおり表示されます。

消費電力	表示色
2kW未満	緑
2kW≦消費電力<4kW	黄
4kW以上	赤
不明	ライトグレー

ポイント

表示色の値は任意に変更できます

値を変更するには、以下のファイルをテキストエディタで開き、「value1」、「value2」の値(赤字部分)を修正します。

<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svism%REST%webroot%settings.js

```
var value1 = 2.0;
var value2 = 4.0;
```

単位はkWです。ファイルを保存し、[3D]画面を更新すると変更した値が反映されます。

消費電力が「value1」の値以上となった場合は黄色、「value2」の値以上となった場合に赤色の表示となります。

「value2」には必ず「value1」より大きな値を入力してください。

ラックを選択すると、以下の項目がツールチップ表示されます。

ラック名、ラック番号、ベンダ名、型名、導入(設置)年月日、ローカルノート、消費電力

消費電力は、選択されたラックに搭載された機器の消費電力の合計値が表示されます。

第5章 運用

5.1 各種DVDのデータインポート

次のDVDやCD(またはisoイメージ)の中身を管理サーバのハードディスク上にコピーします。
Update DVDは、必ずインポートを行います。OSのインストールDVDについては利用するOSのみインポートが必要です。

DVD種類	備考
Update DVD	必ずインポートしてください。 最新ファームウェアやBIOSにアップデートする場合は、それらを含むDVDから再度インポートが必要です。 サポート版数はV11.13.10以降です。
Windowsインストールメディア	Windowsをインストールする場合にインポートが必要です。 富士通から提供されているPRIMERGY向けインストールメディア(イメージ)、またはマイクロソフト社が提供するインストールメディア(イメージ)を使用します。
VMware ESXi インストールメディア	VMware ESXiをインストールする場合にインポートが必要です。 富士通から提供されているPRIMERGY向けインストールメディア(イメージ)を使用します。
Update Supplement	メンテナンス支援機能で使します。
FC Switchblade Firmware DVD	メンテナンス支援機能で使します。

各種DVDのデータをインポートする手順は次のとおりです。

1. プロファイル適用動作設定を完了していない場合は、最初に設定を行います。
詳しくは、「[3.2.2 設定手順](#)」を参照してください。
2. [Setup]画面を表示します。
詳しくは、「[4.5 \[Setup\]画面](#)」を参照してください。
3. [Setup]画面の左側で[データインポート実行]をクリックします。

開始日時	終了日時	ステータス	バージョン	種類	インポート元	エラー内容
2014-05-10 11:27:28		インポート中		VMware ESXi 5.5	Fx	
2014-05-10 11:27:31		インポート中	11.14.82	Update DVD	QW	
2014-05-10 11:26:40	2014-05-10 11:27:25	完了	11.14.86	ServerView Suite DVD	HW	

4. コピー元になるDVDを管理サーバ上のドライブにセットする、またはisoイメージをマウントしてドライブに割り当てます。

ポイント

- ー リモート接続されたWebブラウザでプロファイル管理を操作している場合、コピー元ドライブは接続先の管理サーバ側に存在する必要があります。
- ー Linuxのインストールメディアは本画面でインポートしません。「[Linuxインストール媒体の準備](#)」を参照して、別途用意したFTPサーバにファイルを保存してください。

5. 画面右側の [インポート元ドライブ] 欄をクリックし、ドライブ名を選択します。
ドライブ名が表示されない場合は、[最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。
6. [種類]欄をクリックし、インポートするDVDの種類を選択します。
7. [インポート開始]ボタンをクリックします。
インポートが開始されます。
8. [最新の状態に更新] ボタンをクリックし、ログ表示欄でコピーが完了するのを待ちます。
9. 複数のDVDからコピーする場合は、手順3～8を繰り返します。
Update DVDのインポートは必須です。
10. 最後に[適用]ボタンをクリックします。
11. 確認のダイアログボックスが表示されたら、[はい]ボタンをクリックします。
適用が開始されます。正常終了すると作業は完了です。

ポイント

- ・ 適用開始から完了までは数分かかります。
- ・ 適用中は共有フォルダー (リポジトリ) に対して、一時的にネットワークドライブが割り当てられます。
- ・ すでにインポートが完了したあとでプロファイル適用動作設定を変更した場合も、インポート操作が必要になります。
すでにインポートが完了した状態から、共有フォルダー名 (リポジトリパス) を変更した場合は、すべてのインポート作業を行ってください。共有フォルダー名 (リポジトリパス) 以外を変更した場合は、[データインポート実行]画面で [適用] ボタンをクリックしてください。

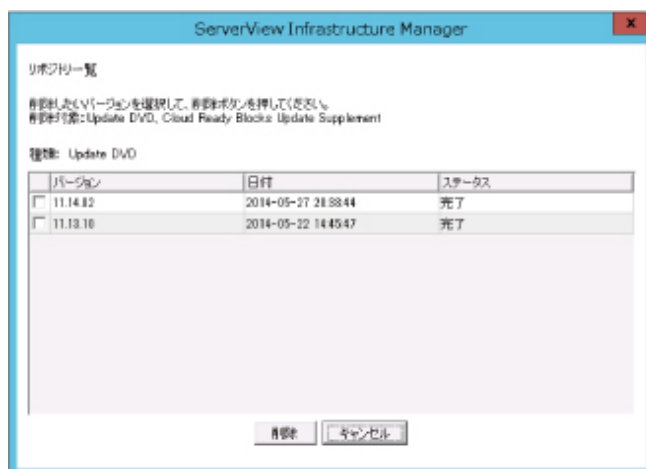
インポート済みデータの削除

Update DVDおよびUpdate Supplementについては、すでにインポート済みのバージョンと異なるバージョンのDVDをインポートすると、以前インポートしたバージョンはすべて保持されたまま、新しくインポートしたバージョンが追加されます。

そのため、複数のバージョンがインポートされた状態となります。

不要になったバージョンは次の手順で削除します。

1. [データインポート実行]画面の種類選択欄で削除するDVDの種類を選択し、[リポジトリ一覧] をクリックします。
2. [リポジトリ一覧]ダイアログボックスが開き、インポートされているバージョンが一覧表示されます。



3. 削除するバージョンのチェックボックスをオンにして [削除] ボタンをクリックします。

4. [データインポート実行] 画面に戻ります。[最新の状態に更新] ボタンをクリックし、削除が正しく完了したことを画面上の作業履歴で確認します。削除が成功すると履歴のステータスに「削除済」と表示されます。



注意

Update DVD、Update Supplement以外は複数の種類や版数を保存できません。

[種類] が同一のDVDを複数インポートした場合は、最後にインポートしたデータだけがリポジトリに残ります。ISM操作画面からインポートしたデータの削除はできません。削除が必要な場合は、リポジトリから下表に示すフォルダー内のファイルを削除してください。

OS種類	フォルダー名
Windows Server 2012 R2 Datacenter(富士通媒体)	W12R20DF
Windows Server 2012 R2 Standard(富士通媒体)	W12R20SF
Windows Server 2012 R2(マイクロソフト社媒体)	W12R20_M
Windows Server 2012 R2(マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W12R20_V
Windows Server 2012 Datacenter(富士通媒体)	W120DF
Windows Server 2012 Standard(富士通媒体)	W120SF
Windows Server 2012(マイクロソフト社媒体)	W120_M
Windows Server 2012(マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W120_V
Windows Server 2008 R2 Datacenter + SP1(富士通媒体)	W08R21DF
Windows Server 2008 R2 Enterprise + SP1(富士通媒体)	W08R21EF
Windows Server 2008 R2 Standard + SP1(富士通媒体)	W08R21SF
Windows Server 2008 R2 + SP1(マイクロソフト社媒体)	W08R21_M
Windows Server 2008 R2 + SP1(マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W08R21_V
Windows Server 2008 R2 Datacenter(富士通媒体)	W08R20DF
Windows Server 2008 R2 Enterprise(富士通媒体)	W08R20EF
Windows Server 2008 R2 Standard(富士通媒体)	W08R20SF
Windows Server 2008 R2(マイクロソフト社媒体)	W08R20_M
Windows Server 2008 R2(マイクロソフト社ボリュームライセンス媒体)	W08R20_V
VMware ESXi 6.0 Update 1b(富士通媒体)	ESXI60U1B
VMware ESXi 6.0 Update 1a(富士通媒体)	ESXI60U1A
VMware ESXi 6.0(富士通媒体)	ESXI60U0
VMware ESXi 5.5 Update 3b(富士通媒体)	ESXI55U3B
VMware ESXi 5.5 Update 3a(富士通媒体)	ESXI55U3A
VMware ESXi 5.5 Update 2(富士通媒体)	ESXI55U2
VMware ESXi 5.5 Update 1(富士通媒体)	ESXI55U1
VMware ESXi 5.5(富士通媒体)	ESXI55U0
VMware ESXi 5.1 Update 3(富士通媒体)	ESXI51U3
VMware ESXi 5.1 Update 2(富士通媒体)	ESXI51U2
VMware ESXi 5.1 Update 1(富士通媒体)	ESXI51U1

5.2 機器の登録

ISMで機器を管理するためには、最初に対象機器をISMに登録する必要があります。機器登録には以下に示す2種類の方法があります。

- 登録データ作成ツールに機器のデータを入力して、[Facility Browser]画面から読み込ませる (Facility Managerでの登録)。
- Profile Managerで機器検出を行って登録を行う。

原則としてProfile Managerがサポートしている機器はProfile Managerから登録し、それ以外の機器はFacility Managerから登録します。

登録方法	対象機器			
	ブレードサーバ関連 (PRIMERGY)	ブレードサーバ以外の サーバ	スイッチ類	その他
Profile Manager	- サーバブレード (BX) - ブレードシャーシ (MMB) - コネクシオンブレード (LAN/FC スイッチブレード)	- PRIMERGY ラックサーバ (RX) / クラスタサーバ (CX) - PRIMEQUEST MMB (*1) - PRIMEQUEST パーティション	—	- ETERNUS DX シリーズ (*1) - ETERNUS NR シリーズ (*1) - ETERNUS TR シリーズ (*1)
Facility Manager (*2)	ストレージブレード	上欄以外のサーバ	- LANスイッチ - FCスイッチ など	- 上欄以外の ETERNUS - ファシリティ機器

*1: Profile Managerがサポートするモデルのみ

*2: 登録データ作成ツールに機器のデータを入力して、[Facility Browser]画面から読み込ませる操作を、「Facility Managerでの登録」として記載します。

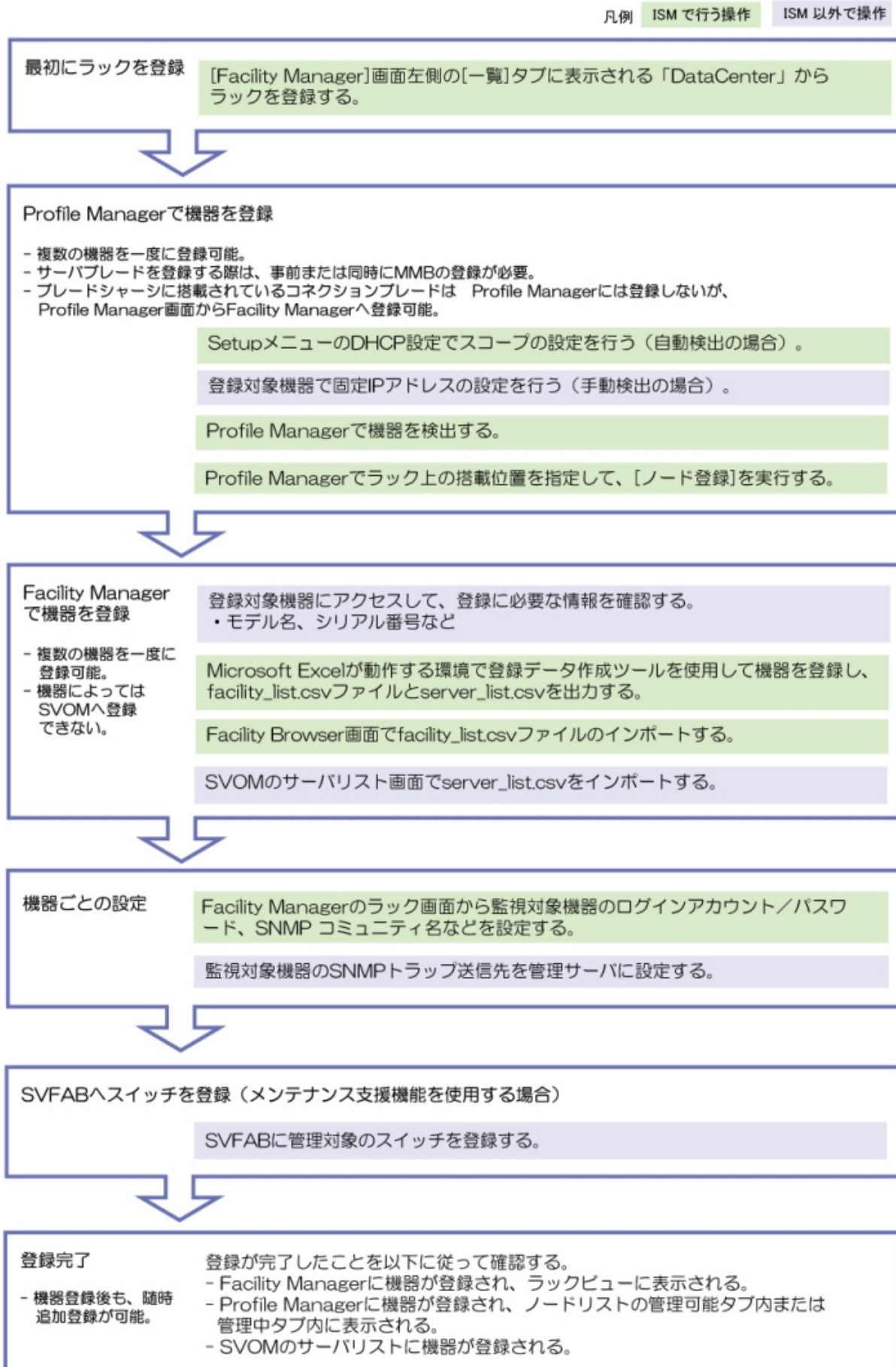
ポイント

Profile Managerで機器を登録すると、Facility Managerにも同一機器が登録されます。

Facility Managerで機器を登録した場合は、Profile Managerには登録されません。プロファイル管理機能を使用する際はProfile Managerからも登録する必要があります。

機器登録の作業の流れを以下の図に示します。

図5.1 機器登録の流れ



ISMの一部機能はSVOMのサーバリストへの機器登録情報を利用して動作するため、サーバリストへの登録も必要です。上記の操作によってサーバリストにも機器が登録されます。登録内容の編集や不要な登録の削除が必要な場合は、SVOMの画面から行ってください。

ポイント

- サポート製品や対応機能などの最新情報については、弊社の本製品ウェブサイトを参照してください。
<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>
- ETERNUS DXシリーズをProfile Managerから登録する際、増設DEの検出／登録は行われません。増設DEを個々に登録する場合はFacility Managerから追加してください。
- SVOMのサーバリストへのサーバ登録では、BMCとしてiRMCのIPアドレスで登録されます。
ServerView Agentsをインストール後にサーバとしてSVOMに登録する際は、サーバリストから削除してください。
- 監視対象機器のSNMPトラップ送信先を管理サーバに設定する手順については、監視対象機器のマニュアルを参照してください。

プロファイル管理におけるラック搭載位置の指定

各機器の搭載先のラック名やラック内での高さ情報は、主にファシリティ管理で使用されます。ラックの状態をグラフィカルに表示したGUIから各種操作を実行できるようになります。詳しくは、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。

プロファイル管理機能では、ノードリスト(搭載位置順)のツリー構成に反映されます。搭載位置情報を正しく登録することで、特定ラック内の機器だけを簡単に一覧表示できます。

ポイント

- 登録時は位置未定で登録しておき、あとから位置を指定できます。位置が指定されるまでは、ノードリスト(搭載位置順)のツリー内では、「位置不明ノード」の配下に機器が表示されます。
- 登録先のラックは、[Profile Manager]画面で新規作成ができません。事前にファシリティ管理で定義してください。
- サーバブレードの場合、位置を指定できません。搭載先のブレードシャーシの位置とサーバブレードのスロット位置に従って自動的に確定します。

登録データ作成ツールの起動と画面説明

登録データ作成ツールは、Excel形式のファイルです。ファイルを編集して、構成情報を新規に作成したり、過去に作成した構成情報を読み込んで修正したりします。

注意

- 登録データ作成ツールでは、csvファイルを出力し、出力したファイルから機器の情報を登録します。
本ツールのご使用には、Microsoft ExcelがインストールされているPCが必要です。
- 作成した登録データは、システム管理者が必ず保管してください。

1. 登録データ作成ツールを開きます。

「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」に登録データ作成ツールが格納されています。格納場所については、DVD内のルートフォルダーにある「index.html」を参照してください。

Microsoft ExcelがインストールされているPCの任意のフォルダーに、登録データ作成ツールをコピーします。

コピーしたファイルをMicrosoft Excelで開くと、ボタンと構成情報一覧表が表示されます。

ServerView Infrastructure Manager
構成情報テンプレート

(1) ISM構成情報 読み込み (2) ISM構成情報 保存 (6) センター情報編集 (8) センター、ラック情報 保存

(3) 挿入 (4) 複写 (5) 削除 (7) ラック情報編集 (9) 機器情報編集

一括変更 Y

Output Select	No.	FacilityName	ParentName	NetAddress	Type	Sensor	Port/SlotNo	Community	PollInterval	Rack No	Rack AreaNo	RackNo Units	Notes	Vendor ID	Model
Y	1	BX900S2		192.168.181.100	3	0	0	public	60	1	16	10	BX900S2	1	PRIMERGY BX900 S2
	2	-	BX900S2			55	0		60						
Y	3	BX920S3-1	BX900S2	192.168.181.101	1	50	1		60	1	16	1	BX920S3	1	PRIMERGY BX920 S3
	4	-	BX920S3-1			51	1		60						
	5	-	BX920S3-1			52	1		60						

(10)

No.	項目	説明
(1)	[ISM構成情報 読み込み] ボタン	過去に作成した構成情報を読み込みます。
(2)	[ISM構成情報 保存] ボタン	作成した構成情報を出力します。 出力先: 登録データ作成ツールの格納先フォルダー 出力ファイル: facility_list.csv、server_list.csv
(3)	[挿入]ボタン	行を挿入します。 挿入する行の [FacilityName] セルを選択してクリックします。
(4)	[複写]ボタン	行を複写します。 複写する行の [FacilityName] セルを選択してクリックします。 クリックすると、1つ上に複写した行が追加されます。
(5)	[削除]ボタン	行を削除します。 削除する行の [FacilityName] セルを選択してクリックします。
(6)	[センター情報編集] ボタン	[センター情報編集] 画面を表示します。
(7)	[ラック情報編集] ボタン	[ラック情報編集] 画面を表示します。
(8)	[センター、ラック情報保存] ボタン	作成した構成情報のうち、センター情報およびラック情報のみを出力します。 出力先: 登録データ作成ツールの格納先フォルダー 出力ファイル: facility_list.csv
(9)	[機器情報編集]ボタン	[機器情報編集]画面を表示します。
(10)	構成情報一覧	機器の構成情報一覧です。 情報の編集のほか、一覧から構成情報を出力するときの対象を選択できます。 [Output Select] 列で「Y」と指定された行が構成情報として出力されます。

5.2.1 センター情報とラックの登録

[Facility Manager]画面でセンター情報とラックを登録します。

1. [Facility Manager]画面の左側で [一覧]タブをクリックします。

詳しくは、「[4.2 \[Facility Manager\]画面](#)」を参照してください。

デフォルトの「DataCenter」から名称を変更しない場合は、手順4に進みます。

2. ツリーエリアから「DataCenter」を右クリックし、表示されたメニューから[プロパティ]をクリックします。



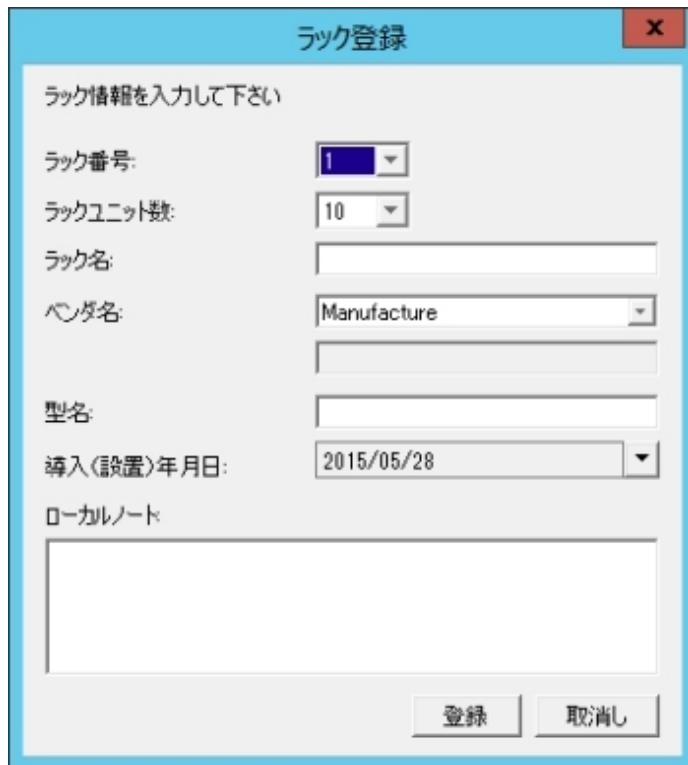
[プロパティ] 画面が表示されます。

3. 「名称」を変更し、[適用]ボタンをクリックします。

4. ツリーエリアから「DataCenter」を右クリックし、表示されたメニューから[ラック登録]をクリックします。

[ラック登録] 画面が表示されます。

5. 各項目を設定し、[登録]ボタンをクリックします。



6. 登録するラックの数に応じて、手順4～5を繰り返します。

5.2.2 Profile Managerでの機器登録

5.2.2.1 機器検出

ここでは、新規に接続された機器類を検出し、画面に表示する手順を説明します。

対象機器がPRIMERGYサーバ本体の場合は、自動検出または手動検出の2種類の方法を利用できます。その他の機器は手動検出を利用できます。

- 自動検出

PRIMERGYサーバのみ利用可能な機能です。サーバをネットワークおよび電源に接続した際、BMC (iRMC) のIPアドレスがDHCPを使用して割り当てられたことを本ソフトウェアが自動的に認識して機器を検出します。

- [サーバの自動検出](#)

- 手動検出

対象となる機器が固定IPアドレスの場合、画面上でIPアドレスを入力して機器を見つける方法です。対象機器には事前に固定IPアドレスを設定しておきます。

機器が検出されると、モデル名やシリアル番号などの機器情報を参照できます。目的の機器が正しく検出されたことを確認し、続けて登録処理を行います。

- [サーバの手動検出](#)

- [ブレードシャーシ\(MMB\)の手動検出](#)

- [コネクションブレードの検出と登録](#)

- [CX400 M1シャーシの手動検出](#)

- [PRIMEQUEST 2000シリーズの手動検出](#)

- [ストレージETERNUS DX/NR/TRシリーズの手動検出](#)

ポイント

- 自動検出はISMと同じOS上でWindows標準のDHCPサーバサービスが動作している場合のみ利用可能です。その他の場合は手動検出を利用してください。
- 自動検出を利用する際は、事前に本ソフトウェア上の[DHCP設定]画面で必要な設定をしてください。
- ブレードシャーシ(MMB)またはストレージETERNUSを検出するときは、事前に各機器を直接操作して適切なIPアドレスとSNMPコミュニティを設定してください。
- ブレードシャーシのSNMPコミュニティは機器登録後も情報の取得に利用しますので、検出後は変更しないでください。
- サーバの自動検出および手動検出には、iRMCアカウント(デフォルト: admin)が使用されます。アカウントまたはパスワードをデフォルト設定から変更している場合は、[Setup]画面の左側から[ユーザ/パスワード設定]画面を表示し、使用可能なアカウントをあらかじめ設定しておいてください。
- ストレージETERNUS DXシリーズの検出時には、ログインアカウント(デフォルト: root)が使用されます。ログインアカウントをデフォルト設定から変更している場合は、[Setup]画面の左側から[ユーザ/パスワード設定]画面を表示し、使用可能なアカウントをあらかじめ設定しておいてください。
- ブレードシャーシに搭載されているコネクションブレード(スイッチブレードなど)を検出し、Facility Managerへ登録することもできます。コネクションブレードはProfile Managerへの登録は行わないため、ほかの機器とは操作手順が異なります。詳しくは「[コネクションブレードの検出と登録](#)」を参照してください。

サーバの自動検出

サーバの工場出荷時設定では、iRMCのIPアドレスは「DHCP」に設定されています。この状態でサーバをDHCPサーバが存在するネットワークに接続すると、新しいIPアドレスがDHCPサーバから割り当てられ、この際にサーバは自動的に検出されます。

iRMCのIPアドレスが固定IPアドレスの場合、DHCP設定に戻して自動検出するか、固定IPアドレスのまま手動検出します。

サーバを自動検出する手順は次のとおりです。

- サーバを管理ネットワークに接続し、電源ケーブルを接続します。
- [ノードリスト]画面を [検出] タブに切り替え、[最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。

画面上にサーバが表示されます。

	状態	機種名	機器名 (仮)	機器名 (登録後)	固定IP	位置 登録	ラック名	Unit 位置
☒		PRIMERGY EX920 S4	SV1334MY0007	SV1334MY0007	192.168.1.51	指定	Rack-1	10-5

ポイント

iRMCのIPアドレスがDHCPサービスを使用して割り当てられた時点で、サーバが検出されます。検出されない場合は1分ほど待ってから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

- [機種名] 欄で目的のサーバが検出されていることを確認します。

サーバの手動検出

iRMCのIPアドレスを事前に固定IPアドレスに設定した状態で運用を開始する場合は、手動検出を利用します。

また、ISMと同一OS上に動作していないDHCPサーバによってIPアドレスが割り当てられているサーバを検出する場合も手動検出を利用します。

サーバを手動検出する手順は次のとおりです。

- 事前にBIOS セットアップユーティリティなどでiRMCのIPアドレスを設定します。
- サーバを管理ネットワークに接続し、電源ケーブルを接続します。

3. [ノードリスト]画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。
[手動検出] ダイアログボックスが表示されます。

4. サーバのIPアドレスを指定するか、目的のIPアドレスを含む範囲を指定したあと、[検出実行] ボタンをクリックします。
サーバだけを検索する場合、SNMPは利用しないため、SNMPコミュニティ名の指定は不要です。

ポイント

範囲指定する場合、1つのサブネット内の範囲で指定します。指定可能なIPアドレスの範囲は最大で256個となります。

5. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
6. しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
画面上に検出されたサーバが表示されます。

	状態	機種名	機器名 (仮)	機器名 (登録後)	固定IP	位置 登録	ラック名	Unit 位置
☒		PRIMERGY EX920 S4	SV1834MY0007	SV1834MY00087	192.168.1.51	指定	Rack-1	10-6

ポイント

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待つてから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

ブレードシャーシ(MMB)の手動検出

ブレードシャーシに搭載されたマネジメントブレード(MMB)を検出します。MMBのIPアドレスは工場出荷時に192.168.1.10(固定)に設定されています。接続されるネットワーク環境に合わせて適切な固定IPアドレスに変更してください。また、検出時にはSNMPを利用した情報収集も行います。MIB情報の読取りができるようにMMB側のコミュニティ名の設定と読取り権限の設定も必要となります。

ブレードシャーシ登録後に搭載されたコネクションブレード(LANスイッチブレードなど)の検出とFacility Managerへの登録も可能です。手順については、「[コネクションブレードの検出と登録](#)」を参照してください。

注意

- ・ブレードシャーシとMMBは同一機器として扱われます。
- ・SNMPコミュニティは、機器登録後も情報の取得に利用するため、検出後は変更しないでください。

ブレードシャーシを手動検出する手順は次のとおりです。

1. シャーシの電源をオンにします。
2. MMBのIPアドレスおよびSNMP設定を行います。
3. [ノードリスト]画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。
[手動検出] ダイアログボックスが表示されます。
4. MMBのIPアドレスまたはIPアドレスを含む範囲を指定し、SNMPコミュニティ名を入力して [検出実行] ボタンをクリックします。
5. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
6. しばらくしたら [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
画面上に検出されたシャーシが表示されます。

ポイント

検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待ってから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

コネクションブレードの検出と登録

ブレードシャーシ内に搭載されているコネクションブレード類を検出して、Facility Manager (ファシリティ管理機能) に登録できます。プロファイル管理機能ではコネクションブレード単体では扱わないため、登録先はFacility Managerのみとなります。

本機能は、すでにプロファイル管理機能に登録済みのブレードシャーシ (MMB) のみに実行できます。事前に「[ブレードシャーシ \(MMB\) の手動検出](#)」および「[5.2.2.2 機器登録](#)」を参照して登録を完了させておいてください。

コネクションブレードの登録手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面からシャーシ (MMB) の[機器プロパティ]画面を開きます。
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」、「[5.5.2 機器情報表示](#)」を参照してください。
2. [機器プロパティ]画面から [コネクションブレード表示] ボタンをクリックします。
新しい画面が開き、コネクションブレードの一覧が表示されます。
3. Facility Managerへ登録する機器をリストから選択して、[未登録機器登録] ボタンをクリックします。
複数の機器を登録する場合も、1台ずつ登録します。
登録のためのダイアログ画面が表示されます。
4. 必要な項目を設定し、[登録] ボタンをクリックします。
5. 複数の機器を登録する場合は、手順3～4を繰り返します。
6. [閉じる] ボタンをクリックして一覧画面を閉じます。

CX400 M1シャーシの手動検出

CX400 M1シャーシは、シャーシ内に搭載されているサーバブレードが検出された時点で自動的に検出されて[ノードリスト]画面に表示されます。サーバブレードを自動検出または手動検出で検出してください。

PRIMEQUEST 2000シリーズの手動検出

PRIMEQUESTの検出／登録対象は、MMBおよびパーティション (拡張パーティション含む) になります。

Profile ManagerはMMBを検出した時点で、パーティション情報もMMBから取得して検出します。パーティションはMMBの検出前に作成しておいてください。

また、MMB／パーティションがすでに登録された状態からパーティションを新規に追加作成した場合などは、検出済みのMMBを再度手動検出してください。パーティションを削除／変更した場合は、Profile Managerからの削除／再登録が必要です。

PRIMEQUESTを手動検出する手順は次のとおりです。

1. MMBの電源をオンにします。
2. MMBのIPアドレスを設定し、Remote Server Management用のユーザーを作成します。
ユーザー権限は「Admin」または「CE」に設定してください。
3. ISMの[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示し、手順2で作成したユーザ名とパスワードを設定します。
4. [ノードリスト]画面の[検出]タブ内にある[手動検出] ボタンをクリックします。
画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
[手動検出]ダイアログボックスが表示されます。
5. MMBのIPアドレス、またはIPアドレスを含む範囲を指定して[検出実行] ボタンをクリックします。
6. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら[OK] ボタンをクリックします。
7. しばらくしたら[最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
画面上に検出されたMMBおよびパーティションが表示されます。

ストレージETERNUS DX/NR/TRシリーズの手動検出

ETERNUS DX/NRシリーズの検出には、SNMPv1を使用します。検出の前に対象のETERNUSに適切な固定IPアドレスを設定し、SNMPコミュニティ名と読み取り権限を設定してください。

ETERNUS TRシリーズの検出には、SNMPv3を使用します。検出の前にETERNUS TRシリーズ側でアクセスに必要なSNMPv3設定を行い、ISMの[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示し、SNMPv3設定情報を登録してください。



- ETERNUS DXシリーズに対しては、SNMPだけでなくTelnetも使用します。ISMのデフォルト設定では、ETERNUS DXシリーズの工場出荷時に設定されているアカウント(root)を使用します。
アカウントを変更している場合は、ISMの[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示し、事前にアカウント情報を設定してください。また、ETERNUS側の設定でTelnetを無効にしないでください。
- Profile Managerで検出／登録できるETERNUSは、コントローラーが搭載される筐体のみです。基本／増設のDEを登録する場合は、Facility Managerから登録してください。

ETERNUSを手動検出する手順は次のとおりです。

1. ETERNUSの電源をオンにします。
2. IPアドレスおよびSNMP設定を行います。
3. [ノードリスト]画面の [検出] タブ内にある [手動検出] ボタンをクリックします。
画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
[手動検出] ダイアログボックスが表示されます。
4. ETERNUSのIPアドレスまたはIPアドレスを含む範囲を指定し、SNMPコミュニティ名を入力して[検出実行] ボタンをクリックします。
ETERNUS TRシリーズの場合、SNMPコミュニティ名は不要です。
5. 「手動検出を開始しました。」と表示されたら[OK] ボタンをクリックします。
6. しばらくしたら[最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
画面上に検出されたETERNUSが表示されます。



検出するIPアドレス範囲が広い場合は、検出するまでに時間がかかることがあります。機器が表示されない場合は1分ほど待つてから、再度 [最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。イベント履歴でも検出終了を確認できます。

5.2.2.2 機器登録

プロファイル管理を利用するときは、最初に機器を登録しておきます。このとき、各機器を識別するために、機器名を設定します。また、自動検出した機器には固定IPアドレスに変更する処理も行われます。

ポイント

- ・ 機器名はほかの機器名と重ならないよう、1台ごと異なる名前にしてください。原則として登録時に付けた名前は変更できません。
- ・ プロファイル管理に登録された機器がファシリティ管理に未登録であった場合、ファシリティ管理にも機器情報が登録されます。ただし、「[プロファイル管理におけるラック搭載位置の指定](#)」の位置指定が行われた場合に限りです。
- ・ サーバブレードを登録する場合は、事前にMMBを登録するか、サーバブレードとMMBを同時に登録してください。
- ・ 登録完了時に、自動的にSVOMにも機器名が登録されます。

登録時に指定する項目を示します。

機器名とIPアドレスは、登録時の必須入力項目です。そのほかの項目は、登録後に任意のタイミングで指定できます。

項目	指定後の変更	指定方法、入力可能文字など	備考
機器名(必須)	不可	文字列を入力 半角英数字およびハイフン(-)、アンダースコア(_) 64文字以内	機器を識別するための名称で、ISM内でほかの機器と重複しない名称を付けます。 SVOMにも本名称が登録されます。 検出時点で自動的に機器名が生成されますが、登録前に任意の名称に変更できます。
IPアドレス(必須)	不可	自動検出時のみ一覧から選択または直接入力	サーバを自動検出した場合のみ指定します。 登録時にiRMC LANを固定IPに変更します。検出時点で自動的にIPアドレスが割り当てられますが、登録前であれば画面上からIPアドレスを変更できます。 指定可能なIPアドレスは、[DHCP設定]画面で固定IP範囲として設定した範囲になります。
搭載先ラック名	可	別途指定済みのラック名一覧から選択	「 プロファイル管理におけるラック搭載位置の指定 」を参照してください。
搭載先ラック内位置(Unit位置)	可	グラフィカル画面上で指定	「 プロファイル管理におけるラック搭載位置の指定 」を参照してください。
占有ユニット数	可	プルダウンから選択	対象機器に応じてユニット数が自動的に入力されます。変更が必要な場合には、プルダウンから適切な値に変更します。
ポーリング間隔	可	60～3600の数値	ファシリティ管理で使用されます。
プロダクト名	可	半角英数字およびハイフン(-)、アンダースコア(_) 20文字以内	ファシリティ管理で使用されます。
SNMPコミュニティ	可	半角英数字およびハイフン(-)、アンダースコア(_) 64文字以内	ファシリティ管理で使用されます。
アプリケーションURL	可	128文字以内	ファシリティ管理で使用されます。
ローカルノート	可	文字列を入力 全角、半角英数字およびハイフン(-)、アンダースコア(_) 64文字以内	メモ用途として自由に書き込める領域です。機器の構成や購入日などを自由に書き込めます。書き込んだ内容は、[機器プロパティ]画面で参照／変更できます。ファシリティ管理とも共有されます。

ここでは、検出された機器の登録および解除の手順を説明します。

ポイント

- 登録可能な機器の台数はライセンスに応じて制限されます。[検出] タブに切り替えて画面下部の [登録数表示] ボタンをクリックすると、現在の機器登録台数およびライセンスの台数が表示されます。
ライセンスの詳細は、「[1.5 ライセンス](#)」を参照してください。
- PRIMERGYサーバを登録すると、iRMCに「SVISMadmIn」という名前のアカウントがID番号16に作成されます。
このアカウントはISMが管理に使用するため削除しないでください。サーバの登録を解除するとアカウントは削除されます。
HWプロファイル内で任意のアカウントを作成することも可能です。この場合はアカウントがID番号15に作成され、作成したアカウントはHWプロファイルの取り外しや変更で削除されます。
また、HWプロファイルでiRMCのデフォルトアカウント(admin)を無効化することもできます。この場合、アカウントの削除ではないため、同一名称(admin)のアカウントを別途作成することはできません。

検出した機器をプロファイル管理で操作するためには、機器の登録が必要です。

機器を登録する手順は次のとおりです。

- [Profile Manager]の[ノードリスト]画面右側の[検出]タブをクリックし、登録する機器が正しく検出されていることを確認します。
- 機器名欄に青色で表示されている機器名をクリックします。

[機器プロパティ]画面が表示されます。

注意

右クリックして表示されるポップアップメニューから [プロパティ] を実行すると異なる画面が表示されます。必ず機器名をクリックしてください。



- [機器プロパティ]画面下部の [機器名(任意指定)] および [固定IP] を変更し、[保存] ボタンをクリックします。

ポイント

- この時点では入力内容は確定していません。手順7の [ノード登録] ボタンのクリック時に確定します。
- IPアドレスはプルダウンリストからの選択、またはキー入力で直接指定が可能です。

4. 機器の搭載先ラックやラック内位置を指定する場合は、位置登録欄の [指定] ボタンをクリックします。
[未登録機器登録] ダイアログボックスが表示されます。

5. [ラック名] および [占有ユニット数] を指定し、搭載位置をラックグラフィック上で指定したあと、[保存] ボタンをクリックします。

ポイント

- この時点では入力内容は確定していません。手順7の [ノード登録] ボタンのクリック時に確定します。
- 占有ユニット数は対象装置に応じて自動的に高さが指定されています。変更が必要な場合のみ指定します。

6. 複数の機器を同時に登録する場合は、手順1～5を繰り返します。
7. [ノードリスト]画面の機器一覧表で登録する機器のチェックボックスだけをオンにし、[ノード登録] ボタンをクリックします。
登録処理が開始されます。
8. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
処理が完了するのを待ちます。

ポイント

登録が正常に終了すると、機器状態が「管理可能」になります。[検出] タブから登録した機器の表示が消え、[管理可能] タブに表示されるようになります。

5.2.2.3 登録解除

装置を撤去するなど、その後のプロファイル管理機能を使用しない場合には、登録状態を解除できます。

注意

- PRIMERGYサーバを登録解除すると、登録時に作成されたiRMCアカウント(SVISMadmin)は削除されます。その他のアカウントの制御は、[Setup]画面の左側から[ノード登録／解除設定]画面を表示し、設定に従ってアカウントを残すか、工場出荷時デフォルト(admin)のみ残すかのどれかとなります。

- ・登録を解除した時点で操作履歴などの情報は失われます。登録解除した機器を再登録して利用できますが、履歴は引き継がれません。
- ・Facility Managerに登録された情報やSVOMの登録は、Profile Managerの登録を解除しても残ります。必要に応じて削除してください。例えば、ノード名やラック内の登録位置を変更して再登録する場合などは、ファシリティ管理においても一度機器を削除してください。操作方法の詳細は、「4.2 [Facility Manager]画面」を参照してください。

機器の登録を解除する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面の [管理可能] タブをクリックします。
画面については、「4.4.1 [ノードリスト]画面」を参照してください。
2. [ノードリスト]画面の機器一覧表で、登録解除する機器の状態が「管理可能状態」であることを確認します。

ポイント

機器状態が「管理中状態」の場合は、事前にプロファイルの取り外しを行って「管理可能状態」にします。

3. [ノードリスト]画面の機器一覧表で登録解除する機器のチェックボックスをオンにし、[ノード登録解除] ボタンをクリックします。
登録解除処理が開始されます。
4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。
処理が完了するのを待ちます。

ポイント

- ー 対象がPRIMERGYサーバで、登録前のiRMCのIPアドレス設定がDHCPだった場合はDHCP設定に戻るため、すぐに自動検出されて [検出] タブに表示されます。固定IPアドレスだった場合、IPアドレスは変化しません。機器は手動検出を行うまで検出されません。
- ー [ノード登録解除]を実行する前に、機器の撤去やリプレースなどを行った場合は、対象機器と通信不可となるため登録解除がエラー終了します。この場合は、機器を再接続してから再度登録解除を行うか、エラーとなった機器を右クリックして、[強制ノード登録解除]を実行してください。

5.2.3 Facility Managerでの機器登録

1. 登録データ作成ツールを開きます。
「登録データ作成ツールの起動と画面説明」を参照してください。
2. ファシリティ機器を登録します。
ファシリティ機器のデータは、テンプレートとして最大構成時の初期値が事前に入力されています。
導入する構成に合わせて各機器のNetAddress (IPアドレス) など、データを修正します。
3. ICT機器のデータを入力します。
機器の登録方法については、「5.2.3.1 ICT機器のデータ入力詳細」の該当する箇所を確認してください。
4. [ISM構成情報保存] ボタンをクリックし、登録データを出力します。



ファイル名は、初期状態では以下のとおりです。出力時に変更できます。

ー ISM用 (ISM構成情報) : facility_list.csv

ー SVOM用 (サーバリスト) : server_list.csv

以下に、登録データの出力方法を説明します。

- a. [ISM構成情報の保存先] ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存] ボタンをクリックします。
- b. [サーバリストの保存先] ダイアログボックスが表示されたら、必要に応じてファイル名と保存先を指定し、[保存] ボタンをクリックします。
- c. 出力されたファイルを確認します。

5. 登録データ作成ツールで出力したISM登録データ (facility_list.csv) を、ISMの [Facility Browser] 画面からインポートします。

[Facility Browser] 画面については、「4.3 [Facility Browser]画面」を参照してください。

- a. ISMを起動し、[Facility Browser] 画面を表示します。
- b. [ファイルを開く] ボタンをクリックし、「facility_list.csv」を選択します。
- c. [整合性確認] ボタンをクリックします。

選択したファイルに対して、以下の項目の重複確認などが実行されます。

- NetAddress (IPアドレス)
- FacilityName
- ラック搭載位置 (U番号)
- ブレードサーバ (BX) はスロット番号、マルチノードサーバはノード番号

異常が検出されるとメッセージが表示されます。

整合性が確認されると [登録] ボタンが使用できるようになります。



注意

異常が表示された場合は、内容に従って登録データ作成ツールのデータを修正する必要があります。修正後、登録データを出力し直してから、再度登録してください。

- d. [登録] ボタンをクリックします。



注意

各機器に設定された情報に応じて、ISMでの設定が必要な項目があります。

- ー ISMでは各機器の情報を取得する際に、初期状態ではユーザ名／パスワードに「admin」／「admin」を使用しています。各機器のユーザ名／パスワードが初期値から変更されている場合は、ISMにおいても機器ごとにユーザ名／パスワードを変更する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [アカウント] と [パスワード] を設定してください。

- ー CFX2000およびConvergedFabricSwitchBladeから情報を取得するためには、各機器のMACアドレスをISMに設定する必要があります。

ISMへのデータ登録完了後、CFX2000およびConvergedFabricSwitchBladeについて、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [MACアドレス] を設定してください。

- ー FirstSightを使用する場合、以下の情報が設定されている必要があります。

- PRIMERGY BXシリーズ (シャーン) の場合

機器プロパティの [プロパティ] タブ - [モデル名]、管理ネットワークの [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コミュニティ名]

- 上記以外の場合

機器プロパティの [プロパティ] タブ - [モデル名]、[IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]、[コミュニティ名]、および[管理 OS] タブ - [IPアドレス]、[アカウント]、[パスワード]

機器プロパティは、[Facility Manager] 画面の [一覧] タブで表示される [ラック] 画面で設定します。

詳しくは、「[表4.3 \[ラック\]画面 - 機器プロパティ項目](#)」を参照してください。

6. 登録データ作成ツールで出力したSVOM用登録データ(server_list.csv)を、SVOMの [サーバリスト] 画面からインポートします。

SVOM用登録データ(server_list.csv)を使用して、PRIMERGY BXシリーズ、ETERNUS DXシリーズ、コンバージドファブリックスイッチなどの各情報をSVOMへ登録します。

サーバブレードおよびPRIMERGY RXシリーズの情報はプロファイル管理機能を使用してSVOMへの登録が行われます。
[サーバリスト] 画面の詳細は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を参照してください。

- a. SVOMを起動し、[サーバリスト] 画面を表示します。
- b. メニューから [サーバをインポート] を選択します。
- c. [サーバをインポート] 画面で、[参照] ボタンをクリックして「server_list.csv」を選択します。
- d. [インポート] ボタンをクリックします。

登録処理が実行され、処理が完了すると結果が画面に表示されます。

問題の有無を確認します。

5.2.3.1 ICT機器のデータ入力詳細

ラックに搭載するICT機器(サーバ、ストレージ、スイッチ)のデータを、事前に決めておいたラックの搭載位置に従って登録します。

- サーバの登録
 - [ラックマウント型サーバの登録](#)
 - [ブレードサーバの登録](#)(他社製ブレードサーバは個別対応となります)
 - [PRIMERGY CXシリーズの登録](#)(他社製マルチノードサーバは個別対応となります)
 - [PRIMEQUEST 2000シリーズの登録](#)
- ストレージの登録
- [コンバージドファブリックスイッチの登録](#)
- [コンバージドファブリックスイッチブレードの登録](#)(ブレードシャーシに搭載)
- [スイッチの登録](#)
- [UPSの登録](#)
- [PDU\(インテリジェントタイプ\)の登録](#)
- [水冷RackCDUの登録](#)

ラックマウント型サーバの登録

ラックマウント型サーバの情報は、以下の手順で登録します。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
2. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (1 iRMC=富士通製 or 10 OtherServer=他社製)
 - FacilityName: サーバ名
 - RackNo: 搭載するラック番号 (1~20)
 - RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1~50)

- RackNoUnits:使用するユニット数(1～50)
 - Model:モデル名称(例:PRIMERGY RX200 S8)
 - VendorID:ベンダー(1 Fujitsu=富士通 or 99 Other=他社)
 - System:(任意項目)システム名称
 - ProductNo:(任意項目)型名
 - S/N:(任意項目)出荷番号
 - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress:IPアドレス
 - Polling:60
 - Application:(任意項目)iRMC(BMC)のWeb GUIのURLを入力
 - Notes:(任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
サーバが追加されます。
 4. 以降、サーバを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

ブレードサーバの登録

ブレードサーバの情報は、以下の手順で登録します。



注意

他社製ブレードサーバは個別対応となります。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
2. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType:機器種別(2 BX400=PRIMERGY BX400 or 3 BX900=PRIMERGY BX900)
 - FacilityName:シャーシ名
 - RackNo:搭載するラック番号(1～20)
 - RackAreaNo:ラックのユニット位置(1～50)
 - Model:モデル名称(例:PRIMERGY BX900 S2)
 - VendorID:ベンダー(1 Fujitsu=富士通)
 - System:(任意項目)システム名称
 - ProductNo:(任意項目)型名
 - S/N:(任意項目)出荷番号
 - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress:IPアドレス
 - Polling:60
 - Application:(任意項目)MMBのWeb GUIのURLを入力
 - Notes:(任意項目)

3. [登録]ボタンをクリックします。
ブレードシャーシが追加されます。
4. サーバブレードを登録します。
ブレードシャーシのFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
5. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (1 iRMC)
 - ParentName: 手順2の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
 - FacilityName: サーバブレード名
 - Port/SlotNo: ブレードシャーシのスロット番号
 - Model: モデル名称 (例: PRIMERGY BX920 S4)
 - VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
 - System: (任意項目) システム名称
 - ProductNo: (任意項目) 型名
 - S/N: (任意項目) 出荷番号
 - EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: IPアドレス
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目) iRMC (BMC) のWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
6. [登録]ボタンをクリックします。
サーバブレードが追加されます。
7. 以降、同一ブレードシャーシ内のサーバブレードを追加する場合は、手順4～6を繰り返します。



注意

繰り返し作業の際には、繰り返し作業の前に登録したサーバブレードを選択してください。

8. ストレージブレードを登録する場合、以下の手順で指定します。
 - a. ブレードサーバ、またはストレージブレードのFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
 - b. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (16 StorageBlade)
 - ParentName: 手順2の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
 - FacilityName: ストレージブレード名
 - Port/SlotNo: ブレードシャーシのスロット番号
 - Model: モデル名称 (例: PRIMERGY SX980 S2)
 - VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
 - System: (任意項目) システム名称
 - ProductNo: (任意項目) 型名

- S/N: (任意項目) 出荷番号
- EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- NetAddress: IPアドレス
- Polling: 60
- Application: (任意項目) iRMC (BMC) のWeb GUIのURLを入力
- Notes: (任意項目)

c. [登録]ボタンをクリックします。

ストレージブレードが追加されます。

9. ファブリックスイッチブレードを登録する場合は、以下を参照して操作します。

[「コンバージドファブリックスイッチの登録」](#)[「コンバージドファブリックスイッチブレードの登録」](#)



注意

「[コンバージドファブリックスイッチの登録](#)」「[コンバージドファブリックスイッチブレードの登録](#)」に記載のないコネクシオンブレードは未対応です。

PRIMERGY CXシリーズの登録

PRIMERGY CXシリーズの情報は、以下の手順で登録します。



注意

他社製マルチノードサーバは個別対応となります

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。

[機器情報編集]画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- FacilityType: 機器種別 (4 CX400=PRIMERGY CX400 M1)
- FacilityName: シャーシ名
- RackNo: 搭載するラック番号 (1~20)
- RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1~50)
- Model: モデル名称 (例: PRIMERGY CX400 M1)
- VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
- System: (任意項目) システム名称
- ProductNo: (任意項目) 型名
- S/N: (任意項目) 出荷番号
- EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- NetAddress: IPアドレス
- Polling: 60
- Application: (任意項目) MMBのWeb GUIのURLを入力
- Notes: (任意項目)

3. [登録]ボタンをクリックします。

シャーシが追加されます。

4. サーバノードを登録します。

シャーシのFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。

[機器情報編集]画面が表示されます。

5. 以下の項目を指定します。

- FacilityType: 機器種別 (1 iRMC)
- ParentName: 手順2の [FacilityName] で入力したブレードシャーシ名
- FacilityName: サーバノード名
- Port/SlotNo: シャーシのスロット番号
- RackNoUnits: 使用するユニット数 (1 or 2)
- Model: モデル名称 (例: PRIMERGY CX2550 M1)
- VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
- System: (任意項目) システム名称
- ProductNo: (任意項目) 型名
- S/N: (任意項目) 出荷番号
- EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- NetAddress: IPアドレス
- Polling: 60
- Application: (任意項目) iRMC (BMC) のWeb GUIのURLを入力
- Notes: (任意項目)

6. [登録]ボタンをクリックします。

サーバノードが追加されます。

7. 以降、同一シャーシ内のサーバノードを追加する場合は、手順4～6を繰り返します。



繰り返し作業の際には、繰り返し作業の前に登録したサーバノードを選択してください。

PRIMEQUEST 2000シリーズの登録

PRIMEQUEST 2000シリーズの情報は、以下の手順で登録します。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。

[機器情報編集]画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- FacilityType: 機器種別 (4 PRIMEQUEST=PRIMEQUEST 2000シリーズ)
- FacilityName: シャーシ名
- RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
- RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1～50)
- Model: モデル名称 (例: PRIMEQUEST 2800E)

- VendorID:ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
 - System: (任意項目)システム名称
 - ProductNo: (任意項目)型名
 - S/N: (任意項目)出荷番号
 - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: IPアドレス
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目)MMBのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
PRIMEQUESTが追加されます。
 4. 以降、PRIMEQUESTを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

ストレージの登録

ストレージの情報は以下の手順で登録します。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
2. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType:機器種別 (18 Storage= ETERNUS DX or 26 ETERNUS NR=ETERNUS NR)
 - FacilityName:ストレージ名
 - RackNo:搭載するラック番号 (1～20)
 - RackAreaNo:ラックのユニット位置 (1～50)
 - RackNoUnits:使用するユニット数
 - Model:モデル名称 (例:ETERNUS DX100 S3)
 - VendorID:ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
 - System: (任意項目)システム名称
 - ProductNo: (任意項目)型名
 - S/N: (任意項目)出荷番号
 - EquipmentDate:搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: IPアドレス
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目)MMBのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
ストレージが追加されます。
4. 以降、ストレージを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

5. 手順1～3で追加したストレージがドライブエンクロージャーを搭載している場合は、以下の設定を行います。

a. ドライブエンクロージャーを接続するストレージのFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。

[機器情報編集]画面が表示されます。

b. 以下の項目を指定します。

- FacilityType: 機器種別 (18 Storage= ETERNUS DX)
- ParentName: 手順2の [FacilityName] で入力したストレージ名
- FacilityName: ストレージ名
- RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
- RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1～50)
- RackNoUnits: 使用するユニット数
- Model: モデル名称 (例: PRIMEQUEST 2800E)
- VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
- System: (任意項目) システム名称
- ProductNo: (任意項目) 型名
- S/N: (任意項目) 出荷番号
- EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
- Notes: (任意項目)

c. [登録]ボタンをクリックします。

ドライブエンクロージャーが追加されます。

d. ドライブエンクロージャーを追加する場合は、手順a～cを繰り返します。



繰り返し作業の際には、繰り返し作業の前に登録したドライブエンクロージャーを選択してください。

コンバージドファブリックスイッチの登録

コンバージドファブリックスイッチの情報は、以下の手順で登録します。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。

[機器情報編集]画面が表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- FacilityType: 機器種別 (20 FB-Switch)
- ParentName: 自身がコンバージドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は空白、それ以外の場合はRootドメインのMasterとなるコンバージドファブリックスイッチの[FacilityName]を指定 (Rootドメインに所属するスイッチのうち、SwitchIDが小さい方をMasterとします)
- FacilityName: コンバージドファブリックスイッチ名
- RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
- RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1～50)
- Model: モデル名称 (例: CFX2000R)
- VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)

- System: (任意項目)システム名称
 - ProductNo: (任意項目)型名
 - S/N: (任意項目)出荷番号
 - EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: 自身がコンバインドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は、ファブリック代表仮想IPアドレス、それ以外の場合は空白を指定
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目)コンバインドファブリックスイッチのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
- コンバインドファブリックスイッチが追加されます。
4. 以降、コンバインドファブリックスイッチを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

コンバインドファブリックスイッチブレードの登録

コンバインドファブリックスイッチブレードの情報は、以下の手順で登録します。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
2. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (21 CB-Switch(Fabric))
 - ParentName: 自身がコンバインドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合は搭載されるブレードシャーシの[FacilityName]、それ以外の場合はRootドメインのMasterとなるコンバインドファブリックスイッチまたはコンバインドファブリックスイッチブレードの[FacilityName]を指定 (Rootドメインに所属するスイッチのうち、SwitchIDが小さい方をMasterとします)
 - Chassis: [ParentName]にコンバインドファブリックスイッチを指定した場合、本装置が搭載されるブレードシャーシを指定
 - Port/SlotNo: ブレードシャーシの背面のスロット番号を指定 (50=背面1段目左側、51=背面1段目右側、52=背面2段目左側、53=背面2段目右側)
 - FacilityName: コンバインドファブリックスイッチブレード名
 - RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1～50)
 - Model: (任意項目)モデル名称
 - VendorID: ベンダー (1 Fujitsu=富士通)
 - System: (任意項目)システム名称
 - ProductNo: (任意項目)型名
 - S/N: (任意項目)出荷番号
 - EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: 自身がコンバインドファブリックネットワークのRootドメインのMasterの場合はファブリック代表仮想IPアドレス、それ以外の場合は空白を指定
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目)コンバインドファブリックスイッチブレードのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
コンバインドファブリックスイッチブレードが追加されます。

- 以降、コンバートファブリックスイッチブレードを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。



注意

繰り返し作業の際には、繰り返し作業の前に登録したコンバートファブリックスイッチブレードを選択してください。

スイッチの登録

スイッチの情報は、以下の手順で登録します。

- 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
- 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (15 Switch(Fujitsu)=富士通スイッチ or 17 Switch(Cisco)=CISCOスイッチ or 19 FC-Switch=FCスイッチ)
 - FacilityName: スイッチ名称
 - RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
 - RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1～50)
 - RackNoUnits: 使用するユニット数
 - Model: モデル名称 (例: SR-X324T2)
 - VendorID: ベンダー (1=富士通スイッチ/FCスイッチ or 9=CISCOスイッチ)
 - System: (任意項目) システム名称
 - ProductNo: (任意項目) 型名
 - S/N: (任意項目) 出荷番号
 - EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: IPアドレス
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目) スイッチのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
- [登録]ボタンをクリックします。
スイッチが追加されます。
- 以降、スイッチを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

UPSの登録

UPSの情報は、以下の手順で登録します。



注意

ご使用になる機器によっては未サポートとなる場合があります。サポート機器の仕様を確認してください。

- 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
- 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (31 UPS)

- ー FacilityName: UPS名
 - ー RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
 - ー RackAreaNo: ラックのユニット位置 (1～50)
 - ー RackNoUnits: 使用するユニット数
 - ー Model: モデル名称 (例: SMT 1500RMJ)
 - ー VendorID: ベンダー (5 APC)
 - ー System: (任意項目) システム名称
 - ー ProductNo: (任意項目) 型名
 - ー S/N: (任意項目) 出荷番号
 - ー EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - ー NetAddress: IPアドレス
 - ー Polling: 60
 - ー Application: (任意項目) UPSのWeb GUIのURLを入力
 - ー Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
UPSが追加されます。
 4. 以降、UPSを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

PDU(インテリジェントタイプ)の登録

PDUの情報は、以下の手順で登録します。



ご使用になる機器によっては未サポートとなる場合があります。サポート機器の仕様を確認してください。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
2. 以下の項目を指定します。
 - ー FacilityType: 機器種別 (30 PDU)
 - ー FacilityName: PDU名
 - ー RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
 - ー RackAreaNo: ラックの搭載位置 (ラックの左上=51、右上=52、左下=53、右下=54)
 - ー Model: モデル名称 (例: Switched Rack PDU)
 - ー VendorID: ベンダー (5 APC)
 - ー System: (任意項目) システム名称
 - ー ProductNo: (任意項目) 型名
 - ー S/N: (任意項目) 出荷番号
 - ー EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - ー NetAddress: IPアドレス
 - ー Polling: 60

- Application: (任意項目)PDUのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
PDUが追加されます。
 4. 以降、PDUを追加する場合は、手順1～3を繰り返します。

水冷RackCDUの登録

水冷RackCDUの情報は、以下の手順で登録します。

1. 登録行の手前のFacilityName定義カラムを選択し、[機器情報編集]ボタンをクリックします。
[機器情報編集]画面が表示されます。
2. 以下の項目を指定します。
 - FacilityType: 機器種別 (37 水冷RackCDU)
 - FacilityName: 水冷RackCDU名
 - RackNo: 搭載するラック番号 (1～20)
 - RackAreaNo: ラックの搭載位置 (60固定)
 - Model: モデル名称 (例: 水冷RackCDU)
 - VendorID: ベンダー (10 Asetek)
 - System: (任意項目) システム名称
 - ProductNo: (任意項目) 型名
 - S/N: (任意項目) 出荷番号
 - EquipmentDate: 搭載日付をYYYYMMDD形式で入力
 - NetAddress: IPアドレス
 - Polling: 60
 - Application: (任意項目) 水冷RackCDUのWeb GUIのURLを入力
 - Notes: (任意項目)
3. [登録]ボタンをクリックします。
水冷RackCDUが追加されます。

5.2.4 MIBファイルの登録

MIBファイルは、以下の手順で登録します。

1. SVOMを起動し、メニューから[イベント管理]-[MIBインテグレータ]を選択します。
2. 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager DVD」の「¥PROGRAMS¥tools¥MIB」フォルダー配下のMIBファイルを登録します。

登録手順は、ServerView Suite DVD2に収録されている『ServerView Event Manager 取扱説明書』の「6 MIBの統合」を参照してください。



- 「ism.mib」を必ず登録してください。
- モジュラー型データセンターの場合は、他のMIBファイルも登録してください。

3. MIBファイルの登録が終了したら、以下の順番で関連するサービスを再起動します。

ー 停止する順番

1. ServerView Infrastructure Manager Service
2. ServerView Download Service
3. ServerView Services

ー 起動する順番

1. ServerView Services
2. ServerView Download Service
3. ServerView Infrastructure Manager Service
4. ServerView Infrastructure Manager Rest Service
5. SVHLCM Service

5.2.5 アラームルールの設定

[Facility Manager] 画面で監視対象機器の異常／警告状態を表示させるため、アラームルールを設定します。

1. SVOMを起動し、メニューから [イベント] - [アラーム設定] を選択します。
2. [アラームルールの管理] 画面で [追加] ボタンをクリックします。
3. 表示されるダイアログボックスで、[アラームルール名] に「setstatus」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。
4. [アラームルールの管理] 画面に戻ったら、[次へ] ボタンをクリックします。
5. [サーバの割り当て] 画面が表示されたら、[すべてのサーバ] を選択して [>] ボタンをクリックします。
6. [選択されたサーバ] 画面に [すべてのサーバ] が表示されることを確認し、[適用] ボタン、[次へ] ボタンを順にクリックします。
7. [アラーム割り当て] - [個別のアラーム] 画面が表示されたら、次の操作をします。
 - a. 表示されたアラーム一覧の上で右クリックし、表示されるメニューで [リスト上のすべてのアラームにチェックを入れる] をクリックします。
 - b. [適用] ボタン、[次へ] ボタンを順にクリックします。
8. [アラーム割り当て] - [アラームのタイプ] 画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。
9. [アクションの割り当て] 画面が表示されたら、次の操作をします。
 - a. [追加] ボタンをクリックします。
 - b. 表示される画面で [プログラム実行] を選択し、[OK] ボタンをクリックします。
 - c. 次に表示される画面で、以下を入力または選択し、[適用] ボタン、[OK] ボタンを順にクリックします。

[アクション名]: setstatus [コマンド]: svfm_setstatus.bat "\$_IPA" "\$_SEV" "\$_MIB" [作業フォルダ]: C:\Program Files(x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\svism\Manager [スケジュール]: 常に実行
--

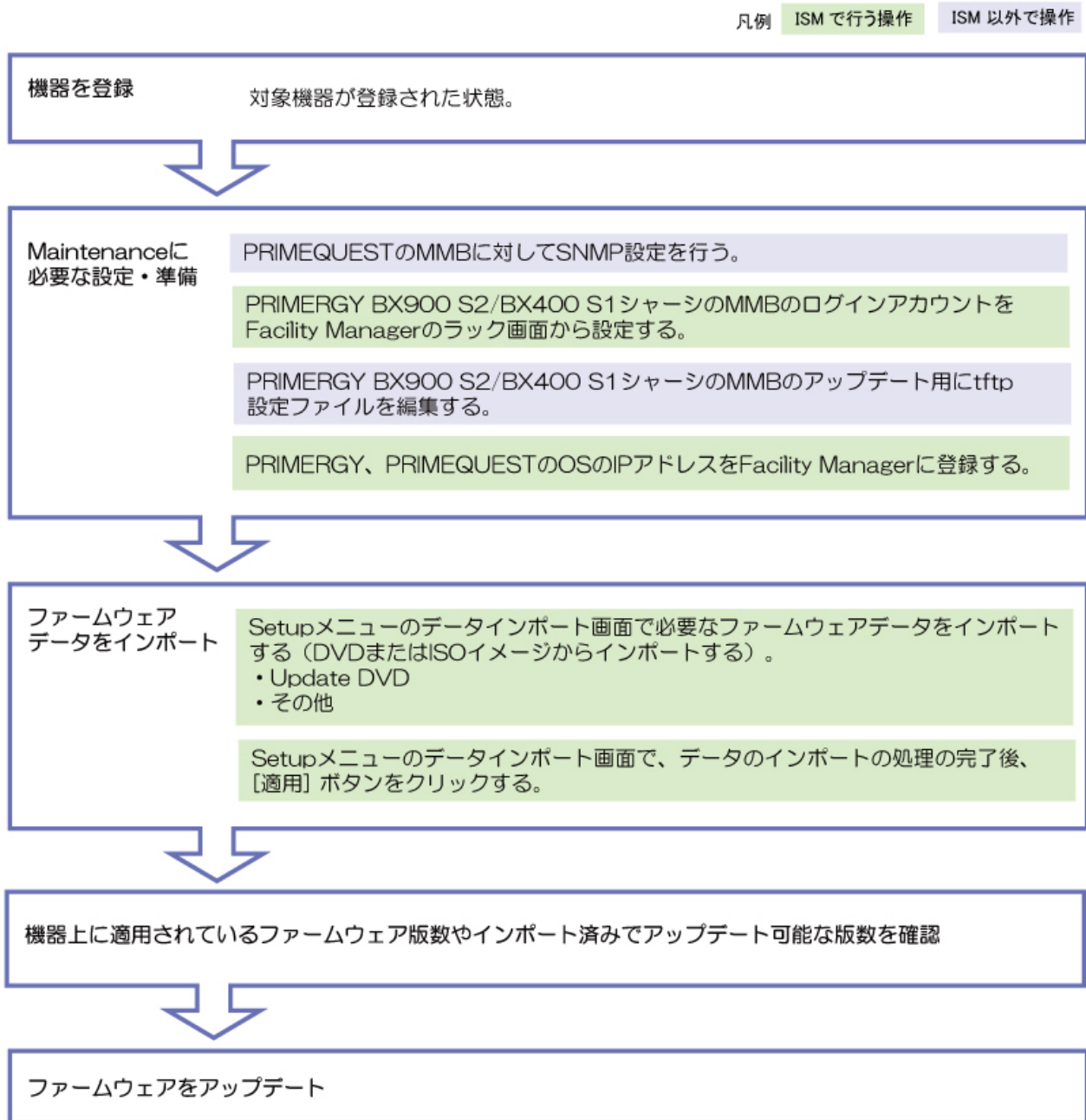
10. [アクションの割り当て] 画面に戻ったら、[定義されたアクション] ダイアログボックスに「setstatus」が表示されていることを確認し、[適用] ボタンをクリックします。
11. [アラームルールの管理] 画面を選択し、作成したアラームルール「setstatus」の [有効] チェックボックスがオンになっていることを確認します。
オンになっていない場合は、チェックボックスをオンにして [適用] ボタンをクリックします。

5.3 ファームウェア版数の確認とアップデート

メンテナンス支援機能を利用して、機器のファームウェア版数を画面に表示することや、ファームウェアのアップデートを行うことができます。

対象がサーバの場合は、Profile Managerを使ってプロファイルを適用することで、ファームウェアのアップデートも可能です。
「[5.4 サーバ・ETERNUS DXシリーズのセットアップ](#)」を参照してください。

図5.2 ファームウェア版数の確認とアップデートの流れ



ポイント

- 機器登録については、「[5.2 機器の登録](#)」を参照してください。
- Facility Managerの[ラック]画面については、「[4.2.2.4 \[ラック\]画面](#)」を参照してください。
- tftp設定ファイルについては、「[tftp設定ファイル](#)」を参照してください。

- ログインしたアカウントの役割に応じて利用できる機能が変わります。「Administrator」の役割でログインした場合、すべての機能が利用できます。それ以外の役割でログインした場合はファームウェア情報表示などの情報参照のみ利用できます。

1. メンテナンス支援機能の初期設定を行います。

- [Maintenance]画面の[ファームウェアアップデート一覧]タブをクリックします。

画面については、「[4.6.1 \[ファームウェアアップデート一覧\]画面](#)」を参照してください。

- [更新] ボタンをクリックします。管理対象機器の情報が取得されます。

- 「対象リポジトリ」からリポジトリを選択します。

一覧が更新されます。

管理対象機器にストレージを含める場合は、続けて以下の操作をします。

- [共通設定] 画面を表示します。

- ストレージ装置に対してアカウント情報を入力します。

- [保存] ボタンをクリックし、アカウント情報を保存します。

- [ファームウェアアップデート一覧] 画面を表示します。

- [更新] ボタンをクリックします。

管理対象機器の情報が更新されます。

2. 装置のファームウェア版数を確認し、ファームウェアアップデートの対象を特定します。

- 「対象リポジトリ」でファームウェアアップデート対象とするリポジトリを選択します。

- 「ファームウェア情報一覧」に表示される情報を確認します。

ServerView

ユーザ: Administrator ログアウト FUJITSU

サーバリスト 管理者設定 サーバデータ デプロイメント イベント サーバ監視 アップデート インフラ ネットワーク セキュリティ ヘルプ

インフラ管理

Home >> インフラ管理

Facility Manager Facility Browser Profile Manager Setup Maintenance ServerView Infrastructure Manager V1.4.0

ファームウェアアップデート一覧 タスク一覧 共通設定

対象装置

ラックサーバ ☒ (5件) サーバブレード ☒ (3件) MMB ☒ (1件) LANスイッチ ☒ (2件) FCスイッチ ☒ (2件) ストレージ ☒ (0件) IOカード ☒ (1件)

フィルタ

☒ 全選択 ☐ 差分のみ表示

選択解除 対象リポジトリ: Update DVD 11.14.11 更新

	ラック	搭載位...	シャーシ	スロット	マシン	PC場所情報	モデル	ファームウェア...	現行バージョン	更新後バージョン	グループ
☐	ISMrack	1	CH4J001702	-	-	-	PRIMERGY BX400 Management Bla...	Server Blade	6.30G&3.19/V...	6.29G&3.19/V...	ISMgroup
☐				Blade01	CH4J001702-...		BX920 S3	iRMC	6.30G&3.19	6.29G&3.19	ISMgroup
☐				Blade02	CH4J001702-...		BX920 S3	BIOS	V4.6.5.3 R2.26.0	V4.6.5.3 R2.26.0	ISMgroup
☐				Blade03	CH4J001702-...		BX920 S4	Server Blade	6.25G&3.14/V...	6.29G&3.19/V...	ISMgroup
☐								iRMC	6.25G&3.14	6.29G&3.19	ISMgroup
☐								BIOS	V4.6.5.3 R2.13.0	V4.6.5.3 R2.26.0	ISMgroup
☐								Server Blade	7.38F&3.48/V4...	7.38F&3.48/V...	ISMgroup
☐								iRMC	7.38F&3.48	7.38F&3.48	ISMgroup
☐								BIOS	V4.6.5.4 R1.6.0	V4.6.5.4 R1.10.0	ISMgroup
☐				MMB	-	-	PRIMERGY BX400 Management Bla...	MMB	6.75/6.75	-/-	ISMgroup
☐				MMB1	-	-		MMB	6.75	-	ISMgroup
☐				MMB2	-	-		MMB	6.75	-	ISMgroup

ファームウェアアップデート開始

必要に応じて「対象装置」および「フィルタ」を利用して表示を絞り込みます。

詳しくは「[4.6.1 \[ファームウェアアップデート一覧\]画面](#)」を参照してください。

また、ファームウェア情報一覧には、左から順に以下の情報が表示されます。

項目	説明
 (展開/収縮ボタン)	ファームウェアのアップデート単位で一覧の行を展開/収縮します。
 (差分状態アイコン)	アップデート可能なファームウェアがある場合は赤色、アップデートが不要な場合は緑色のアイコンがそれぞれ表示されます。
ラック	ラック搭載機器の場合、収納しているラックの名称が表示されます。
搭載位置	ラック搭載機器の場合、ラック内の搭載位置(下からのユニット番号)が表示されます。
シャーシ	ブレードシャーシ搭載機器(マネジメントブレード、サーバブレード、コネクシオンブレードなど)の場合、搭載しているシャーシの名称が表示されます。
スロット	ブレードシャーシ搭載機器の場合、搭載しているスロット位置が表示されます。
マシン	機器の固有名称です。
PCI場所情報	PCIカードの場合、搭載しているPCI場所情報が「セグメント番号/バス番号/デバイス番号」の形式で表示されます。
モデル	操作対象の機器のモデルや種類です。
ファームウェアタイプ	ファームウェアの種類です。 ETERNUS NRシリーズの場合、ファームウェアタイプは「NetApp」と表示されます。
現行バージョン	各機器から取得した、現在のファームウェアの版数です。
更新後バージョン	現在選択しているリポジトリに格納されているファームウェアの版数です。
グループ	SVOMで登録されているグループ情報が表示されます。

- 対象がサーバの場合は、アップデート開始前にそのサーバの電源をオフにします。
- ファームウェア情報一覧で、対象の装置の行頭にあるチェックボックスをオンにします。

ServerView

ユーザ: Administrator ログアウト
FUJITSU

サーバリスト 管理者設定 サーバデータ デプロイメント イベント サーバ監視 アップデート インフラ ネットワーク セキュリティ ヘルプ

インフラ管理

Home >> インフラ管理

Facility Manager Facility Browser Profile Manager Setup Maintenance
ServerView Infrastructure Manager V1.4.0

ファームウェアアップデート一覧 タスク一覧 共通設定

対象装置

ラックサーバ ☒ (5件)
サーバブレード ☒ (3件)
MMB ☒ (1件)
LANスイッチ ☒ (2件)
FCスイッチ ☒ (2件)
ストレージ ☒ (0件)
IOカード ☒ (1件)

フィルタ

☒ 全選択
☐ 差分のみ表示

選択解除

対象リポジトリ: Update DVD 11.14.11

更新

	ラック	搭載位置	シャーシ	スロット	マシン	PCI場所情報	モデル	ファームウェア	現行バージョン	更新後バージョン	グループ
☒	ISMrack	1	CH4J001702	-	-	-	PRIMERGY BX400 Management Bla...	-	-	-	ISMgroup
☒				Blade01	CH4J001702-	-	BX920 S3	Server Blade	6.30G83.19/V...	6.29G83.19/V...	ISMgroup
								iRMC	6.30G83.19	6.29G83.19	ISMgroup
								BIOS	V4.6.5.3 R2.26.0	V4.6.5.3 R2.26.0	ISMgroup
☒				Blade02	CH4J001702-	-	BX920 S3	Server Blade	6.25G83.14/V...	6.29G83.19/V...	ISMgroup
								iRMC	6.25G83.14	6.29G83.19	ISMgroup
								BIOS	V4.6.5.3 R2.13.0	V4.6.5.3 R2.26.0	ISMgroup
☐				Blade03	CH4J001702-	-	BX920 S4	Server Blade	7.38F83.48/V4...	7.38F83.48/V...	ISMgroup
								iRMC	7.38F83.48	7.38F83.48	ISMgroup
								BIOS	V4.6.5.4 R1.6.0	V4.6.5.4 R1.10.0	ISMgroup
☐				MMB	-	-	PRIMERGY BX400 Management Bla...	MMB	6.75/6.75	-/-	ISMgroup
				MMB1	-	-		MMB	6.75	-	ISMgroup
				MMB2	-	-		MMB	6.75	-	ISMgroup

ファームウェアアップデート開始

1度に複数の対象を選択できます。ただし、モデルやファームウェアのタイプが異なる機器については、同時に選択できません。対象を選択した時点で、モデルやファームウェアのタイプが異なる機器はグレースアウトされます。対象を選択し直す場合は、[選択解除] ボタンをクリックし、チェックボックスをすべてオフにします。

注意

- コンバージドファブリックについては、ファブリックを構成している装置を順番に1つずつアップデートします。冗長構成になっていない場合は、アップデート中に通信が途切れます。
- L2スイッチ（サーバ収容レイヤー2スイッチ、LANスイッチブレード）については、対象のスイッチのアップデート中に通信が途切れます。冗長構成の環境では、冗長された装置を同時にアップデート対象としないようご注意ください。
- PRIMEQUEST、FCスイッチブレード、ETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートには、FTPサーバを必要とします。
 - PRIMEQUESTの場合は、基本認証と匿名認証を有効にしてください。
 - FCスイッチブレード、ETERNUS DXシリーズの場合は、基本認証を有効にしてください。
- ETERNUS DXシリーズのファームウェアアップデートは、活性適用自動モードに対応したファームウェアのみ適用可能です。未対応のファームウェアに対して適用を実施した場合はエラーとなります。
- サーバおよびMMBについては、古い版数のファームウェアにダウングレードさせることはできません。サーバおよびMMBのファームウェアをアップデートする場合は、必ず更新後のバージョン版数が現行バージョンより新しいことを確認してから実施してください。
- Update DVD、またはFC Switchblade Firmware DVDに収録されていない機器のファームウェアアップデート作業を行う場合は、事前に必要なファイルなどをISMに登録する必要があります。
 - FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks、またはFUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloudをご使用の場合、別途Update Supplementイメージを入手し、インポートしてください。
 - 上記以外の場合は、以下に掲載されている「ファームウェアリポジトリの作成手順」を参照し、アップデート作業に使用するファイルを登録してください。

<http://software.fujitsu.com/jp/server/viewism/technical/>
- FC Switchblade Firmware DVDは1枚のみインポートが可能です。FCスイッチブレードについて2枚組のFC Switchblade Firmware DVDにまたがった版数のファームウェアアップデートを行う場合、以下の手順でファームウェアアップデートを行う必要があります。
 1. [Setup]画面から1枚目のFC Switchblade Firmware DVDをインポートします。
 2. メンテナンス支援機能から1枚目の最新版にアップデートします。
 3. [Setup]画面から2枚目のFC Switchblade Firmware DVDをインポートします。
 4. メンテナンス支援機能から2枚目の最新版にアップデートします。
- インポートするFC Switchblade Firmware DVDが管理対象としているFCスイッチブレード用のDVDであることを確認してください。機器に対して適切なDVDをインポートする必要があります。
- 対象装置ごとにファームウェアアップデート開始前に事前準備が必要な場合があります。公開されているファームウェアアップデート手順を確認して事前準備を実施後にファームウェアアップデート操作を行ってください。各装置のファームウェア、およびファームウェアアップデート手順書は下記よりダウンロードできます。

- PRIMERGY関連機器

PRIMERGYダウンロード検索

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/downloads/>

モデル別

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/bios/>

- PRIMEQUEST

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primequest/download/2000/bios.html>

- ネットワーク機器 レイヤー2スイッチ

<https://fenics.fujitsu.com/products/download/>

- ETERNUS

<http://storage-system.fujitsu.com/jp/download/>

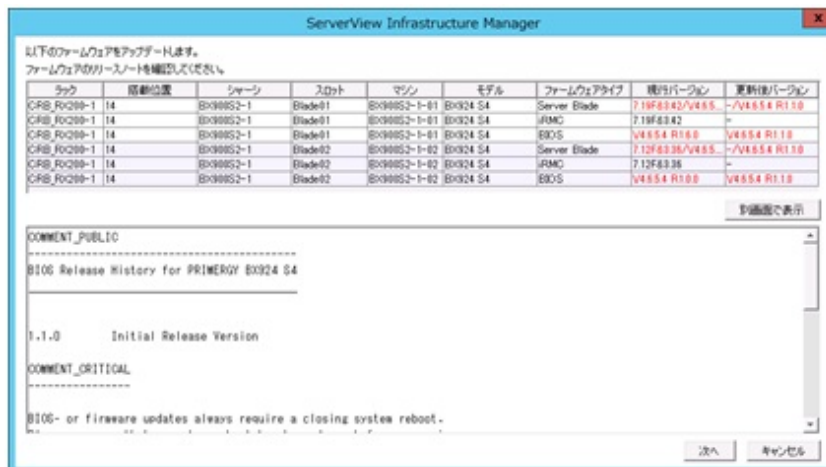
ダウンロードサイトの「ファームウェア」タブを参照してください。

- PRIMEQUEST 2800Bの「PCI Address Mode」に「PCI Segment Mode」を設定し、パーティション上にVMware ESXi 6.0を導入している場合、FC/CNAカードの「PCI場所情報」のセグメント番号が正しく表示されないことがあります。
- iRMC/BIOSのファームウェアアップデート作業に伴い、RAIDカードのアップデートが同時に実行されます。

ポイント

スイッチブレード、コンバージドファブリック製品については、PRIMERGY関連機器から検索してください。

5. 対象の選択が完了したら、[ファームウェアアップデート開始] ボタンをクリックします。
6. [リリースノート確認]画面が表示されたら、アップデートの条件を確認します。
[別画面で表示] ボタンをクリックすると、Webブラウザでリリースノートの内容を確認できます。

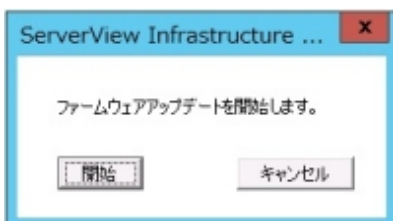


注意

ファームウェアのアップデートをするための条件として、別の機器のファームウェア版数に依存している場合があります。その場合、その条件を満たしてから実施する必要があります。

例:MMBのファームウェアアップデートをするために、サーバブレードのiRMC/BIOSのファームウェアが特定の版数を前提としている。

7. [次へ] ボタンをクリックします。
8. 最終確認画面が表示されたら、[開始] ボタンをクリックします。

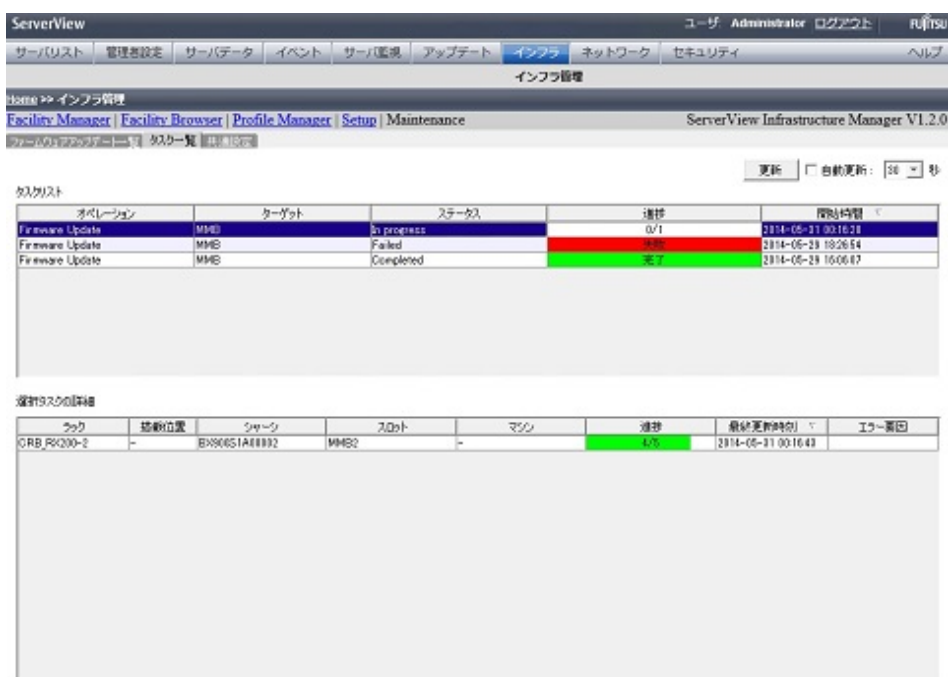


ファームウェアアップデートが開始されると、以下のダイアログボックスが表示されます。



ファームウェアアップデートは、タスクとしてバックグラウンドで動作します。

9. ファームウェアアップデートの結果を確認するため、[タスク一覧] 画面を表示します。



「タスクリスト」に、これまで実施したファームウェアアップデート操作に関する、以下の情報が表示されます。

項目	説明
オペレーション	操作内容(「Firmware Update」)が表示されます。
ターゲット	対象装置の種類です。
ステータス	タスクの状態(「In progress/Completed/Failed」)が表示されます。
進捗	「(ファームウェアアップデートが終了した装置数)/(タスクに含まれる装置数)」が表示されます。すべての装置のアップデートが終了すると、「完了」または「失敗」のどちらかが表示されます。タスクに含まれる装置のうち1台でも正常終了しなかったものがある場合は「失敗」が表示されます。
開始時間	タスクを開始した時刻です。

10. タスクリストで詳細を確認したいタスクをクリックします。

「選択タスクの詳細」に、以下の情報が表示されます。

項目	説明
ラック	操作対象がラック搭載機器の場合、収納しているラックの名称が表示されます。
搭載位置	操作対象がラック搭載機器の場合、ラック内の搭載位置(下からのユニット番号)が表示されます。操作対象によっては「-」が表示されます。

項目	説明
シャーシ	操作対象がブレードシャーシ搭載機器（マネジメントブレード、サーバブレード、コネクションブレードなど）の場合、搭載しているシャーシの名称が表示されます。
スロット	操作対象がブレードシャーシ搭載機器の場合、搭載しているスロット位置が表示されます。
マシン	機器の固有名称です。
進捗	ファームウェアアップデートの処理工程の消化割合が表示されます。カーソルを合わせると、ツールチップで現在の工程名が表示されます。
最終更新時刻	最後に更新した時刻です。
エラー要因	異常が発生した場合、その要因が表示されます。

5.4 サーバ・ETERNUS DXシリーズのセットアップ

Profile Managerを利用して、事前に作成したプロファイルに従って以下の作業を自動的に実行できます。最大10台まで並列に処理できるため、作業時間を短縮できます。

- サーバ
 - － BIOS設定の変更、iRMC設定の変更、ファームウェアアップデート
 - － OS、Hypervisorのインストール（内蔵アレイコントローラーのRAID構築も含む）
- ETERNUS DXシリーズ
 - － RAID構築、ホットスペアドライブ割当て

以下の作業は特に記載がない限り、すべてProfile Managerで実行します。

図5.3 セットアップの流れ



ポイント

- ・ 機器登録については、「[5.2 機器の登録](#)」を参照してください。
- ・ リポジトリの設定については、「[3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備](#)」を参照してください。

5.4.1 プロファイルの作成および管理

ここでは、プロフィールの作成および管理の手順を説明します。
プロフィールは各種合計1,000個まで作成できます。

ポイント

- ・ プリセットのプロファイルを元に流用作成できます。詳しくは、「[プリセットプロフィール](#)」を参照してください。
- ・ 過去に作成したプロフィールを元にして、別のプロフィールを作成できます。詳しくは、「[プロフィールの流用作成](#)」を参照してください。
- ・ プロファイルは、機器が存在しない状態で、事前に作成しておくこともできます。

5.4.1.1 サーバ用HWプロファイルの新規作成

サーバ用のHWプロファイルにはサーバのBIOS設定、BMC (iRMC) 設定、およびファームウェアアップデートの有無を指定できます。

注意

- HWプロファイル内の設定項目は個々に設定の「無効」または「有効」を指定できます。「無効」の場合は設定の変更を行わず、機器の状態を保持します。工場出荷時設定のまま使用する項目は「無効」にしておくと、設定が変更されません。
- OSのインストールだけを行う場合も、HWプロファイルは必ず適用してください。適用時にハードウェア設定を全く変更する必要がなければ、すべての項目を「無効」としてください。

プロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。

1. [Profile Manager]画面左側の[プロファイル]タブを開き、ツリー上の[サーバ] - [HWプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を実行します。

画面については、「[4.4.2 \[プロファイル\]画面](#)」を参照してください。

[HWプロファイル]が表示されていない場合は、[サーバ] の左側にある [+] をクリックすると、[HWプロファイル] および [OSプロファイル] がツリー下に表示されます。



2. [プロファイル]画面右側のHWプロファイルの設定で、プロファイル名とサーバ種類を入力します。

ー プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

ー サーバ種類

適用対象となるサーバ種類をプルダウンから選択します。対象機器に応じてHWプロファイル内の設定項目が若干異なります。

ポイント

プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. サーバ種類を選択後、設定項目を入力します。

画面は4個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
FWアップデート	ファームウェア／BIOSのアップデート有無を指定します。

タブ名	設定内容
BIOS	各種BIOS設定を指定します。
BMC (iRMC)	各種iRMC設定を指定します。
プロファイル情報	プロファイルの管理情報です。

初期状態では各項目の左端のチェックボックスはオフになっています。設定を変更する場合は、チェックボックスをオンにして設定を指定してください。項目のチェックボックスがオフの状態では設定が「無効」となり、プロファイル適用時に設定は行われません。

例:Hyper-Threadingの設定

初期状態は左端のチェックが外れた状態です。Hyper-Threading設定を変更しないことを示しています。

Hyper-Threading設定を行う場合は、チェックボックスをオンにしたあとで設定内容を指定します。

ポイント

本機能では、BIOSセットアップユーティリティ内、Webインターフェース内で設定可能なすべての項目を設定することはできません。使用頻度の高い項目のみ設定をサポートします。設定可能な項目は、「[E.1 PRIMERGYサーバ用HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

プロファイルの内容に問題がある場合は画面上に警告が表示されます。そのまま保存する場合は[保存] ボタンをクリックします。プロファイルを修正するために編集画面に戻る場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

注意

問題が残った状態でも保存はできますが、プロファイル適用はできません。

5.4.1.2 OSプロファイルの新規作成

OSプロファイルではインストールするOS種別のほか、インストール先ドライブやインストール後のネットワーク設定を指定します。

OSプロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。

1. [Profile Manager]画面左側の[プロファイル]タブを開き、ツリー上の[サーバ] - [OSプロファイル] を右クリックし、表示されるメニューから [新しいプロファイル] を実行します。

画面については、「[4.4.2 \[プロファイル\]画面](#)」を参照してください。

[OSプロファイル] が表示されていない場合は、[サーバ] の左側にある [+] をクリックすると、[HWプロファイル] および [OSプロファイル] がツリー下に表示されます。

2. [プロファイル]画面右側のOSプロファイルの設定で、プロファイル名とOS名を入力します。

ー プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

ー OS名

インストールするOSの種類をプルダウンから選択します。

ポイント

- OSプロファイルにはインストール先ディスクの指定、内蔵アレイコントローラーへのアレイ構築指示、パーティションサイズ、ネットワーク設定なども同時に実行できます。例えば、ネットワークポートのIPアドレス、サーバ名、ドメイン名、パスワードなどを指定します。設定可能な項目は、「[E.3 サーバ用OSプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。
- プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

3. OS名を選択後、設定項目を入力します。

画面は複数のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

タブ名	設定内容
OSインストール	OSインストール先ドライブや各種設定を指定します。OSの種類に応じて設定項目は異なります。
使用許諾契約確認	VMwareの場合のみ表示されます。OSの使用許諾に合意する場合は、画面下部にチェックします。
仮想管理ソフトウェア登録	VMwareの場合のみ表示されます。OSインストール後に自動的にvCenterへホストを登録する場合に指定します。 自動登録を行う場合、[個別情報]タブで設定するIPアドレスは固定IPアドレスを設定してください。また、[OSインストール]タブではVLAN IDに「0」を指定してください。
個別情報	OSプロファイル適用先のサーバごとに異なる設定項目を指定します。(例:IPアドレス、ホスト名)
プロファイル情報	プロファイルの管理情報が表示されます。また、メモを記入できます。

[個別情報] タブを開くと、初期状態では何も設定されていない状態になっています。[追加] ボタンをクリックすると、サーバ1台分の入力行が表示されて、設定を入力できます。行内の項目をダブルクリックして入力します。



[ID] 欄と[適用機器名] 欄は参照のみ可能で、入力できません。[ID] 欄はサーバにプロファイルを適用する際に、個別情報を指定する番号です。[適用機器名] 欄には、プロファイル適用後に機器名が表示されます。

設定入力済みの行を選択した状態で[複写] ボタンをクリックすると、新しい入力行が追加され、選択した行の内容がコピーされます。このときIPアドレスは既存の入力行に+1した値となります。入力行を削除する場合は、不要な行を選択して[削除] ボタンをクリックします。入力行が削除されます。

設定可能な項目の詳細は「[E.3 サーバ用OSプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。

ポイント

個別IDは1つのOSプロファイルにつき最大100個まで作成できます。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

プロファイルの内容に問題がある場合は画面上に警告が表示されます。そのまま保存する場合は[保存] ボタンをクリックします。プロファイルを修正するために編集画面に戻る場合は[キャンセル] ボタンをクリックしてください。



注意

問題が残った状態でも保存はできますが、プロファイル適用はできません。

5.4.1.3 ストレージ用HWプロファイルの新規作成

ストレージ用HWプロファイルでは、ETERNUS DXシリーズに対してRAIDの作成およびホットスベアの作成を指示します。本機能はDXシリーズで使用可能です。

ポイント

- RAIDを作成すると、その最大容量を利用して1個のボリュームが自動的に作成され、RAIDおよびボリュームには自動的に名前が付けられます。それらに変更が必要な場合はプロファイル作成時に[詳細設定]で指定するか、プロファイル適用後に別途実施してください。
- プロファイル適用時、RAIDおよびホットスベアの作成は、未使用のドライブが必要な台数存在する場合にのみ行われます。プロファイル適用時点ですでに構築されているRAIDやホットスベアは解除されません。また、プロファイル取外し時も構成は変更されません。

ストレージ用HWプロファイルを新規に作成する手順は次のとおりです。ホットスベアも同様の手順で行います。

- [Profile Manager]画面左側の[プロファイル]タブを開き、ツリー上の[ストレージ] - [HWプロファイル]を右クリックし、表示されるメニューから[新しいプロファイル]を実行します。

画面については、「4.4.2 [プロファイル]画面」を参照してください。

[HWプロファイル]が表示されていない場合は、[ストレージ]の左側にある[+]をクリックすると、[HWプロファイル]がツリー下に表示されます。

- [プロファイル]画面右側のHWプロファイルの設定で、プロファイル名とストレージ種類を入力します。

— プロファイル名

プロファイルに対して任意の名称を付けます。ほかのプロファイルと同じ名称は利用できません。

— ストレージ種類

適用対象のETERNUS DXシリーズのモデル名をプルダウンから選択します。

ポイント

プロファイル名には半角英数字および全角文字が使用できます。半角記号はハイフン、アンダースコア、ピリオド、スペースのみ使用可能です。プロファイル名の先頭または末尾に付けられたスペースは削除されます。

- ストレージ種類を選択後、設定項目を入力します。

画面は2個のタブに分かれています。タブを切り替えて必要な設定を入力します。

[RAID構成]タブ:作成するアレイおよびホットスベアを指定します。

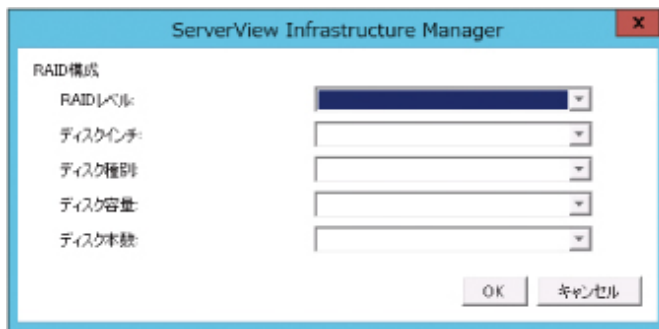
[プロファイル情報]タブ:プロファイルの管理情報を指定します。

[RAID構成]タブでは、任意の数のアレイを指定できます。RAID構成を指定して追加する場合はRAID構成欄の下にある[追加]ボタン、追加した行を変更する場合は行を選択して[編集]ボタン、また削除する場合は行を選択して[削除]ボタンをクリックします。

[詳細設定]をクリックすると別のダイアログボックスが開き、[詳細設定パラメータ]、[Pre実行コマンド]、[Post実行コマンド]を設定できます。

「E.4 ストレージ用HWプロファイルの設定項目」を参照して、必要に応じて設定項目を入力してください。

[追加] ボタンをクリックすると下図のダイアログボックスが表示されます。



上から順に値を入力し、[OK]ボタンをクリックすると、入力した内容がプロファイルに追加されます。

4. 必要な項目をすべて設定し、[保存] ボタンをクリックします。

5.4.1.4 プロファイルの操作

プロファイルの編集

保存されたプロファイルは、機器に適用する前であれば自由に設定内容を変更できます。

OSプロファイルは適用後であっても個別情報の未適用のIDや新規追加のIDは編集が可能です。ただし、適用後のOSプロファイルは個別情報の内容にエラーが残った状態では保存できません。

1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、編集対象のプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名をクリックします。

画面右側にプロファイルの内容が表示されます。

3. 画面右側のプロファイル内容を変更し、[保存] ボタンをクリックします。

変更内容を保存しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックするか、保存せずに別の画面に移動します。

プロファイルの流用作成

過去に作成したプロファイルを基にして、別のプロファイルを作成します。

ポイント

- HWプロファイルの機器種別やOSプロファイルのOS種類を変更できません。
- OSプロファイルの流用時、個別情報は引き継がれません。
- プリセットのプロファイルを基に流用作成できます。詳しくは、「[プリセットプロファイル](#)」を参照してください。

1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、流用元になるプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名を右クリックし、メニューから[プロファイルを流用作成]を実行します。
画面右側にプロファイルの内容が表示され、[プロファイル名入力] 欄が表示されます。
3. 新しいプロファイル名を入力し、画面右側のプロファイル内容を編集したあと、[保存] ボタンをクリックします。
新しい名前で作成されたプロファイルが作成されます。

プロファイルの削除

保存されているプロファイルを削除します。

ポイント

- ・ 適用処理中または適用済みのプロファイルは削除できません。適用されたすべてのプロファイルが取り外されるか、別のプロファイルに変更されたあとに削除できます。
- ・ プリセットのプロファイルは削除できません。

1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、削除するプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名を右クリックし、[プロファイルを削除] を実行します。
[削除確認] ダイアログボックスが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックします。
プロファイルが削除されます。

プロファイルの名前変更

保存されているプロファイルの名前を変更します。

ポイント

- ・ 適用処理中または適用済みのプロファイルは名前変更ができません。適用されたすべてのプロファイルが取り外されるか、別のプロファイルに変更されたあとに変更できます。
- ・ プリセットのプロファイルは名前を変更できません。

1. [プロファイル]画面左側のツリーを展開し、名前を変更するプロファイル名を表示します。
2. プロファイル名を右クリックし、[プロファイルのリネーム] を実行します。
名前を入力するダイアログボックスが表示されます。
3. 新しいプロファイルの名前を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
プロファイルの名前が変更されます。

プリセットプロファイル

用途に応じたいくつかのプロファイルが事前に準備されています。これらを流用すると、効率的にプロファイルを作成できます。

ポイント

プリセットプロファイルをそのまま装置へ適用できません。流用作成機能を利用して別のプロファイルを作成したうえで適用します。

1. [プロファイル]画面左側のツリー内の [プリセット] の下を展開し、保存されているプリセットプロファイルを表示します。
2. 次の方法で目的に最も近いプロファイルを選択します。
 - ー プロファイル名から選択する
 - ー プロファイルをクリックし、右側メイン画面の [プロファイル情報] タブからメモ欄を確認する
 - ー プロファイル内の各設定項目を確認する
3. ツリー上で利用するプロファイルを右クリックし、[プロファイルを流用作成] を実行します。
4. 新しいプロファイル名を入力し、画面右側のプロファイル内容を編集したあと、[保存] ボタンをクリックします。
新しい名前で作成されます。

プロファイルのエクスポート／インポート

エクスポートはISMで作成したプロファイルをXML形式のWindowsファイルとして保存する機能です。インポートは逆にXMLファイルを再びISMに読み込む機能です。

エクスポートを行う場合は、プロファイル表示／編集画面の下部に表示される[プロファイルをエクスポート]ボタンをクリックするか、ツリー上でプロファイル名を右クリックした際に表示される[プロファイルをエクスポート]をクリックします。

インポートを行う場合は、ツリーでプロファイル以外をクリックした際に[プロファイル]画面の下部に表示される[プロファイルをインポート]ボタンをクリックするか、ツリー上でプロファイル名を右クリックした際に表示される[プロファイルをインポート]をクリックします。



- ・プリセットプロファイルもエクスポートできます。またインポートの際には画面上で指定することでプリセットとしてインポートできます。
- ・インポートする際は同一バージョン、または古いバージョンのISMからエクスポートしたファイルを指定してください。
新しいバージョンでエクスポートしたファイルを古いバージョンでインポートした場合、意図しない動作となる場合があります。

個別情報のエクスポート／インポート

OSプロファイルの[個別情報]タブの設定内容をCSV形式のWindowsファイルとして保存したり、そのファイルを読み込んだりできます。

これによりOSプロファイルの流用作成や新規作成時に既存の個別情報を引き継ぐことができます。

本機能を利用する場合は、[プロファイル]画面の[個別情報]タブ内の [CSVエクスポート] ボタン、または [CSVインポート] ボタンをクリックします。



- ・エクスポート時はすべての個別情報がファイルに保存されます。インポート時は既存の個別情報に追加されます。
- ・異なるOS種間では、CSVファイルを流用できません。
例えば、Windows Server 2008用のOSプロファイルからエクスポートしたCSVファイルをWindows Server 2012用のOSプロファイルでインポートすることは可能ですが、Red Hat Enterprise Linux用のOSプロファイルにインポートするとエラーになります。

5.4.2 プロファイル適用

ここでは、プロファイルの適用、変更、および取外しの手順を説明します。

装置の状態を変更するためには、作成したプロファイルを装置に適用する必要があります。

サーバに対してはサーバ用のHWプロファイルとOSプロファイルの2種が適用できます。

ディスクアレイ装置ETERNUS DXシリーズに対しては、ストレージ用のHWプロファイルが適用できます。

次の操作を行う手順を説明します。

- ・管理可能状態の機器に対して、新しくプロファイルを適用する
- ・管理中状態の機器に対して、別のプロファイルを適用する
- ・HWプロファイルのみ適用済みの管理中状態のサーバに対して、OSプロファイルを追加適用する



- ・OSインストールを行うと、インストール先に指定したディスク内のデータはすべて消失します。必要なデータは事前にバックアップしてください。
- ・ファームウェア／BIOSアップデート中に電源を切断しないでください。
- ・ファームウェア／BIOSをアップデートする際は、事前に適用するファームウェアのリリースノートや添付ドキュメントを確認してください。

ポイント

- SAN bootなどを利用する場合は、事前にアダプターやインストール先ディスクの設定を完了させておいてください。
- OS上のネットワークポート設定は、オンボードLANの最初の1ポートのみ指定可能です。通常このポートは管理LANとして使用します。その他ポートについては、OSインストール後にOS上から別途設定してください。

プロファイルを適用する手順は次のとおりです。

1. 装置の状態を確認します。

対象機器がサーバの場合は以下を確認します。

- ー サーバの電源がオフ(電源ケーブルは接続)であること
- ー ローカルブートが可能なUSBメモリやDVDドライブが接続されていないこと
- ー BIOSがUEFIモードになっていないこと

対象機器がETERNUS DXシリーズの場合は以下を確認します。

- ー 電源がオンであること
- ー Web GUIや他の管理ソフトウェアなどから操作中でないこと

2. [ノードリスト]画面の[管理可能]または[管理中]タブをクリックします。

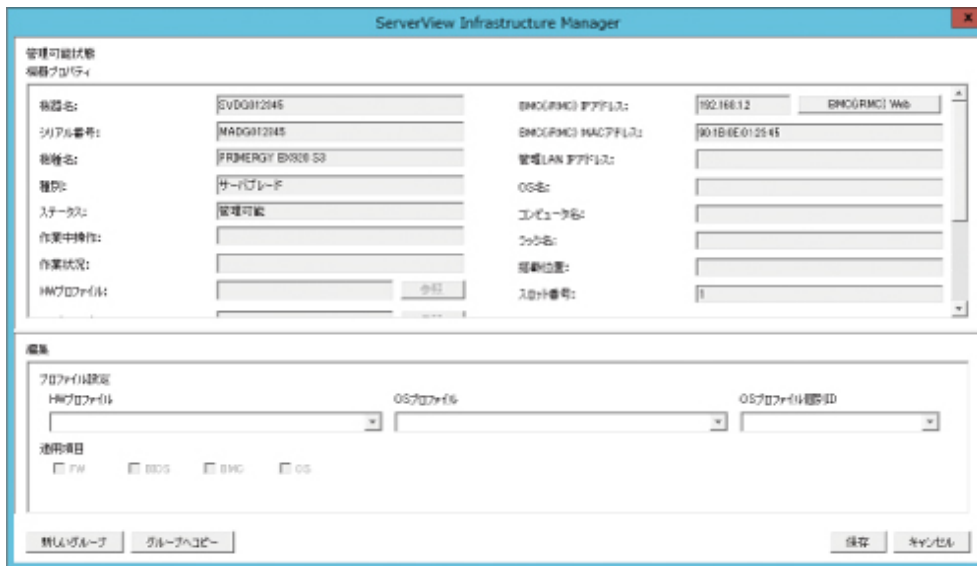
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。

目的の対象機器が表示されます。

ツリーの選択や絞り込み機能で表示対象が限定されていて目的の機器が表示されない場合は、表示条件を変更してください。

3. [ノードリスト]画面の機器一覧表で、プロファイルを適用する機器の機器名をクリックします。

[機器プロパティ]画面が表示されます。



4. [機器プロパティ]画面下部のプルダウンメニューから適用するプロファイル名を指定します。

OSプロファイルを適用する場合は、個別設定の番号(個別ID)も指定します。

ポイント

- ー 対象機器に適用可能なプロファイルだけが選択できます。目的のプロファイル名が表示されない場合は、プロパティ画面でサーバ種類、ストレージ種類が正しいか確認してください。

- OSの個別IDは、1つにつき1サーバのみに指定できます。個別IDが不足していてプルダウンに表示されない場合は、プロフィール編集で個別情報を増やしてください。
- OSプロフィールだけを適用することはできません。必ずHWプロフィールを指定してください。
- 対象装置がPRIMEQUEST 2000シリーズの場合、基本パーティションにはHWプロフィール、OSプロフィール共に適用可能です。拡張パーティションにはHWプロフィールだけが適用可能です。ただし、基本パーティション上に拡張パーティションを作成している場合、その基本パーティションにはHWプロフィールだけが適用可能です。
- 対象装置がPRIMEQUEST 2000シリーズの場合、「OS起動モード」を画面上で設定できます。設定を変更した場合は、装置側のブート関連の設定も変更してください。
- メンテナンス支援機能でファームウェアアップデート中の機器は操作できません。アップデートの終了を待ってください。

5. [保存] ボタンをクリックします。

この時点では、まだプロフィール適用は開始されません。

6. [ノードリスト]画面に戻ったら、一覧画面内の適用対象機器の左端にあるチェックボックスがオンになっていること、およびプロフィール名が正しいことを確認します。

一覧右端のチェックは、機器に対して行われる処理を示します。

ポイント

複数の装置に対して同時にプロフィール適用が行えます。手順1から手順5を繰り返し、対象となる装置すべてにプロフィールを指定します。

- プロフィール適用の操作は、一度に10台を超えて行うことができます。例えば11台同時に開始した場合、1台はプロフィール適用が待機中となり、ほかの1台の処理が完了した時点で自動的に適用が開始されます。
- DHCP設定の内容によっては、同時実行数は10台より少なくなる場合があります。

7. [プロフィール適用] ボタンまたは [プロフィール変更] ボタンをクリックします。

8. 確認ダイアログボックスが表示されたら、[はい] をクリックします。

プロフィール適用が開始されます。

プロフィール適用が開始されると、機器アイコンは処理中となり、処理の進行状況が状態欄に表示されます。状態欄は自動更新されません。必要に応じて、画面右上の [最新の状態に更新] ボタンをクリックして進行状況を確認してください。

	状態	機器名	機器名 / ID	コンピュータ名	HWプロフィール	OSプロフィール	ID	適用項目			
								FW	BIOS	BMC	OS
☐		PRIMERGY B30L C-41 J011558									
☐		PRIMERGY B30L S-V1220K000150									
☐	 1/8	PRIMERGY B30L S-VAR010 108			R30 null	VMware1	8				

ポイント

- プロフィールの内容に応じて、数分から1時間程度の処理時間が必要です。詳しくは、「[処理時間の目安](#)」を参照してください。
- [イベント履歴]画面でも処理完了を確認できます。
- プロフィール適用中に、別の機器に対してプロフィール適用を開始できます。

プロフィール適用が完了すると、機器アイコンが管理中となり、状態欄は空欄に戻ります。[管理可能]タブ内に表示されていた機器は[管理中]タブへ移動します。

適用中に問題が発生した場合は、機器アイコンがエラー状態となり、状態欄がエラーを示します。状態欄にマウスカーソルを重ねるとエラー発生時の処理内容が表示されます。エラー要因を取り除いたあと、再度プロフィールを適用してください。詳しくは、「[B.2 プロファイル管理に関するトラブルシューティング](#)」を参照してください。

ポイント

- ・ エラー時はプロファイル未適用として扱われるため、装置は管理可能状態になります。ただし、OS インストール完了後の仮想管理ソフトウェアへの登録でエラーになった場合、OSプロファイルは正常適用完了として扱われ、装置は管理中状態となります。この場合はマニュアル操作で仮想管理ソフトウェア登録を行ってエラー状態を解除します。詳しくは、「[3.6.2 仮想管理ソフトウェアの登録](#)」を参照してください。
- ・ OSプロファイルを利用してインストールを行ったサーバに対して、同一条件でOSを再インストールする場合は、「[プロファイルの再適用](#)」を参照してください。
- ・ 運用開始後のメンテナンス目的など、HWプロファイル適用時にファームウェア／BIOSアップデート済みのサーバに対して、さらに新しい版数にアップデートする場合、「[プロファイルの再適用](#)」を参照してください。

プロファイルの適用中止

プロファイル適用中の装置に対して強制的に適用処理を中止します。中止した装置の状態はエラーとなります。

プロファイルの適用を中止する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面の [管理可能] または [管理中] タブを開きます。
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。
2. [ノードリスト]画面の機器一覧表で適用を中止する機器のチェックボックスをオンにします。
3. 画面下部の [プロファイル適用中止] または [プロファイル変更中止] (タブに応じて異なる) をクリックします。
[ノードリスト]画面の機器一覧表の状態欄表示が「中止中」となります。

ポイント

[管理可能] および [管理中] タブの複数の装置に対してプロファイルの適用中止を行う場合は、それぞれのタブで手順2と手順3を実行してください。

4. [最新の状態に更新] ボタンをクリックし、適用中止が完了するのを待ちます。
中止を指示したときの機器状態に応じて、中止完了まで時間がかかることがあります。
中止が完了すると状態欄が「中止完了」になります。

プロファイルの再適用

プロファイル適用済みの装置に対して、プロファイルの一部を上書き適用できます。例えば次のような場面で行います。

- ・ OSの再インストール(OSプロファイル適用済みの装置に対して、再度同一条件でOSのインストール)
- ・ 新しいファームウェアがリリースされたため、再度ファームウェアのアップデート

注意

- ・ OSプロファイルの再適用を実行すると、ディスク内のデータは完全に消失します。誤って実行しないように、実行時は操作対象サーバの確認を含め、十分に注意してください。
- ・ ファームウェア／BIOSアップデート中に電源を切断しないでください。
- ・ ファームウェア／BIOSをアップデートする際は、事前に適用するファームウェアのリリースノートや添付ドキュメントを確認してください。

ポイント

- ETERNUS DXシリーズに対して本操作を実行した場合は、既存構成が保持されたまま、新たにRAIDやホットスペアを追加する動作となります。
- ファームウェアアップデート指定時、すでに同一版数が適用済みの場合は上書きされません。

プロファイルを再適用する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面の [管理中] タブから機器名をクリックします。
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。
[機器プロパティ]画面が表示されます。
2. ウィンドウ内下部の[適用項目] のチェック欄で再適用したい操作のチェックボックスをオンにします。
 - － FW:ファームウェア／BIOSのアップデートを再実行する。
 - － BIOS:BIOSタブに記述されている設定を装置へ再適用する。
 - － BMC:BMC (iRMC) タブに記述されている設定を装置へ再適用する。
 - － OS:OSプロファイルの内容に従い、再インストールを行う。

ポイント

適用中のプロファイルに設定がない項目はチェックボックスをオンにできません。

3. [保存] ボタンをクリックし、[機器プロパティ]画面を閉じます。
4. [ノードリスト]画面の機器一覧表で対象機器のチェックボックスをオンにしている状態で [プロファイル変更] ボタンをクリックします。
プロファイルの適用が完了するのを待ちます。

プロファイルの取り外し

プロファイル適用中の機器からプロファイルを取り外し、プロファイル未適用(適用可能)の状態に戻します。ただし、実機の設定をプロファイル適用前に戻すわけではなく、機器に設定された内容やインストールされたOSはプロファイル取り外し後もそのまま残ります。

ポイント

- HWプロファイルかOSプロファイルの片方のみを選択してプロファイルを取り外すことはできません。
- プロファイル適用を処理中の装置に対しては、プロファイルの取り外しはできません。プロファイル適用を中止してください。詳しくは、「[プロファイルの適用中止](#)」を参照してください。

プロファイルを取り外す手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面の [管理中] タブをクリックします。
画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。
2. プロファイルを取り外す装置のチェックボックスをオンにします。
3. 画面右下の [プロファイル取り外し] ボタンをクリックします。
4. 確認画面で [OK] ボタンをクリックします。
プロファイルの取り外しが開始され、対象の装置には進行状況が表示されます。
5. [最新の状態に更新] ボタンをクリックし、装置が「管理可能」状態になるのを待ちます。

プロファイル適用／取り外し時のエラーの強制解除

プロファイル適用や取り外しの処理がエラーになった場合は、原則としてエラー原因を取り除いてから、再度同じ操作を行ってください。

以下のような理由で再実行できない場合は、エラーを強制解除して機器のステータスを正常状態に戻すこともできます。

- ・ プロファイル適用の必要がないのに適用を開始してしまったため、すぐに中断した。
- ・ 誤って、目的とは異なる機器に対してプロファイル適用を開始したためエラーとなっている。

エラーの強制解除の手順は次のとおりです。



注意

本操作により、Profile Managerが示す機器の状態と実際の機器の状態に相違が発生する可能性があります。

1. [ノードリスト]画面で、エラーとなっている機器を右クリックします。
2. メニューから[エラー解除]、または[強制プロファイル取り外し]を選択します。
表示される項目は、機器の状態に応じて変わります。
3. 以降は、画面表示に従って操作します。

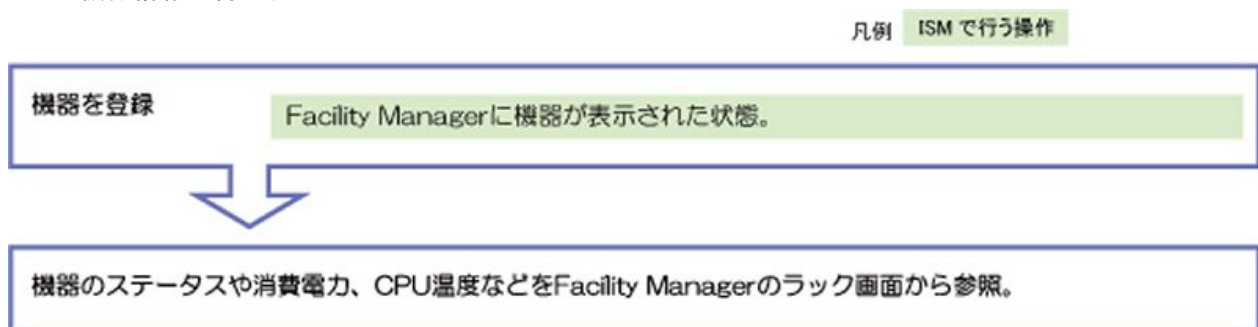
5.5 機器の監視・モニタリング

機器監視・モニタリングに関して、ISMには以下の機能があります。

- ・ 管理対象機器の異常発生をトップビュー画面で一括監視できる。
- ・ 機器ごとの現在のステータスや消費電力などの情報を画面で確認できる。
- ・ 消費電力の推移を記録し、グラフなどで表示する。
また、消費電力の上限値を設定しておき、上限を超えないようにISMで自動的に制御する。
- ・ 管理対象機器のログを、ISMで毎日自動的に収集し、蓄積する。
また、任意のタイミングで蓄積したログを取り出す。

5.5.1 機器ステータス／情報取得利用

図5.4 機器情報取得の流れ



ポイント

- ・ 機器登録については、「5.2 機器の登録」を参照してください。
- ・ Facility Managerの[ラック]画面については、「4.2.2.4 [ラック]画面」を参照してください。

5.5.2 機器情報表示

[機器プロパティ]画面で、登録済みの機器または検出された機器の固有情報を参照します。また、IDランプ（識別LED）の制御、ローカルノートの編集もできます。

ポイント

ブレードシャーシおよびETERNUS DXシリーズに対して、識別LED制御は利用できません。

各種操作は[機器プロパティ]画面から行います。
[機器プロパティ]画面を表示する手順は次のとおりです。

1. [Profile Manager]画面を表示します。
詳しくは、「[4.4 \[Profile Manager\]画面](#)」を参照してください。
2. [ノードリスト]画面のツリーまたは[ノードリスト]画面の機器一覧表に表示されているノード名を右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]を実行します。



操作日時	操作	操作後ステータス	HWプロファイル	OSプロファイル	OSプロファイルID
2018-12-17 14:38:47	プロファイル適用	管理中	bx_fmap	vmware	1
2018-12-17 14:19:30	ノード登録	管理可能			
2018-12-17 14:17:09	ノード検出	ノード検出			

3. 以下の操作が行えます。
 - Web画面接続
[BMC(iRMC) Web] ボタンをクリックすると、新しくWebブラウザを開き、表示されているIPアドレスに対してhttpで接続します。
サーバの場合は、iRMC Webインターフェースが起動します。MMBまたはETERNUS DXシリーズの場合は、それぞれのWeb操作画面が起動します。
 - 識別LED操作
IDランプ（識別LED）の状態を画面に表示する場合は、[取得] ボタンをクリックします。[点灯] ボタンまたは [消灯] ボタンでLEDの状態を操作できます。
 - プロファイル参照
機器にプロファイルが適用済みの場合は、プロファイル欄の右の [参照] ボタンをクリックするとプロファイルの内容が表示されます。
 - VIOMプロファイル参照
VIOMプロファイルが適用されている場合は、プロファイル欄の右の [取得] ボタンをクリックすると適用中のプロファイル名が表示されます。

ー プロファイル適用履歴表示

画面下部の [適用履歴取得] ボタンをクリックすると、過去および現在のプロファイルの適用、変更の操作履歴が表示されます。履歴一覧からプロファイル名の部分をクリックすると、プロファイルの内容が表示されます。

ー ローカルノートの編集

ローカルノートの記事を変更する場合は、記事を直接編集したあと、右の [編集] ボタンをクリックすると変更が保存されます。

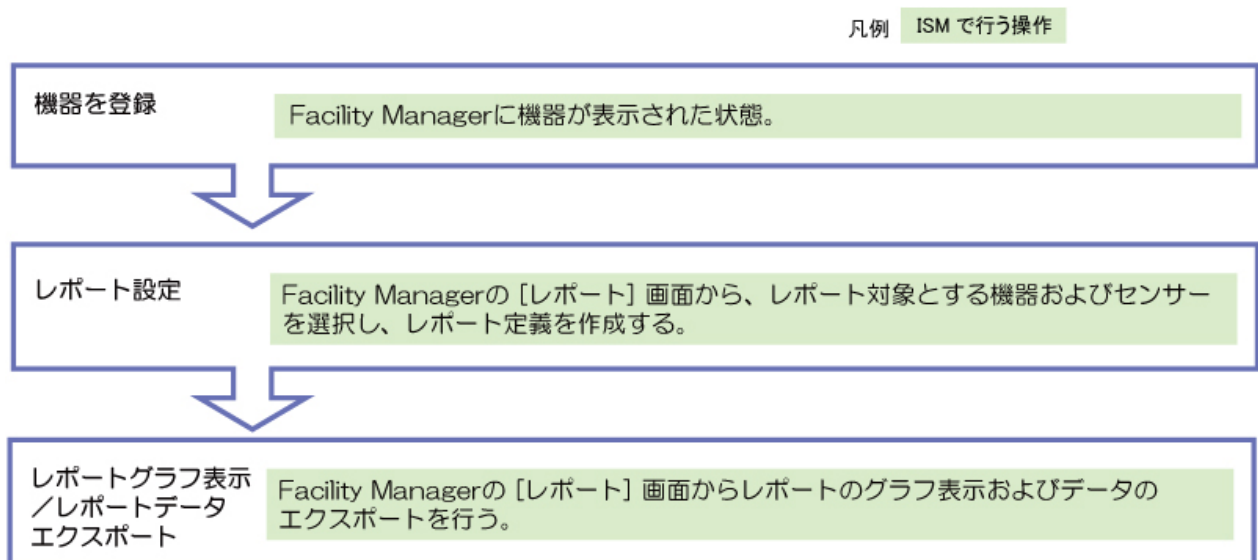
ー 仮想管理ソフトウェアへの登録

画面下部の [仮想管理ソフトウェア登録] ボタンをクリックすると、対象サーバをvCenterまたはSCVMMに登録できます。

詳しくは、「[3.6.2 仮想管理ソフトウェアの登録](#)」を参照してください。

5.5.3 レポート表示利用

図5.5 レポート表示の流れ



ポイント

- ・ 機器登録については、「[5.2 機器の登録](#)」を参照してください。
- ・ Facility Managerの[レポート]画面については、「[4.2.4 \[レポート\]タブ](#)」を参照してください。

レポートの新規作成

1. Facility Managerの [レポート] タブを選択します。
2. [新規作成]ボタンをクリックします。
[レポート設定] 画面が表示されます。
3. 必要な情報を登録して[保存]をクリックします。

レポートの表示

1. Facility Managerの [レポート] 画面から、現在設定されているレポートを選択します。
左位置にレポートが一覧表示されるので、表示したいレポートを選択します。
ワークエリアで、[表示]ボタンをクリックすると、レポートがグラフで表示されます。

P ポイント

選択しているレポートをcsv形式で出力することもできます。

5.5.4 消費電力制御(パワーキャッピング)利用

P ポイント

Facility Managerに機器が表示された状態であることを確認してください。
機器登録については、「5.2 機器の登録」を参照してください。

1. Facility Managerの[グループ一覧]タブを選択します。
詳しくは、「4.2.3 [グループ一覧]タブ」を参照してください。
2. [グループ一覧] から消費電力制御設定を行うグループ定義を作成します。
ラックに対して消費電力設定を行う場合は、グループ定義の作成は不要です。
3. [グループ一覧]から定義したグループを選択、または[一覧] からラックを選択し、最大消費電力、優先度、ポリシーなどの消費電力制御設定を行います。
ラックまたは定義したグループの消費電力が監視され、設定した上限値を超えないようにサーバ消費電力が制限されます。

5.5.5 イベント履歴表示

プロファイル管理上で実行した操作およびその動作結果を、イベント履歴としてログ形式で参照できます。

[イベント履歴]画面を表示すると、操作内容が時刻順に表示されます。本画面でプロファイル適用の完了を待つような場合は、必要に応じて、[最新の状態で更新] ボタンをクリックして、イベント表示を更新してください。

1. [Profile Manager]画面を表示します。
詳しくは、「4.4 [Profile Manager]画面」を参照してください。
2. 画面左側(1)で[イベント履歴]を選択します。
[イベント履歴]画面が表示されます。



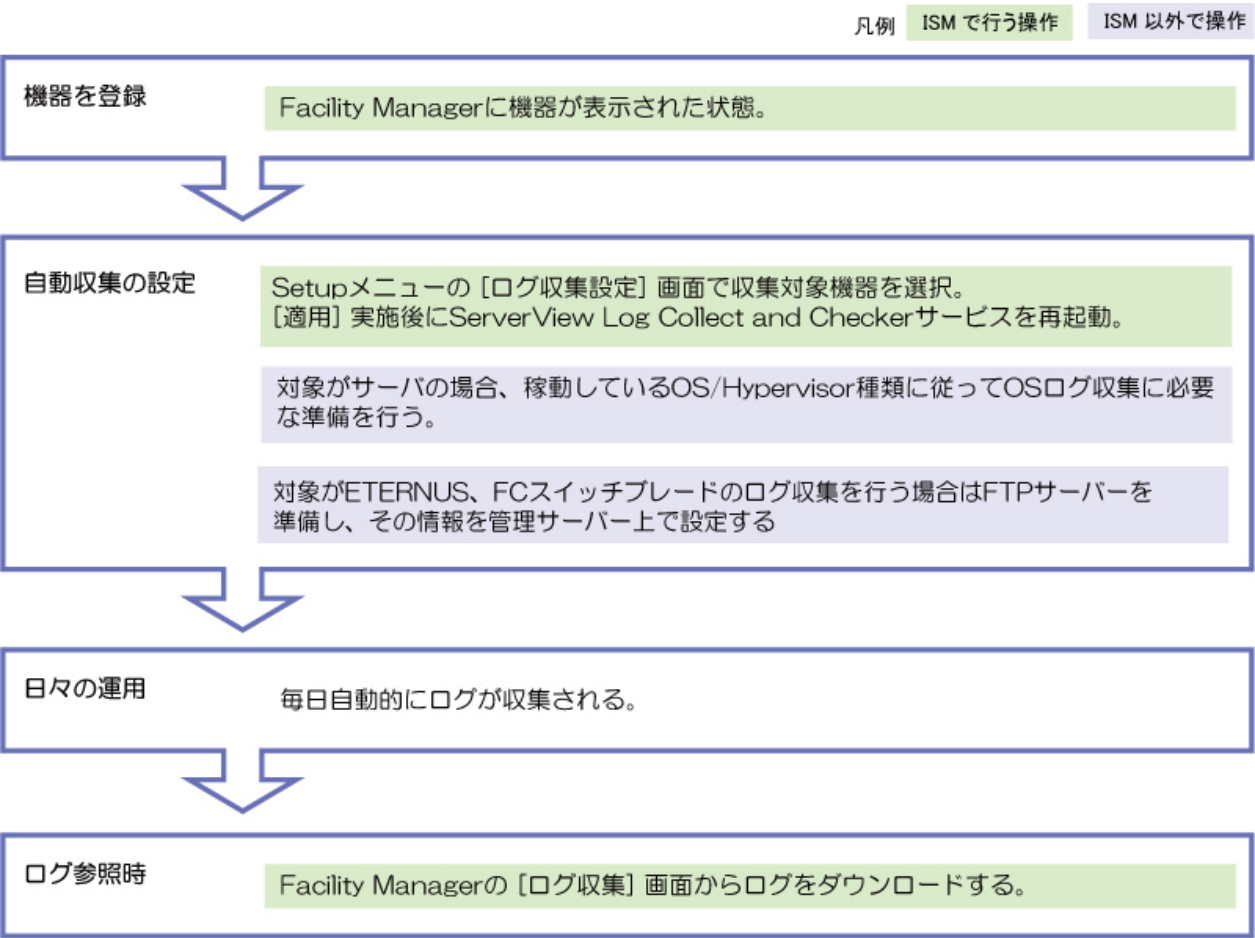
操作日時	出力レベル	機器名	操作種別	作業状況	メッセージ
2014-04-20 16:01:09	INFO	POC0650-1	処理終了		処理が終了しました。
2014-04-20 16:01:09	INFO	POC0650-1	サーバリスト登録		サーバリストの登録をしました。IPアドレス: 192.168.1.2 / シリアル番号: YLNG4...
2014-04-20 16:08:35	INFO	POC0650-1	ノード登録	実行開始	ノード登録処理を開始しました。IPアドレス: 192.168.1.2 / シリアル番号: YLNG...
2014-04-20 16:28:01	INFO		DHCP設定:有		有2局設定が完了しました。DHCPサーバIPアドレス: 192.168.1.2 / ネットワーク番...
2014-04-20 16:28:34	INFO		DHCP設定:無		無2局設定が完了しました。DHCPサーバIPアドレス: 192.168.1.2 / ネットワーク番...
2014-04-20 16:28:30	INFO		データインポート		データインポートが完了しました。種類: "ServerView Suite DVD"
2014-04-20 16:28:22	INFO		ソフトウェア更新		ソフトウェア更新が完了しました。種類: "Update DVD" / バージョン: "11.10.08"
2014-04-20 16:28:17	INFO		ソフトウェア更新		ソフトウェア更新が完了しました。種類: "Update DVD" / バージョン: "11.10.08"
2014-04-20 16:28:33	INFO		データインポート		データインポートが完了しました。種類: "ServerView Suite DVD"
2014-04-20 16:22:33	INFO		プロファイル保存		プロファイルが保存されました。プロファイル名: "196-4050454-I"
2014-04-20 16:28:34	INFO		プロファイルグループ		プロファイルグループが作成されました。グループ名: "Div 1"
2014-04-20 16:18:09	INFO		プロファイル保存		プロファイルが保存されました。プロファイル名: "196-POC0650-I"

P ポイント

- ・ 本画面では最新のイベントから最大500件を表示します。
- ・ 特定の機器に関するプロファイル適用履歴を参照する場合は、[ノードリスト]画面の機器一覧表で[機器プロパティ]画面を開いて参照することもできます。

5.6 ログ収集機能の利用

図5.6 ログ収集の流れ



ログ収集機能の監視対象と収集するログ

- ハードウェア

ログ収集のタイミングは、定期収集(1日1回)またはローグ一括収集コマンド(logcollect)入力時となります。

収集箇所		機能	収集するログ	必要な設定
PRIMERGY (BXシリーズ)	MMB	ログ収集 (*1)	SEL	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 (*1)
	FCスイッチブレード	ログ収集	supportsaveコマンドの結果	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.10 FTPサーバ情報の登録
	LANスイッチブレード	ログ収集	show tech-supportの結果	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
	コンバージドファブリック スイッチブレード	ログ収集	ログ (ファブリックを組んだ場合、マスターに含まれます。)	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
	サーバブレード	VMware ログ収集 ログ監視 異常通報	ESXi上のsyslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.6 ログ転送の設定 (ホストOSがVMware ESXiの場合) 5.6.9 異常通報の設定
		Windows ログ収集 ログ監視	イベントログ	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.7 ログ転送の設定 (Windows OSの場合)

収集箇所			機能	収集するログ	必要な設定
			異常通報		合) 5.6.9 異常通報の設定
		Linux	ログ収集 ログ監視 異常通報	syslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.8 ログ転送の設定 (ホストOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合) 5.6.9 異常通報の設定
PRIMERGY (RX/CXシリーズ)		iRMC	ログ収集 (*1)	SEL	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 (*1)
		VMware	ログ収集 ログ監視 異常通報	ESXi上のsyslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.6 ログ転送の設定 (ホストOSがVMware ESXiの場合) 5.6.9 異常通報の設定
		Windows	ログ収集 ログ監視 異常通報	イベントログ	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.7 ログ転送の設定 (Windows OSの場合) 5.6.9 異常通報の設定
		Linux	ログ収集 ログ監視 異常通報	syslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.8 ログ転送の設定 (ホストOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合) 5.6.9 異常通報の設定
PRIMEQUEST		VMware	ログ収集 ログ監視 異常通報	ESXi上のsyslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.6 ログ転送の設定 (ホストOSがVMware ESXiの場合) 5.6.9 異常通報の設定
		Windows	ログ収集 ログ監視 異常通報	イベントログ	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.7 ログ転送の設定 (Windows OSの場合) 5.6.9 異常通報の設定
		Linux	ログ収集 ログ監視 異常通報	syslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.8 ログ転送の設定 (ホストOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合) 5.6.9 異常通報の設定
LAN集約スイッチ (CFXシリーズ、SR-Xシリーズ)			ログ収集	show tech-supportの結果 (ファブリックを組んだ場合、マスターに含まれます。)	5.6.1 ログ収集対象機器の選択
ストレージ (ETERNUS DXシリーズ)			ログ収集	export logコマンドの結果	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 5.6.10 FTPサーバ情報の登録 (*2)
ストレージ (ETERNUS NRシリーズ)			ログ収集	syslog	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 (*3)

*1: SEL情報を取得するためには、対象の各PRIMERGY RXシリーズのiRMC、各PRIMERGY BXシリーズのMMBにtelnetで接続する必要があります。

iRMCまたはMMBのWebインターフェースからTelnet (port :3172) を有効に設定してください。

*2: ログを収集するために、対象の各ETERNUS DXシリーズのTelnet (port:23) を有効にする必要があります。

*3: ログを収集するために、対象の各ETERNUS NRシリーズのSSH (port:22) を有効にする必要があります。

・ソフトウェア

ログ収集のタイミングは、異常発生時となります。

ISMがインストールされているOSの以下の箇所のログを収集します。

収集箇所	機能	収集するログ	必要な設定
ServerView Agents	ログ収集	PrimeCollectの結果	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 (*2) 5.6.9 異常通報の設定
ServerView Fabric Manager	ログ監視 異常通報	ログ収集コマンド (svfabcli log collectの結果)	
ServerView Infrastructure Manager		ログファイル	
ServerView Operations Manager		cmscollectの結果	
ServerView RAID Manager	ログ収集 (*1)	- 動作ログ (RAIDLog.xml, snapshot.xml) - イベントログ (Windowsのみ)	5.6.1 ログ収集対象機器の選択 (*2)
ServerView Agentless Service (Linux)	ログ収集 (*1)	PrimeCollectの結果	

*1: ロガー一括収集コマンドを実施したときのみ収集できます。

*2: インストールされているOSが監視対象とされている必要があります。

ログ収集

各ハード機器のログを定期的(1日1回)に収集する機能です。ロガー一括収集コマンド(logcollect)でも収集できます。収集したログは、アーカイブ後にISMの[ログ収集]画面で機器ごとにダウンロードできます。ログはデフォルトで7日分保存され、保存期間は変更できます。設定方法については、「5.6.3 ログ保存期間の変更」を参照してください。

ServerView Agentsなどソフトウェアの保守情報は各ソフトウェアの異常発生時に収集され、ログは約1時間後、ISMの[ログ収集]画面の「Infra_Manager」からダウンロードできます。

ログ監視

ホスト上OSのログに出力されるドライバのログ、および管理用サーバ上のソフトウェアのソフトウェア異常を監視して、ログ情報の収集や異常通報を実行する機能です。

ログ監視対象は以下のとおりです。

ー ソフトウェア

ServerView Operations Manager for Windows、ServerView Infrastructure Manager、ServerView Fabric Manager

管理サーバ上のソフトウェア異常の場合には、異常発生ごとにログが収集されます。

ー ハードウェア

LAN、FCカードなどドライバのログ

検出した異常はイベントログにメッセージとして出力されます。

メッセージの内容と対処方法については、「5.6.15 メッセージ一覧」を参照してください。

異常通報

SVOMのイベントマネージャーの[アクション設定]を利用してTrapやMail通報を行う機能です。別途、異常通報の設定が必要です。詳しくは、「5.6.9 異常通報の設定」を参照してください。



同一のIPアドレスで重複した異常が発生した場合、1時間抑止され通報およびログ収集はされません。

5.6.1 ログ収集対象機器の選択

[ログ収集設定]画面を使用して、ログ収集の対象とする機器を選択します。ログ収集の設定後、設定内容を反映するためにログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)の再起動が必要です。

1. [Setup]画面を表示します。

詳しくは、「4.5 [Setup]画面」を参照してください。

2. [Setup]画面左側の[ログ収集設定]をクリックし、画面右側でログ収集の対象とする機器を選択します。
3. リストからログ収集の対象となる機器のチェックボックスをオンにし、[登録] ボタンをクリックします。

監視対象機器のOS上にServerView Agents／ServerView Agentless Serviceがインストールされている場合は、[Agents] チェックボックスをオンにします。

なお、監視対象機器ではない場合、[Agents] チェックボックスをオンにする必要はありません。

最新の状態に更新

☐	機器名	IPアドレス	モデル名	ホスト名	動作OS	Agents
☒	BX400	10.25.3.210	PRIMERGY BX400 S1	-	-	☐
☒	BX900S2	192.168.181.100	PRIMERGY BX900 S2	-	-	☐
☒	BX920S3-1	192.168.181.101	PRIMERGY BX920 S3	win	WindowsServer2012_R2 Standard (Full)	☒
☐	BX920S3_slot5	10.25.3.213	PRIMERGY BX920 S3			☐
☐	CFX2000R-1	192.168.181.200	CFX2000R	-	-	☐
☐	DX100S3	192.168.181.130	ETERNUS DX100 S3	-	-	☐
☐	FSW-CB1	192.168.181.200	PYBCFB1010	-	-	☐
☐	RX200S8-1	192.168.181.120	PRIMERGY RX200 S8			☐
☐	RX4770M1	10.21.136.203	PRIMERGY RX4770 M1			☐
☐	SR-X340TR1	10.25.3.240	SR-X	-	-	☐
☐	fc	192.168.1.4	FC-switch	-	-	☐
☐	lan	192.168.1.3		-	-	☐
☐	slot1	10.21.136.176	PRIMERGY CX2550 M1			☐
☐	slot2	10.21.136.215	PRIMERGY CX2550 M1			☐

全選択

全選択解除

登録

P ポイント

- 機器名が赤で表示されている機器はログ収集対象には設定できません。
- ServerView Agents／ServerView Agentless ServiceがOS上に動作している場合、必ず [Agents] チェックボックスをオンにしてください。[Agents] チェックボックスがオフの場合、ServerView Agents／ServerView Agentless ServiceとISMのログ収集機能の二重通報になります。
- サーバをログ収集対象に設定するためには、各パラメーター(IPアドレス／ログインID／パスワード／モデル名／ホスト名／OS名)の設定が必要です。ただし、RXサーバでSEL取得のみを対象とする場合は、OSのIPアドレス／ログインID／パスワード／ホスト名またはOS名の設定は不要です。
設定方法については、「[4.2 \[Facility Manager\]画面](#)」を参照してください。
- PRIMERGY BXシリーズ、LAN／コンバージドファブリック／FCスイッチブレード、集約スイッチやストレージは、ホスト名、OS名、Agentの設定は不要です。
- ファブリックを組んでいるネットワーク機器の場合、Rootドメインマスターの機器だけが収集対象として選択できます。Rootドメインマスター以外には代表のIPが表示され、グレースケールで表示されます。
- LAN／コンバージドファブリック／FCスイッチブレードをログ収集対象とする場合には、必ず搭載しているBXシャーシをログ収集対象として登録してください。

4. OSの管理ツールの [サービス] から [ServerView LogCollect and Checker] を選択し、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動します。

ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)が再起動すると、監視対象機器情報が反映されます。



注意

- ログ収集設定を変更した場合には、ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) の再起動が必要です。再起動しないと、監視対象の機器のログ収集や監視ができません。
- 監視対象にWindows OSを指定する場合、「[5.6.7 ログ転送の設定 \(Windows OSの場合\)](#)」の設定後にログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) の再起動が必要です。
- ログ収集対象機器のアカウント情報 (IPアドレス、ログインID、ログインパスワードなど) を変更した場合は、[ログ収集設定]画面で [登録] ボタンをクリックして再登録してから、ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を再起動してください。

5.6.2 定期ログ収集開始時刻の変更

初期設定では、毎日0:30に自動的にログが収集されますが、定期ログ収集開始時刻は変更することができます。

ここでは、定期ログ収集開始時刻を変更する手順について説明します。

1. ログ収集開始時刻設定ファイル(logcollect.conf)にてログ収集開始時刻を設定します。

以下のファイルをテキストエディタで開き、時刻 (下記赤字) を修正します。
設定できる値の範囲は、00:10～23:50です。

<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%\logcollect.conf
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\usr%\logcollect.conf)

```
[LOGCOLLECT]
TIME=00:30
```



注意

- 時刻は必ず4桁で指定してください。
例: 1:30に開始する場合は、01:30と指定します。
- 設定時刻は現在時刻より10分以上間隔を空けてください。
10分以内に設定した場合、ログ収集されるのが翌日になることがあります。

2. ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を再起動します。

5.6.3 ログ保存期間の変更

以下の手順でログを保存する期間を変更できます。

ログ保存期間を増やす場合は、「[2.1 ログの保存容量の決定](#)」を参照して必要なディスク容量を確認してください。

1. 以下のファイルをテキストエディタで開き、ログ保存期間 (下記赤字) を修正します。

設定できる値の範囲は、1～366 (デフォルト値は7) 日間です。

<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%\svlcclogcollector.conf
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\usr%\svlcclogcollector.conf)

```
; [LOGCOLLECTOR]
ARCHIVE_NUM=7
```

2. ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を再起動します。

5.6.4 ログ保存先のディスク容量監視機能

収集したログの肥大化を防ぐため、ハードディスクドライブに保存するログの容量を監視する機能です。

ログを保存するハードディスクドライブとログ保存先のディレクトリの容量を監視します。

ログ保存先のディレクトリの容量は設定ファイルで変更が可能です。

機能の条件と動作は以下のとおりです。

条件	動作
ログ保存先のディスク使用量、または設定したディレクトリ容量の80%を超えた場合	- 警告メッセージをイベントログに出力し、mailまたはtrapで通知する。 「5.6.9 異常通報の設定」で設定した通知先に通知されます。 - ログ収集は行う。
ログ保存先のディスク使用量、または設定したディレクトリ容量の90%を超えた場合	- 警告メッセージをログに出力し、mailまたはtrapで通知する。 - ログ収集を行わない。

ログ保存先ディレクトリの容量変更方法

ログ保存先ディレクトリの容量を変更するには、以下の手順で行います。

1. 設定ファイルをテキストエディタで開きます。

```
<ServerView LogCollect and Checker インストールフォルダー>\usr\svlcclogsize.conf
```

デフォルトでは、設定ファイルは以下に格納されています。

```
C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\usr\svlcclogsize.conf
```

2. 設定ファイルを編集し、収集するログの容量の上限値を設定します。

例:

```
[LOGCOLLECTOR]  
LOG_SIZE=0
```



注意

- 設定値はGB(ギガバイト)単位です。
- 整数で設定してください。設定範囲は0 ～2000000000 GBです。ハードディスクの容量の範囲内で設定してください。
- 設定値が0の場合には、ログを保存するハードディスクドライブのみログ容量が監視されます。
- ログ容量の設定値が不正の場合の動作は以下のとおりです。
 - 定期ログ収集時:設定値は0と判定され、エラーメッセージが出力されますが、ログ収集は実行されます。
 - ロガー一括収集コマンド実行時:エラーメッセージが出力され、ログ収集が失敗します。
- 設定変更後、ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) の再起動は不要です。

5.6.5 ログ転送の設定

ログ転送の設定手順を説明します。

環境に応じて、必要な設定が異なりますので、下記の表を確認してください。

○の箇所が、設定が必要な項目です。

必要な設定	管理サーバ	監視対象サーバ				
	Windows	Windows	Linux	VMware ESXi	LinuxとVMware ESXi が混在 (Syslog Collectorあり)	LinuxとVMware ESXi が混在 (Syslog Collectorなし)
5.6.6 ログ転送の設定(ホストOS がVMware ESXiの場合)				○	○(*1)	○(*2)
5.6.7 ログ転送の設定(Windows OSの場合)	○	○				
5.6.8 ログ転送の設定(ホストOS がRed Hat Enterprise Linuxの場 合)			○		○	○(*3)

*1:「[5.6.6.5 Syslog Collectorを利用する方法](#)」を参照してください。

*2:「[5.6.6.4 ログ収集機能で転送ログを受信する方法](#)」を参照してください。

*3:「[5.6.8.2 監視対象サーバ側で行う設定\(ログ転送の設定\)](#)」のみ行ってください。

5.6.6 ログ転送の設定(ホストOSがVMware ESXiの場合)

ホストOSがVMware ESXiの場合の設定内容を説明します。

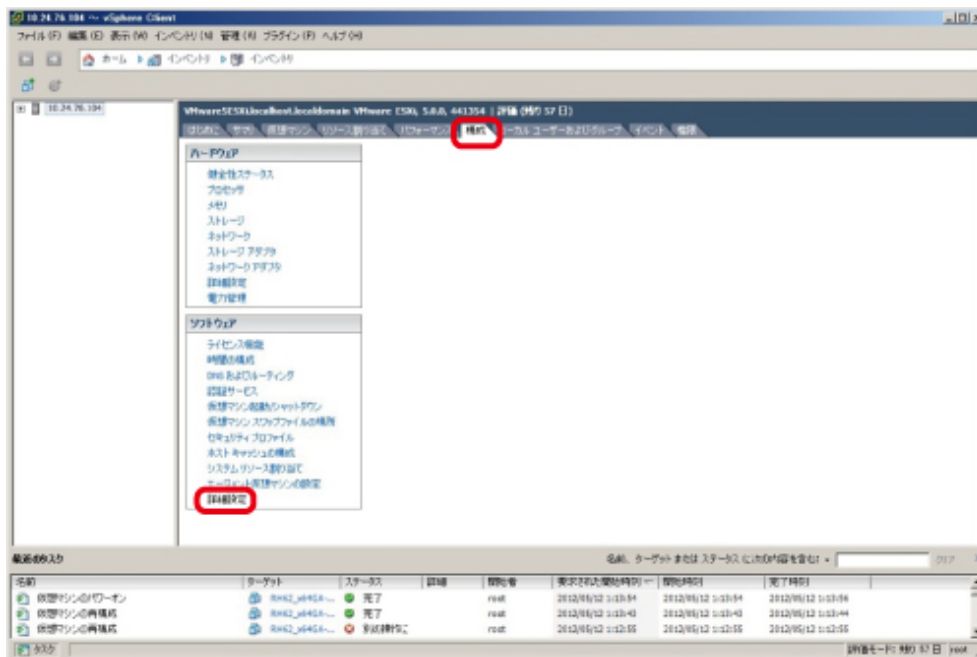
設定にはVMware vSphere Client(以降vClientと表記)を使用します。

管理用サーバ上のvClientを使用するか、お客様でクライアント端末を準備してください。

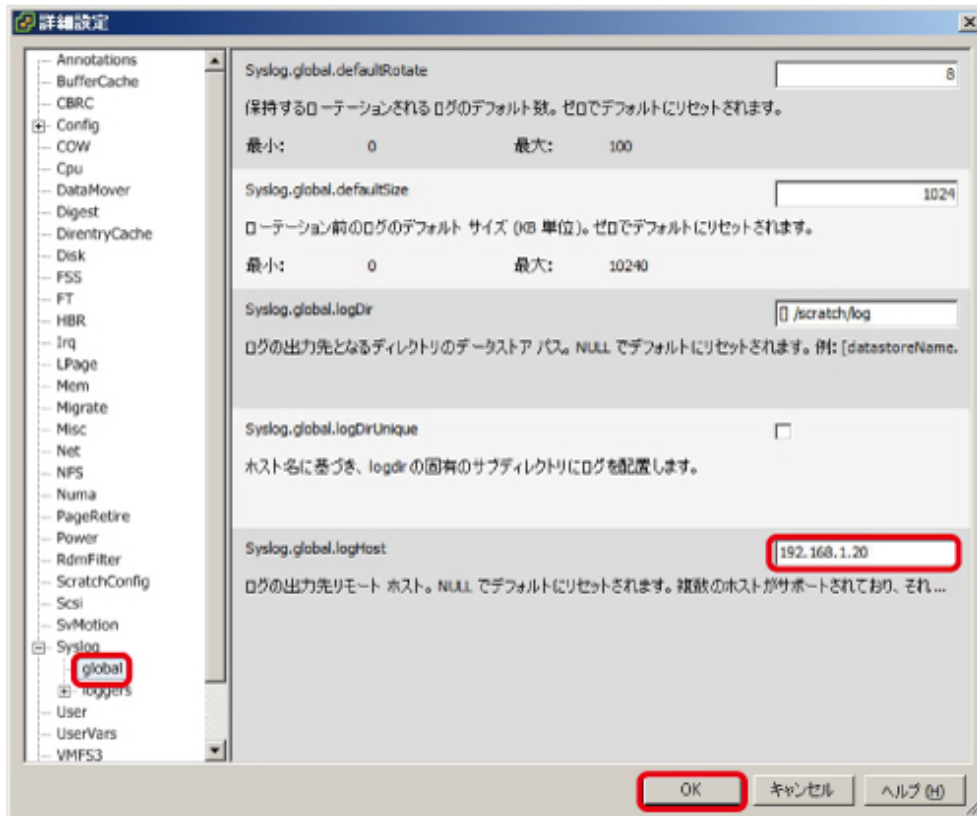
クライアント端末には、vClientのインストールが必要です。インターネット経由でVMware社のサイトよりダウンロードし、インストールしてください。

5.6.6.1 ログ転送の設定

1. vClientを起動します。
2. [構成] タブをクリックし、ソフトウェアの項目の [詳細設定] をクリックします。



3. [syslog] 配下の [global] を選択し、[Syslog.global.logHost] に転送先 (管理用サーバ) のIPアドレスを入力して [OK] ボタンをクリックします。



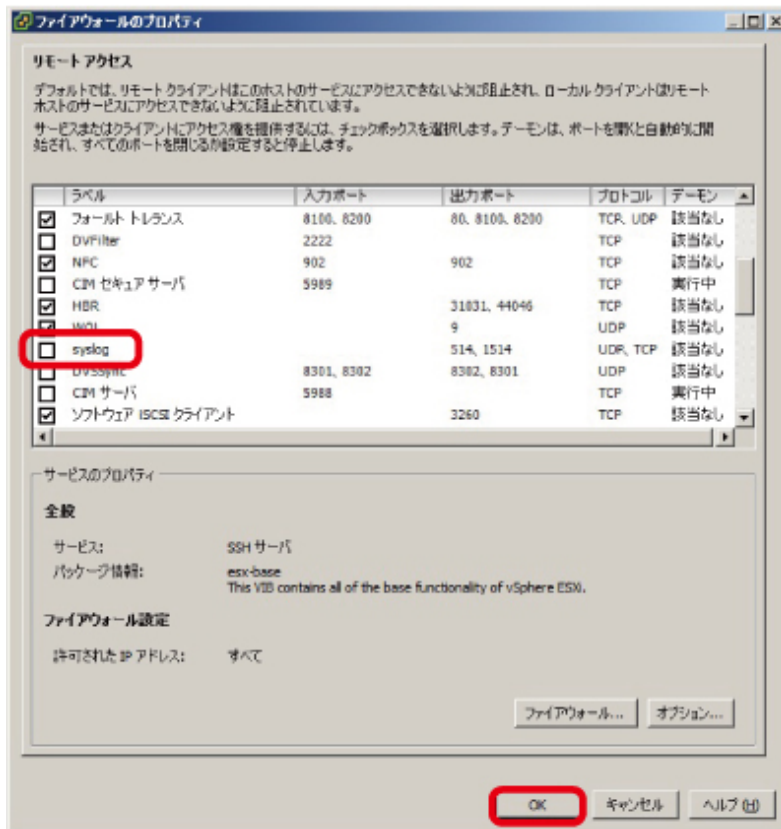
5.6.6.2 ログ転送用のファイアウォール設定

1. vClientを起動します。
2. [構成] タブをクリックし、ソフトウェアの項目の [セキュリティプロファイル] をクリックします。
サービスとファイアウォールの情報が表示されたら、ファイアウォールの [プロパティ] をクリックします。

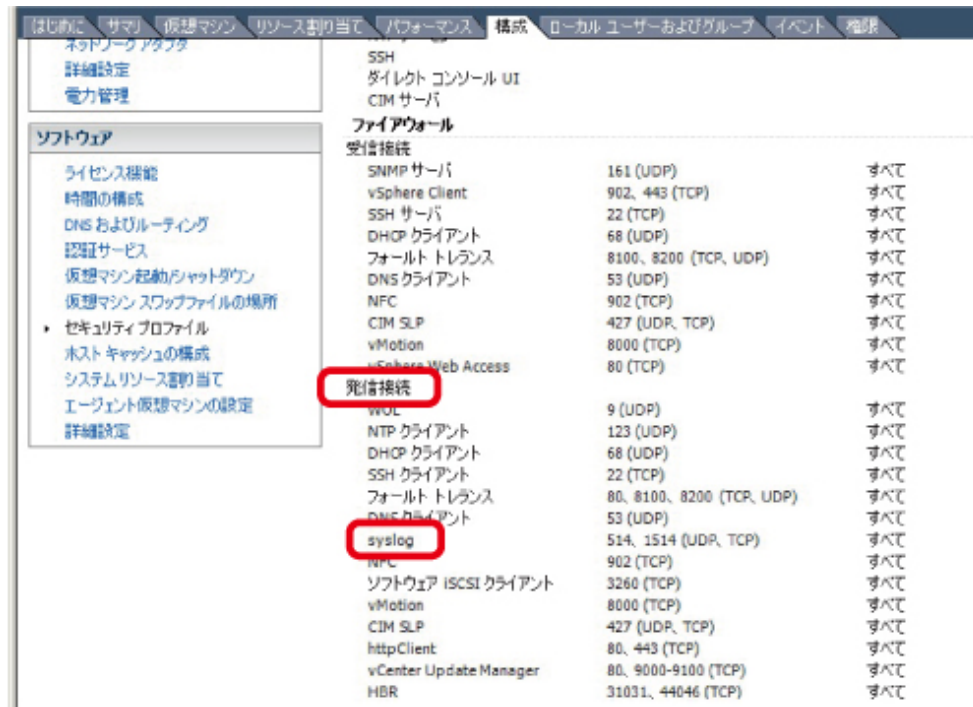


[ファイアウォールのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。

3. [ラベル] で [syslog] チェックボックスをオンにして [OK] ボタンをクリックします。



4. ファイアーウォールの [発信接続] に [syslog] の行が存在することを確認します。



5.6.6.3 ログ受信側の設定

ホストのログを管理用サーバ上で受信するには、以下の2つの方法があります。

- ログ収集機能で転送ログを受信する方法

Syslog Collectorを利用せずに、ログ収集機能で転送ログを受信する方法です。
ログ収集機能では、こちらの方法を推奨します。

- Syslog Collectorを利用する場合

VMware社の仮想化監視ソフトウェア VMware vCenter Server (以降vCenterと表記) のインストーラに含まれるSyslog Collectorを利用する方法です。

5.6.6.4 ログ収集機能で転送ログを受信する方法

ホストのログを管理用サーバで受信するために、Syslog Collectorを使用せずにログ収集機能で転送ログを受信する方法について説明します。



注意

本設定を利用する場合は、Syslog Collectorを停止またはアンインストールした状態で使用してください。

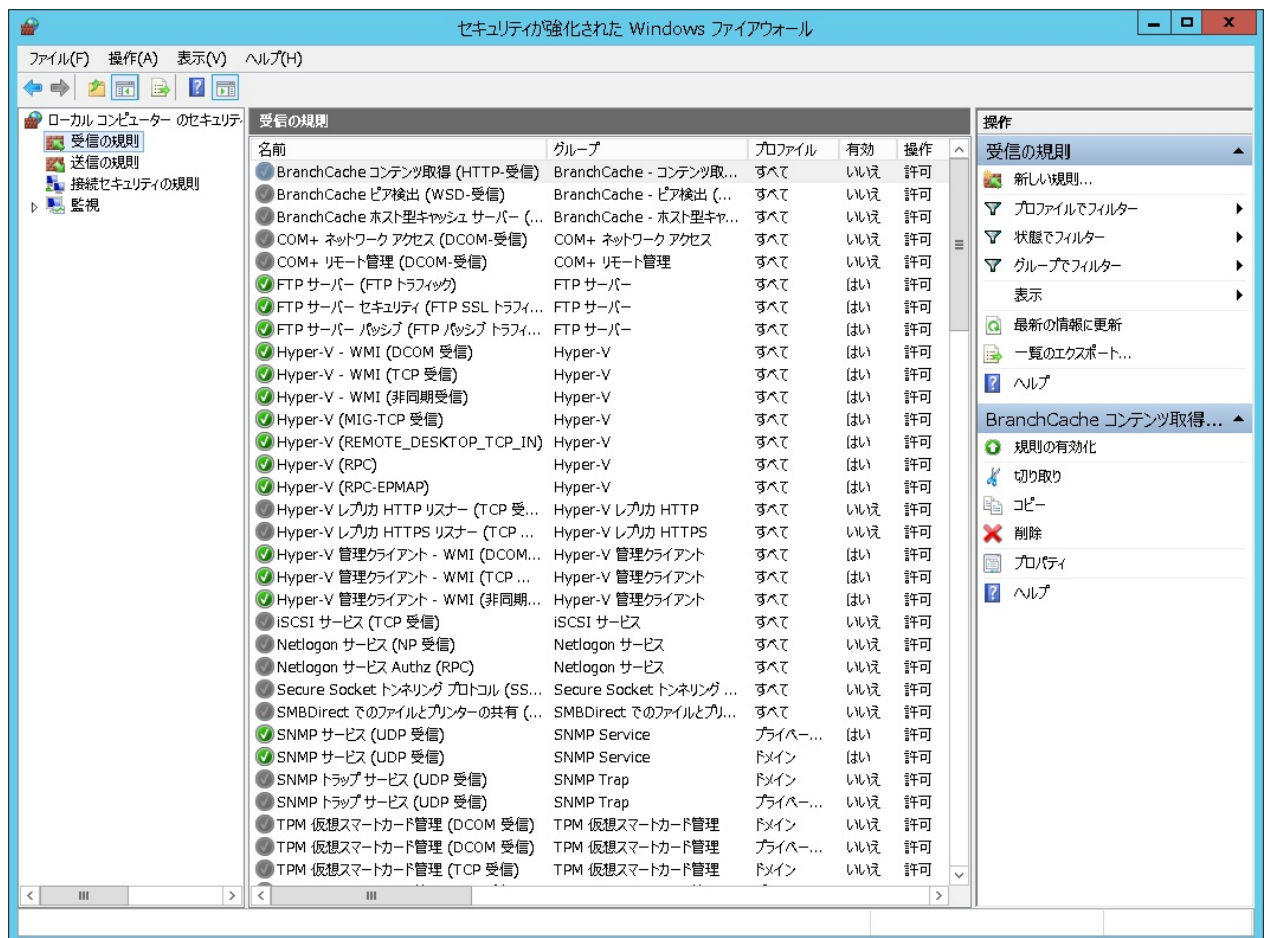
ログ受信側のファイアウォール設定

1. [スタート] - [管理ツール] - [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] の順に選択します。

[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] 画面が表示されます。

2. 左ペインから [受信の規則] をクリックします。

中央ペインに [受信の規則] 一覧が表示されます。



- 右ペインから [新しい規則] をクリックします。
[新規の受信の規則ウィザード] 画面が表示され、[規則の種類] 画面が表示されます。
- [カスタム] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
[プログラム] 画面が表示されます。
- [このプログラムのパス] を選択し、[参照] ボタンをクリックします。
- 「svlccsvfs.exe」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

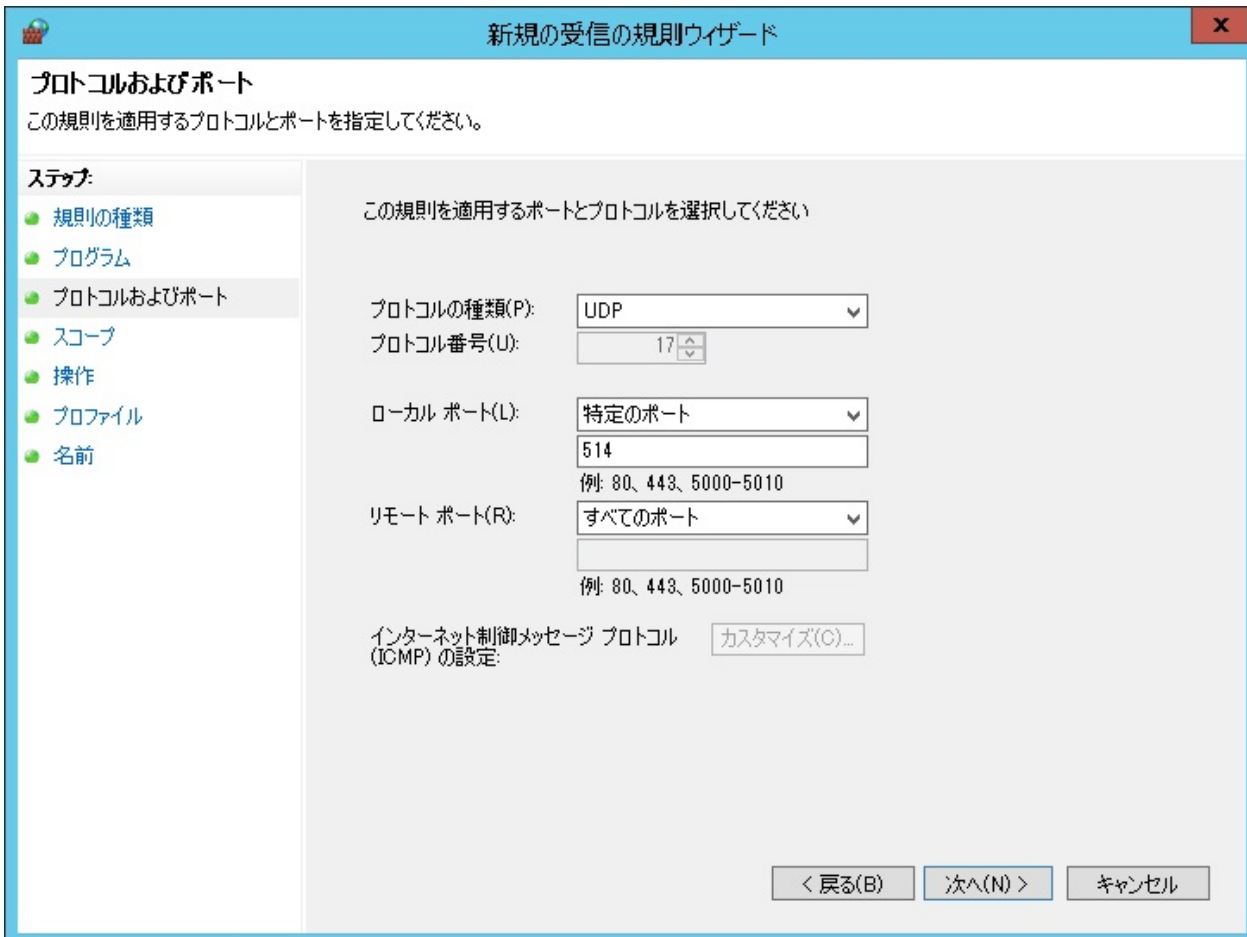
ポイント

「svlccsvfs.exe」はSVlccのインストールパス配下のbin¥にあります。SVlccのインストールパスは [環境変数] の [SVlcc_INSTALLPATH] で確認できます。初期値は以下のとおりです。

C:¥Program Files (x86)¥Fujitsu¥ServerView Suite¥plugins¥SVlcc¥

[プロトコルおよびポート] 画面が表示されます。

- 以下の項目を設定して、[次へ] ボタンをクリックします。



新規の受信の規則ウィザード

プロトコルおよびポート
この規則を適用するプロトコルとポートを指定してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プログラム
- **プロトコルおよびポート**
- スコープ
- 操作
- プロファイル
- 名前

この規則を適用するポートとプロトコルを選択してください

プロトコルの種類(P): UDP

プロトコル番号(U): 17

ローカル ポート(L): 特定のポート
514
例: 80、443、5000-5010

リモート ポート(R): すべてのポート
例: 80、443、5000-5010

インターネット制御メッセージ プロトコル (ICMP) の設定: カスタマイズ(C)...

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

項目	選択または入力する値
プロトコルの種類	UDP
ローカルポート	[特定のポート]を選択し、テキストボックスに「514」(*1)と入力します。
リモートポート	すべてのポート

*1:ポートを変更している場合は、その番号を指定してください。

[スコープ] 画面が表示されます。

8. 以下の項目を設定して、[次へ] ボタンをクリックします。

項目	入力する値
この規則を適用するローカルIPアドレスを選択してください。	任意のIPアドレス
この規則を適用するリモートIPアドレスを選択してください。	任意のIPアドレス

[操作] 画面が表示されます。

9. 「接続を許可する」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

[プロフィール] 画面が表示されます。

10. 「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」のすべてのチェックボックスがオンになっているのを確認して、[次へ] ボタンをクリックします。

[名前] 画面が表示されます。

11. 「名前[N]:」に「LCCSVFS」と入力し、[完了] ボタンをクリックします。

ログ収集機能の設定

1. 以下のファイルをテキストエディタで開き、パス(赤字、初期値は空欄)を空欄にします。

<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%getlog.conf
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc%usr%getlog.conf)

[FILE]
NAME=<初期値空欄>

アップデートインストールの場合はパスが入力されていますので、文字列を削除して空欄にしてください。



ISM V1.4以前からのアップデートインストールを行った場合は、必ず値を空欄にしてください。

2. ログ収集設定ファイル(svlcclogcollector.conf)でポート番号を設定します。

以下のファイルをテキストエディタで開き、ポート番号を「514」に修正します。
ポートを変更している場合は、その番号を指定してください。

<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%svlcclogcollector.conf
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc%usr%svlcclogcollector.conf)

[LOGCOLLECTOR]
PORT=514

3. ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動します。

5.6.6.5 Syslog Collectorを利用する方法

ホストのログを管理用サーバで受信するために、vCenterのインストーラに含まれるSyslog Collectorを利用する方法について説明します。

Syslog Collectorのインストール方法は、VMware vCenter Server5.xとVMware vCenter Server6.xで異なります。

VMware vCenter Server5.xの場合は、「[VMware vCenter Server5.xの場合](#)」に従い、VMware vCenterインストーラからSyslog Collectorをインストールしてください。

VMware vCenter Server6.xの場合は、VMware vCenter Server6.xをインストールし、「[VMware vCenter Server6.xの場合](#)」を行ってください。VMware vCenter Server6.xをインストールすると、Syslog Collectorもインストールされます。Syslog Collectorのみのインストールはできません。インストール手順については、VMware社のサイトを確認ください。

注意

VMware vCenter Server5.xからVMware vCenter Server6.xへアップデートを行う場合は、以下の点に注意してください。

- ESXi5.x環境でログ転送にSyslog Collectorを使用している、かつ、vCenter Serverがインストールされていない場合、Syslog Collectorをアンインストールしてから「[5.6.6.4 ログ収集機能で転送ログを受信する方法](#)」を実施してください。
- VMware vCenter Server5.xからVMware vCenter Server6.xへアップデートを行う場合は、Syslog Collectorをアンインストールしてから「[VMware vCenter Server6.xの場合](#)」を実施してください。
- 必要に応じてアンインストール前に設定内容の確認、または、メモをしてください。

設定ファイル (VMware vCenter Server5.x) :

```
%PROGRAMDATA%\VMware\VMware Syslog Collector\vmconfig-syslog.xml
```

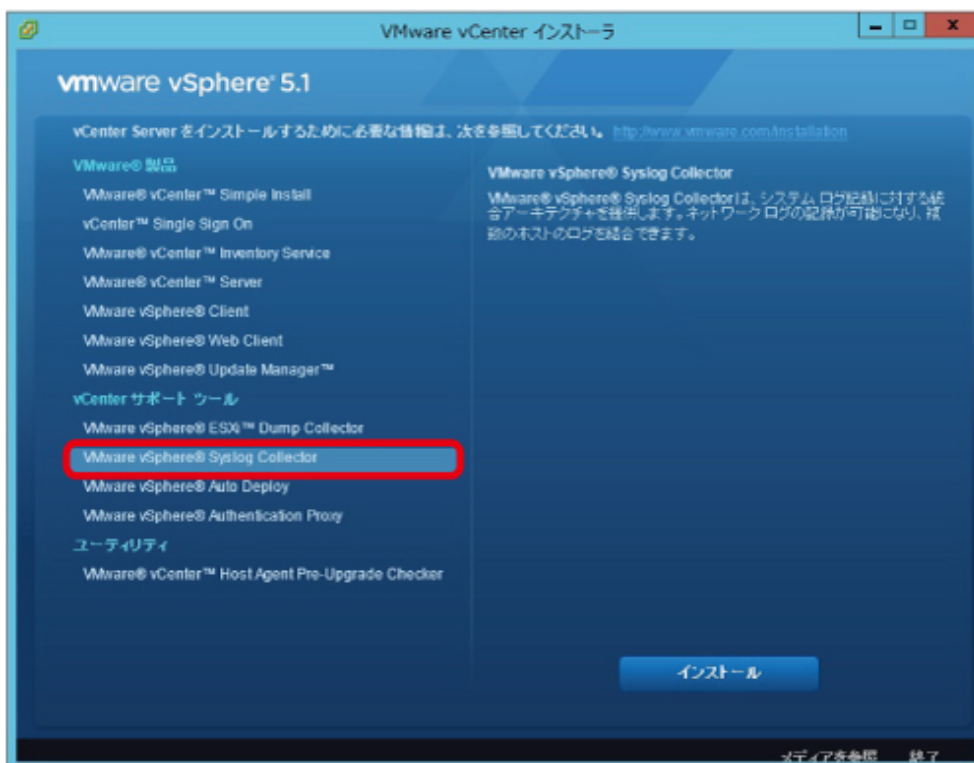
詳細については、以下のURLを参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2021652

- 「[VMware vCenter Server6.xの場合](#)」の手順2の「VMware vCenter Server6.xをインストールします。」を「VMware vCenter Server6.xをアップデートします。」と読み替えてください。

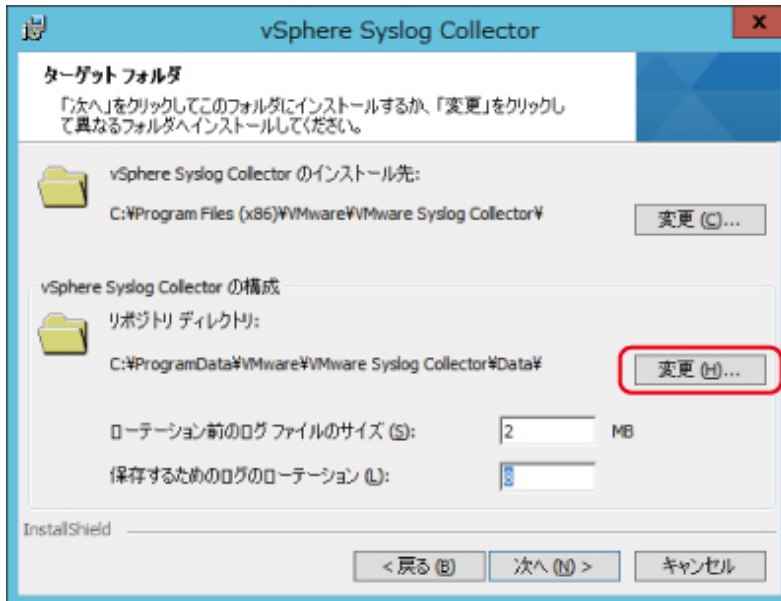
VMware vCenter Server5.x「の場合

- ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を停止します。
- 管理用サーバ上で、vCenterのインストーラを展開し、インストーラを実行します。
- [VMware vCenterインストーラ] 画面で [VMware vSphere® Syslog Collector] を選択します。



4. ターゲットフォルダのSyslog Collectorの構成を編集します。

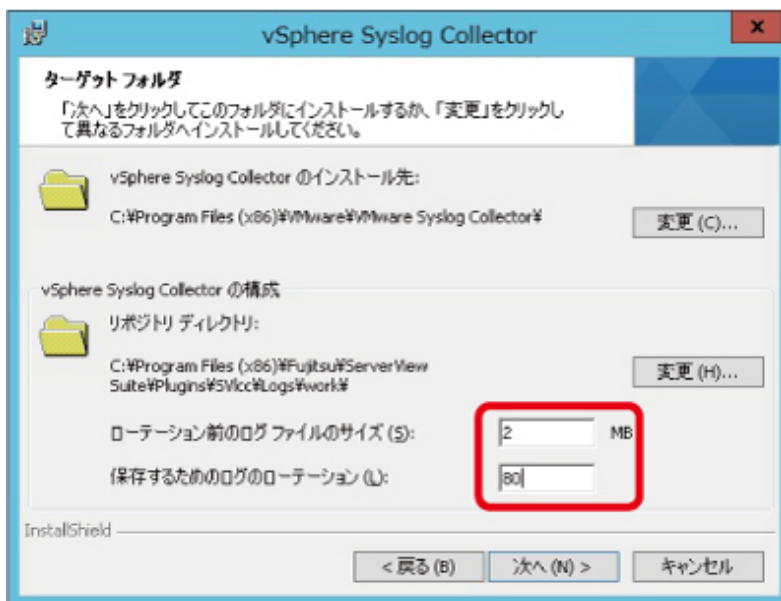
[リポジトリディレクトリ]の内容をメモしておいてください。なお、[リポジトリディレクトリ]は変更できます。変更した場合は、変更した内容をメモしておいてください。



5. ローテーション前のログサイズを以下のように設定し、[次へ] ボタンをクリックします。

[ローテーション前のログファイルのサイズ]:2MB

[保存するためのログのローテーション]:80



6. セットアップタイプで [スタンドアロンインストール] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



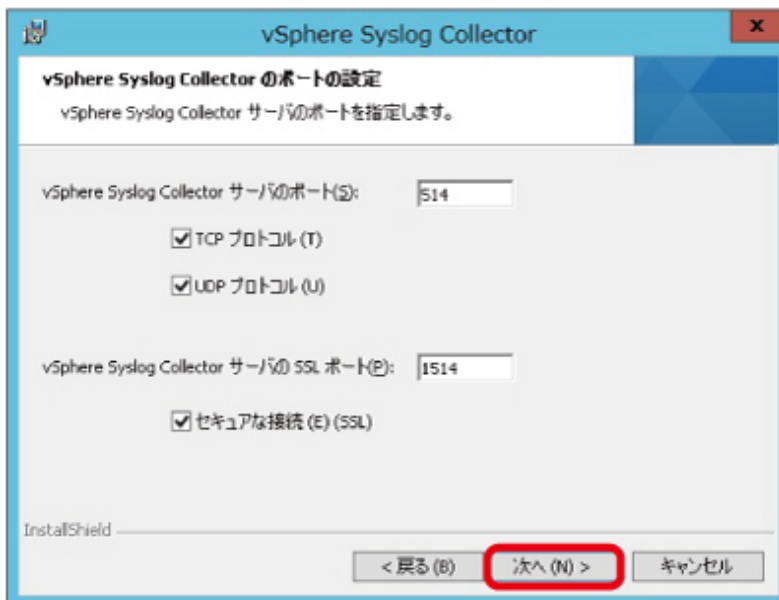
7. 必要であればポートの設定を行い、[次へ] ボタンをクリックします。

なお、ここでポートの設定値を変更した場合は、ファイアウォールの設定も必要になります。
ファイアウォールの設定手順については、VMware社のWebページを確認してください。

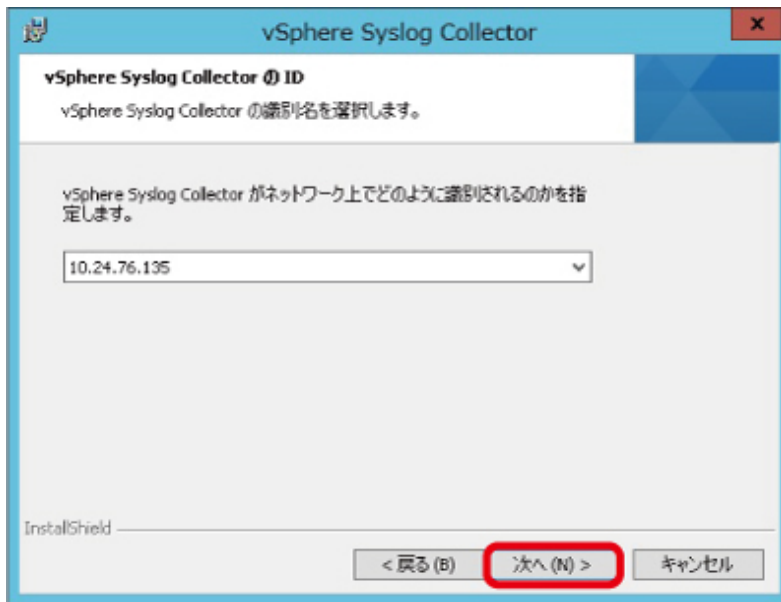


注意

他のプログラムが使用していないポート番号を指定してください。



8. vSphere Syslog CollectorのIDは、ISMが動作しているOSのIPアドレスを設定し、[次へ] ボタンをクリックします。



9. [インストール] をクリックします。

インストールが実行されます。

Syslog Collectorの詳細については、VMware社が公開しているvCenterのインストールガイドを参照してください。

10. Syslog Collectorのログ転送先をログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) に登録します。

以下のファイルをテキストエディタで開きます。

<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%getlog.conf
(デフォルト : C:%Program Files (x86)%Fujitsu%ServerView Suite%plugins%SVlcc%usr%getlog.conf)

[FILE]
NAME=<リポジトリディレクトリのパス>

「NAME=」に続いて、手順4でメモしておいたパスを入力します。

例 :

[FILE]
NAME= C:%Program Files (x86)%Fujitsu%ServerView Suite%plugins%SVlcc%Logs%work%

11. ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を開始します。

VMware vCenter Server6.xの場合

1. ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を停止します。

2. VMware vCenter Server6.xをインストールします。

インストール手順については、VMware社のサイトを確認してください。

3. [サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector] サービス(*)を停止します。

*: VMware vCenter Serverの版数により、[VMware Syslog コレクター] など、サービスの名前表記が異なる場合があります。

4. 以下のファイルで、Syslog Collectorの設定の確認または修正を行います。

%PROGRAMDATA%\VMware%vCenterServer%cfg%vmsyslogcollector%config.xml

以下の項目は、確認または修正する項目です。

ログのローテーションは修正必須項目です。それ以外の修正は必要に応じて行ってください。

項目	意味
<rotate>8</rotate> (*1)	保存するためのログのローテーション
<defaultDataPath>xxxxx</defaultDataPath>	リポジトリディレクトリ(ログ保存先のパス)
<serviceAddress>x.x.x.x</serviceAddress>	vSphere Syslog Collectorの識別名 (IPアドレス)
<port>514</port> (*2)	ポート
<maxSize>2</maxSize> (*3)	ローテーション前のログファイルのサイズ

*1: 修正必須項目です。保存するためのログのローテーションを「8」から「80」へ変更します。

*2: ポートの設定値を変更した場合は、ファイアウォール設定も必要になります。ファイアウォールの設定手順については、VMware社のWebページを確認してください。

*3: <maxSize>x</maxSize>は「2」に設定されていることを確認してください。「2」が設定されていない場合は、「2」に設定してください。

ポイント

修正の詳細については、以下のURLを参照してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2021652

5. Syslog Collectorのログ転送先をログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) に登録します。

以下のファイルをテキストエディタで開きます。

<ServerView LogCollect and Checker インストールフォルダー>%usr%getlog.conf
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\usr\getlog.conf)

[FILE]
NAME=<リポジトリディレクトリのパス>

「NAME=」に続いて、手順4で確認または修正したリポジトリディレクトリのパスを入力します。

例 :

[FILE]
NAME= C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\Logs\work\

6. [サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector] サービス(*)を開始します。

*: VMware vCenter Serverの版数により、[VMware Syslog コレクター] など、サービスの名前表記が異なる場合があります。

7. ログ収集機能 (ServerView LogCollect and Checkerサービス) を開始します。

5.6.7 ログ転送の設定 (Windows OSの場合)

管理サーバおよび監視対象サーバ上のOSがWindowsの場合、以下のとおり設定します。

注意

監視対象OS上の異常監視をしない場合には、本設定は不要です。

5.6.7.1 ログ受信側の設定 (インストール後1回のみ行う設定)

ホスト上のイベントログを、ISMが動作しているOSへ転送するための設定を行います。

本設定は、SVlccをインストール後1回のみ行ってください。

1. WinRMを設定します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
winrm quickconfig
```

以下のメッセージが表示された場合は、WinRMは、設定済みです。手順2に進みます。

WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
このコンピューター上でのリモート管理には、WinRM が既に設定されています。

以下のメッセージが表示された場合は、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。
WinRMは、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように設定されていません。
次の変更を行う必要があります：
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう
LocalAccountTokenFilterPolicyを構成してください。
変更しますか [y/n]? y

以下のメッセージが表示されます。

WinRMはリモート管理用に更新されました。

ローカルユーザーにリモートで管理権限を付与するよう
LocalAccountTokenFilterPolicyを構成しました。

2. サービスのスタートアップモードを変更します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
wecutil qc
```

3. 以下のメッセージが表示されるので、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

サービスのスタートアップモードは Delay-Start に変更されます。続行しますか (Y- はい、または N- いいえ)?

以下のメッセージが表示されます。

Windowsイベントコレクターサービスの構成は成功しました。

5.6.7.2 ログ受信側の設定(監視対象サーバを追加するたびに行う設定)

ホスト上のイベントログを、ISMが動作しているOSへ転送するための設定を行います。

本設定は、監視対象サーバを追加するたびに行ってください。なお、設定には以下の情報が必要です。

- ・ 監視対象サーバのIPアドレス(本手順では「1.2.3.4」として説明します。)
- ・ 監視対象サーバのコンピュータ名(本手順では「MY-PC1」として説明します。)
- ・ 監視対象サーバのログインID(本手順では「Administrator」として説明します。)
- ・ 監視対象サーバのパスワード(本手順では「Password1」として説明します。)

1. リモートイベント監視用のサブスクリプションを作成します。

以下のフォルダーにサブスクリプション作成用の設定ファイル(サンプル)をコピーしたあと、ファイル名を変更(X.X.X.XをIPアドレスに変更)してください。

変更前(サンプルの格納先とサンプルの設定ファイル)

```
<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>\%usr%\Event-X.X.X.X.xml
```

変更後(コピー先と変更後のファイル)

```
<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>\%usr%\event\Event-1.2.3.4.xml
```

2. サブスクリプション作成用の設定ファイルを修正します。

手順1でコピー、リネームしたEvent-1.2.3.4.xmlをテキストエディタで開き、3行目と32行目を以下のように修正します。

- ー 3行目

変更前:<SubscriptionId>Event-**X.X.X.X**</SubscriptionId>

変更後:<SubscriptionId>Event-1.2.3.4</SubscriptionId>

- ー 32行目

変更前:<Address>**X.X.X.X**</Address>

変更後:<Address>1.2.3.4</Address>

ポイント

Event-1.2.3.4の設定は、以降の手順で使用するため必要に応じてメモしてください。

3. Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
wecutil cs "<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%event\Event-1.2.3.4.xml" /cun:<監視対象サーバのコンピューター名>%<監視対象サーバのログインID> /cup:<監視対象サーバのパスワード>
```

例:

```
wecutil cs "C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\Plugins\SVIcc%usr%event\Event-1.2.3.4.xml" /cun:MY-PC1\Administrator /cup:Password1
```

4. 監視対象サーバをTrustedHostsに登録します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
winrm get winrm/config/client
```

5. 表示された結果のTrustedHostsの設定を控えます。

以下は、IPアドレス「1.1.1.1」と「2.2.2.2」が登録されている場合の例です。

```
Client
  NetworkDelays = 5000
  URLPrefix = wsman
  AllowUnencrypted = false
  Auth
    Basic = true
    Digest = true
    Kerberos = true
    Negotiate = true
    Certificate = true
    CredSSP = false
  DefaultPorts
    HTTP = 5985
    HTTPS = 5986
  TrustedHosts = 1.1.1.1,2.2.2.2
```

6. Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

以下は、現在の設定にIPアドレス「1.2.3.4」を追加する場合の例です。カンマ区切りで今回追加するIPアドレスを含めて設定します。設定値は手順2でメモしたAddressになります。

```
winrm set winrm/config/client @{TrustedHosts="1.1.1.1,2.2.2.2,1.2.3.4"}
```

7. Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

設定値は手順2でメモしたSubscriptionIdになります。

```
wecutil rs Event-1.2.3.4
```

上記設定を監視対象サーバの台数分、行ってください。

5.6.7.3 監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)

監視対象サーバにリモートデスクトップで接続し、以下の設定を行います。

1. Event Log ReadersグループにAdministratorを追加します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
net localgroup "Event Log Readers" Administrator /add
```

追加されると、以下のメッセージが表示されます。

```
コマンドは正常に終了しました
```

ポイント

すでに設定済みの場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。

```
システム エラー 1378 が発生しました。  
指定されたアカウント名は既にグループのメンバーです。
```

2. WinRMを設定します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
winrm quickconfig
```

以下のメッセージが表示された場合は、WinRMは、設定済みです。手順3に進みます。

出力されるメッセージは、OSにより異なります。

- ー Windows Server 2012の場合

```
WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。  
このコンピューター上でのリモート管理には、WinRM が既に設定されています。
```

以下のメッセージが表示された場合は、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

```
WinRMサービスは、既にこのコンピューターで実行されています。  
WinRMは、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように設定されていません。  
次の変更を行う必要があります:  
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう  
LocalAccountTokenFilterPolicyを構成してください。  
変更しますか [y/n]? y
```

以下のメッセージが表示されます。

```
WinRMはリモート管理用に更新されました。  
ローカルユーザーにリモートで管理権限を付与するよう  
LocalAccountTokenFilterPolicyを構成しました。
```

- ー Windows Server 2008 R2の場合

```
WinRM は既にこのコンピューター上で要求を受信するように設定されています。  
WinRM には既にこのコンピューター上でのリモート管理が設定されています。
```

以下のメッセージが表示された場合は、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

```
WinRM は既にこのコンピューター上で要求を受信するように設定されています。  
WinRM は、管理用にこのコンピューターへのリモート アクセスを許可するように  
設定されていません。
```

次の変更を行う必要があります：

このコンピューター上のあらゆる IP への WS-Man 要求を受け付けるため、
HTTP://* 上に WinRM リスナーを作成します。
WinRM ファイアウォールの例外を有効にします。
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう
LocalAccountTokenFilterPolicy を構成してください。

変更しますか [y/n]？

以下のメッセージが表示されれば、WinRMの設定は完了です。

WinRM はリモート管理用に更新されました。

このコンピューター上のあらゆる IP への WS-Man 要求を受け付けるため、
HTTP://* 上に WinRM リスナーを作成しました。
WinRM ファイアウォールの例外を有効にしました。
ローカル ユーザーにリモートで管理権限を付与するよう
LocalAccountTokenFilterPolicy を構成しました。

3. サービスのスタートアップモードを変更します。

Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

```
wecutil qc
```

4. 以下のメッセージが表示されるので、「y」を入力後、[Enter]キーを押します。

サービスのスタートアップモードは Delay-Start に変更されます。続行しますか（ Y- はい、または N- いいえ）？

以下のメッセージが表示されます。

Windowsイベントコレクターサービスの構成は成功しました。

5. ログ転送用のファイアウォールを設定します。

監視対象の各サーバで、Windowsファイアウォールを有効にして運用する場合は、ログ転送のために以下のポートを開放します。

ネットワークトラフィックの名前	サーバポート
リモートイベントのログ管理(RPC)	TCPの動的ポート、EventLog (Windows イベントログサービス)
リモートイベントのログ管理(RPC-EPMAP)	RPCのエンドポイントマッパー

- 監視対象の各サーバで [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [Windows ファイアウォール] を選択して表示される画面で、左側の [詳細設定] をクリックします。
- [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] 画面左側の [受信の規則] をクリックします。
- 受信の規則が表示されたら、[リモートイベントのログ管理(RPC)] を選択し、右クリックして表示されるメニューで [規則の有効化] をクリックします。
- [リモートイベントのログ管理(RPC-EPMAP)] を選択し、右クリックして表示されるメニューで [規則の有効化] をクリックします。

設定が完了すると、[リモートイベントのログ管理(RPC)]、[リモートイベントのログ管理(RPC-EPMAP)] の左端のチェックボックスがオンになり、緑色で表示されます。

5.6.7.4 ログ受信側でのログ転送確認

上記の監視対象サーバ側の設定完了後に、ログ受信側にてログ転送確認を行います。

1. ログ受信側でAdministrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。

指定する値は、「[5.6.7.2 ログ受信側の設定 \(監視対象サーバを追加するたびに行う設定\)](#)」の手順2でメモしたSubscriptionIdになります。

```
wecutil gr Event-1.2.3.4
```

以下のような結果が表示されます。

2箇所の「RunTimeStatus」が、「Active」になっていて、「LastError」が「0」ならば、設定は完了です。

```
Subscription: Event-1.2.3.4
  RunTimeStatus: Active
  LastError: 0
  EventSources:
    1.2.3.4
      RunTimeStatus: Active
      LastError: 0
```

上記のような結果が得られなかった場合、次の設定を見直してください。

- [5.6.7.1 ログ受信側の設定 \(インストール後1回のみ行う設定\)](#)
- [5.6.7.2 ログ受信側の設定 \(監視対象サーバを追加するたびに行う設定\)](#)
- 「[5.6.7.3 監視対象サーバ側で行う設定 \(ログ転送の設定\)](#)」の手順1～4

以下の設定を監視対象サーバごとに実施します。

- [5.6.7.2 ログ受信側の設定 \(監視対象サーバを追加するたびに行う設定\)](#)
- [5.6.7.3 監視対象サーバ側で行う設定 \(ログ転送の設定\)](#)
- [5.6.7.4 ログ受信側でのログ転送確認](#)

2. すべての監視対象サーバのログ転送確認が終了したら、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動します。

5.6.8 ログ転送の設定 (ホストOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合)

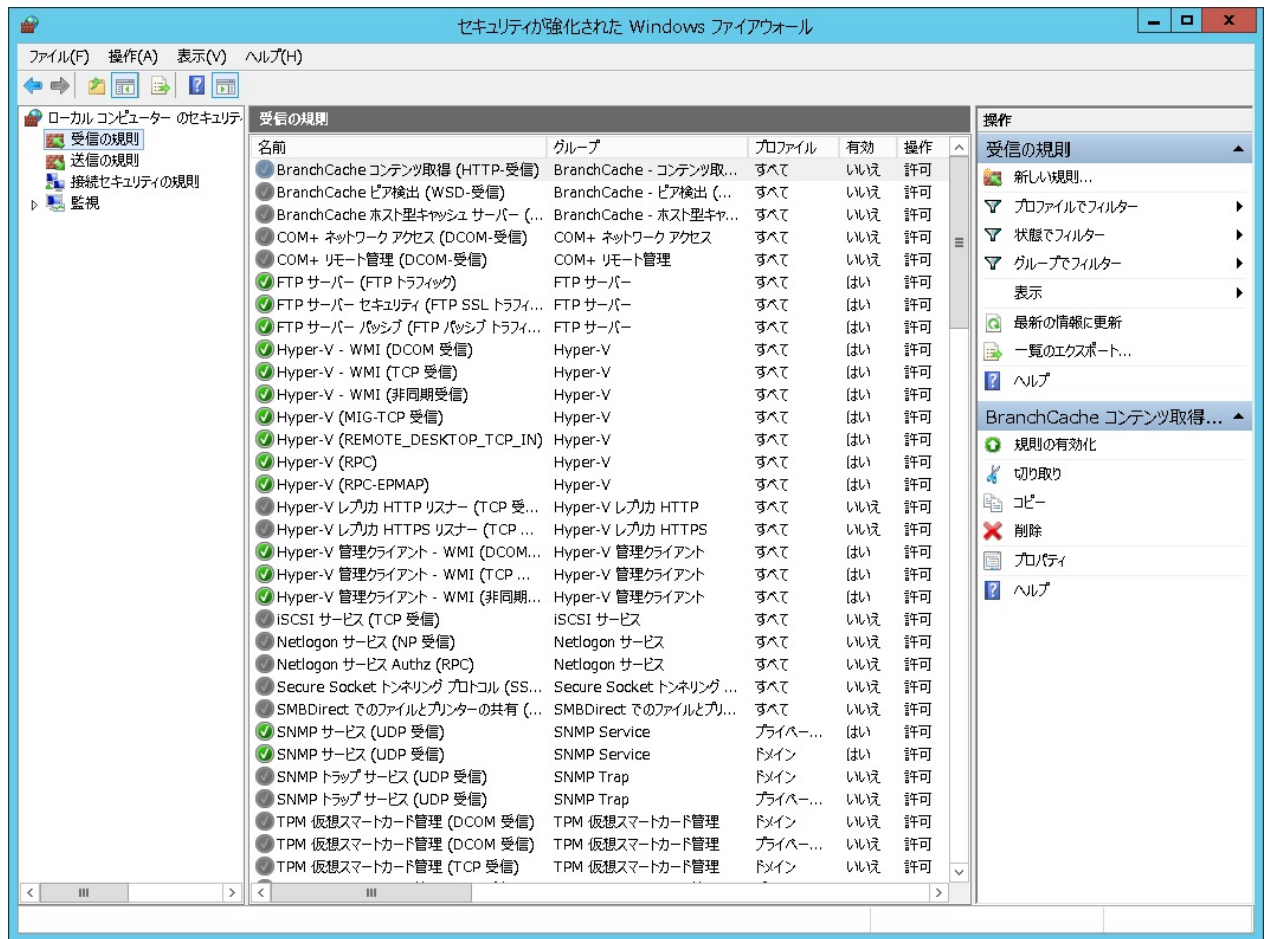
ホストOSがRed Hat Enterprise Linuxの場合の設定内容を説明します。

5.6.8.1 ログ受信側の設定

1. [スタート] - [管理ツール] - [セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] の順に選択します。

[セキュリティが強化されたWindowsファイアウォール] 画面が表示されます。

- 左ペインから[受信の規則]をクリックします。
中央ペインに[受信の規則] 一覧が表示されます。



- 右ペインから[新しい規則]をクリックします。
[新規の受信の規則ウィザード] 画面が表示され、[規則の種類] 画面が表示されます。
- [カスタム] を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
[プログラム] 画面が表示されます。
- [このプログラムのパス] を選択し、[参照] ボタンをクリックします。
- 「svlccsvfs.exe」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

ポイント

「svlccsvfs.exe」はSVlccのインストールパス配下のbin¥にあります。SVlccのインストールパスは [環境変数] の [SVlcc_INSTALLPATH] で確認できます。初期値は以下のとおりです。

```
C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc¥
```

[プロトコルおよびポート] 画面が表示されます。

7. 以下の項目を設定して、[次へ] ボタンをクリックします。

項目	選択または入力する値
プロトコルの種類	UDP
ローカルポート	[特定のポート]を選択し、テキストボックスに「25596」(*1)と入力します。
リモートポート	すべてのポート

*1: VMware ESXiのログをログ収集機能でログ転送を行っている場合は、ポートを「UDP:514」に設定してください。ポートを変更している場合は、その番号を指定してください。

[スコープ] 画面が表示されます。

8. 以下の項目を設定して、[次へ] ボタンをクリックします。

項目	入力する値
この規則を適用するローカルIPアドレスを選択してください。	任意のIPアドレス
この規則を適用するリモートIPアドレスを選択してください。	任意のIPアドレス

[操作] 画面が表示されます。

9. 「接続を許可する」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

[プロファイル] 画面が表示されます。

10. 「ドメイン」、「プライベート」、「パブリック」のすべてのチェックボックスがオンになっているのを確認して、[次へ] ボタンをクリックします。

[名前] 画面が表示されます。

11. 「名前[N]:」に「LCCSVFS」と入力し、[完了] ボタンをクリックします。

5.6.8.2 監視対象サーバ側で行う設定(ログ転送の設定)

1. SSHなどで、監視対象サーバへ管理者ユーザ(root)でログインします。
2. viコマンドなどで、/etc/rsyslog.confファイルを開いて、ログ転送先のIPアドレスと転送先ポートを設定します。
以下の1行を最終行に追加します。

```
*. info:mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none @x.x.x:yyy
```

例:「管理サーバのIPアドレス:192.2.113.4」、「システムログの転送先ポート:UDP:25596ポート」の場合

```
*. info:mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none @192.2.113.4:25596
```

例:「管理サーバのIPアドレス:192.2.113.4」、「システムログの転送先ポート:UDP:514ポート」の場合

```
*. info:mail.none;news.none;authpriv.none;cron.none @192.2.113.4:514
```

3. 以下のコマンドを実行して、rsyslogデーモンを再起動します。

```
/sbin/service rsyslog restart
```

4. 監視対象サーバからログアウトします。

5.6.8.3 管理サーバがログを受信するポートの変更方法

本設定は、ログの転送先のポートを変更する場合に必要です。

ポイント

ログ収集機能のログ転送ではデフォルトで25596のポートを使用しています。

1. ログ収集設定ファイル(svlcclogcollector.conf)でポート番号を設定します。

以下のファイルをテキストエディタで開き、ポート番号(下記赤字)を修正します。設定できる値の範囲は、0～65535のうち未使用のポート番号です。

<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%usr%svlcclogcollector.conf
(デフォルト : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc%usr%svlcclogcollector.conf)

```
[LOGCOLLECTOR]  
PORT=25596
```

注意

- 他のプログラムが使用していないポート番号を指定してください。
- 監視対象のホストOS にESXiとRed Hat Enterprise Linux の両方がある場合は、ポート番号は514にしてください。

2. ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動します。

5.6.9 異常通報の設定

異常通報先の設定手順を説明します。

SVOMのイベントマネージャーの [アラーム設定] 画面で、通報先とアクション(Trap、Mailなど)を設定することで、ログ収集機能が検出した異常を通知できます。

ここでは、ServerView Event ManagerのTrapとMail通知の設定を説明します。設定内容について詳しくは、ServerView Event Managerのマニュアルを参照してください。

SVOMの設定

1. 管理用サーバでSVOMを起動し、メニューから [イベント管理] - [アラーム設定] を選択します。
2. ServerView Event Manager マニュアルの「アラーム設定」に従って、アラームルールを作成します。
3. [サーバーの割り当て] には、ISMがインストールされている管理サーバを設定します。
4. [アラームの割り当て] では、以下のルールを選択します。
 - Driver Monitoring error event
 - Driver Monitoring information event
 - Driver Monitoring warning event
5. [アクションの割り当て] の [追加] ボタンをクリックし、メールとアラーム転送 (Trap) をそれぞれ作成します。



ポイント

.....
Trapを設定する場合、[アラーム転送設定] タブの [転送モード] で [パススルー] と [透過] のチェックボックスをオンにします。
.....

6. 必要に応じて [フィルタルール/共通の設定] を設定します。
7. [アラームルール] 画面で、作成したアラームルールの [有効] チェックボックスがオンになっていることと、その設定内容を確認します。

SNMPサービスの設定

ログ収集機能を使用するためには、SNMPサービスの設定が必要です。

管理用サーバと通報先サーバのトラップの設定を行います。

SNMPサービスのインストールについては、SVOMのインストールガイドを参照してください。

1. OSの管理ツールの [サービス] から [SNMP Service] を右クリックして表示されるメニューで [プロパティ] をクリックします。
[プロパティ] 画面が表示されます。

2. [トラップ] タブをクリックし、[コミュニティ名] に管理用サーバと通報先のサーバがトラップ受信可能な名称を設定し、[トラップ送信先] に管理用サーバのIPアドレスと送信先サーバのIPアドレスを追加します。



3. [セキュリティ] タブをクリックし、手順2で設定したコミュニティ名を設定し、管理用サーバと送信先サーバのSNMPパケットを受け付けるように、送信先のIPアドレスを追加します。
4. [適用] ボタンをクリックします。

5.6.10 FTPサーバ情報の登録

監視対象が以下の場合に、FTPサーバの設定が必要です。

- ETERNUS DXシリーズ
- FCスイッチブレード
- PRIMERGY RX/CXシリーズ／サーバブレード／PRIMEQUEST上のWindows OS

FTPサーバは、ISMがインストールされているOS上に設定します。

また、収集対象機器がFTPサーバとは異なるネットワークに存在する場合、ルータを設定するなど各ネットワークで通信可能な状態にしてください。

「[3.1.7 FTPサーバの設定 \(OS\)](#)」を参照し、FTPサーバをインストールしたあと、FTPサーバ情報をログ収集機能に登録します。

- FTPサーバのIPアドレス (*1)
- FTPサーバへのログインID (*2)
- FTPサーバへのログインパスワード (*3)

*1: IPv4のみサポート。

*2: 「[FTPサーバのインストール](#)」の手順20で、アクセスを許可した管理者権限のあるユーザー名を指定。

*3: 設定した情報は暗号化して保存。

FTPサーバ情報の登録には、コマンドラインツール「setftpinfo」を使用します。

setftpinfoの仕様は次のとおりです。

入力形式

```
# <環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%bin%setftpinfo <オプション>
```

オプション

- i: 対話形式で、FTPサーバのIPアドレス、ログインID、パスワードを暗号化し、ファイルへ出力する。
- c: 設定した情報が正しいか確認する。

終了ステータス

- 0: 正常終了
- 1: 異常終了



ポイント

- ・ コマンドの実行には、WindowsのAdministrator権限が必要です。Administrator権限以外で実行すると、終了ステータスが不定になります。
- ・ ツールの実行後、ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動すると情報が登録されます。登録後にFTPサーバのIPアドレス、ID、パスワードを変更した場合、登録し直す必要があります。

使用例

1. FTPサーバのIPアドレスとログイン情報を設定します。

```
# <環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%bin%setftpinfo -i
Input FTP IPv4 address: 192.168.1.2
Input Login ID: Administrator
Input Login PASSWORD: *****
```

情報を暗号化したファイルが、<環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%local%ftpinfoファイルに出力されます。

2. 設定した情報が正しいかチェックします。

```
# <環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%bin%setftpinfo -c
```

次のどちらかのメッセージが表示されます。

- ー 設定した情報が正しい場合
Successful execution of the command.
- ー 設定した情報が正しくない場合
Failed to execute the command.

設定した情報が正しくない場合、FTPサーバの設定や、手順1で設定した内容を確認し、設定し直します。

3. ログ収集機能を再起動します。

OSの管理ツールの[サービス]から[ServerView LogCollect and Checker]を選択し、再起動します。

手順1で出力されたファイルを使用して、ログ収集機能にFTPサーバ情報が登録されます。

5.6.11 Administratorユーザー情報の登録

監視対象サーバがWindows OSの場合、監視対象サーバにリモートアクセスするためにAdministratorユーザー情報の登録が必要です。

Administratorユーザー情報の登録には、コマンドラインツール「setusrinfo」を使用します。

setusrinfoの仕様は次のとおりです。

入力形式

```
# <環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%bin%setusrinfo <オプション>
```

オプション

- i: 対話形式で、AdministratorユーザーのログインID、パスワードを暗号化し、ファイルへ出力する。
- c: 設定した情報が正しいか確認する。

終了ステータス

- 0: 正常終了
- 1: 異常終了

ポイント

- コマンドの実行には、WindowsのAdministrator権限が必要です。Administrator権限以外で実行すると、終了ステータスが不定になります。
- ツールの実行後、ログ収集機能(ServerView LogCollect and Checkerサービス)を再起動すると情報が登録されます。登録後にAdministratorユーザーのログインID、パスワードを変更した場合、登録し直す必要があります。

使用例

- Administratorユーザーのログイン情報を設定します。

```
# <環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%bin%setusrinfo -i
Input Login ID: Administrator
Input Login PASSWORD: *****
```

- 設定した情報が正しいかチェックします。

```
# <環境変数「SVlcc_INSTALLPATH」>%bin%setusrinfo -c
```

メッセージが表示されます。表示されたメッセージに応じて対処してください。

表示されるメッセージ	対処
Successful execution of the command.	情報は正しく設定されています。対処は不要です。
Wrong Username or Password. Please enter the correct Administrator username and Password.	入力したユーザーID、パスワードに間違いがあります。正しい情報を入力し直してください。
The account you entered is not the Administrator user. Please enter the Administrator username and Password.	入力された情報のユーザーがAdministratorユーザーではありません。Administratorユーザーの情報を入力してください。

- ログ収集機能を再起動します。

OSの管理ツールの[サービス]から[ServerView LogCollect and Checker]を選択し、再起動します。

5.6.12 通知メッセージ

通知メッセージは、以下の形式で通報されます。

- メール

```
Driver Monitoring <エラーレベル>event at server <機器名>: (PID=0) <エラーレベル> <イベントID> <故障箇所> <
通報メッセージ> time_of_occurrence=<異常が発生した時刻> hostname=<コンピュータ名/ホスト名>
```

- Trap

```
SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.1 = STRING: <機器名>
SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.2 = INTEGER: <異常が発生した時刻(UTC)>
```

SNMPv2-SMI::enterprises.231.2.10.2.2.10.20.1.5 = STRING: (PID=0) <エラーレベル> <イベントID>
<故障箇所> <通報メッセージ> time_of_occurrence=<異常が発生した時刻> hostname=<コンピュータ名/ホスト名>

表5.1 通知メッセージ(Trap)項目説明

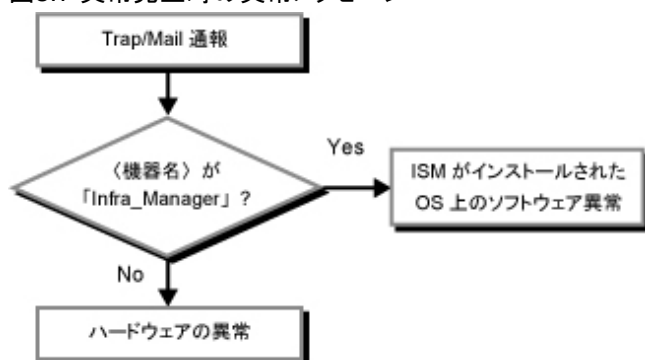
項目	説明
機器名	異常が発生した機器名。 Infra_Managerの場合は管理仮想マシンで発生した異常を示す。
エラーレベル	システムに対する影響度。
イベントID	異常の採番番号。
故障箇所	故障している箇所。
通報メッセージ	ログ収集が検知して出力する通知メッセージ。
time_of_occurrence	異常が発生した時刻。(*1)
hostname	コンピュータ名/ホスト名。

*1: イベントログまたはESXiのログから先頭の日付・時刻だけ抜き出したもの。ダウンロードしてきたPRIMERGY BXシリーズのサーバブレード、PRIMERGY RXシリーズのESXiのログや管理用サーバ上のイベントログから実際に出力されたドライバ/ソフトウェアのログを参照する場合、この時刻をキーに探す。

5.6.13 異常発生時の対処

ログ収集機能が通知する異常メッセージは、以下のようにハードウェア（サーバ上に搭載されているPCIカードなど）とISMがインストールされたOS上のソフトウェア（SVOM、ISMなど）に分けられます。

図5.7 異常発生時の異常メッセージ



ハードウェアの異常とソフトウェアの異常の対処方法は、以下のとおりです。

- ハードウェアの異常（ファイバーチャネルカード/コンバージドネットワークアダプター/内蔵LAN/SCSIデバイス）

ログ収集が通報した場合もServerView Agentsと同様の対処を行います。

故障箇所は、TrapまたはMail情報の [通知メッセージ] にあるバス情報 (xxxxx:xx:xx.x) / デバイス名 (vmnicX、vmhbaなど) から特定します。

- ISMがインストールされているOS上のソフトウェア異常

Trap/Mail情報の [故障箇所] に表示される内容が、異常が発生しているソフトウェアです。

必要に応じて、[ログ収集] 画面の「Infra_Manager」から各ソフトウェアのログを収集して対処します。詳しくは、「[5.6.14 ログのダウンロード](#)」を参照してください。

5.6.14 ログのダウンロード

[ログ収集]画面では、ログ収集の対象とする機器を選択し、収集したログをダウンロードできます。

1. [Facility Manager]画面の左側で[ログ収集]タブをクリックします。
詳しくは、「[4.2 \[Facility Manager\]画面](#)」を参照してください。
2. 対象の機器を右クリックし、表示されるメニューで[ログダウンロード]をクリックします。

ログ収集

機器名	IPアドレス	モデル名	ホスト名	動作OS	Agent
BX900S2	192.168.181.100	PRIMERGY BX900 S2	ログダウンロード	Windows Server 2012 R2 Stan	無
BX902US8-1	192.168.181.101	PRIMERGY BX902U S8			無
RX200S8-1	192.168.181.120	PRIMERGY RX200 S8			無
RX4770M1	10.21.136.203	PRIMERGY RX4770 M1			無
SR-X340TR1	10.25.3.240	SR-X			無
fc	192.168.1.4	FC-switch			無
slot1	10.21.136.176	PRIMERGY CX2550 M1			無
-	127.0.0.1	-	Infra_Management	-	-

3. ダウンロード画面が表示されたら、収集するログの[選択]チェックボックスをオンにして、[ダウンロード]ボタンをクリックします。

ログ収集

アーカイブ一覧:

No	選択	File Name
1	☐	BX900S2_192.168.181.100_201411261901.zip
2	☐	BX900S2_192.168.181.100_201411241606.zip
3	☐	BX900S2_192.168.181.100_201411231606.zip
4	☐	BX900S2_192.168.181.100_201411221606.zip

キャンセル ダウンロード

選択したログがローカルPCにダウンロードされます。

ポイント

ソフトウェアの保守情報は、ISMの[ログ収集]画面の「Infra_Manager」からダウンロードできます。

5.6.14.1 収集したログ

ログ収集機能で収集したログは、機器ごとにアーカイブされ、[ログ収集]画面からダウンロードできます。

ハードウェア機器 (PRIMERGY BX系、RX系、ETERNUS DX系、スイッチ系) や、管理用サーバ上のソフトウェアに異常が発生して詳細を確認する場合、[ログ収集]画面から対象機器のログをダウンロードして確認します。

ダウンロード方法については、「[5.6.14 ログのダウンロード](#)」を参照してください。

ダウンロードしたログは、以下のファイル名およびフォルダー構成で格納されています。

PRIMERGY RX/CXシリーズ(SEL)

フォルダー名		説明
<機器名>_<iRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	sel.txt	SEL情報
	telnet-inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

PRIMERGY RX/CXシリーズ上のOSログ(VMware)

フォルダー名		説明
<機器名>_OS_<iRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	syslog.log	ESXiのログ

PRIMERGY RX/CXシリーズ上のOSログ(Linux)

フォルダー名		説明
<機器名>_<iRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	syslog.log	OSのログ

PRIMERGY RX/CXシリーズ上のOSログ(Windows)

フォルダー名		説明
<機器名>_<iRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	sys_event.log	OSのシステムログ
	app_event.log	OSのアプリケーションログ
	sec_event.log	OSのセキュリティログ

PRIMERGY BX 400/900

フォルダー名		説明
<機器名>_<MMBのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	Dump_Post_Mortem.txt	不具合発生時の情報
	Dump_System_Information.txt	システム情報
	SEL_for_Management_Blade.txt	MMBのログ情報
	SEL_for_Server_Blade.txt	シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードのログ情報
	Server_Blade_Configuration_Status.txt	シャーシに搭載されているすべてのサーバブレードの情報
	System_Configuration_Status.txt	シャーシ、およびシャーシに搭載されているすべてのMMB・スイッチブレードの情報

PRIMEQUESTシリーズ上のOSログ(VMware)

フォルダー名		説明
<機器名>_<OSのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	syslog.log	OSのログ

PRIMEQUESTシリーズ上のOSログ(Linux)

フォルダー名		説明
<機器名>_<OSのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	syslog.log	OSのログ

PRIMEQUESTシリーズ上のOSログ(Windows)

フォルダー名		説明
<機器名>_<OSのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	sys_event.log	OSのシステムログ
	app_event.log	OSのアプリケーションログ
	sec_event.log	OSのセキュリティログ

サーバブレード上のOSログ(VMware)

フォルダー名		説明
<機器名>_OS_<サーバブレードのiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	syslog.log	OSのログ

サーバブレード上のOSログ(Linux)

フォルダー名		説明
<機器名>_<サーバブレードのiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	syslog.log	OSのログ

サーバブレード上のOSログ(Windows)

フォルダー名		説明
<機器名>_<サーバブレードのiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	sys_event.log	OSのシステムログ
	app_event.log	OSのアプリケーションログ
	sec_event.log	OSのセキュリティログ

LANスイッチブレード/コンバードファブリックスイッチブレード

フォルダー名		説明
<機器名>_<各スイッチブレードのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	show_tech.txt	ハードウェアおよびソフトウェアの状態を示す情報show tech-supportコマンドの結果
	telnet-inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

FCスイッチブレード

フォルダー名		説明
<機器名>_<FCスイッチブレードのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	supportsave/	ログ一括収集コマンドの結果
	telnet_inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

ETERNUS DXシリーズ

フォルダー名		説明
<機器名>_<ETERNUSのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	log_dump_<ETERNUSのIP>/	export logコマンドの結果
	telnet_log.txt	ログ収集時のコンソールログ
	telnet-inlog.log	ログ収集時の接続情報のログ

ETERNUS NRシリーズ

フォルダー名		説明
<機器名>_<ETERNUSのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	mode.txt	versionコマンドの結果
	message.txt	ETERNUS NRシリーズのシステムログ

SR-X/CFXシリーズ

フォルダー名		説明
<機器名>_<スイッチのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	show_tech.txt	ハードウェアおよびソフトウェアの状態を示す情報show tech-supportコマンドの結果
	telnet-inlog.txt	ログ収集時の接続情報のログ

ServerView Agents(Linux)

フォルダー名		説明
SVAgent_<収集対象のiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	PrimeCollect_Data_yyyy_mm_dd_hhmmss.zip	PrimeCollect結果

ServerView Agents(Windows)

フォルダー名		説明
SVAgent_<収集対象のiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	PrimeCollect_Data.zip	PrimeCollect結果

ServerView Agents(管理サーバ)

フォルダー名		説明
SVAgent_<収集対象のiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	PrimeCollect_Data.zip	PrimeCollect結果

ServerView Agentless Service (Linux)

フォルダー名		説明
SVAS_<収集対象のiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	PrimeCollect_Data_yyyy_mm_dd_hhmmss.zip	PrimeCollect結果

ServerView RAID Manager (Linux)

フォルダー名		説明
SVRAID_<収集対象のiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	RAIDLog.xml snapshot.xml	ServerView RAIDのログと構成情報 - RAIDLog.xml /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/web/public/ - snapshot.xml /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/

ServerView RAID Manager (Windows)

フォルダー名		説明
SVRAID_<収集対象のiRMCのIPアドレス>_<収集した時刻>		
	RAIDLog.xml snapshot.xml applog.csv	ServerView RAIDのログと構成情報 - RAIDLog.xml C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥web¥public - snapshot.xml C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin - イベントログ (アプリケーションのログ、csv形式) applog.csv

ServerView RAID Manager (管理サーバ)

フォルダー名		説明
SVRAID_<収集した時刻>		
	RAIDLog.xml snapshot.xml applog.csv	ServerView RAIDのログと構成情報 - RAIDLog.xml C:¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥web¥public - snapshot.xml

フォルダー名		説明
		C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager\bin
		・ イベントログ (アプリケーションのログ、csv形式) applog.csv

ServerView Operations Manager

フォルダー名		説明
SVOM_<収集した時刻>		
	cmscollect.zip	cmscollect.batの結果

ServerView Infrastructure Manager

フォルダー名		説明
SVISM_<収集した時刻>		
	SvfmBatch.log Svfmsetup.log SvpmBatch.log Manager/logs	ISMのハードログ - C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\svism\Manager\svfm_log* - C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\svism\Manager\logs¥ - C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\svism¥log¥ - C:\Windows\System32\LogFiles¥*.log

ServerView Fabric Manager

フォルダー名		説明
SVFAB_<収集した時刻>		
	SVFab_LOG_yyyymmdd_hhmmss.zip	svfabcli log collectの結果

5.6.15 メッセージ一覧

ログ収集機能によってイベントログに表示されるメッセージの一覧は以下のとおりです。

以下の形式で記載しています。

<ID><ソース>:メッセージ

対処方法について記載しています。

<62><SVlcc>PM child process abnormal end [%1:%2](%3)

%3のプロセスが異常終了しました。

「[SVlcc調査資料収集コマンド](#)」を参考にSVlccのログを採取してシステム管理者に相談してください。

<226><SVlcc> Failed to read (<環境変数(SVlcc_INSTALLPATH)>local/ftpinfo) FileNo=%1 lineNo=%2 line=%3

FTPサーバの情報が登録されていません。

「[5.6.10 FTPサーバ情報の登録](#)」を参照し、設定を見直してください。

<226><SVlcc> Failed to read (<環境変数(SVlcc_INSTALLPATH)>local/usrinfo) FileNo=%1 lineNo=%2 line=%3

Administratorユーザー情報が登録されていません。

「[5.6.11 Administratorユーザー情報の登録](#)」を参照し、設定を見直してください。

<226><SVlcc> Failed to read (<環境変数(SVlcc_INSTALLPATH)>tool¥config¥common¥crb_connection_setup.ini) FileNo=%1 lineNo=%2 line=%3

ログ収集に必要な設定ファイルの読み込みに失敗しました。登録機器の構成やログ収集機能の設定を見直してください。

それでも改善しない場合には、「[SVlcc調査資料収集コマンド](#)」を参考にSVlccのログを採取してシステム管理者に相談してください。

<230><SVlcc>The UDP %1 port have already been used by other programs. FileNo=%2 LineNo=%3 (%1~%3は10進の整数)

<SVlccインストールパス>¥usr¥svlcclogcollector.confの"PORT"に設定された%1のポートは、すでに使用されています。使用されていない別のポートを再設定したあと、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動してください。

<7603><SVlcc> Failed to read server_list.txt. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「[5.6.1 ログ収集対象機器の選択](#)」を参考にログ収集対象機器を登録してから再度実施してください。

<7605><SVlcc> Failed to decode the machine password. ret =n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数、machineは機器名)

「[SVlcc調査資料収集コマンド](#)」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

<7607><SVlcc> Failed to get ExitCode. ret=n err_no=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「[ログ収集機能の監視対象と収集するログ](#)」の表の「必要な設定」を参考に機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。

それでも改善しない場合は、「[SVlcc調査資料収集コマンド](#)」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

<7611><SVlcc> Wait timeout exceeded. ret =n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

同時に出力される下記の<7612>で機器を特定し、「[ログ収集機能の監視対象と収集するログ](#)」の表の「必要な設定」を参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。

<7612><SVlcc> Logcollect command failed. ret =n machine=n IP=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)
s1:ログ取得に失敗した機器名
s2:ログ取得に失敗した機器のIP

「[ログ収集機能の監視対象と収集するログ](#)」の表の「必要な設定」を参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。

<7622><SVlcc> Failed to read logcollect.conf. ret=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「[SVlcc調査資料収集コマンド](#)」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

<7627><SVlcc> ftpinfo read error. ret=n FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「[5.6.10 FTPサーバ情報の登録](#)」を参考にFTP情報の登録を行ったあと、再度実施してください。

<7634><SVlcc> There is no log collection target. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「[5.6.1 ログ収集対象機器の選択](#)」を参考にログ収集対象機器を登録してから再度実施してください。

<7635><SVlcc> Command execution failed. FileNo=n LineNo=n(nは10進の整数)

「[SVlcc調査資料収集コマンド](#)」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

<7639><SVlcc> Logcollect forced termination. FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)

ログ収集コマンドが強制的に終了されました。必要に応じて再度実施してください。

<7643> Target log output directory does not exist. path=s FileNo=n LineNo=n (sは指定したディレクトリパス、nは10進の整数)

存在するディレクトリを引数に指定して実行してください。

<7644> Target log directory does not exist. path=s FileNo=n LineNo=n (sは指定したディレクトリパス、nは10進の整数)

「5.6.6.5 Syslog Collectorを利用する方法」で設定したパスを見直して正しいパスを設定してください。

<7645><SVlcc> %1 parameter error. path="%2" section=%3 member=%4 parameter=%5 ret=%6 FileNo=%7 LineNo=%8 (%1～%8は10進の整数)

%2ファイルの%5のパラメーターに不正な値が設定されています。

ServerView LogCollect and Checkerサービス起動時:%2ファイルの%5のパラメーターを見直してServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動してください。

ローグ一括収集コマンド実行時:%2ファイルの%5のパラメーターを見直して再度コマンドを実行してください。

<7646><SVlcc> Incorrect account information. ret =%1 machine= %2 IP=%3 FileNo=%4 LineNo=%5 (%1,%4,%5は10進の整数、%2,%3は文字列)

%2の対象機器のアカウント情報(IPアドレス、ログインID、ログインパスワード)に誤りがあります。[Facility Manager]画面で対象機器のアカウント情報を見直してから、[Setup]画面の左側から[ログ収集設定]画面を表示して[登録]を実行し、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動したあとに再度ログ収集を実施してください。

<7647><SVlcc> Incorrect account information of connection blade. ret =%1 machine=%2 IP=%3 FileNo=%4 LineNo=%5 (%1,%4,%5は10進の整数、%2,%3は文字列)

%2の対象ブレード側のアカウント情報(IPアドレス、ログインID、ログインパスワード)に誤りがあります。[Facility Manager]画面で対象機器のアカウント情報を見直してから、[Setup]画面の左側から[ログ収集設定]画面を表示して[登録]を実行し、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動したあとに再度ログ収集を実施してください。

<11000～32999><SVlcc>

「5.6.13 異常発生時の対処」を参照して対処してください。

5.6.16 ログ関連コマンド

ログ関連のコマンドを説明します。

SVlcc調査資料収集コマンド

getosvllccコマンドは、SVlccの障害発生時の調査資料として、以下の情報を1つの圧縮ファイルにまとめて出力します。

- ・アプリケーションパッケージのインストール状況
- ・ファイル／モジュール一覧情報
- ・設定ファイル
- ・内部ログ
- ・トレースファイルなど

入力形式

output_filename には、圧縮した調査資料の出力先ファイルをフルパスで指定します。

```
# getosvllcc output_filename
```

オプション

なし。

ポイント

.....

コマンドの実行には、WindowsのAdministrator権限が必要です。Administrator権限以外で実行すると、終了ステータスが不定になります。

.....

ローグ一括収集コマンド

logcollectコマンドは、SVIccが監視している対象機器のログを一括で収集します。ログは圧縮されて格納されます。

本コマンドの実行には、Administrator権限が必要です。

入力形式

`<ServerView LogCollect and Checkerインストールフォルダー>%bin%logcollect -o "出力パス"`

オプション

-o "出力パス"

収集したログは、指定した出力先にログ収集対象機器ごとに保存されます。ログのフォーマットについては、「[5.6.14.1 収集したログ](#)」を参照してください。

注意

-
- 出力パスは絶対パスで指定して、" "(ダブルクォーテーション)で括ってください。
 - 出力パスは存在するフォルダーのパスを指定してください。
-

使用方法

本コマンドを使用するには、事前にログ収集対象を設定しておく必要があります。設定方法については、「[5.6.1 ログ収集対象機器の選択](#)」を参照してください。

実行後、以下のように標準出力に進捗状況や異常発生時のメッセージなどが出力されます。

`SVIcc: I 7600 logcollect command start.
***** Log Collect <ログ収集完了数>/<ログ収集対象総数> finished *****`

ログ収集完了時には、以下のメッセージが出力されます。

`SVIcc: I 7600 logcollect logcollect completed.`

注意

.....

ログ収集を二重に起動させることはできないため、定期ログ収集中には同時に実施できません。前のログ収集が完了してから実施してください。

.....

異常メッセージ(標準出力/イベントログ)

フォーマット:

`SVIcc: <異常レベル> <エラー番号> <メッセージ>`

異常レベル:

- W:警告メッセージ
- E:異常メッセージ

エラー番号	メッセージ	意味	対処
7601	標準出力: SVlcc: E 7601 logcollect Invalid option. LINE=n (nは10進の整数)	無効な引数が指定されました。	実行した引数を見直してください。[-o "出力パス"]になります。
7602 7610 7616 7617 7620 7626 7632 7633 7640	標準出力: SVlcc: E 76xx logcollect Command failed. LINE=n (nは10進の整数、xxは左に記載のエラー番号)	ログ収集時に異常があったので、コマンドが異常終了しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7603	標準出力: SVlcc: E 7603 logcollect server_list.txt read error. ret=n, LINE=n (nは10進の整数) イベントログ: Failed to read server_list.txt. FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)	ログ収集対象機器情報の読み込みに失敗しました。	「 5.6.1 ログ収集対象機器の選択 」を参考にログ収集対象機器を登録してから再度実施してください。
7605	標準出力: SVlcc: E 7605 logcollect Failed to decode the password. ret=n, machine=n, File_No=n, line=n イベントログ: Failed to decode the <i>machine</i> password. ret =n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数、machineは機器名)	ログ収集対象機器情報の読み込みに失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7607	イベントログ: Failed to get ExitCode. ret=n err_no=n FileNo=n LineNo=n	ログ収集時の戻り値の取得に失敗しました。	「 ログ収集機能の監視対象と収集するログ 」の表の「必要な設定」を参考に機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。 それでも改善しない場合は、「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7611	標準出力: SVlcc: W 7611 logcollect Wait timeout LINE=n イベントログ: Wait timeout exceeded. ret =n FileNo=n LineNo=n	ログ取得がタイムアウトしました。	同時に出力される下記の「7612」で機器を特定し、「 ログ収集機能の監視対象と収集するログ 」の表の「必要な設定」を参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。
7612	標準出力: SVlcc: W 7612 logcollect Logcollect failed. ret =n machine=s1 IP=s2 FileNo=n LineNo=n イベントログ: Logcollect command failed. ret =n machine=n IP=n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)	対象のログ収集に失敗しました。	「 ログ収集機能の監視対象と収集するログ 」の表の「必要な設定」を参考に失敗した機器の設定や機器の状態を見直してから再度実施してください。

エラー番号	メッセージ	意味	対処
	s1:ログ取得に失敗した機器名 s2:ログ取得に失敗した機器のIP		
7622	標準出力: SVlcc: E 7622 logcollect conf file read error. ret=n File_No=n, LINE=n (nは10進の整数) イベントログ: Failed to read logcollect.conf. ret=n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)	ログ収集に必要な設定ファイルの読み込みに失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7623	標準出力: SVlcc: W 7623 logcollect logcollect.conf parameter error. value=n, ret=n, File_No=n, LINE=n (nは10進の整数)	ログ収集に必要な設定ファイルから情報の取得に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7627	標準出力: SVlcc: E 7627 logcollect FTP information read error. ret=n, File_No=n, LINE=n (nは10進の整数) イベントログ: ftpinfo read error. ret=n FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)	ログ取得に必要なFTPの情報の取得に失敗しました。	「 5.6.10 FTPサーバ情報の登録 」を参考にFTP情報の登録を行ったあと、再度実施してください。
7634	標準出力: SVlcc: E 7634 logcollect Target device from which to collect log does not exist. イベントログ: Target device from which to collect log does not exist. FileNo=n LineNo=n (nは10進の整数)	ログ収集対象機器が存在しません。	「 5.6.1 ログ収集対象機器の選択 」を参考にログ収集対象機器を登録してから再度実施してください。
7635	イベントログ: Command execution failed. FileNo=n LineNo=n	ログ収集コマンドが異常終了しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7636	標準出力: SVlcc: E 7636 logcollect Another logcollect command is already running. LINE=n This command cannot be run in multiple instances. (nは10進の整数)	ログ収集コマンドが二重に起動しています。	ログ収集コマンドは二重起動できません。初めに実行したログ収集コマンドが終了してから実行してください。
7639	標準出力: SVlcc: W 7639 logcollect logcollect forced termination. イベントログ: Logcollect forced termination. FileNo=n LineNo=n	ログ収集コマンドが強制終了されました。	ログ収集コマンドが強制的に終了されました。必要に応じて再度実施してください。
7643	標準出力: SVlcc: W 7643 Specified log output directory does not exist.(path)	指定したディレクトリは存在しません。	存在するディレクトリを引数に指定して実行してください。

エラー番号	メッセージ	意味	対処
	(pathは引数で指定したディレクトリパス) イベントログ: Specified log output directory does not exist. path=s FileNo=n LineNo=n (sは指定したディレクトリパス、nは10進の整数)		
7644	標準出力: SVlcc: E 7644 Specified log directory does not exist. (path) (pathは引数で指定したディレクトリパス) イベントログ: Specified log directory does not exist. path=s FileNo=n LineNo=n (sは指定したディレクトリパス、nは10進の整数)	指定したディレクトリは存在しません。	「5.6.6.5 Syslog Collectorを利用する方法」 で設定したパスを見直して正しいパスを設定してください。
7645	標準出力: SVlcc E 7645 %1 parameter error. path="%2" section=%3 member=%4 parameter=%5 ret=%6 FileNo=%7 LineNo=%8 (%1~%8は10進の整数) イベントログ: %1 parameter error. path="%2" section=%3 member=%4 parameter=%5 ret=%6 FileNo=%7 LineNo=%8 (%1~%8は10進の整数)	%2ファイルの%5のパラメーターに不正な値が設定されています。	ServerView LogCollect and Checker サービス起動時:%2ファイルの%5のパラメーターを見直して、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動してください。 ローグー括収集コマンド実行時:%2ファイルの%5のパラメーターを見直して、再度コマンドを実行してください。
7646	標準出力: SVlcc W 7646 Incorrect account information. ret =%1 machine= %2 IP=%3 FileNo=%4 LineNo=%5 (%1,%4,%5は10進の整数、%2,%3は文字列) イベントログ: Incorrect account information. ret =%1 machine= %2 IP=%3 FileNo=%4 LineNo=%5 (%1,%4,%5は10進の整数、%2,%3は文字列)	%2の対象機器のアカウント情報 (IPアドレス、ログインID、ログインパスワード) に誤りがあります。	[Facility Manager]画面で対象機器のアカウント情報を見直してから、[Setup]画面の左側から[ログ収集設定]画面を表示して[登録]を実行し、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動したあとに再度ログ収集を実施してください。
7647	標準出力: SVlcc W 7647 Incorrect account information of connection blade. ret =%1 machine=%2 IP=%3 FileNo=%4 LineNo=%5 (%1,%4,%5は10進の整数、%2,%3は文字列) イベントログ: Incorrect account information of connection blade. ret =%1 machine=%2 IP=%3 FileNo=%4 LineNo=%5 (%1,%4,%5は10進の整数、%2,%3は文字列)	%2の対象ブレード側のアカウント情報 (IPアドレス、ログインID、ログインパスワード) に誤りがあります。	[Facility Manager]画面で対象機器のアカウント情報を見直してから、[Setup]画面の左側から[ログ収集設定]画面を表示して[登録]を実行し、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動したあとに再度ログ収集を実施してください。

エラー番号	メッセージ	意味	対処
7648	標準出力: SVlcc: W 7648 The capacity of disk drive usage will exceed 80 percent. drive=%s total_size=%nG used=%nG LINE=%n (nは小数点2桁までを含む10進表示、sはログ保存先のパス)	ログ保存先のハードディスクドライブ使用量が80%を超えました。ログは収集されます。	ログ保存先に指定しているハードディスクドライブの容量を確保してください。
	イベントログ: The capacity of disk drive usage will exceed 80 percent. drive=%1 total_size=%2 byte used=%3 byte FileNo=%4 LineNo=%5		
7649	標準出力: SVlcc: W 7649 The capacity of log archive will exceed 80 percent. path=%s set_value=%nG used=%nG LINE=%n (nは小数点2桁までを含む10進表示、sはログ保存先のパス)	ログ保存先のディレクトリの容量が設定値の80%を超えました。ログは収集されます。	ログ保存先のディレクトリの容量を確保するか、容量の設定値を見直してください。 詳細は、「 5.6.4 ログ保存先のディスク容量監視機能 」を参照してください。
	イベントログ: The capacity of log archive will exceed 80 percent. path=%1 set_value=%2 Gbyte used=%3 byte FileNo=%4 LineNo=%5		
7650	標準出力: SVlcc: W 7650 logcollect command closed, because the capacity of disk drive usage had exceeded 90 percent. drive=%s total_size=%nG used=%nG LINE=%n (nは小数点2桁までを含む10進表示、sはログ保存先のパス)	ログ保存先のハードディスクドライブ使用量が90%を超えました。ログは収集されません。	ログ保存先に指定しているハードディスクドライブの容量を確保してください。
	イベントログ: logcollect command closed, because the capacity of disk drive usage had exceeded 90 percent. drive=%1 total_size=%2 byte used=%3 byte FileNo=%4 LineNo=%5		
7651	標準出力: SVlcc: W 7651 logcollect command closed, because the capacity of log archive had exceeded 90 percent. path=%s set_value=%nG used=%nG LINE=%n (nは小数点2桁までを含む10進表示、sはログ保存先のパス)	ログ保存先のディレクトリの容量が設定値の90%を超えました。ログは収集されません。	ログ保存先のディレクトリの容量を確保するか、容量の設定値を見直してください。 詳細は、「 5.6.4 ログ保存先のディスク容量監視機能 」を参照してください。
	イベントログ: logcollect command closed, because the capacity of log archive had exceeded 90 percent. path=%1 set_value=%2 Gbyte used=%3 byte FileNo=%4 LineNo=%5 (%1は文字列、%2%3%4%5は10進の整数)		

ログ保存先変更コマンド

svlccsetlogpathコマンドは、SVlccが収集するログの保存先を変更します。

本コマンドの実行には、Administrator権限が必要です。
ログの保存先フォルダーは、本コマンドを実行する前に作成してください。

入力形式

```
svlccsetlogpath.bat
```

オプション

なし

使用方法

1. コマンドを実行すると、ログの保存先を指定する画面が表示されます。

```
### Current path : C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\Logs\ ###
Please specify the log collection path.
[Example : C:\Log\SVlcc_Logs\]
>
```

2. ログの保存先をフルパスで入力します。



注意

- パスの指定は " " (ダブルクォーテーション) で括らないでください。
- 「svlccsetlogpath.bat」実行後、再度「svlccsetlogpath.bat」を実行する場合、コマンドプロンプトを新規で立ち上げ直してから実行してください。元のコマンドプロンプトで再実行した場合、「Current path」に古いパスが表示されます。

「Successful execution of the command.」のメッセージが出力されれば設定は完了です。

```
Successful execution of the command.
### Set path : C:\Program Files (x86)\  ###

#####
### Please restart the service of ServerView Infrastructure Manager Service ###
### and ServerView LogCollect and Checker to reflect the setting.      ###
#####
```

出力されたメッセージの「Set path」にログの保存先として設定したパスが表示されます。

3. ログの保存先として設定したパスを確認後、「ServerView Infrastructure Manager Service」と「ServerView LogCollect and Checker」のサービスを再起動します。



注意

再起動時、他の操作はしないでください。

4. 管理サーバのホストOSまたは監視対象サーバのホストOSがVMwareの場合にはsyslog collectorのリポジトリディレクトリを変更します。

下記のURLを参照し、syslog collectorのリポジトリディレクトリを変更してください。

http://kb.vmware.com/selfservice/microsites/search.do?language=en_US&cmd=displayKC&externalId=2021652

syslog collectorのリポジトリディレクトリは、以下を指定してください。

```
<ログ収集場所のフォルダー>%work
```

例:ログ収集場所のフォルダーが「D:\temp\Log」の場合

「%PROGRAMDATA%\VMware\VMware Syslog Collector\vmconfig-syslog.xml」を下記のように修正します。

修正前

```
<defaultDataPath>C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\SVlcc\Logs\work\</defaultDataPath>
```

修正後

```
<defaultDataPath>D:\temp\Logs\work\</defaultDataPath>
```

ファイルの修正後、設定を反映させるため、syslog collectorの再起動が必要です。



注意

本コマンドを実行したあとにログの保存先が変更になります。今までに採取したログは、元の保存先に残ります。

異常メッセージ(標準出力)

No.	メッセージ	意味	対処
1	標準出力: ERROR : Specified path does not exist.	入力されたパスが存在しません。	存在するパスを指定し直してください。
2	標準出力: ERROR : Length of specified path exceeds 185 characters.	入力パスの長さが185文字を超えています。	パスの長さが185文字を超えないパスを指定し直してください。
3	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(reg query) rtn=n (nは10進の整数)	レジストリの参照に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
4	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(reg add) rtn=n (nは10進の整数)	レジストリの設定に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
5	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(setx) rtn=n (nは10進の整数)	環境変数の設定に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
6	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(MKDIR archive) rtn=n (nは10進の整数)	フォルダーの作成に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
7	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(MKDIR Infra_Management) rtn=n (nは10進の整数)	フォルダーの作成に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。
8	標準出力: ERROR : Failed to execute the command.(MKDIR work) rtn=n (nは10進の整数)	フォルダーの作成に失敗しました。	「 SVlcc調査資料収集コマンド 」を参考にログ収集機能のログを採取してシステム管理者に相談してください。

5.7 管理

5.7.1 機器のグループ管理

プロファイル管理に登録された機器はグループ単位で分けて管理できます。業務用途別や導入時期別などの任意のグループを作成して機器を所属させておくことで、管理が容易になります。

以下の操作は、Profile Managerの[ノードリスト]画面で行います。画面については、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。

ポイント

グループを利用した機器表示は[ノードリスト(種類別)]画面で利用できます。[ノードリスト(収容位置別)]画面ではグループごとの表示はできません。

グループの作成

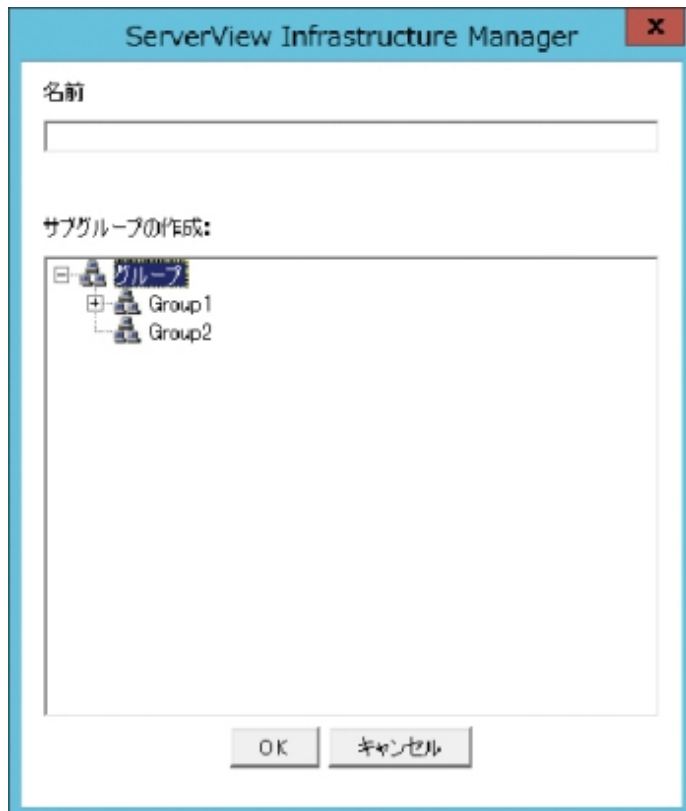
任意の名称のグループを作成します。

ポイント

グループの下にさらに別のグループというように、グループは階層的に作成することもできます。この場合は同一のグループ名を複数作成できます。同一階層内には同一名のグループは作成できません。

1. [ノードリスト]画面のツリーで[グループ]を右クリックまたは既存のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[新しいグループ]を実行します。

グループ作成のダイアログボックスが表示されます。



2. 名前欄に作成するグループの名前を入力します。
3. ダイアログボックス中央部の[サブグループの作成]欄でグループの作成先が正しく選択されていることを確認します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

グループが作成されます。

グループへの機器登録

作成したグループに機器を登録します。

ポイント

1台の機器を複数のグループに所属させることも可能です。

グループに機器を登録する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーでグループに登録する機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで登録先グループをクリックし、選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
機器がグループに登録されます。

所属グループの移動

すでにグループに所属している機器を別のグループに移動します。
機器を別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーで移動元のグループの配下を展開します。
2. 移動させる機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
3. グループのツリーで移動先グループをクリックし、選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
機器が選択したグループに移動します。

グループからの削除

すでにグループに所属している機器をグループから削除します。機器自体は削除されません。
機器をグループから削除する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーで所属先のグループの配下を展開します。
2. 削除する機器名を右クリックし、表示されるメニューで [グループから削除] を実行します。
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックします。
グループから機器が削除されます。

グループ名の変更

既存グループの名称を変更します。

グループ名を変更する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーで対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループをリネーム] を実行します。
新しいグループ名を入力するダイアログボックスが表示されます。
2. グループ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
グループ名が変更されます。

グループへ移動

既存グループを別のグループ階層下に移動します。移動対象のグループ配下に所属している機器やグループも移動します。

ポイント

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーで移動対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループに移動します。

ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

グループへコピー

既存グループを残したまま、別のグループ階層下に同じグループを作成します。

ポイント

コピー先に同一グループ名が存在する場合は、コピー元のグループとその配下の機器は1個のグループに統合されます。

別のグループにコピーする手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーでコピー対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループにコピーされます。

ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

グループを削除

任意の作成済みグループを削除します。

ポイント

グループを削除する場合は、グループに登録されている機器や下位階層のグループも削除されます。

作成済みグループを削除する手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面のツリーで削除対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループを削除] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. 削除するグループが正しいことを確認したあと [はい] ボタンをクリックします。
選択したグループが削除されます。

5.7.2 プロファイルのグループ管理

保存したHWプロファイル、OSプロファイルはグループ単位で管理できます。業務用途別や導入時期別などの任意のグループを作成してプロファイルを所属させておくことで、管理が容易になります。

ここでの操作は、[プロファイル]画面で行います。画面については、「[4.4.2 \[プロファイル\]画面](#)」を参照してください。

ポイント

グループ内ではHWプロファイルおよびOSプロファイルが混在して存在します。種類別に分けて管理する場合は、グループ配下に「HW」または「OS」のようにさらに別のグループを作成してください。

グループの作成

任意の名称のグループを作成します。

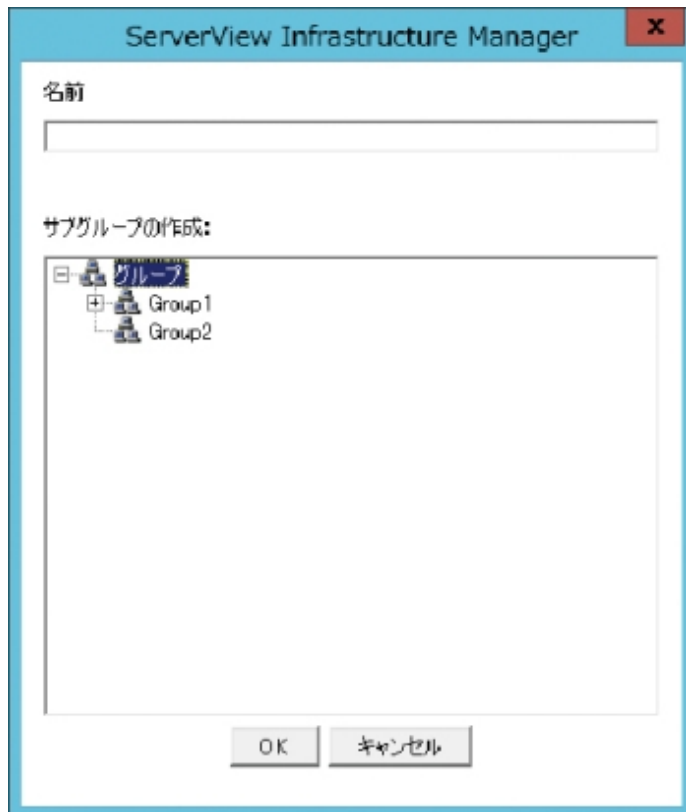
ポイント

グループの下にさらに別のグループというように、グループは階層的に作成することもできます。この場合は同一のグループ名を複数作成できます。同一階層内には同一名のグループを作成できません。

グループを作成する手順は次のとおりです。

1. [プロファイル]画面左側のツリーエリアでグループを右クリックして表示されるメニューで [新しいグループ] を実行、または既存のグループ名を右クリックして表示されるメニューで [新しいグループ] を実行します。

グループ作成のダイアログボックスが表示されます。



2. 名前欄に作成するグループの名前を入力します。
3. ダイアログボックス中央部の [サブグループの作成] 欄でグループの作成先が正しく選択されていることを確認します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

グループが作成されます。

グループへのプロファイル登録

作成したグループにプロファイルを登録します。

ポイント

- ・ グループに登録したあともプロフィールは元の場所に存在します。グループ配下に別のプロフィールが作成されるわけではなく、両者は同一のプロフィールです。
- ・ 1つのプロフィールを複数のグループに所属させることもできます。

グループにプロフィールに登録する手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアでグループに登録するプロフィール名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへコピー] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで登録先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
プロフィールがグループに登録されます。

所属グループの移動

すでにグループに所属しているプロフィールを別のグループに移動します。

プロフィールを別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアで移動元のグループの配下を展開します。
2. 移動するプロフィール名を右クリックし、表示されるメニューで [グループへ移動] を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
3. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと [OK] ボタンをクリックします。
プロフィールが選択したグループに移動します。

グループからの削除

すでにグループに所属しているプロフィールをグループから削除します。プロフィール自体は削除されません。

プロフィールをグループから削除する手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアで所属先のグループの配下を展開します。
2. 削除するプロフィール名を右クリックし、表示されるメニューで [グループから削除] を実行します。
確認のためのダイアログボックスが表示されます。
3. [はい] ボタンをクリックします。
グループからプロフィールが削除されます。

グループ名の変更

既存グループの名称を変更します。

グループ名を変更する手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアで対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで [グループをリネーム] を実行します。
新しいグループ名を入力するダイアログボックスが表示されます。
2. グループ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。
グループ名が変更されます。

グループへ移動

既存グループを別のグループ階層下に移動します。移動対象のグループ配下に所属しているプロフィールやグループも移動します。

ポイント

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下のプロファイルは1つのグループに統合されます。

別のグループに移動する手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアで移動対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グループへ移動]を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと[OK]ボタンをクリックします。
グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループに移動します。

ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

グループへコピー

既存グループを残したまま、別のグループ階層下に同じグループを作成します。

ポイント

移動先に同一グループ名が存在する場合は、移動後のグループとその配下のプロファイルは1つのグループに統合されます。

別のグループにコピーする手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアでコピー対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グループへコピー]を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. グループのツリーで移動先グループをクリックして選択状態にしたあと[OK]ボタンをクリックします。
グループおよび配下のオブジェクトが選択したグループにコピーされます。

ポイント

移動先に同一名のグループが存在する場合は、グループ統合の確認ダイアログボックスが表示されます。

グループを削除

任意の作成済みグループを削除します。

ポイント

グループを削除する場合は、グループに登録されているプロファイルや下位階層のグループも削除されます。

作成済みグループを削除する手順は次のとおりです。

1. [プロフィール]画面左側のツリーエリアで削除対象のグループ名を右クリックし、表示されるメニューで[グループを削除]を実行します。
ダイアログボックスが表示されます。
2. 削除するグループが正しいことを確認したあと[はい]ボタンをクリックします。
選択したグループが削除されます。

第6章 保守関連操作

6.1 サービスの起動と停止

ISMをインストールすると、管理サーバには以下のサービスがインストールされます。

- ServerView Infrastructure Manager Service
- ServerView LogCollect and Checker
- SVHLCM Service
- ServerView Infrastructure Manager Rest Service

また、主な関連サービスは以下のとおりです。

- ServerView Profile Manager Service (PMSをインストールした場合)
- PXE Services (SVIMをインストールした場合)
- TFTP Service (SVIMをインストールした場合)

[コントロールパネル]の[管理ツール]から上記サービスの起動、停止、再起動が行えます。データベースのバックアップまたはリストアを実施する場合など、必要に応じてサービスを操作してください。



- ServerView Infrastructure Manager Serviceの起動直後にブラウザから操作すると「サーバとの通信に失敗しました。」と表示されます。しばらく待ってから操作してください。
- SVHLCM Serviceのログオンアカウントには、ISMインストール時に作成されるSQLサーバ上のデータベースSVhlcMDBへのアクセス権限が付与されている必要があります。

6.2 ISMデータベースのバックアップとリストア

ここでは、ISMデータベースおよび設定ファイルのバックアップ、リストア手順を説明します。バックアップデータは、トラブル復旧時に必要です。定期的にバックアップすることを推奨します。



ISM V1.4以前で取得したバックアップデータをISM V1.5にリストアすることはできません。

6.2.1 バックアップ

コマンドラインツール「ISMDBBackup.bat」を使用して、ISMデータベースおよび設定ファイルをバックアップします。

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. 「ISMDBBackup.bat」がインストールされたフォルダーに移動します。

```
cd <ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%\plugins%\svism%\Tools
```

3. 「ISMDBBackup.bat」にパラメーターとして "2" を付けて実行します。

```
ISMDBBackup.bat 2
```

以下のフォルダーにISMデータベースおよび設定ファイルが保存されます。

```
<ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svism%SqlDb
```

4. 「ISMDBBackup.bat」のインストール先と同じフォルダー内に、エラーチェック用のログファイル (ISMDBBackup.log) が作成されます。
5. ISMをアンインストールする場合は、「[5.5.4 消費電力制御 \(パワーキャッピング\) 利用](#)」を参照し、設定済みの各サーバの消費電力制御設定値をメモしてください。

6.2.2 リストア

コマンドラインツール「ISMDBRestore.bat」を使用して、同一バージョンのISMで取得したバックアップからデータベースおよび設定ファイルをリストアできます。

1. 動作中のサービス (ServerView Infrastructure Manager ServiceおよびServerView LogCollect and Checker) を停止させます。
2. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
3. 「ISMDBRestore.bat」がインストールされたフォルダーに移動します。

```
cd <ServerViewインストールフォルダー>%ServerView Suite%plugins%svism%Tools
```

4. 「ISMDBRestore.bat」を実行します。

ツールから、バックアップファイル (SvfmDBData.bakなど) が配置されているパスと、メンテナンス支援機能のバックアップデータのファイル名の入力を要求されます。

ポイント

メンテナンス支援機能のバックアップデータのファイルとは、前述のパス内に存在する、「hlcmbkup_(年月日)_(時分秒).cab」のファイルです。複数存在する場合があります。通常は、作成日時が最新のファイルを指定してください。

5. 「ISMDBRestore.bat」のインストール先と同じフォルダー内に、エラーチェック用のログファイル (ISMDBRestore.log) が作成されます。
6. ServerView Infrastructure Manager Service、ServerView LogCollect and CheckerおよびServerView Hardware Life Cycle Manager (SVHLCM Service) を起動します。
7. 後処理手順としてバックアップ用のコマンドラインツール「ISMDBBackup.bat」を実行し、新しいフルバックアップを作成します。

```
ISMDBBackup.bat 2
```

8. ISMを新規インストールしバックアップしたデータからリストアして運用を再開する場合は、「[5.5.4 消費電力制御 \(パワーキャッピング\) 利用](#)」を参照し、バックアップ時にメモした値を使用して消費電力制御設定を実施してください。

ISMの再インストールが含まれないリストアでは、手順8 は不要です。

6.3 調査ログ収集

トラブル発生時には、調査のためのログが必要になる場合があります。

以下の手順でISMの各種ログを一括採取できます。

1. ISMインストール先の管理サーバに管理者権限を持つアカウントでログインします。
2. コマンドプロンプトを開き、調査ログ収集コマンドが格納されたフォルダーへ移動します。

以下のフォルダーに格納されています。

```
<ServerView Operations Managerインストールフォルダー>%plugins%svism
```

例: デフォルトのインストール先の場合

```
> c:  
> cd "Program Files (x86)%Fujitsu%ServerView Suite%plugins%svism"
```

3. ログ保存先フォルダーを作成します。

任意の保存先を指定しない場合は、調査ログ収集コマンドの格納フォルダー配下のIsmLogフォルダーがログ保存先として使用されます。この場合、フォルダー作成作業は不要です。

4. 調査ログ収集コマンドを実行します。

コマンド名称は「GetIsmLog.bat」です。コマンド実行後、「正常に終了しました。」のメッセージが表示されるのを確認してください。

例: ログ保存先フォルダーがC:\ismlogの場合

```
> GetIsmLog C:\ismlog  
(中略)  
Completed successfully.  
正常に終了しました。
```

5. 作成されたログファイルを取り出します。

ログは指定フォルダー内に以下のファイル名で保存されています。

ISM_LOG_(年月日)_(時分秒).cab

例: ISM_LOG_20160101_124500.cab

ポイント

調査ログ収集コマンドは以下のファイルを収集します(各種インストール先ドライブ/フォルダーがデフォルトの場合)。

- ISMの内部動作ログ
- Windowsシステムログ
- Windowsアプリケーションログ
- ISMの一部プロセスのダンプファイル
- その他(ISM版数情報)

6.4 管理サーバのIPアドレス変更時の操作

管理サーバの管理ネットワーク(対象機器と接続されているネットワーク)のIPアドレスを変更した場合は、以下の操作を実施してください。

1. 管理サーバ、SVOM、およびその他のServerView関連ソフトウェアのIPアドレスを変更します。
IPアドレスの変更方法については、それぞれの製品のドキュメントなどを参照してください。
2. 管理サーバにAdministrator権限およびSQL Serverへのアクセス権限(sysadmin)を持つアカウントでログインします。
3. [コントロールパネル] で、[プログラムと機能] を選択します。
4. 「FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager」の行を右クリックして、ポップアップメニューから[変更]を実行します。
5. 画面表示に従って変更処理を完了させます。完了後、Windowsを再起動します。
6. SVIMを再インストールします。
手順については、「[付録D SVIMの再インストール](#)」を参照してください。
7. Windowsの再起動後、ISMの画面を起動し、必要に応じてIPアドレスに関連する設定を変更します。
ISMの画面表示については、「[4.1 ISMの画面表示方法\(各機能共通\)](#)」を参照してください。
 - [Setup] 画面の[DHCP設定]
 - [Setup] 画面の[プロファイル適用動作設定]

- ー [Setup] 画面の[FTPサーバ設定]
 - ー [Setup] 画面の[ログ収集設定]で、登録とログ収集機能の再起動
詳しくは、「[5.6.1 ログ収集対象機器の選択](#)」を参照してください。
 - ー 管理対象機器のIPアドレス、およびISM/SVOMなどの該当機器の登録情報 など
8. FTPサーバ情報を更新します。
- 手順については、「[5.6.10 FTPサーバ情報の登録](#)」を参照してください。

ポイント

管理対象機器のIPアドレスも変更する場合、プロフィール管理機能に関する補足事項があります。詳しくは、「[F.2 登録済み機器情報の変更に関して](#)」を参照してください。

6.5 SVOMをアップデートする際の操作

ISMはSVOMのプラグインとして動作しているため、SVOMのアップデートや再インストールの際には、以下の操作を実施してください。

1. ISMのデータベースをバックアップします。
詳しくは、「[6.2 ISMデータベースのバックアップとリストア](#)」を参照してください。
2. ISMをアンインストールします。
詳しくは、「[付録C アンインストール](#)」を参照してください。
3. SVOMのアップデート、再インストールなど、目的の作業を行います。
4. ISMをインストールします。
詳しくは、「[3.1 インストールと設定](#)」を参照してください。

注意

ISMも同時にアップデートする場合、手順1でバックアップしたデータベースは新しい版のISMでは直接リストアできません。そのため、ここでは以前と同じ版のISMをインストールして、手順5でデータベースのリストアを行ったあと、新しいISMをアップデートインストールしてください。

5. ISMのデータベースをリストアします。
詳しくは、「[6.2 ISMデータベースのバックアップとリストア](#)」を参照してください。

6.6 機器の保守後の操作

管理対象の機器が故障して機器の交換や保守部品交換を行った場合、ISMに機器登録したときの情報と実機の情報が異なる可能性があります。

機器の交換などを行った場合は、以下の操作を実施してください。

Profile Managerに登録され、プロフィール適用されているPRIMERGYサーバの場合

Profile Manager上でサーバ保守後操作([保守管理(ノード交換)]ボタン)を行います。
詳しくは、「[6.6.1 Profile Managerでのサーバ保守後操作](#)」を参照してください。

Profile Managerに登録されているが、プロフィールが適用されていないPRIMERGYサーバの場合

保守交換前にProfile Managerから登録解除したあと、保守交換を実施し、再度機器を登録してください。

登録解除前に保守交換を実施した場合は、あとから登録解除してください。この場合、解除がエラーになることがありますので、その場合はエラーの強制解除作業を行ってください。

対象機器がFacility Managerにも登録されている場合は、以下の「Facility Managerに登録されている機器のうち、以下に該当する機器の場合」に記載されている操作を実施してください。

Facility Managerに登録されている機器のうち、以下に該当する機器の場合

以下に該当する機器については、保守交換を実施したあとに機器情報を確認します。

- Profile Managerに登録されていないPRIMERGYサーバ
- Profile Managerに登録されているが、プロファイルが適用されていないPRIMERGYサーバ
- スイッチ、ストレージなどサーバ以外の機器 (CFX2000、ETERNUSなど)

1. [Facility Manager] 画面から保守交換を実施した機器の[プロパティ]をクリックします。

[機器プロパティ] 画面が表示されます。

2. シリアル番号とMACアドレスを確認します。

保守交換前と異なる情報が入力されている場合は、その設定値を手動で変更してください。

ポイント

- ブレードシャーシ (MMBやスイッチブレードの保守交換ではなく、シャーシ全体) やETERNUSを全体的に新しい機器と交換した場合は、別の機器への入替えとして扱います。登録済みの機器を削除して新しく機器登録を行ってください。
ブレードシャーシの場合はシャーシ内に内蔵される機器もすべて再登録してください。
- CFX2000およびConvergedFabricSwitchBladeから情報を取得するためには、各機器のMACアドレスをISMに設定する必要があります。ISMへのデータ登録完了後、CFX2000およびConvergedFabricSwitchBladeについて、機器プロパティの [プロパティ] タブ - [MACアドレス] を設定してください。

6.6.1 Profile Managerでのサーバ保守後操作

ハードウェア故障が原因で対象サーバ内の部品やサーバ本体を交換した場合は、交換内容に応じて機器の実際の状態とプロファイル管理との整合性を取る作業が必要になります。

サーバ保守後に行う主な作業は次のとおりです。

- 交換が原因で変化したハードウェア情報の取込み
例: 機器のシリアル番号やiRMC LANのMACアドレスが変化した場合に登録情報を更新
- 交換後のサーバに対し、以前のプロファイル内容の再適用
例: システムボードの交換が原因でBIOS設定がデフォルト値に戻った場合のHWプロファイル再適用、またはハードディスクの交換が原因でデータが消失した場合のOS再インストール

ポイント

- 装置保守または装置交換を完了して問題が解決したあとで本操作を実行します。
- ここでの操作はプロファイル適用済みのサーバが対象となります。プロファイル適用前の機器に対して保守を行う場合は、ノード登録解除を実行してから保守を行い、保守後に再度ノード登録してください。
- シャーシ (MMB) およびストレージについては、保守時にProfile Manager上での操作は不要です。

サーバ保守後の操作手順は次のとおりです。

1. [ノードリスト]画面を表示します。

詳しくは、「[4.4.1 \[ノードリスト\]画面](#)」を参照してください。

2. [ノードリスト]画面の [管理中] タブをクリックします。

対象のサーバが表示されます。

3. [ノードリスト]画面の機器一覧表の左端にあるチェックボックスをオンにします。

4. 画面下部の [保守管理 (ノード交換)] ボタンをクリックします。

[交換処理]画面が表示されます。画面の上半分にはサーバの情報が表示され、画面の下半分で操作を行います。

交換後

☒ 装置交換は未実施

☐ 下記の装置情報に置き換える

機器名	機種名	シリアル番号	BM

☐ 下記の新規検出装置と交換する

機器名 /	機種名	シリアル番号	BI

5. 交換後の装置を選択します。

装置の状態に応じて、以下aからcのどれかが自動選択されています。

- a. [装置交換は未実施]

登録されている機器情報と一致するサーバが存在している場合に選択されます。サーバ内の一部部品を交換した場合などが対象になります。

- b. [下記の装置情報に置き換える]

登録されている機器情報と一部情報が異なるサーバが存在している場合に選択されます。サーバ内の一部の部品 (システムボードなど) を交換した場合などが対象になります。

- c. [下記の新規検出装置と交換する]

登録されている機器情報と一致するサーバが存在しない場合に選択されます。サーバ全体を別のサーバに交換した場合などが対象になります。

ポイント

実際の保守作業と、上記aからcの選択が異なる場合は、保守後の機器が正しく動作しているか、またネットワークに正しく接続されているかなどをチェックしてください。

6. 手順5でcが選択されている場合は、交換後のサーバを一覧から選択します。

iRMCのIPアドレスを固定IPに設定済みの場合は [手動検索] ボタンでサーバを検出します。

なお、手順5でaまたはbが選択されている場合は、この手順は不要です。次の手順に進んでください。

ポイント

- 異なるモデルのサーバと交換した場合は本操作で交換後のサーバを指定できません。サーバを登録解除したあと、サーバを新規に機器登録してプロファイルを適用します。
- サーバブレードの場合は、交換後のブレードが異なるスロットや異なるシャーシに搭載すると交換として扱われないため、保守後操作は実行できません。新規にサーバを登録するか、元の位置に搭載し直してください。

7. プロファイル再適用の範囲を指定します。

FW、BIOS、BMCまたはOSの中から再適用が必要な項目をチェックし、不要な項目のチェックを外します。

- FW:ファームウェア / BIOSのアップデートを再実行する。

- － BIOS: BIOSタブに記述されている設定を装置へ再適用する。
- － BMC: BMC (iRMC) タブに記述されている設定を装置へ再適用する。
- － OS: OSプロファイルの内容に従い、再インストールする。

ポイント

適用中のプロファイルに設定がない項目はチェックできません。

事象別の再適用範囲の例は次のとおりです。構成や状況に応じて適切な処理を行ってください。

実施した保守操作	プロファイル再適用指示
故障したサーバを撤去し、新しいサーバと交換、内蔵ディスクは引継ぎ	FW、BIOS、BMCを再適用します。
サーバ内のシステムボードを交換	FW、BIOS、BMCを再適用します。
サーバ内の各種部品 (CPU、DIMM、PCIカード類) を交換	プロファイル再適用は不要です。
アレイ構成の場合に、ディスクドライブを1台だけ交換	プロファイル再適用は不要です。
アレイ構成ではない場合に、ディスクドライブを交換	OSを再適用します。

8. [実行] ボタンをクリックします。

プロファイルの再適用処理が開始されます。サーバの状態はプロファイル適用中となります。

9. [最新の状態に更新] ボタンをクリックします。

処理が完了するのを待ちます。

6.7 機器の撤去

不要になった機器を撤去する際は、以下の手順でFacility Manager、Profile Manager、SVOMのサーバリストのそれぞれから機器の登録を削除します。

ポイント

登録を削除するとその機器に対する作業履歴なども削除されます。登録を削除する前に、必要に応じて情報の退避などを行ってください。

- Profile Managerに登録されているとき

1. Profile Managerの[ノードリスト]画面で対象機器の状態を確認し、HWプロファイル、OSプロファイルが適用されている場合は、プロファイルを取り外します。
詳しくは、「[プロファイルの取り外し](#)」を参照してください。
2. Profile Managerの[ノードリスト]画面から [ノード登録解除] を実行します。
詳しくは、「[5.2.2.3 登録解除](#)」を参照してください。
3. Facility Managerの[ラック]画面から対象機器を削除します。
詳しくは、「[4.2.2.4 \[ラック\]画面](#)」を参照してください。

- Facility Managerに登録されているとき

1. ログ収集の対象機器の場合は、[Setup]画面の左側で[ログ収集設定] をクリックし、機器を対象外に設定して [登録] をクリックし、ServerView LogCollect and Checkerサービスを再起動します。
詳しくは、「[5.6.1 ログ収集対象機器の選択](#)」を参照してください。
2. Facility Managerの[ラック]画面から対象機器を削除します。
詳しくは、「[4.2.2.4 \[ラック\]画面](#)」を参照してください。

- サーバリストに登録されているとき

SVOMの[サーバリスト]画面から対象機器を削除します。

「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を参照してください。

付録A メッセージ一覧

操作中に表示されるメッセージの一覧を、メッセージの重要度とメッセージID順に示します。メッセージの重要度には、「情報」、「警告」、「エラー」の3種類があります。

A.1 メッセージの見方

表示されるIDとメッセージ、およびその際の説明や対処を以下のとおり記載します。

ID: メッセージ

説明・対処を記載します。

A.2 情報メッセージ

重要度が「情報」のメッセージを、メッセージIDごとに示します。これらのメッセージは、情報を提供する目的で表示されます。

A.2.1 11xxx

112xx

11200: ファームウェアアップデートを行う必要が無い装置に対して選択が行われました。

差分のある版数の装置を選択してください。

11201: 版数が取得できない装置に対して選択が行われました。

リポジトリに対象装置のファームウェアが存在しません。リポジトリの内容を確認してください。

11202: 現行版数が取得できていない装置に対して選択が行われました。

[更新] ボタンをクリックして現行版数を取得してください。

11220:ファームウェアアップデート対象外の装置です。

「管理対象機器ごとに実施可能なメンテナンス支援機能」を参照し、ファームウェアアップデート対象となっている装置を選択してください。

A.2.2 15xxx

154xx

15401: Start exporting firmware files to an FTP server.

対処は不要です。

A.2.3 16xxx

160xx

16000: Success to update firmware.

対処は不要です。

16001: Start copy firmware to TFTP directory from repository directory.

対処は不要です。

16002: Start updating firmware.

対処は不要です。

16003: Start check firmware update.

対処は不要です。

161xx

16100: Success to update firmware.

対処は不要です。

16101: Start getting information of PRIMEQUEST.

対処は不要です。

16102: Start updating firmware MMB.

対処は不要です。

16103: Start updating firmware BMC.

対処は不要です。

16104: Start updating firmware BIOS.

対処は不要です。

162xx

16200: Success to update the firmware.

対処は不要です。

16201: Success to cancel the firmware update.

対処は不要です。

164xx

16400: Preparing firmware update.

対処は不要です。

16401: Start updating firmware.

対処は不要です。

16402: Success to update firmware.

対処は不要です。

166xx

16600: Success to update firmware.

対処は不要です。

16601: Start updating firmware.

対処は不要です。

168xx

16800: Success to update firmware.

対処は不要です。

16801: Start updating firmware.

対処は不要です。

A.3 警告メッセージ

重要度が「警告」のメッセージを、メッセージIDごとに示します。これらのメッセージは、警告を提供する目的で表示されます。

A.3.1 31xxx

312xx

31201: <ラック搭載位置情報>

FCスイッチブレードのアカウント情報に未入力の項目があります。

FCスイッチブレードのアカウント情報を確認してください。

31202: <ラック搭載位置情報>

ストレージのアカウント情報に未入力の項目があります。

ストレージのアカウント情報を確認してください。

31204: <ラック搭載位置情報>

上記のストレージのパスワードが一致しません。

パスワードが再入力の値と一致しませんでした。2つの欄のパスワードが一致するように再入力してください。

31205: <ラック搭載位置情報>

上記のFCスイッチブレードのユーザ名の文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

31206: <ラック搭載位置情報>

上記のFCスイッチブレードのパスワードの文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

31207: <ラック搭載位置情報>

上記のストレージのユーザ名の文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

31208: <ラック搭載位置情報>

上記のストレージのパスワードの文字数が不正です。

装置の仕様に従って正しい文字数で入力してください。

31209: <ラック搭載位置情報>

上記のFCスイッチブレードのパスワードが一致しません。

パスワードが再入力の値と一致しませんでした。2つの欄のパスワードが一致するように再入力してください。

31210: <ラック搭載位置情報>

上記のFCスイッチブレードのユーザ名に使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

31211: <ラック搭載位置情報>

上記のストレージのユーザ名に使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

31212: <ラック搭載位置情報>

上記のFCスイッチブレードのパスワードに使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

31213: <ラック搭載位置情報>

上記のストレージのパスワードに使用できない文字があります。

装置の仕様に従って、使用可能な文字を入力してください。

A.3.2 35xxx

354xx

35401: Request has already running.

情報更新処理、またはファームウェアアップデートはすでに実行中です。処理が完了するまでしばらくお待ちください。

35402: Firmware update is running.

ファームウェアアップデートが実施中のため情報の更新が行えません。ファームウェアアップデート完了後に再度実施してください。

35403: Refresh information is running.

情報更新処理が実施中のためファームウェアアップデートが行えません。情報更新処理完了後に再度実施してください。

A.3.3 36xxx

362xx

36200: Failed to access Profile Manager.

プロファイル管理機能へのアクセスに失敗しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

36201: Failed to get information from Profile Manager.

プロファイル管理機能からの情報取得に失敗しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

36202: No firmware has been updated.

ファームウェアがアップデートされませんでした。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

36211: An internal error occurred on the command of Profile Manager.

プロファイル管理機能のコマンドで内部エラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

36212: An invalid parameter was specified to the command of Profile Manager.

不正なパラメータを検出しました。選択されたサーバについて、SVOMに登録されたBMCのIPアドレスやISMに登録されたリポジトリの情報が正しいことを確認してください。

36213: A connection error occurred on the command of Profile Manager.

プロファイル管理機能のコマンドで接続エラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

36214: An internal error occurred on the service process of Profile Manager.

プロファイル管理機能のサービスプロセスで内部エラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

36220: The selected server is not registered on the Profile Manager.

選択されたサーバはプロファイル管理機能に登録されていません。ISMとSVOMにおけるターゲットサーバのBMCのIPアドレスが正しいことを確認してください。

36221: The selected machine was not identified as a server by Profile Manager.

選択された装置はプロファイル管理機能でサーバとして認識されていません。ISMとSVOMにおけるターゲットサーバのBMCのIPアドレスが正しいことを確認してください。

36223: Profile Manager has already executed other task for the specified server.

プロファイル管理機能によって指定されたサーバについて、ほかのタスクがすでに実行されています。タスクが終了し、サーバの電源がオフであることを確認したあと、再度実行してください。

36224: The task of Data Import is running on Profile Manager.

プロファイル管理機能のデータインポートのタスクが動作中です。タスクが終了したあとに操作を実行してください。

36225: Firmware update process has already been running on the specified server.

指定したサーバではファームウェアのアップデートがすでに実行されています。必要な場合はしばらくしてから再度、操作を実行してください。

36226: No repository path was registered on the Profile Manager.

プロファイル管理機能にリポジトリのパスが登録されていません。「[3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備](#)」を参照してリポジトリを登録してください。

36227: It is over the maximum number which can perform firmware update of servers simultaneously.

サーバのファームウェアアップデートの同時に実行可能な最大数を超えました。しばらくしてから再度、操作を実行してください。

36228: The specified firmware repository was not found.

指定されたファームウェアのリポジトリが見つかりません。「[3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備](#)」を参照してリポジトリを登録してください。

36229: A process which obtains TFTP root path failed on the Profile Manager.

プロファイル管理機能のTFTPルートパスを持つプロセスでエラーが発生しました。TFTPサービスとISMのサービスを再起動してください。

36230: Timeout error occurred on the firmware update process.

ファームウェアのアップデート処理がタイムアウトしました。ISMが正常に動作しているかを確認してください。

36237: BMC (iRMC) account error occurred.

BMC(iRMC)アカウントのエラーが発生しました。サーバのBMC (iRMC)のアカウント設定が正しいことを確認してください。

36238: A connection error occurred with BMC (iRMC) the target server.

サーバのBMC (iRMC)との接続でエラーが発生しました。BMC (iRMC)と正常にネットワークが接続されていることを確認してください。

36239: An IPMI I/O error occurred.

IPMI I/Oエラーが発生しました。ISMの設定が正しいことを確認してください。

36240: An IPMI command error occurred.

IPMIのコマンドでエラーが発生しました。サーバでエラーが発生していないかを確認してください。

36241: DHCP service error occurred.

DHCPサービスでエラーが発生しました。ISMのサービスを再起動してください。

36242: DHCP scope/sub-net error occurred.

DHCPのスコープ／サブネットのエラーが発生しました。ISMのDHCP設定が正しいことを確認してください。

36243: An internal XML file error occurred after the firmware update process.

ファームウェアのアップデート処理後に内部XMLファイルのエラーが発生しました。プロファイル管理機能が正常に動作していることを確認してください。

36247: The IP address for PXE boot was not able to be acquired.

PXEブート用のIPアドレスの取得に失敗しました。しばらくしてから再度、操作を実行してください。

36248: The specified sever was not found.

指定されたサーバが見つかりません。プロファイル管理機能の対象サーバのMACアドレスが登録されていることを確認してください。

36249: The MAC address for the admin-LAN port was not able to be acquired.

管理LANポートのMACアドレスの取得に失敗しました。サーバでエラーが発生していないかを確認してください。

36250: The specified server is not power off.

指定されたサーバの電源がオフになっていません。サーバの電源がオフになっていることを確認したあと、再度操作を実行してください。

36254: A fatal error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能で重大なエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36255: A general error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36256: A system service error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でシステムサービスエラーが発生しました。ディスク容量、フォルダーの権限を確認してください。

36257: A timeout error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でタイムアウトエラーが発生しました。対象サーバのステータスを確認してください。

36258: Boot timeout error occurred at the PXE boot.

PXEブートでブートタイムアウトエラーが発生しました。サーバのPXE設定が正しいことを確認してください。

36259: Firmware update error occurred.

ファームウェアアップデートエラーが発生しました。対象サーバと正常にネットワークが接続されていることを確認してください。

36260: Time synchronization error occurred.

時刻同期エラーが発生しました。対象サーバとの時刻同期設定が正しいことを確認してください。

36263: A profile format error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でプロファイルフォーマットエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36264: A profile access error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能でプロファイルアクセスエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36265: TFTP root path error occurred.

TFTPルートパスのエラーが発生しました。TFTPサービスが正しくインストールされていることを確認してください。

36266: Work file/folder access error occurred on Profile Manager.

プロファイル管理機能で作業ファイル・フォルダーへのアクセスに失敗しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36267: Onetime PXE Boot timeout error occurred.

OneTime PXEブート設定のタイムアウトエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36268: PXE service request error occurred.

PXEサービスのリクエストエラーが発生しました。PXEサービスが正常に動作していることを確認してください。

36269: Infrastructure setting file error occurred.

Infrastructureファイルエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

36270: Multiple Job API error occurred.

多重指定のAPIジョブエラーが発生しました。ISMが正常に動作していることを確認してください。

364xx

36400: Failed to upload firmware file. File size is too large.

ファームウェアファイルが異常です。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

36401: Failed to get events from ServerView Fabric Manager.

SVFABからの情報取得に失敗しています。SVFABが正しく動作していることを確認してください。
また、「[SVFAB設定ファイル](#)」を参照し設定が正しいことを確認してください。

36402: Failed to start firmware update via ServerView Fabric Manager.

SVFABへのファームウェアアップデート指示が失敗しています。SVFABが正しく動作していることを確認してください。また、「[SVFAB設定ファイル](#)」を参照し設定が正しいことを確認してください。

36403: Failed to update firmware.

ファームウェアのアップデートに失敗しています。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

36404: Failed to update firmware because of time out.

SVFABとの通信タイムアウトが原因でファームウェアアップデートの結果を受信できていません。SVFABを使用してファームウェアアップデートの結果を確認してください。

A.4 エラーメッセージ

重要度が「エラー」のメッセージを、メッセージIDごとに示します。これらのメッセージは、異常が発生した場合に原因を示す目的で表示されます。

A.4.1 51xxx

512xx

51200: リポジトリの取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51201: ファームウェアアップデート一覧の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51202: ファームウェアアップデート一覧の更新時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51203: タスク情報一覧の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51204: タスク情報一覧の更新時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51205: タスク詳細情報の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51206: リリースノート情報の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51207: ファームウェアアップデート時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51208: システムプロパティファイルの取得に失敗しました。

システムプロパティファイルの読み込みに失敗しています。インストール環境が破損している可能性があります。プログラムを再インストールしてください。

51209: 言語ファイルの取得に失敗しました。

言語ファイルの読み込みに失敗しています。インストール環境が破損している可能性があります。プログラムを再インストールしてください。

51210: リポジトリの取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

リポジトリの取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51211: ファームウェアアップデート一覧の取得に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

ファームウェアアップデート一覧の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51212: ファームウェアアップデート一覧の更新に失敗しました。 詳細は下記のメッセージIDを参照してください。 <メッセージID>

ファームウェアアップデート一覧の更新に、<メッセージID>が原因で失敗しています。
<メッセージID>の内容を確認してください。

51213: タスク情報一覧の取得に失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

タスク情報一覧の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51214: タスク情報一覧の更新に失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

タスク情報一覧の更新に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51215: タスク詳細情報の取得に失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

タスク詳細情報の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51216: リリースノート情報の取得に失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

リリースノート情報の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51217: ファームウェアアップデートに失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

ファームウェアアップデートに、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51218: URL作成時に例外エラーが発生しました。

リリースノート格納先のファイルパスをURL形式に変換するときに例外エラーが発生しています。
システム管理者に連絡してください。

51219: アカウント情報の取得時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51220: アカウント情報の取得に失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

アカウント情報の取得に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

51221: アカウント情報の保存時に例外エラーが発生しました。

システム管理者に連絡してください。

51222: アカウント情報の保存に失敗しました。
詳細は下記のメッセージIDを参照してください。
<メッセージID>

アカウント情報の保存に、<メッセージID>が原因で失敗しています。<メッセージID>の内容を確認してください。

A.4.2 52xxx

520xx

52000: レジストリの参照に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度インストールしてください。

**52001: システム上に古いバージョンを検出しました。
古いバージョンを削除してから新しいバージョンをインストールしてください。**

古いバージョンを削除してから新しいバージョンをインストールしてください。

**52002: ServerView Infrastructure Managerがインストールされていません。
ServerView Infrastructure Managerのインストール後にServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールを実行してください。**

ISMのインストール後にServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールを実行してください。

52003: ServerView Operations Managerのインストールフォルダパスの取得に失敗しました。

SVOMが正しくインストールされていることを確認してください。

**52004: ServerView Life Cycle Managerのインストールに失敗しました。
一度アンインストールし、環境が正しいことを確認した後、再度インストールを実行してください。**

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認した後、再度インストールを実行してください。

52005: ServerView Hardware Life Cycle Managerのサービス(SVHLCSMService)の停止に失敗しました。

サービスを停止してから、再度実行してください。

52006: ServerView Hardware Life Cycle Managerのインストールフォルダパスの取得に失敗しました。

システム管理者に連絡してください。

52007: ServerView Hardware Life Cycle Managerのアップデートに失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アップデートインストールを実行してください。

52008: インストーラの多重起動のチェックに失敗しました。

インストーラがほかに起動していないことを確認し、再度実行してください。

52009: インストーラが既に起動しているため、処理を中断します。

すでに起動しているインストーラを使用して作業を継続してください。

52010: DBの作成に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52011: DBの削除に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アンインストールを実行してください。

52012: DBバックアップ情報の追加に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52013: DBバックアップ情報の削除に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アンインストールを実行してください。

52014: SVHLCSMServiceのサービス登録に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52016: SVHLCSMServiceのサービス登録削除に失敗しました。

環境が正しいことを確認したあと、再度アンインストールを実行してください。

52017: ServerViewDB.iniファイルのコピーに失敗しました。

SVOMが正しくインストールされていることを確認してください。

52018: Keytoolの実行に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52019: コンピュータ名の取得に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52020: servicesファイルへのポート情報の書き込みに失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

52021: SQL Serverが見つかりませんでした。

SQL Serverがインストールされていることを確認してください。

52022: フォルダの削除に失敗しました。

インストールフォルダおよびその配下のフォルダ、ファイルを削除してください。

52023: DBの変更に失敗しました。

一度アンインストールし、環境が正しいことを確認したあと、再度インストールを実行してください。

A.4.3 55xxx

550xx

55030: communication error with target server. (%s)

HLCMサービスとの通信に失敗しました。HLCMサービスが起動していること、ネットワークの状態、ファイアーウォールの設定などを確認してください。

55034: communication error with target server. (%s)

HLCMサービスとの通信に失敗しました。HLCMサービスが起動していること、ネットワークの状態、ファイアーウォールの設定などを確認してください。

552xx

55200: SVHLCM is not in running status.

メンテナンス支援機能サービスの起動がまだ完了していません。
しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。

55201: target server connection failed.

内部通信エラーが発生しました。しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。それでも改善されない場合は、メンテナンス支援機能サービスを再起動してください。

554xx

55400: SVHLCM is not in running status.

メンテナンス支援機能サービスの起動がまだ完了していません。
しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。

55401: Illegal request data. %s

内部通信でエラーが発生しました。
システム管理者に連絡してください。

55403: Failed to access database.

データベースのアクセスに失敗しました。SQL Server のサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

55404: Timeout occurred while waiting for the process has finished.

装置の情報取得中にタイムアウトが発生しました。装置が正常に動作していることを確認してください。

55405: Interruption occurred. SVHLCM Service might have stopped.

処理が中断されました。メンテナンス支援機能サービスが停止された可能性があります。メンテナンス支援機能のサービスの状態を確認してください。

55406 Failed to add data to database. %s

データベースへのデータ登録中にエラーが発生しました。SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

55407: Failed to get data from database. %s

データベースから情報取得中にエラーが発生しました。SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

55410～55425: Failed to get <データ名> data from database.

データベースから<データ名>の情報取得中にエラーが発生しました。SQL Server のサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

55430: Failed to set data to database.

データベースへのデータ登録中にエラーが発生しました。SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

55435: Failed to get information from NetApp(%s).

NetApp装置から情報が取得できませんでした。SVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバから対象装置に対してSSH接続可能なことを確認してください。

55436: Failed to get information from FC/CNA card(%s).

FC/CNAカードから情報が取得できませんでした。FC/CNAカードが正しく装着されていることを確認してください。また、管理サーバからFC/CNAカードが搭載されているサーバに対して接続可能な状態になっていることを確認してください。

55440: Failed to get information from Management Software(%s).

管理ソフトウェアから情報が取得できませんでした。SVOM、ファシリティ管理機能、プロファイル管理機能が正しく動作していることを確認してください。

また、SQL Serverのサービス稼働状態と、データベースのファイルが破損していないことを確認してください。

55441: Failed to get information (%s) from SVFAB.

SVFABからの情報取得に失敗しています。SVFABが正しく動作していることを確認してください。

また、「**SVFAB設定ファイル**」を参照し設定が正しいことを確認してください。

%sがSVFABに登録されていることを確認してください。また、%sが登録されている場合はステータスが正常であることを確認してください。

55442: Failed to get information from MMB(%s).

MMBから情報が取得できませんでした。ファシリティ管理機能、およびSVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバからMMBに対してSSH接続可能なことを確認してください。

55443: Failed to get information from iRMC(%s).

サーバから情報が取得できませんでした。ファシリティ管理機能、プロファイル管理機能、SVOMで対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバから対象装置のiRMCに対してSSH接続可能なことを確認してください。

55444: Failed to get information from Firmware Repository Path(%s).

リポジトリ情報取得に失敗しています。「[3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備](#)」を参照し、リポジトリを登録し直してください。

55445: Failed to get information from Storage(%s).

ストレージ装置から情報が取得できませんでした。SVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバから対象装置に対して[\[共通設定\] 画面](#)で入力したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。

55446: Failed to get information from PRIMEQUEST(%s).

PRIMEQUESTから情報が取得できませんでした。SVOMに対して対象装置の登録が正しく行われていることを確認してください。また、管理サーバから対象装置に対してSVOMに設定されているコミュニティ名でSNMPアクセス可能な状態になっていることを確認してください。

55447: Failed to get firmware from repository.

システム管理者に連絡してください。

55448: Failed to get FTP parameter.

[Setup]画面でFTPサーバIPアドレス、ユーザ名、パスワードを設定してください。

55449: Failed to export firmware file because of deleting.

しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。

55450: Failed to connect FTP server.

管理サーバからFTPサーバに対して、FTP接続可能なことを確認してください。

55451: Failed to export firmware file to FTP server.

FTPサーバの状態を確認してください。

55452: Failed to get information for update command.

アップデートに必要な情報の取得に失敗しました。対象装置のログインアカウント情報、FTPサーバのログイン情報が正しく設定されているか確認してください。

A.4.4 56xxx

560xx

56001: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

56005: Failed to connect MMB.

MMBに接続できません。管理サーバからMMBに対してSSH接続可能なことを確認してください。

56006: Failed to get information of SNMP.

MMBに対するSNMP接続ができません。管理サーバからMMBに対してSNMP接続可能なことを確認してください。

56007: Failed to get status of MMB that has been expected.

MMBの状態取得に失敗しました。すでにMMBがファームウェアアップデート中の可能性がありますので状態を確認してください。

56008: Failed to start firmware update.

ファームウェアアップデートの開始に失敗しています。システム管理者に連絡してください。

56010: Failed to export the firmware.

ファームウェアの転送に失敗しています。TFTPサービスの状態、ファイアーウォールの設定を確認してください。

561xx

56101: An invalid parameter was specified to the command.

パラメーターが不正です。PRIMEQUESTのアカウント情報が設定されているか確認してください。

56102: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

56104: Failed to connect MMB.

PRIMEQUESTのMMBに接続できません。管理サーバからPRIMEQUESTのMMBに対してSSH接続可能なことを確認してください。

56107: Can not firmware update because of power restoration policy is Always ON.

電源ポリシーがAlways ONのため、ファームウェアアップデートが行えません。電源ポリシーを変更してください。

56109: Failed to start firmware updating because permission denied.

ファームウェアアップデート権限がないため、ファームウェアアップデートに失敗しました。ユーザ名を確認してください。

56113: Failed to start firmware updating because of FTP server does not respond.

FTPサーバからの応答がありません。FTPサービスの状態、ファイアーウォールの設定を確認してください。

56117: Failed to get update status.

システム管理者に連絡してください。

56118: Failed to firmware update.

システム管理者に連絡してください。

56119: Timeout error occurred on the firmware update process.

システム管理者に連絡してください。

564xx

56400: Failed to read firmware file.

ファームウェアファイルの読み込みに失敗しています。リポジトリに登録されているファームウェアファイルが正しいことを確認してください。

56401: Failed to get events from ServerView Fabric Manager. Exception has occurred.

システム管理者に連絡してください。

56402: Failed to start firmware update via ServerView Fabric Manager. Exception has occurred.

システム管理者に連絡してください。

566xx

56602: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

56604: Failed to connect STORAGE.

ストレージに接続できません。管理サーバからストレージに対してSSH接続可能なことを確認してください。また、[\[共通設定\] 画面](#)でユーザ名、パスワードが正しいことを確認してください。

56605: Failed to change maintenance mode.

メンテナンスモードの移行に失敗しました。[\[共通設定\] 画面](#)で入力したユーザ名が、メンテナンス権限であるか確認してください。メンテナンスモードの場合は、ノーマルモードに移行してから再度実行してください。

56606: Failed to import firmware because of time out.

ファームウェアの転送に失敗しました。システム管理者に連絡してください。

56607: Failed to import firmware.

FTPサーバからの応答がありません。FTPサービスの状態、ファイアーウォールの設定を確認してください。

56609: Failed to update firmware because of firmware cannot be downgraded.

ファームウェアのダウングレードが行えません。更新後版数を確認してください。

56610: Failed to update firmware.

システム管理者に連絡してください。

56611: Catch Interrupted Exception.

SSHでストレージに接続できる状態になってから、「`apply firmware -application-type hot-continue`」コマンドを実行し、メンテナンスモードからノーマルモードに移行してください。

56612: Failed to change normal mode.

システム管理者に連絡してください。

568xx

56802: Failed to initialize.

システム管理者に連絡してください。

56805: Failed to get file name.

システム管理者に連絡してください。

56806: Failed to disconnect FTP servers.

FTPサーバからの切断に失敗しました。FTP サービスが正しく稼働していることを確認してください。

56807: Failed to get firmware name.

ファームウェア情報の転送に失敗しました。FTP サービスが正しく起動されていること、管理サーバ、およびファームウェアアップデート対象装置から接続可能なことを確認してください。

56808: Failed to connect MMB.

MMBに接続できません。管理サーバからMMBに対してSSH接続可能なことを確認してください。

56809: Failed to ConsoleRedirection.

システム管理者に連絡してください。

56811: Failed to login FCSW.

[共通設定] 画面でユーザ名、パスワードが正しいことを確認してください。

56812: Failed to update firmware because of time out.

システム管理者に連絡してください。

56813: Failed to update firmware.

アップデートに失敗しました。FCスイッチブレードから、FTPサーバに接続できるか確認してください。

56814: Failed to update firmware because of permission denied.

アップデート用の権限ではないため、ファームウェアアップデートに失敗しました。[共通設定] 画面でユーザ名、パスワードを変更してください。

A.4.5 58xxx

588xx

58801: Failed to read settings files.

内部処理で設定ファイルの読み込みに失敗しています。
システム管理者に連絡してください。

58802: Failed to load interface library for ServerView Fabric Manager.

内部処理でSVFAB連携モジュールのライブラリの読み込みに失敗しています。
システム管理者に連絡してください。

A.4.6 75xxx

754xx

75400: Internal error has occurred.

内部処理エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。

A.4.7 95xxx

954xx

95400: Internal error has occurred. Message Not Found.

内部処理エラーが発生しました。システム管理者に連絡してください。

A.5 システムログに出力されるメッセージ

システムログに出力されるメッセージの見方

表示されるIDとメッセージ、およびその際の説明や対処を以下のとおり記載します。

ID<ソース>:メッセージ

説明・対処を記載します。

A.5.1 情報メッセージ

100<SVHLCM>: SVHLCM starting

メンテナンス支援機能サービスが起動処理を開始しました。

101<SVHLCM>: SVHLCM started

メンテナンス支援機能サービスが正常に起動しました。

102<SVHLCM>: SVHLCM stopping

メンテナンス支援機能サービスが停止処理を開始しました。

103<SVHLCM>: SVHLCM stopped

メンテナンス支援機能サービスが正常に停止しました。

A.5.2 警告メッセージ

システムログに出力される警告メッセージはありません。

A.5.3 エラーメッセージ

700<SVHLCM>: SVHLCM start failed (error code: %d)

メンテナンス支援機能サービスの起動に失敗しました。

しばらく時間をおいたあと、再度実行してください。問題が解消されない場合はシステム管理者へ連絡してください。

付録B トラブルシューティング

B.1 メンテナンス支援機能に関するトラブルシューティング

メンテナンス支援機能の操作時に問題が発生した場合の対処方法を、操作の種類ごとに示します。

エラーメッセージが表示される場合は、メッセージの内容に従い適切な処置を行ってください。

サービスの起動

事象: SVHLCM Service が起動しない。

想定原因／対処

- サービスのログオンアカウントに、メンテナンス支援機能が使用する SQL サーバ上のデータベースへの sysadmin ロールが付与されていることを確認してください。
メンテナンス支援機能が使用するデータベース名は SvhlcmDB、および SvpmDB となります。

リポジトリ選択

事象: リポジトリの選択肢が表示されない。

想定原因／対処

- 「3.2 ファームウェアアップデート／OSインストールの準備」を参照し、リポジトリを登録してください。

ファームウェアアップデート一覧表示画面表示

事象: 一覧のテーブルに何も表示されない。

想定原因／対処

- 「対象リポジトリ」でリポジトリを選択してください。
- SVOMの[サーバリスト]機能で機器が登録され、監視できているか確認してください。

事象: 特定の機器の情報が表示されない。機器が認識されない。

想定原因／対処

- サポート対象の機器であるかどうか確認してください。
- SVOMの[サーバリスト]機能で機器が登録され、監視できているか確認してください。
- サーバの場合、SVOMにBMCのIPアドレスが登録されていることを確認してください。

事象: 更新後版数が表示されない。

想定原因／対処

- 選択しているリポジトリに対応するファームウェアが入っているか確認してください。

事象: MMBのファームウェア現行版数が表示されない。

想定原因／対処

- 「5.2 機器の登録」に従ってファシリティ管理機能でMMBのアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバからMMBに対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。

事象: ラックの情報が表示されない。

想定原因／対処

- 「5.2 機器の登録」に従って、ファシリティ管理機能でラック情報が登録されていることを確認してください。

事象: サーバ(iRMC/BIOSファームウェア)のファームウェア現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- 「[5.2 機器の登録](#)」に従ってプロファイル管理機能で対象装置が管理されていることを確認してください。
- iRMC (BMC) のssh機能が無効化されていないか確認してください。
- 管理サーバからiRMCに対してプロファイル管理機能で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。

事象: L2スイッチ、コンバードファブリックスイッチ、または コンバードファブリックスイッチブレードのファームウェア現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- SVOMに対象のスイッチ機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- SVFABに対象のスイッチ機器が登録されていること、機器の情報が正しく認識できていることを確認してください。
- 「[SVFAB設定ファイル](#)」に従って、SVFABの通信ポート番号の設定と、ISMメンテナンス支援機能の定義ファイルが正しく設定されていることを確認してください。

事象: コンバードファブリックスイッチブレードのスロット、またはコンバードファブリックスイッチのラック／搭載位置が表示されない。**想定原因／対処**

- 「[5.2 機器の登録](#)」に従って、ファシリティ管理機能で、コンバードファブリックスイッチの設定 (Fabric ID/Domain ID/Switch ID) が正しく行われていることを確認してください。

事象: ETERNUS DXシリーズの現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- [\[共通設定\] 画面](#)のアカウントの設定を確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、[\[共通設定\] 画面](#)で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。

事象: PRIMEQUESTの現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- SVOMに対象機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、SVOMで設定したコミュニティ名でSNMP接続可能なことを確認してください。

事象: FCスイッチブレードの現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- 「[5.2 機器の登録](#)」に従ってファシリティ管理機能でMMBのアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバからMMBに対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。

事象: ETERNUS NRシリーズの現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- SVOMに対象機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- 「[5.2 機器の登録](#)」に従ってファシリティ管理機能で対象装置のアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。
- 対象装置が7-modeで動作していることを確認してください。
- 対象装置に対して、ユーザ、または他の管理ソフトウェアなどがSSH接続していないことを確認してください。ETERNUS NRシリーズは、7-modeの場合、SSH接続できるセッション数は1つとなっています。

事象: FC/CNAカードの現行版数が表示されない。**想定原因／対処**

- 対象サーバが電源ONであり、OSが正常に起動していることを確認してください。
- 「[5.2 機器の登録](#)」に従ってファシリティ管理機能で、対象サーバ／対象パーティション上のOSのアカウント情報が正しく登録されていることを確認してください。
- 「[3.8 メンテナンス機能のための設定変更](#)」に従い、正しく設定されていることを確認してください。

ファームウェアアップデート

事象: MMBのアップデートができない。アップデートが失敗する。**想定原因／対処**

- 「[tftp設定ファイル](#)」に従って、TFTPのIPが設定ファイルに定義されていることを確認してください。
- 「[5.2 機器の登録](#)」に従ってファシリティ管理機能でMMBのアカウント情報が登録されていることを確認してください。
- 管理サーバからMMBに対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。

事象: サーバ(iRMC/BIOS)のアップデートができない。アップデートが失敗する。**想定原因／対処**

- サーバの電源がOFFになっていることを確認してください。
- プロファイル管理機能で検出/管理されていることを確認してください。
- プロファイル管理機能の設定ができていないか確認してください(特にPXEブート関連の設定や構成)。
- 選択しているリポジトリに収録されたファームウェアの版数が、サーバ(iRMC/BIOS)のファームウェアの版数より新しいことを確認してください。メンテナンス支援機能では古い版数のファームウェアにダウングレードさせることはできません。
- ISMのサポート対象の機器(モデル)であるか確認してください。

事象: L2スイッチ、コンバードファブリックスイッチ、またはコンバードファブリックスイッチブレードのアップデートができない。アップデートが失敗する。**想定原因／対処**

- SVFABのサービスが動作していることを確認してください。
- SVFABに対象のスイッチ機器が登録されていること、機器の情報が正しく認識できていることを確認してください。
- SVFABの通信ポート番号の設定と、ISMメンテナンス支援機能の定義ファイルが正しく設定されていることを確認してください。
- 『Fujitsu Software ServerView Fabric Manager Network Management インストールガイド』に従ってFTPサーバのインストールが実施されていることを確認してください。
- 『Fujitsu Software ServerView Fabric Manager Network Management 取扱説明書』に従ってFTPサーバへのログインアカウント登録が実施されていることを確認してください。

事象: ETERNUS DXシリーズのアップデートができない。アップデートが失敗する。**想定原因／対処**

- [\[共通設定\] 画面](#)のアカウント設定を確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、[\[共通設定\] 画面](#)で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。
- 管理サーバ、および対象装置から「[3.3 FTPサーバの設定 \(ISM\)](#)」で設定したFTPサーバに対してFTP接続可能なことを確認してください。

事象: PRIMEQUESTのアップデートができない。アップデートが失敗する。

想定原因／対処

- SVOMに対象機器が登録されていること、機器の情報が正しいことを確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、ファシリティ管理機能で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。
- 管理サーバ、および対象装置から「3.3 FTPサーバの設定 (ISM)」で設定したFTPサーバに対してFTP接続可能なことを確認してください。この際、匿名でアクセス可能なことを確認してください。

事象: FCスイッチブレードのアップデートができない。アップデートが失敗する。

想定原因／対処

- [共通設定] 画面のアカウント設定を確認してください。
- 管理サーバから対象装置に対して、[共通設定] 画面で設定したアカウント情報でSSH接続可能なことを確認してください。
- 管理サーバ、および対象装置から「3.3 FTPサーバの設定 (ISM)」で設定したFTPサーバに対してFTP接続可能なことを確認してください。
- 適切なFC Switchblade Firmware DVDがインポートされていることを確認してください。

B.2 プロファイル管理に関するトラブルシューティング

プロファイル管理の操作時に期待どおりに動作しない場合は、該当する事象を参照して問題を検出してください。
エラーメッセージが表示される場合は、メッセージの内容に従い適切な処置を行ってください。

機器検出／登録

事象: PRIMERGYサーバが自動検出されない。

想定原因／対処

- [最新の状態に更新] ボタンがクリックされないで新しく検出された機器は表示されません。[最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。
- ツリー選択やチェックボックスで表示対象が絞り込まれていると目的の機器が表示されない場合があります。ツリー選択状態、絞り込みのチェックボックスを確認してください。タブは [全ノード] または [検出] を選択してください。
- 電源ケーブルが接続されているか、電源が供給されているかを確認してください。
- LANケーブルがiRMC Management LANコネクタに正しく接続されているか確認してください。
- ネットワーク、電源の接続直後の場合は検出されていない可能性があります。1分ほど待ってから[最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。
- 対象サーバのiRMC IPアドレス設定がDHCPになっていないと自動検出されません。DHCPに設定するか、手動検出を行ってください。
- DHCP設定が正しく設定されているか確認してください。
- DHCPサービスが管理サーバ上で動作していることを確認してください。
- DHCPで割り当てられるIPアドレスが不足していると新しく接続されたサーバは自動検出されません。[DHCP設定]画面でIPアドレス範囲が十分であるか確認してください。また、DHCPでIPアドレスを利用中の機器が多数接続されていないか確認してください。
- 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント(admin)が変更されていると、ISMのデフォルト設定では検出されません。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は、[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示して設定してください。
- 対象サーバがすでに登録済みではないか確認してください。
- 検出しようとするサーバがサポートされているか確認してください。プロファイル管理機能の版数が古いと最新サーバに対応していない場合があります。

- 機器のモデル名やシリアル番号が正しく取得できない場合は、サポート対象機器と判断されません。対象機器上で正しい値であるか確認してください。

事象:手動検出で機器が検出されない(PRIMERGYサーバ/MMB/ETERNUS共通)。

想定原因／対処

- [最新の状態に更新] ボタンがクリックされないで新しく検出された機器は表示されません。[最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。
- 手動検出開始から、実際に機器が検出されるまでに時間がかかる場合があります。特に検出範囲を広く指定した場合は時間を要します。1分ほど待ってから再度[最新の状態に更新] ボタンをクリックしてください。
- ツリー選択やチェックボックスで表示対象が絞り込まれていると目的の機器が表示されない場合があります。ツリー選択状態、絞り込みのチェックボックスを確認してください。タブは[全ノード] または [検出] を選択してください。
- 対象サーバがすでに登録済みではないか確認してください。
- 検出しようとするサーバがサポートされているか確認してください。プロファイル管理機能の版数が古いと最新サーバに対応していない場合があります。
- 機器のモデル名やシリアル番号が正しく取得できない場合は、サポート対象機器と判断されません。対象機器上で正しい値であるか確認してください。

事象:手動検出で機器が検出されない(PRIMERGYサーバ固有)。

想定原因／対処

- サーバに電源ケーブルが接続されていて、電源が供給されていることを確認してください。サーバブレードの場合はシャーシの電源をオンにしてください。
- iRMC LANコネクタに正しくケーブルが接続されていることを確認してください。
- ケーブル接続直後やDHCPから固定IPアドレスに変えた直後は、サーバが検出可能になるまでに多少時間を要するため、1分ほど待ってから手動検出を行ってください。
- 対象サーバのIPアドレス設定が正しいか、ネットワークが正常に動作しているかを確認してください。例えば、Webブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。
- 対象サーバのiRMC IPアドレス設定がDHCP設定になっている場合は、該当IPアドレスを指定しても手動検出されません。
- 検出しようとするサーバのIPアドレスがすでに本ソフトウェアで登録中の別装置と重複している場合は手動検出されません。
- 対象サーバのデフォルトiRMCアカウント(admin)を変更していると、ISMのデフォルト設定では検出されません。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されていたりする場合は、[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示して設定してください。

事象:手動検出で機器が検出されない(ブレード(MMB)固有)。

想定原因／対処

- シャーシに電源が供給されていないと検出できません。電源状態を確認してください。
- LANケーブルがMMBに接続されていて、MMBのIPアドレスが正しく設定されていることを確認してください。例えば、Webブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。
- SNMP設定を利用して検出するため、MMBに対するSNMPコミュニティ名およびSNMP読み出し設定を行ってください。また手動検出時に正しいSNMPコミュニティ名を入力しておきます。

事象: 手動検出で機器が検出されない(PRIMEQUEST固有)。

想定原因／対処

- サーバに電源ケーブルが接続されていて、電源が供給されていることを確認してください。
- MMBのIPアドレス設定が正しいか、ネットワークが正常に動作しているかを確認してください。例えば、Webブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。

- PRIMEQUESTの検出にはRemote Server Managementのユーザを利用します。対象装置にユーザが作成されていること、作成先がUser AdministrationのUser Listでないこと、および[Setup]の画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示してユーザ／パスワードが設定されていることを確認してください。

事象: 手動検出で機器が検出されない(ストレージETERNUS固有)。

想定原因／対処

- ETERNUSの電源がオンになっていない場合は検出されません。電源をオンにした状態で検索を行ってください。
- LANケーブルがCMのMNTポートに正しく接続されていて、IPアドレスが正しく設定されていることを確認してください。例えば、Webブラウザから「http://(IPアドレス)」へアクセス可能であるか確認してください。
- SNMP設定を利用して検出するため、シリーズによって以下の対応を行ってください。
 - ETERNUS DX/NRシリーズ
SNMPコミュニティ名およびSNMP読み出し設定を行ってください。また、手動検出時に正しいSNMPコミュニティ名を入力してください。
 - ETERNUS TRシリーズ
SNMP設定、および[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示してSNMPv3の通信に必要な情報を設定してください。
- ETERNUS DXシリーズの場合、管理者用のデフォルトログインアカウント(root)を変更していると、ISMのデフォルト設定では機器が検出されません。アカウントが削除されていたり、パスワードが変更されている場合は、[Setup]画面の左側から[ユーザ／パスワード設定]画面を表示して設定してください。

事象: CX400 M1シャーシが手動検出されない。

想定原因／対処

- CX400 M1は搭載されているサーバブレードを検出した際に自動的に検出されます。サーバブレードの検出を行ってください。

事象: ブレードシャーシに搭載されているコネクションブレードが検出されない。

想定原因／対処

- コネクションブレードはノード一覧画面には表示されません。シャーシ(MMB)の機器プロパティ画面内では表示されるのみで、Facility Managerが登録先となります。
- MMBからSNMPによる情報取得は行えません。シャーシ(MMB)登録後にSNMP設定やネットワーク設定が変更されていないか確認してください。

事象: 過去に検出した機器が一覧に表示されない。

想定原因／対処

- OSやサービスを再起動すると、以前の検出情報は消去されます。再度検出を行ってください。
- 自動検出されたサーバは、ネットワークの切断などが原因で通信できない状態が続くと検出画面から消失します。装置状態やネットワークの状態を確認してください。

事象: 搭載位置を指定するための登録ボタンがクリックできない。

想定原因／対処

- ファシリティ管理に該当装置と位置情報がすでに登録されている場合は指定できません。ファシリティ管理上で登録を削除するか、目的の位置に変更してください。

事象: 搭載位置を指定する際にラック選択のプルダウンで目的のラックが表示されない。

想定原因／対処

- ラックの登録はファシリティ管理で行います。ファシリティ管理で登録したあとに位置指定してください。

事象: 搭載位置を指定する際にラックの絵が表示されない。**想定原因／対処**

- サーバブレードを登録しようとしています。サーバブレードの位置情報は搭載先のシャーシ情報から自動的に決定されるため、位置は指定しません。

事象: 搭載先として指定すべき位置にすでに別の装置が存在している。**想定原因／対処**

- 選択したラック名が正しいことを確認してください。
- 誤って別の装置を登録している場合はファシリティ管理で登録情報を変更してください。
- 登録解除した装置の位置情報が残っている場合はファシリティ管理で登録情報を削除してください。

事象: 登録時に「ノード登録が成功しましたが、サーバリストの登録に失敗しました」のメッセージが表示される。**想定原因／対処**

- ノード登録は正常に完了しましたが、SVOMのサーバリストへの登録がエラーとなっています。サーバリストの登録状態を確認し必要に応じて修正してください。

例えば、登録しようとする機器のIPアドレスが、すでにサーバリストに別の機器として登録済みの場合、IPアドレスが重複するためエラーになります。

ISMの情報を使用してサーバリストに登録する場合は、サーバリストから該当するサーバノードを削除し、ISM上でサーバノードを登録解除したあと、登録し直してください。

事象: 登録時に「指定された固定IPアドレスが機器情報に存在します」と表示される。**想定原因／対処**

- Facility Managerに同一機器が異なる情報で登録されている場合は登録がエラーになります。また登録しようとする装置と同一のシリアル番号やMACアドレスが別の装置で誤って登録されていてもエラーとなります。

Facility Managerの登録内容に誤りがないか確認してください。

プロフィール操作／適用

事象: プロファイル適用の画面で目的のプロファイルがプルダウンに表示されない。**想定原因／対処**

- プロファイルにエラーが残った状態で保存されています。プロファイルにエラーが残っていても保存できますが、プロファイル適用はできません。プロファイルを編集してエラーがない状態で保存してください。
- 対象装置と異なるサーバ種類でプロファイルが保存されています。RXシリーズ用として作成したプロファイルはBXサーバへは適用できません。逆にBXシリーズ用プロファイルはRXサーバへは適用できません。プロファイルと装置が一致しているか確認してください。

事象: プロファイル適用の画面でOSプロファイルの個別IDがプルダウンに表示されない。**想定原因／対処**

- 個別IDが作成されていない場合は、プロファイルを編集して個別IDを登録してください。
- 個別IDは複数のサーバに割り当てることはできません。すでに目的の個別IDがほかのサーバに適用済みの場合は、別の個別IDを追加作成します。

事象: プロファイル適用ボタンクリック後に「データインポート適用が正常に行われていません」と表示される。**想定原因／対処**

- 必要なDVDデータをインポート後に、インポート画面で [適用] ボタンをクリックします。
- Profile Managerの[ノードリスト]画面で [最新の状態で更新] ボタンをクリック後に、プロファイル適用を実行します。

事象: サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる。

想定原因／対処

- サーバの電源がオフになっているか確認してください。サーバへのプロファイル適用時は電源をオフにします。サーバブレードの場合は、シャーシへの搭載直後はインベントリブート機能により、自動的に電源がオンされたあと、しばらくして電源がオフされます。インベントリブートが完了してからプロファイルを適用してください。
- サーバの電源ケーブルが接続され、電源が供給されていることを確認してください。サーバブレードの場合はシャーシの電源もオンされていることを確認してください。
- ネットワークが正しく動作しているか確認してください。例えばiRMC Webユーザーインターフェースで対象サーバにログインできるか確認してください。
- プロファイル適用動作設定が正しく行われているか確認してください。リポジトリ(共有フォルダー)に対して、指定したアカウントでアクセスできることを確認してください。
- [プロファイル適用動作設定]画面で[httpポート]または[httpsポート]をデフォルトから変更した場合は、対象サーバのiRMC WebUI画面のネットワーク設定でiRMCの動作ポート番号を変更してください。
- データのインポートが行われているか確認してください。Update DVDのインポートは必須です。また、リポジトリフォルダー名などを変更した場合は再度インポートが必要です。[データインポート実行]画面で [適用] ボタンをクリックして正常に動作するか確認してください。
- サーバのBIOS設定でPXEブート設定が利用可能になっているか確認してください。
- SVIMのインストール手順を確認し、インストール中の選択操作に誤りの可能性がある場合は、SVIMを再インストールしてみます。
- [DHCP設定]画面でスコープ設定を行ってください。登録したスコープが無効になっている場合は有効化します。

事象: サーバへのOSプロファイル適用がエラーになる。

想定原因／対処

- 上欄「事象:サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる。」の記載項目を確認してください。
- イベント履歴のメッセージが「[Profile Engine]プロファイルエラー」の場合、SVIMがインストールされているか、またはSVIMの版数がISMのサポート範囲か確認してください。
- イベント履歴のメッセージが「PMSプロファイルチェックエラー」の場合、インストールしたSVIMの版数が対象サーバをサポートしているか確認してください。
- SVIMインストール時にPXEサーバの設定や、アカウントの設定が正しく行われたかを確認してください。
- WindowsまたはVMwareをインストールする場合は、データインポートで目的のOSインストールメディアからのインポートが完了していることを確認してください。また、リポジトリフォルダー名などを変更した場合は再度インポートが必要です。[データインポート実行]画面で [適用] ボタンをクリックして正常に動作するか確認してください。
- Linuxをインストールする場合は、FTPサーバに目的のOSインストールメディアが格納されていることを確認してください。また、FTPサーバ内のフォルダー名が目的のOS種類に合致しているか確認してください。
- プロファイル内でインストール先ディスクが正しく設定されているか確認してください。また適用先サーバに指定したディスクアレイコントローラーや、指定したハードディスクの台数が正しく搭載されていることを確認してください。
- アレイコントローラーやハードディスクが搭載されていても、ハードウェア故障などで正しく認識できない場合はエラーになります。アレイコントローラーのBIOSユーティリティなどを利用して状態を確認してください。
- VMwareインストール後に、自動的にvCenter登録が行われる設定の場合は、vCenter登録に失敗した場合にエラー終了状態になります。vCenterの状態や設定を確認したあと、vCenterへの手動登録を行ってください。
- インストールしたServerView Installation Managerの版数が対象サーバやOSをサポートしているか確認してください。
- 対象サーバ上でServerView Installation Managerを実行して動作を確認してください。

事象: OSプロファイル適用後、対象サーバがWindowsのインストール途中で停止する。**想定原因／対処**

- － [ライセンス許諾]画面、または[プロダクトキー入力]画面で停止する場合は、ISMの動作仕様となります。画面表示に従ってインストールを続けてください。
 - － 言語選択やCore/Fullなどの選択画面で停止する場合は、以下のような不整合が発生している可能性があります。
 - OSプロファイルで指定した言語がインポートしたOSインストールメディアと異なっている
 - 入力したプロダクトキーが選択したOSのものではない
- プロファイルの内容とインポートメディアをチェックしてください。

事象: OSプロファイル適用後、ドメインに参加できていない。**想定原因／対処**

- － OSプロファイルの個別設定の入力が正しくなくてもOSインストールが完了するとプロファイル適用は正常終了します。OS上でドメイン設定を行ってください。
- － ドメインコントローラーの設定が正しくないなどの理由でドメインに参加できない場合も、OSインストールが完了するとプロファイル適用は正常終了します。原因を取り除いたあと、OS上でドメイン設定を行ってください。

事象: ETERNUSへのHWプロファイル適用がエラーになる。**想定原因／対処**

- － 装置の電源がオンになっていることを確認してください。
- － ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。
- － プロファイル内で指定したディスクドライブの種類と、ETERNUSに搭載されているディスクドライブの種類が一致しているか確認してください。
- － プロファイル内で指定したディスクドライブ台数がETERNUSで未使用状態になっているか確認してください。特に一度プロファイル適用後に適用解除して、再度同一プロファイルを適用しようとした場合には、プロファイル適用解除時にアレイ構成が削除されないため、2回目にはディスク台数が不足してエラーになる可能性があります。
- － 別のETERNUS管理ソフトウェアやWeb GUIが動作していないか確認してください。ほかの操作と重なっている場合はプロファイル適用がエラーになる場合があるため、終了させておきます。
- － 以下の場合、プロファイルは適用できません。
 - デフォルトのログインアカウント、またはパスワードを変更している
 - Telnet接続を無効化している

事象: ファームウェアアップデートがエラーになる／正常終了するが期待通りにアップデートされない。**想定原因／対処**

- － 「事象:サーバへのHWプロファイル適用がエラーになる。」の記載項目を確認してください。
- － インポートしたUpdate DVD版数が正しいか確認してください。
- － 対象サーバ上でUpdate DVDを起動させて動作を確認してみてください。

事象: VIOMプロファイル操作時にエラーになる。**想定原因／対処**

- － VIOMがインストールされているか確認してください。
- － 対象サーバがSVOMのサーバリストに登録されているか確認してください。

セットアップ

事象: DHCP設定が有効にならない。**想定原因／対処**

- 管理サーバ上でDHCPサービスが動作していることを確認してください。管理サーバ以外のDHCPサーバを利用する場合、DHCP設定は不要です。

事象: データインポート実行画面で [インポート開始] がエラーになる。**想定原因／対処**

- インポート元ドライブに正しいDVDがセットされていることを確認してください。
- 管理サーバ上のドライブにDVDがセットされていることを確認してください。プロファイル管理にリモートで接続している場合は間違えて端末側にセットしていないか確認してください。
- インポート先リポジトリパスが正しく指定されているか確認してください。正しくない場合はプロファイル適用動作設定で変更してください。
- インポート先のディスクの空き容量が十分であるか確認してください。また、書き込み禁止になっていないか確認してください。
- インポート元DVDで読み取り不良が発生している可能性があります。別のDVDがある場合は交換してください。またはディスクの空き領域などにファイルをコピーしてください。

事象: データインポート実行画面で [適用] がエラーになる。**想定原因／対処**

- データインポートの処理結果一覧でステータスが「完了」と表示されていることを確認してください。エラーになっている場合はインポートを再実行してください。
- 必要なデータがすべてインポートされていない可能性があります。Update DVDのインポートは必須です。
- リポジトリの共有設定、アクセス権限設定が正しいか確認してください。リポジトリのフォルダーを変更した場合は新しいフォルダーにデータが格納されていない可能性があります。過去にインポートが完了していても、再度インポートを実行してください。
- プロファイル適用動作設定で必要な項目が正しく設定されているか確認してください。
- PXEサービスが動作していない場合はエラーになります。PXEサービスがインストールされていない場合は、SVIMを再インストールしてください。
- PMSがインストールされていない場合はエラーになります。正しくインストールされていることを確認してください。

事象: データインポート実行画面のリポジトリ一覧から「削除」を実行した際にエラーになる。**想定原因／対処**

- 削除しようとするデータをインポートしたあと、リポジトリフォルダーが変更されました。[プロファイル適用動作設定]画面で一時的にインポート時のフォルダーに戻したあとに削除を実行してください。

事象: [仮想管理ソフトウェア設定]画面でvCenterの登録情報を入力後、[通信テスト] をクリックするとエラーが表示される。**想定原因／対処**

- vCenterが正常に動作しているか、または設定した情報に誤りがないか確認してください。入力したパラメーターを使ってvCenterにログインできることを確認してください。
- ポート番号が正しく設定されていること、ファイアーウォールなどが原因で通信がブロックされていないことを確認してください。
- Java 6以前がインストールされており、かつISMインストール時に環境変数%JAVAHOME%が設定されていた場合、vCenterテストが正しく動作しない場合があります。環境変数を削除した状態でISMを再インストールしてください。

事象: [仮想管理ソフトウェア設定]画面でSCVMMの登録情報を入力後、[通信テスト] をクリックするとエラーが表示される。

想定原因／対処

- SCVMMが正常に動作しているか、または設定した情報に誤りがないか確認してください。入力したパラメーターを使ってSCVMMにログインできることを確認してください。
- 管理サーバにインストールしたSCVMMコンソールの種類と、接続しているSCVMMサーバの種類が異なる場合は、正常に動作しないことがあります。
- Active Directoryへの参加や設定が正しく行われていることを確認してください。

その他

事象: 仮想管理ソフトウェアへの登録がエラーになる。

想定原因／対処

- 登録先サーバが正常に動作していることを確認してください。また、[仮想管理ソフトウェア設定]画面の登録内容が正しいことを確認してください。画面内の[通信テスト]ボタンをクリックし、通信テストが成功することを確認してください。
- 登録対象のサーバの状態を確認してください。OSが正しく稼働していることを確認してください。
- 登録対象サーバ、登録先サーバおよび管理サーバそれぞれでファイアウォールが正しく設定されていることを確認してください。
- 登録対象サーバが異常な状態となっている可能性があります。SCVMMに登録失敗したあとは復旧のために対象サーバの再起動が必要になる場合があります。

事象: 画面操作を行うと、「サーバとの通信に失敗しました」のメッセージが表示される。

想定原因／対処

- ServerView Infrastructure Managerサービス、またはその他のServerView関連サービスが起動していない可能性があります。サービスの状態を確認してください。

事象: 画面上に意味不明の英語文字列が多数表示されて画面が正しく表示されない。

想定原因／対処

- Javaのセキュリティチェック「安全でない可能性があるコンポーネントの実行をブロックしますか。」に対して[ブロックする]を選択すると正しく動作しません。一度Webブラウザを閉じ、[ブロックしない]を選択してください。

事象: プロファイルの再適用操作を行う際、目的の操作にチェックが付けられない。

想定原因／対処

- HWプロファイルのうち、有効な設定が1つも存在していないカテゴリ（FW、BMCまたはBIOS）についてはチェックを付けられません。
- OSプロファイルが適用されていない状態では、OSにチェックを付けられません。

事象: 保守管理（ノード交換）実行時、交換後のサーバが画面に表示されない。

想定原因／対処

- 装置を接続した直後は検出できない場合があります。1分ほど待ってから再度保守管理（ノード交換）を行ってください。
- 交換元に指定したサーバが正しいか、誤って別のサーバを指定していないか確認してください。
- 交換後のサーバが正しくネットワークに接続されていることを確認してください。
- 交換後のサーバに電源が供給されていることを確認してください。
- 交換後にサーバのiRMCのIPアドレスがDHCPになっているか確認してください。固定IPで利用する場合は手動検出を行ってください。

事象: 保守管理(ノード交換)実行時、交換後の装置が表示されるが、選択できない。

想定原因／対処

- － 交換元に指定したサーバが正しいか確認してください。
- － 交換前のサーバと交換後のサーバが同一モデルであるか確認してください。
異なるモデルの場合、保守管理(ノード交換)はできません。

付録C アンインストール

アンインストールの順番は、ISMを行ったあとに、続けてPMS、SVIM、SVOMの順番で行います。
また、必要に応じてSQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardをアンインストールします。

注意

- Administrator権限のアカウントで作業を行ってください。
- SVOMのアンインストール後に再度SVOMをインストールしても、ISMは動作できません。SVOMのアンインストール時には、ISMも必ずアンインストールしてください。
- ISMをアンインストールすると、管理対象機器や操作履歴を記録したデータベースの内容が消去されます。データベースの内容を保存しておき、再インストール後に引き継ぐような場合は、「[6.2.1 バックアップ](#)」の手順に従って、事前にバックアップを行ってください。ISMをアンインストールすると、以下のフォルダーに保存されたバックアップデータも削除されます。アンインストールを実行する前に、必ずこのフォルダーを回避してください。

C:\Program Files (x86)\Fujitsu\ServerView Suite\plugins\svism\Sqlldb

- アンインストールは、SQL Serverへのアクセス権限(sysadmin)を持つアカウントで実施してください。

- [コントロールパネル] で、[プログラムと機能] を選択します。
- [FUJITSU Software ServerView Hardware Life Cycle Manager] を選択して、アンインストールします。

ポイント

<インストールフォルダー>\GUI\lib\jersey-bundle-1.13.jarが削除されないまま再起動が促される場合があります。再起動できない場合は、SVOMのサービスを停止してからISMのアンインストールを実施してください。

- VMware ESXi上の仮想マシンを管理している場合、[サービス] で [VMware vSphere Syslog Collector] サービス(*)を停止します。

*: VMware vCenter Serverの版数により、[VMware Syslog コレクター] など、サービスの名前表記が異なる場合があります。

- [コントロールパネル] で、[プログラムと機能] を選択します。
- [FUJITSU Software ServerView LogCollect and Checker] を選択して、アンインストールを実行します。
このとき、ログ監視対象サーバの設定も削除されます。

注意

「Windows Event log」の再起動、またはOSの再起動のポップアップが出力される場合があります。「自動的に閉じて、アプリケーションの再起動を試みる。」を選択し、[OK]ボタンをクリックしてください。

ポイント

ISMをアンインストールしても、収集したログやリポジトリは削除されません。必要に応じて手動で削除してください。

ログは、「[2.1 ログの保存容量の決定](#)」で決定した場所に、以下のフォーマットで保存されています。

[ログ保存先ディレクトリ]_backup_MM-DD-YYYY-HHMMSS

- [コントロールパネル] で [プログラムと機能] を選択します。
- [FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager] を選択して、アンインストールを実行します。
このとき、ISMデータベースも削除されます。

8. PMSをアンインストールします。

Fujitsu ServerView Profile Manager Serviceをアンインストールします。

9. SVIMをアンインストールします。

以下の4つのプログラムをアンインストールします。

- Fujitsu ServerView Installation Manager x64
- Fujitsu ServerView Installation Manager
- Fujitsu ServerView Installation Manager Data Packages
- Fujitsu ServerView Installation Manager PXE Server

イベントログに下記エラーが記録される場合がありますが、動作に問題はありません。ログは無視してください。

レベル : エラー ソース : RestartManager イベントID : 10007 説明 : アプリケーションまたはサービス 'TFTP Service' を再起動できませんでした。 または 説明 : アプリケーションまたはサービス 'PXE Services' を再起動できませんでした。
--

10. SVOMをアンインストールします。

アンインストール手順は、「ServerView Suite ServerBooks」に収録されているSVOMの取扱説明書を参照してください。

11. 必要に応じて、SQL Server 2008 R2 StandardまたはSQL Server 2012 Standardをアンインストールします。

- a. [コントロールパネル] で、[プログラムと機能] を選択します。
- b. [Microsoft SQL Server 2008 R2] または [Microsoft SQL Server 2012] を選択して、ダブルクリックします。
- c. ダイアログボックスで、[削除] を選択します。



付録D SVIMの再インストール

OSプロファイルの適用により、管理対象サーバへOSをインストールする際は、インストールされているSVIMが利用されます。

次の例のような場合にはSVIMの再インストールを行ってください。

- 新しいモデルのPRIMERGYサーバを増設する際、すでにインストール済みのSVIMが新モデルに対応していない
- 新しいOSをインストールする際、すでにインストール済みのSVIMが新OSに対応していない
- 既存モデルにOSを再インストールする際、最新のSVIMを使って新しいデバイスドライバをインストールしたい



注意

新モデルや新OSを扱う場合は、SVIMだけでなくISMのバージョンアップが必要になる場合があります。

最新のサポート情報については、本製品のウェブサイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/environment/>

SVIMの再インストール手順は以下のとおりとなります。将来的なSVIMのバージョンアップにより手順が変わる場合も考えられます。SVIMの取扱説明書もあわせて参照してください。

1. ISMでプロファイル適用やファームウェアアップデートが実行中でないことを確認します。
2. PMSおよびSVIMをアンインストールします。
「付録C アンインストール」の手順8および手順9を参照してください。
3. 「3.1.6 PMSおよびSVIMのインストール」の手順を参照し、PMSとSVIMをインストールします。
4. 管理サーバを再起動します。



ポイント

SVIMの再インストール前にServerView Suite Update DVDがインポート済みであった場合、ISMにログインしたあと、[Setup]-[データインポート実行]画面で[適用]ボタンをクリックしてください。

付録E プロファイル設定項目

E.1 PRIMERGYサーバ用HWプロファイルの設定項目

HWプロファイル中で設定可能な項目を記載します。サーバ種類に応じて一部設定できない項目や設定内容が異なる項目があります。対象サーバがサポートしている範囲で設定を行ってください。

HWプロファイル内の設定項目は、個別に有効／無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に設定した項目は変更されません。

各項目の詳細は、対象サーバのマニュアルを参照してください。

ファームウェアタブ

項目名	説明	設定値
Motherboard BIOS版数 Motherboard iRMC版数 アレイコントローラ版数	サーバのシステムボードのBIOS、iRMCファームウェアおよび、サーバに搭載されているアレイコントローラのファームウェアをアップデートするかどうかを指定します。 オンボードRAIDのEmbedded MegaRAIDは本設定対象になりません。 複数のアレイコントローラが搭載されている場合はすべてが対象となります。個別の指定はできません。	最新版を適用＝アップデートを行う  注意 本設定は個別に指定できません。設定を有効にした場合は、左記すべての対象に対してアップデートが行われます。

BIOSタブ

項目名	説明	設定値
Hyper-threading	CPUのHyper Threading Technology動作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定は意味を持ちません。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする
Execute Disable Bit	CPUのExecute Disable Bit動作を指定します。本機能はXD (eXecute Disable) ビット、またはNX (No eXecute) ビットとも呼ばれます。	Enabled＝機能を使用可能にする Disabled＝機能を無効にする
Intel Virtualization Technology	CPUの仮想化支援機能の動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
Intel (R) VT-d	CPUのVirtualization Technology for Directed I/O機能動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
Power Technology	CPUの電源管理動作を設定します。	Energy Efficient＝省電力に最適化された動作をする Custom＝追加設定項目により詳細動作を設定する Disabled＝電源管理機能を無効にする
Enhanced SpeedStep	Power TechnologyがCustomの場合のみ設定可能な項目です。 CPUのEIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology) 動作を指定します。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする
Turbo Mode	Enhanced SpeedStepがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 CPUのTurbo Boost Technology動作を指定します。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定にかかわらず無効になります。	Enabled＝機能を有効にする Disabled＝機能を無効にする

項目名		説明	設定値
DDR Performance		メモリモジュールは異なる速度(周波数)で動作します。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になります。使用可能なメモリ速度は、取り付けられているメモリモジュールの構成に応じて異なります。	Low-Voltage optimized＝低電圧で可能な最も高速な設定 Energy optimized＝省電力で可能な最も低速な設定 Performance optimized＝最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定
NUMA		NUMA(Non-Uniform Memory Access)機能の利用有無を指定します。 マルチプロセッサ構成ではない場合は意味を持ちません。 本設定はBX920 S4, BX924 S4, RX200 S8, RX300 S8, RX2520 M1のBIOS 1.3.0, iRMCファーム7.19F以降が適用された装置でのみサポートされます。それ以外の装置では本設定自体を無効化しておく必要があります。	Enabled=NUMA機能を有効にする Disabled=NUMA機能を無効にする
Onboard SAS/SATA (SCU)		オンボードSAS/SATAストレージコントローラーユニット(SCU)の動作を指定します。	Enabled＝SCUを有効にする Disabled＝SCUを無効にする
	SAS/SATA OpROM	Onboard SAS/SATA (SCU)がEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATAコントローラーのOption ROM動作を指定します。	Enabled＝Option ROMを有効にする Disabled＝Option ROMを無効にする
	SAS/SATA Driver	SAS/SATA OpROMがEnabledの場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATAコントローラーのOption ROMの種類を指定します。	LSI MegaRAID＝Embedded MegaRAID用Option ROMを使用する Intel RSTe＝Intel RSTe用Option ROMを使用する
Sync RTC with Mgmt. Blade (サーバブレードのみ)		Real Time Clockをマネジメントブレードと同期させるかを指定します。	Enabled＝同期する Disabled＝同期しない
	Adjust Date/Time	プロファイル適用時に、サーバの時刻を管理サーバの時刻を基準にして変更します。 Sync RTC with Mgmt BladeがDisabledの場合のみ設定できます。  注意 本項目はサーバのBIOSセットアップユーティリティの設定項目ではありません。 BIOS設定を変更するのではなく、対象サーバの時刻(RTC)をプロファイル適用時に一度だけ変更する機能であり、すべてのBXシリーズで使用可能です。	Local Time＝管理サーバのタイムゾーン設定に応じた時刻を指定する UTC＝管理サーバのタイムゾーン設定からUTCに変換した時刻を指定する
	Launch Slot X OpROM	各PCIスロットに搭載されたオプションカードの拡張ROM実行を指定します。 プロファイルでは多くのスロットに対して指定できるが、実機上に存在しないスロットに対しては設定しないでください。	Enabled＝拡張ROMを実行する Disabled＝拡張ROMを実行しない

BMC (iRMC) タブ

項目名	説明	設定値
POSTエラー時の動作	サーバ起動時にエラーが発生した場合の対応動作を設定します。	起動継続＝エラーが発生しても、起動処理を続ける

項目名		説明	設定値
			起動停止＝エラーが発生すると、キー入力があるまで起動を停止する
電源復旧時動作設定		AC電源入力が切断されたあと、電源復旧した際の電源動作を設定します。	電源断前の状態に戻す＝電源切断発生時の状態を保持する(切断時にサーバが電源ON中だった場合は電源投入する。電源OFF中だった場合は電源投入しない) 電源投入しない＝常に電源OFFになる 電源投入する＝常に電源ONになる
電力制御		サーバの省電力動作や静音動作に関する設定を行います。  注意 BIOS設定で、Enhanced SpeedStepを無効に設定した場合、本制御も無効となります。	OSによるコントロール＝OSの制御に従う 省電力動作＝消費電力を抑えることを優先した動作となる (スケジュール)＝プロファイル管理では設定できない (電力制限)＝プロファイル管理では設定できない
ファンテストの実行 (ラックサーバのみ)		定期的なファンの診断を行うかどうかを設定します。	指定時刻に実行する＝毎日指定した時刻にテストを行う 実行しない＝ファンテストを行わない
	ファンテスト時刻	ファンテストを実行する場合に有効になります。ファンテストの開始時刻を指定します。	00:00から23:59までの時刻を入力する。
対象とする		ソフトウェアウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝設定を行う (チェックなし)＝設定を行わない
	ソフトウェアウォッチドッグを有効にする	OS動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝通信監視を行う (チェックなし)＝通信監視を行わない
	動作	通信が行えない場合の動作を指定します。	継続稼働＝特に何も行わない リセット＝サーバの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行う
	タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えて通信がない場合に通信できないと判断されます。	1～100分までの数値を指定する。
対象とする		Bootウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝設定を行う (チェックなし)＝設定を行わない
	Bootウォッチドッグを有効にする	POST終了後からOS起動までの時間を監視するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝時間監視を行う (チェックなし)＝時間監視を行わない
	動作	指定した時間内にOSが起動しない場合の動作を指定します。	継続稼働＝特に何も行わない リセット＝サーバの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバを電源OFFしたあと、電源ONを行う
	タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えてOSが起動しない場合に異常と判断されます。	1～100分までの数値を指定する。
BMC(iRMC)のAdminアカウント		BMC (iRMC) のAdminアカウントの設定 (有効／無効) を指定します。	有効にする 無効にする
	BMC(iRMC)のAdminパスワードを変更する	BMC (iRMC) のAdminアカウントが「有効にする」の場合のみ設定可能な項目です。	(チェックあり)＝変更を行う (チェックなし)＝変更を行わない
	BMC(iRMC)のAdminパスワード	BMC (iRMC) のAdminアカウントのパスワードを指定します。	20文字以内の半角文字で入力する。 記号の扱いなどについてはサーバ本体の取扱説明書を参照する。

項目名		説明	設定値
	パスワード確認入力	BMC (iRMC) のAdminパスワードのチェック用。同じパスワードを入力します。	上欄のパスワードと同じ文字列を入力する。
対象とする		Administratorを追加作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 作成を行う (チェックなし) = 作成を行わない
	BMC(iRMC)アカウント (admin権限)	Administrator権限を持つiRMCアカウントを作成する際にアカウント名を指定します。アカウントは「ID=15」に作成されます。	16文字以内の半角文字で入力する。記号の扱いなどについてはサーバ本体の取扱説明書を参照する。
	BMC(iRMC)パスワード (admin権限)	Administrator権限を持つiRMCアカウントを作成する際にパスワードを指定します。	20文字以内の半角文字で入力する。記号の扱いなどについてはサーバ本体の取扱説明書を参照する。
	パスワード確認入力	iRMCパスワードのチェック用。同じパスワードを入力します。	上欄のパスワードと同じ文字列を入力する。

プロフィール情報タブ

項目名	説明	設定値
作成日時	プロフィールを最初に保存した日時が表示されます。流用作成の場合は流用後に最初に保存した日時になります。	参照のみ
最終更新日時	プロフィールを最後に保存した日時が表示されます。	参照のみ
最終適用日時	プロフィールをサーバに適用した日時が表示されます。複数サーバに対して複数回の適用を行った場合は最後に適用した日時が表示されます。	参照のみ
最終適用ノード	プロフィール適用先サーバの機器名が表示されます。複数サーバに対して適用した場合は最後に適用したサーバの機器名が表示されます。	参照のみ
適用中ノード数	プロフィールを適用中のサーバの台数が表示されます。適用中サーバに別のプロフィールが適用された場合やサーバの登録解除を行った場合は台数が減少します。	参照のみ
個別情報定義数 (OSプロフィールのみ)	OSプロフィール内に作成されている個別プロフィールの数が表示されます。	参照のみ
状態	プロフィールの作業状態が表示されます。	参照のみ
メモ	プロフィールに対する注釈などを記入します。プロフィール適用後は編集禁止となります。	半角文字、全角文字256文字まで記入可能。

E.2 PRIMEQUESTパーティション用HWプロフィールの設定項目

PRIMEQUESTパーティション用のHWプロフィール中で設定する項目を記載します。

iRMCタブ

項目名	説明	設定値
対象とする	ASR (Automatic Server Restart) を設定するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
再起動回数 (Number of Restart Tries)	ウォッチドッグやハードウェアエラーでOSがシャットダウンした場合に、OSをリスタートするリトライ回数を設定します。	再起動の有無の選択、および回数 (1～10) を指定する

項目名		説明	設定値
	再起動回数超過後の動作 (Action after exceeding Restart tries)	上記リトライ回数を超えた場合の動作を設定します。	電源OFF＝リブート処理を止め、パーティションの電源をOFFにする (Stop rebooting and Power off) 停止＝リブート処理を止め、パーティションを停止する(Stop rebooting) NMI割り込み＝リブート処理を止め、パーティションに対してNMI割り込みを指示する (Diagnostic Interrupt assert)
	対象とする	ブートウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝設定を行う (チェックなし)＝設定を行わない
	ブートウォッチドッグを有効にする (Boot Watchdog)	OS起動までの時間を監視するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝時間監視を行う (チェックなし)＝時間監視を行わない
	タイムアウト時間	ここで指定した時間を超えてOSが起動しない場合に異常と判断されます。	1～6000秒までの数値を指定する。
	動作	指定した時間を超えてOSが起動しない場合の動作を指定します。	継続稼動(Continue)＝処理を継続する リセット(Reset)＝再起動を行う パワーサイクル(Power Cycle)＝一度電源OFFしたあと、電源ONを行う
対象とする(Enable)		ソフトウェアウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝設定を行う (チェックなし)＝設定を行わない
	ソフトウェアウォッチドッグを有効にする (Software Watchdog)	OS動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。	(チェックあり)＝通信チェックを行う (チェックなし)＝通信チェックを行わない
	タイムアウト時間 (Timeout time)	ここで指定した時間を超えて通信ができない場合に異常と判断されます。	1～6000秒までの数値を指定する。
	動作(Action)	指定した時間を超えて通信ができない場合の動作を指定します。	継続稼動(Continue)＝処理を継続する リセット(Reset)＝再起動を行う パワーサイクル(Power Cycle)＝一度電源OFFしたあと、電源ONを行う NMI＝NMIを発生させる

E.3 サーバ用OSプロファイルの設定項目

OSプロファイル中で設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定をしなくてもOSのインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、OSのデフォルトの設定が適用されます。

E.3.1 Windows Server 2008 R2/Windows Server 2012/Windows Server 2012 R2用プロファイル

OSインストールタブ

項目名	説明	設定値
インストールのタイプ	OSをCoreインストール、フルインストールのどちらでインストールするかを指定します。	画面から選択する。
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	画面から選択する。 Microsoft社メディアを選択した場合は、さらにプロダクトキーの入力が必要。

項目名		説明	設定値
アレイドコントローラを使用する		サーバ内蔵のアレイドコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイドコントローラを使用する
	既存アレイド構成を利用する	すでにアレイドコントローラ上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) = 既存のアレイド構成を使用する
	アレイドを新規に構築する	新しくアレイドを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) = アレイドを新規に構築する 加えて、アレイドコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
アレイドコントローラを使用しない		アレイドコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイドコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
ボリューム1			
	ボリュームラベル	ボリューム名を指定します。	ボリューム名文字列を入力する。
	ファイルシステム	ファイルシステムの種類を選択します。	常にNTFSとなる。
	パーティションサイズ(自動／指定)	パーティションのサイズを指定します。	自動 = 自動的に適切なサイズでパーティションを作成する 指定 = 入力したサイズでパーティションを作成する
	クイックフォーマット	パーティションのフォーマット時にクイックフォーマットを利用するかどうかを指定します。	する = クイックフォーマットを行う しない = 通常のフォーマットを行う (作業時間は長くなる)
	利用形態	パーティションの用途を指定します。	常にBoot、OSとなる。
タイムゾーン		タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
地域と言語		地域と言語を指定します。	プルダウンから選択する。
キーボード		キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
画面解像度		OSインストール直後の画面解像度を指定します。	プルダウンから選択する。 例: 600×480、800×600、1024×768、1280×1024
リフレッシュレート		OSインストール直後のディスプレイのリフレッシュレートを指定します。	プルダウンから選択する。
画面の色数		OSインストール直後の画面の表示色数をビット数で指定します。	プルダウンから選択する。
SNMP			
	SNMPサービスをインストールする	SNMPサービスをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMPサービスをインストールする
	SNMPトラップ設定	SNMPトラップ送信時のコミュニティ名とトラップ送信先を指定します。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定を行う。 【省略可】
	SNMPセキュリティ設定	受け付けるSNMPコミュニティ名とその権利を指定します。	追加ボタンをクリックして任意の数の設定を行う。 【省略可】
	認証トラップを送信する	未知のホストまたはコミュニティからのSNMP要求があった場合に認証トラップを送信するかどうかを指定する。	(チェックあり) = 認証トラップを送信する (チェックなし) = 認証トラップを送信しない

項目名		説明	設定値
	デフォルトのホストからSNMPパケットを受け取る	LocalhostからのSNMPパケットを受け付けるかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMPパケットを受け付ける (チェックなし) = SNMPパケットを受け付けない
	SNMPパケットを受け付けるホスト名	SNMPパケットを受け付けるホスト名を指定します。	ホスト名を記載する。 【省略可】
	SNMP設定エージェント	管理者の名前と物理的な位置を入力する。	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
	サービス	SNMPホストに関する情報を5つのオプションから指定します。	任意のサービスをチェックする。
リモートデスクトップ		リモートデスクトップの利用可否を指定します。	(チェックあり) = リモートデスクトップを有効にする (チェックなし) = リモートデスクトップを無効にする
リモートアシスタンス (インストール形態がFullの場合のみ)		リモートアシスタンスの利用可否を指定します。	許可する範囲を画面で指定する。 必要に応じて招待の有効時間も指定する。
ファイアウォール設定		対象サーバをSCVMMへ登録する際に必要となるファイアウォールの例外を作成します。 以下のアプリケーションからのアクセスが有効になります。 - Windows Management Instrumentation(WMI) - ファイルとプリンターの共有	(チェックあり) = ファイアウォール例外を作成する (チェックなし) = ファイアウォール例外を作成しない
追加アプリケーション			
	Java Runtime Environment ServerViewエージェント ServerViewアップデート エージェント	Java Runtime Environment (JRE)、ServerViewエージェント、ServerViewアップデートエージェントをインストールするかどうかを指定します。 JREはOS種類がFullの場合のみインストールされる。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする(*1)
	DSNAP	DSNAPをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする(*1)
	ソフトウェアサポートガイド	ソフトウェアサポートガイドをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする(*1)
	ServerView RAID Manager	ServerView RAID Managerをインストールするかどうかを指定します。Java Runtime Environmentもインストールされます。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする

*1: 「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の場合は英語でインストールされます。

個別情報タブ

項目名	説明	設定値
名前	使用者の名前を入力します。	名前の文字列を入力する。
組織名	使用者の組織名を入力します。	組織名の文字列を入力する。
コンピュータ名	ネットワーク上で識別するための名称を入力します。	コンピュータ名文字列を入力する。
Administratorパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。

項目名		説明	設定値
参加先		ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを選択します。	プルダウンから選択する。
Workgroup/Domain名		ワークグループまたはドメインの名前を指定します。	文字列を入力する。 日本語には対応していない。 Workgroupの場合、アルファベットは大文字で入力する。
	ドメインユーザ名	ドメインの場合、ドメインユーザー名を入力します。	文字列を入力する。
	ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力します。	文字列を入力する。
DHCP有効		管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCPを利用する (チェックなし) = 固定IPを指定する
	IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	プルダウンから選択する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
	DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバのIPアドレスを指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力する。 【省略可】
	DNSドメイン名	DHCPを利用しない場合、ドメイン名を指定します。	ドメイン名文字列を入力する。 【省略可】

プロファイル情報タブ

HWプロファイルの[プロファイル情報]タブとほぼ同一です。詳しくは、「[E.1 PRIMERGYサーバ用HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。

E.3.2 VMware ESXi 5.1/VMware ESXi 5.5/VMware ESXi 6.0用プロファイル

OSインストールタブ～仮想管理ソフトウェア登録タブ

項目名		説明	設定値
アレイコントローラを使用する		サーバ内蔵のアレイコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイコントローラを使用する
	既存アレイ構成を利用する	すでにアレイコントローラ上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) = 既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) = アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
アレイコントローラを使用しない		アレイコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
キーボード		キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
VMの標準ネットワークでセットアップ		ポートグループを利用して標準ネットワークを作成します。	(チェックあり) = 標準ネットワークを作成する
使用するVLAN ID		VLAN IDを入力します。VLANを使用しない場合は「0」を入力します。	VLAN IDを入力する。

項目名	説明	設定値
使用許諾契約書の条項に同意します	画面に表示されている使用許諾契約書の内容を確認します。	(チェックあり) = 使用許諾契約書に同意する (チェックなし) = 使用許諾契約書に同意しない
OSインストール後、仮想管理ソフトウェアに登録する	ESXiのインストールが完了したあと、続けてvCenterへ自動的に登録するかどうかを指定します。 自動登録しない場合、プロファイル適用済みの状態から任意のタイミングで登録することもできます。 自動登録を行う場合、[個別情報]タブで設定するIPアドレスは固定IPアドレスを設定してください。また、[OSインストール]タブではVLAN IDに「0」を指定してください。	(チェックあり) = 登録する (チェックなし) = 登録しない
登録先	登録先のvCenterとフォルダー/クラスタを指定します。	事前に[Setup] - [仮想管理ソフトウェア設定]画面に登録した登録先から選択。

個別情報タブ

項目名	説明	設定値
rootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
DNSからホスト名を取得	DNSから取得したホスト名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = DNSから取得する (チェックなし) = プロファイルで任意のホスト名を指定する
ホスト名	DNSからホスト名を取得しない場合に任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
DHCP有効	管理LANのIPアドレスに関して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCPを利用する (チェックなし) = 固定IPを指定する
IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	プルダウンから選択する。
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で入力する。 【省略可】
スクリプト有効	ESXiのインストール後に指定したスクリプトを実行する場合にチェックします。	(チェックあり) = スクリプトファイルを実行する
スクリプトファイル	ESXiのインストール後に実行するスクリプトファイル名を指定します。 ファイル中にプレーンテキスト形式でスクリプトを記述してください。自動インストール中の%post処理として実行されます。	ファイル名または絶対パスを含むファイル名を入力する。 ファイル名のみ指定の場合は、ISMインストール先のplugins¥svism¥osscriptフォルダー内が使用される。

プロファイル情報タブ

HWプロファイルの[プロファイル情報]タブとはほぼ同一です。詳しくは、「[E.1 PRIMERGYサーバ用HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。

E.3.3 Red Hat Enterprise Linux用プロファイル

OSインストールタブ

項目名		説明	設定値
インストールのタイプ		OSを32bit、64bitのどちらのタイプでインストールするかを指定します。	画面から選択する。
アレイドコントローラを使用する		サーバ内蔵のアレイドコントローラをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイドコントローラを使用する
	既存アレイド構成を利用する	すでにアレイドコントローラ上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) = 既存のアレイド構成を使用する
	アレイドを新規に構築する	新しくアレイドを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) = アレイドを新規に構築する 加えて、アレイドコントローラの種類、RAIDレベル、RAIDに組み込むディスクの台数を画面から選択する。
アレイドコントローラを使用しない		アレイドコントローラ以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイドコントローラ以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。
パーティション		下記の項目を[プロファイル]画面に表示された/boot、/varなどの各マウントポイントに対して指定します。	
	(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) = パーティションを作成する (チェックなし) = パーティションを作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する 例 : ext2, ext3, ext4
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を10進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当てるかどうかを指定します。 Linuxインストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	(チェックあり) = 指定のパーティションに余った容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし) = 指定した容量でパーティションを作成
言語		言語を指定します。	プルダウンから選択する。
キーボード		キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
タイムゾーン		タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
システムクロックでUTCを使用		システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり) = UTCを使用 (チェックなし) = ローカルタイムを使用
パッケージ選択の初期値		インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期選択を変更する。	最小 = 必要最小限のパッケージ すべて = すべてのパッケージ デフォルト = 推奨パッケージ
パッケージグループ		インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり) = インストールする (チェックなし) = インストールしない
個別パッケージ		インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1行あたり1パッケージで複数行の記述が可能。
X Window Systemの設定		X Window関連設定を行うかどうかを指定します。	チェックの有無を指定する。 (*1) (*2)
画面の色数		X Windowの画面の色数を指定します。	色数をプルダウンから選択する。 (*1) (*2)
画面解像度		X Windowの画面の解像度を指定します。	解像度をプルダウンから選択する。 (*1) (*2)

項目名	説明	設定値
デフォルトデスクトップ	デフォルトで使用するデスクトップの種類を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 GNOME, KDE, None(*1)
システムのブート時にX Window Systemを起動	ブート後にX Windowを起動するかどうかを指定します。	チェックの有無を指定する。 (*1)
ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり) = ブートローダをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
ブートローダのインストール場所	ブートローダのインストール先を指定します。	MBR = マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
カーネルパラメータ	カーネルパラメータを指定します。	カーネルパラメータとして指定する文字列を入力する。
SE Linux	SE Linuxの使用有無を指定します。	プルダウンで以下から選択する。 Permissive, Enforcing, Disabled
シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない(*3)
MD5の使用	パスワード暗号化にMD5を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
nscdの有効	Name Switch Cacheを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
アプリケーションウィザード	OSインストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
(各種アプリケーション)	インストールするアプリケーションを指定します。 アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります(*4)。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする

*1: X Windowの使用にあたっては、各設定間の不整合はプロファイルではチェックされません。
例えば、「デフォルトデスクトップ」と「システムのブート時にX Window Systemを起動」の間では、適切な設定を行ってください。
また、使用するデスクトップに応じて必要なパッケージを選択してください。
代表的な設定例を以下に示します。

項目名	使用する画面モード	
	テキストモードのみ使用	GNOMEを使用
X Window Systemの設定	チェックなし	チェックあり
画面の色数	24	24
画面解像度	800×600	800×600
デフォルトデスクトップ	None	GNOME
システムのブート時にX Window Systemを起動	チェックなし	チェックあり
パッケージグループ／個別パッケージ	特になし	・ デスクトップ ・ 汎用デスクトップ ・ X Window System など

*2: ISM V1.5では、「X Window Systemの設定」は、その他のX Window関連の設定に影響されません。「画面の色数」、「画面解像度」は、プロファイル設定にかかわらずデフォルト設定でインストールされます。

*3: 「シャドウパスワード」は、プロファイル設定にかかわらず常に有効になります。

*4: 下表のアプリケーションはSVIM V11.15.07を使用した場合です。将来的にSVIMの改版によって変更される場合があります。また、下表のアプリケーションはISMがサポートしている範囲を示します。対象サーバ、OSおよび使用するSVIMがサポートしているアプリケーション以外は選択しないでください。

アプリケーション	RHEL 6.x(x86)	RHEL 6.x(Intel64)	RHEL 7.x
ServerView Agentless Service	×	○	○
ServerView SNMP Agents	○	○	○
ServerView CIM Providers	×	○	○
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○
ServerView Operations Manager	○	○	○
ServerView RAID Manager	○	○	○
AIS Connect	○	○	×
Java Runtime Environment	○	○	○
Dynamic Reconfiguration utility PRIMEQUEST 2000用	×	○	○
PRIMEQUEST REMCS Option	×	○	○
HBA blockage function PRIMEQUEST 2000用	×	○	○
SIRMSエージェント	○	○	○
ServerView Mission Critical Option PRIMEQUEST 2000用	×	○	○

○＝ISMで指定可能、×＝ISMで指定不可

個別設定タブ

項目名	説明	設定値
rootパスワード	パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
DNSからホスト名を取得	DNSから取得したホスト名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝DNSから取得する (チェックなし)＝プロファイルで任意のホスト名を指定する
ホスト名	DNSからホスト名を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
DHCP有効	管理LANのIPアドレスに対して固定IPアドレスを指定するか、DHCPを使用するかを選択します。	(チェックあり)＝DHCPを利用する (チェックなし)＝固定IPを指定する
IPアドレス	DHCPを利用しない場合、固定IPアドレスを指定します。	IPアドレスをIPv4形式で入力する。
サブネットマスク	DHCPを利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	プルダウンから選択する。
デフォルトゲートウェイ	DHCPを利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイのIPアドレスをIPv4形式で入力する。
DNSサーバ	DHCPを利用しない場合、DNSサーバをIPアドレスで指定します。	DNSサーバのIPアドレスをIPv4形式で指定する。 【省略可】

E.4 ストレージ用HWプロファイルの設定項目

ETERNUS DXシリーズ用のHWプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類に応じて選択可能な項目が異なる場合があります。

E.4.1 RAID構成タブ

RAID構成

項目名	説明	設定値
RAIDレベル	構築するディスクアレイのRAIDレベルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 RAID1、RAID5、RAID6、RAID1+0 その他のRAIDレベルは未サポート。
ディスクインチ	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(ドライブ外形サイズ)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
ディスク種別	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(インターフェース種類)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SSD、SED
ディスク容量	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類(ディスク容量)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ディスク本数	ディスクアレイに組み込むディスクドライブ台数を指定します。	プルダウンから台数を選択する。 選択したRAIDレベルに応じて選択可能な台数は異なる。



ポイント

.....
アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。
.....

ホットスペア

項目名	説明	設定値
ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(ドライブ外形サイズ)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
ディスク種別	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(インターフェース種類)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUSのモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SSD、SED
ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類(ディスク容量)を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TBほか
ディスク本数	作成するホットスペアディスクの台数を指定します。	プルダウンから台数を選択する。



ポイント

.....
ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。
.....

プロファイル情報タブ

HWプロファイルのプロファイル情報タブとほぼ同一です。詳しくは、「[E.1 PRIMERGYサーバ用HWプロファイルの設定項目](#)」を参照してください。

[詳細設定] ボタンについて

[プロファイル] 画面には、2箇所[詳細設定] ボタンが用意されています。クリックすると新しいウィンドウが開き、下表の3種のパラメーターを入力できます。クリックする [詳細設定] ボタンに応じて設定可能項目は異なります。

入力項目名	説明
Pre実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホットスペア構築)の実行前にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 記述内容については対象装置の『CLIユーザガイド』を参照してください。 特別な要求がない場合は空欄にしておきます。
Post実行コマンド	プロファイルの適用動作(RAID/ホットスペア構築)の完了後にETERNUSに対して実施したい制御コマンドを記述します。 記述内容については対象装置の『CLIユーザガイド』を参照してください。 特別な要求がない場合は空欄にしておきます。
詳細設定パラメータ	プロファイルに記述する各RAID構成に対して、より詳細な設定を指定する場合にパラメーターを記述します。 使用可能なパラメーターは下表のとおりで、1パラメーター1行で記述します。

表E.1 詳細設定パラメータの記述方法

パラメーター名	記述例	説明
GN	GN="Group Name"	RAIDグループの名前を指定します。
VN1	VN1="Volume Name1"	1個目のVolumeの名前を指定します。
VS1	VS1=10240	1個目のVolumeのサイズをMBで指定します。 VS2以降が存在しない場合は"max"を指定するとRAIDグループの全容量が割り当てられます。ETERNUS DX60 S2では"max"は指定できません。
VN2, VN3, VN4	VN2="Volume Name2"	2個目～4個目のVolumeの名前を指定します。
VS2, VS3, VS4	VS2=8192	2個目～4個目のVolumeのサイズを指定します。 VS2～4で指定した数のVolumeが作成されます。最後のVolumeに対しては"max"を指定するとRAIDグループの残り全容量が割り当てられます。 ETERNUS DX60 S2では"max"は指定できません。
HDD	HDD="004,005"	RAID Groupに割り当てるディスクドライブの番号を指定します。 指定フォーマットは対象装置の『CLIユーザガイド』の解説に従います。
CM	CM=1	RAID Groupの担当CM番号を指定します。

付録F プロファイル管理機能の補足情報

ここでは、プロファイル管理機能を利用するうえで留意していただきたい内容を説明します。

F.1 プロファイル利用時の留意事項

プロファイルを利用する場合の留意事項は次のとおりです。

- ・ プロファイル適用状態の機器に対して、プロファイル管理機能を使用せずに直接ハードウェアやOSの設定を変更した場合は、その変更は検知されません。このため、プロファイル内容と機器状態には差異が生じます。
- ・ プロファイル適用済み機器に対して別のプロファイルを適用する場合は、新旧プロファイル間に差分がある部分のみ設定が適用されます。差分の有無はカテゴリごとに判断されます。カテゴリはFWアップ、BIOS、iRMC、OSの4種に分けられます。
- ・ 例えば、新旧プロファイルでBIOS設定が完全に同一の場合はBIOS設定の更新は行われません。新旧プロファイルでiRMC設定が1項目でも変更されていた場合は、すべてのiRMC設定の更新が行われます。同一設定の場合においても更新を行いたい場合は、[機器プロパティ] 画面でプロファイル名を指定する際に、[適用項目] のチェックボックスにチェックを入れます。
- ・ HWプロファイルとOSプロファイルは独立して管理されますが、対象サーバへの適用に関しては次のルールがあります。
 - － HWプロファイルとOSプロファイルを同時に適用できる
 - － HWプロファイルとOSプロファイルは個別に変更できる
 - － 最初にHWプロファイルのみ適用し、あとからOSプロファイルを適用できる
 - － HWプロファイルが適用されていない状態で、OSプロファイルのみの適用はできない

F.2 登録済み機器情報の変更に関して

登録済み機器情報の変更を説明します。

HWプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更

機器へ適用済みのプロファイルをそのまま編集することはできません。

機器へ適用済みのプロファイルを流用作成し、別のプロファイルとして保存して機器へ適用します。

変更するパラメーターのみを有効にしたプロファイルを適用しても、機器の設定は同じ結果になりますが、過去に適用したすべての設定が最新プロファイルに記述されなくなるため、適用済みプロファイルを流用作成することを推奨します。

ポイント

ETERNUSに対しては、プロファイルの上書き適用はできません。一度プロファイルを取り外したあとで再度適用してください。また、プロファイルの取外しではRAID構成を消去できないので、必要に応じてRAID構成の削除が必要です。

OSプロファイル適用済み機器に対する設定内容変更

OSプロファイルの適用時には、必ずインストール先ドライブのデータが消去されます。インストール済みOSの構成を残したまま設定だけを変更することには対応していません。

OSの言語設定やIPアドレスなどプロファイルに記述したパラメーターを変更する場合、ディスク内のデータが消失しても構わないときは、OSプロファイルを流用作成するか新規作成して適用(変更)できます。

インストール済みのOS環境をそのまま利用する場合は、OS上で直接変更してください。

機器名の変更

機器名は変更できません。変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあと、再度別名で登録してください。

iRMC固定IPアドレスの変更

iRMCマネジメントLANのIPアドレスは変更できません。変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあと、再度新しいIPアドレスで登録してください。

位置情報の変更

登録した搭載位置情報をプロフィール管理からは変更できません。変更が必要な場合は、ファシリティ管理から行ってください。

コミュニティ名の変更

MMBやETERNUSの手動検出時に指定したコミュニティ名を機器登録後に変更すると、正しい動作ができなくなることがあります。コミュニティ名の変更が必要な場合は、一度機器を登録解除したあとに変更し、再度登録してください。

F.3 リポジトリフォルダーの変更

ここでは、ディスク容量不足などが原因で、リポジトリとして使用するドライブやフォルダーを変更する場合の操作手順を説明します。

1. ISMで何らかの処理が行われている場合は、処理の終了を待ちます。

例えば、以下の処理が対象となります。

- OSプロフィール、HWプロフィールの適用または取外し
- メンテナンス支援機能を使用したファームウェアのアップデート
- DVDのインポートやその適用処理

ポイント

念のため、処理終了を確認したあとは、ISM関連サービスを停止させておくことを推奨します。

2. リポジトリ移動先のフォルダーを作成し、旧リポジトリの中のファイルをすべてコピーします。

ポイント

リポジトリフォルダー変更後に必要なDVDを再度インポートする場合、コピーは不要です。

ただし、変更前後でインポートの内容に相違がある場合には、[データインポート実行] 画面および [リポジトリ一覧] 画面の表示とリポジトリの内容に不整合が生じます。

3. ISM関連サービスを停止させていた場合は、サービスを開始させます。
4. 旧リポジトリの共有設定を解除し、新リポジトリに対してファイル共有設定を行います。
5. [Setup]画面の左側で [プロフィール適用動作設定] をクリックし、設定を変更します。
詳しくは、「[4.5 \[Setup\]画面](#)」を参照してください。
6. [Setup]画面の左側で [データインポート実行] をクリックし、[適用] を実施します。